
VOL.1
転生してTS
まさかの♂ヒロイン♀に。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.
作画 佃煮 原作 まさきたま


TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.





フィオ・ミクアル
本作の主人公
前世はヒキニートの男子高校生だったが
命を落として異世界に転生する。
可愛い女の子が大好きで、女として生まれ
変わった今世でもTSモノ作品お約束の百合
ハーレムが作れると前向きに夢見てる。
世界最高峰の治癒術を扱える白魔導士の
勇者であり、寿命以外の回復はお手の物で
『死神殺し』の異名がある。





アルト
本作のもう一人の主人公
聖痕を身体に宿す勇者パーティーのリーダーで魔法剣士。
前世は若くして亡くなった要領の悪い会社員だったが
自身の無能さを嘆き、今世では人を守ることに必死になる。
周りがあまり見えておらず、天然で鈍感な部分がある。
会話下手のため黙っていることがあるが周囲からは寡黙
なのだと誤解されている。
戦闘力は他の勇者と比べても、ずば抜けている。



ルート・ヴェルムンド
勇者パーティーの副リーダーおよび精霊術師。
マッピングや気配察知、探索から星読みなど
パーティーの導き手かつ個性豊かな面々の
ストッパーとして務める女顔の苦労人。



バーディ
悪人面の槍使い。女好きでフィオとはよく一緒に
色街に行くが、貧乳の女性に強いトラウマがある。
王国の各派閥などへの情報収集も余念がなく、
政治的な面でもパーティーを支えている。



コリィ
パーティーの支援を担当するセファ教の
シスターで通称『微笑みの勇者』
一般人でも勇者並みに強化することができる。
フィオとは友達として仲がいい。



マーミャ・ノーヴァ
王都でも『神域の剣』と呼ばれている天才剣士。
高位貴族の令嬢であるが、本人は馬鹿正直かつ
実直で、その権力が活かされることはほぼない。
鍛錬が趣味で剛力の持ち主。



リン
諜報や隠蔽などパーティーの裏方をこなす
パーティー最年少の勇者。
マーミャとは主従の関係で付き合いが長い。



レイ
全属性の攻撃魔法を扱える黒魔導士。
目的のためなら手段を選ばないので、交渉事で
ゲスさを発揮するフィオとは別ベクトルのゲスさが
にじみ出るトラブルメーカー。



第１話・・・・・・・・・・・・ 7p

第２話・・・・・・・・・・・・ 41p

第３話・・・・・・・・・・・・ 075p

第４話・・・・・・・・・・・・ 109p

第５話・・・・・・・・・・・・ 135p

書き下ろし漫画・・・・・・・ 165p

書き下ろし小説・・・・・・・ 171p

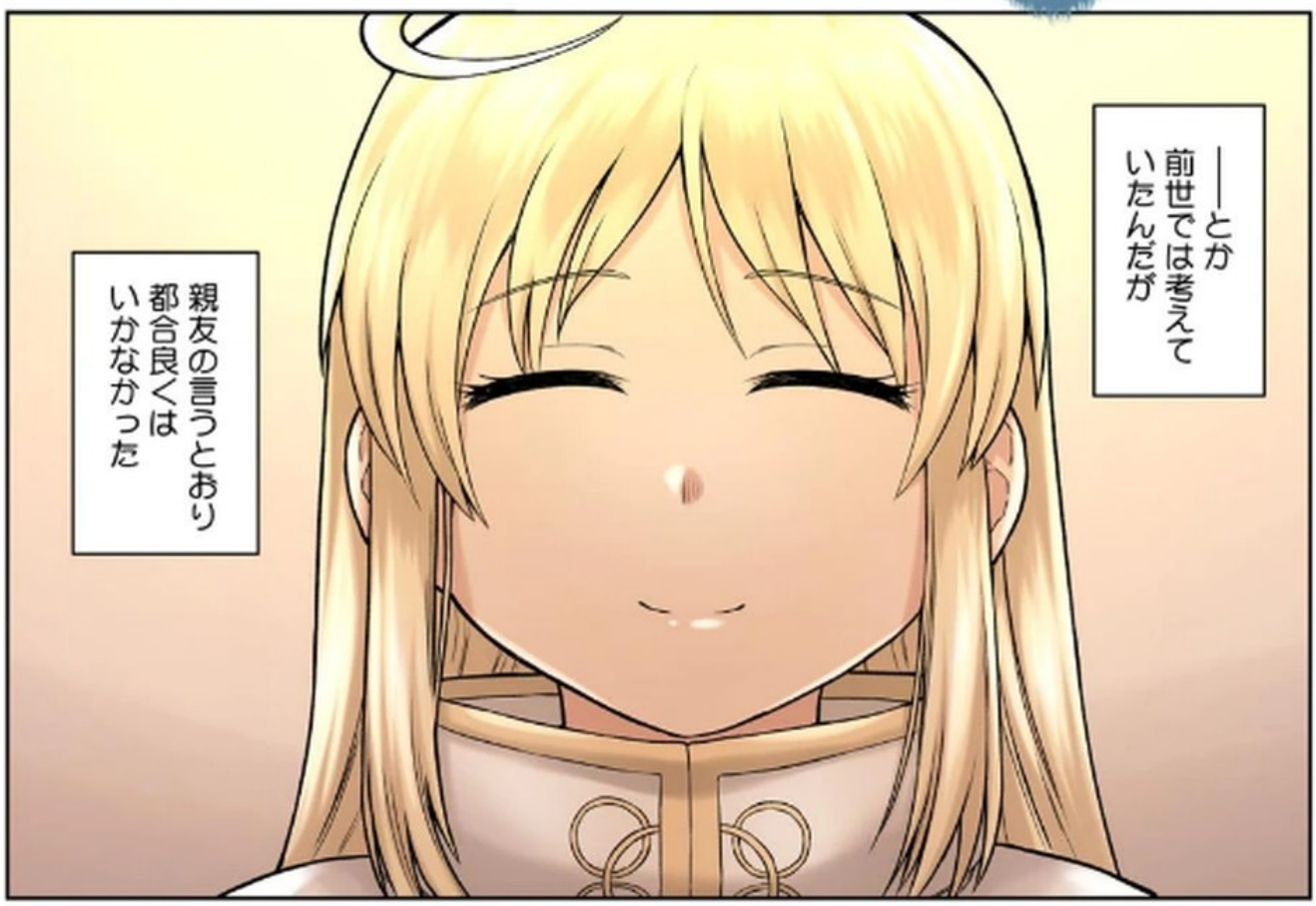
あとがき・・・・・・・・・・・ 193p

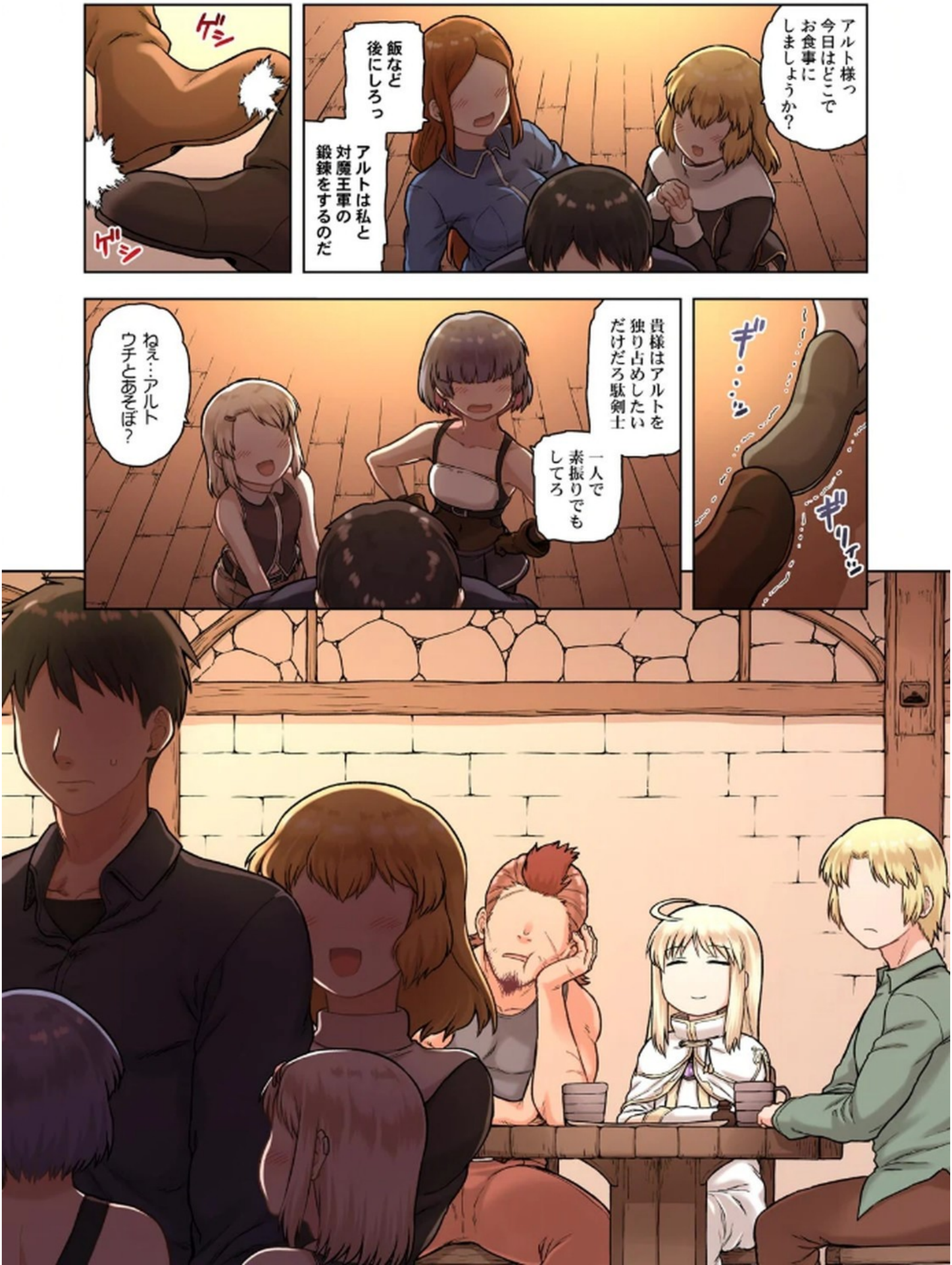
TS♀転生して♂まさかのサブヒロインに。

TS TENSEI shite Masaka no Sub Heroine ni.

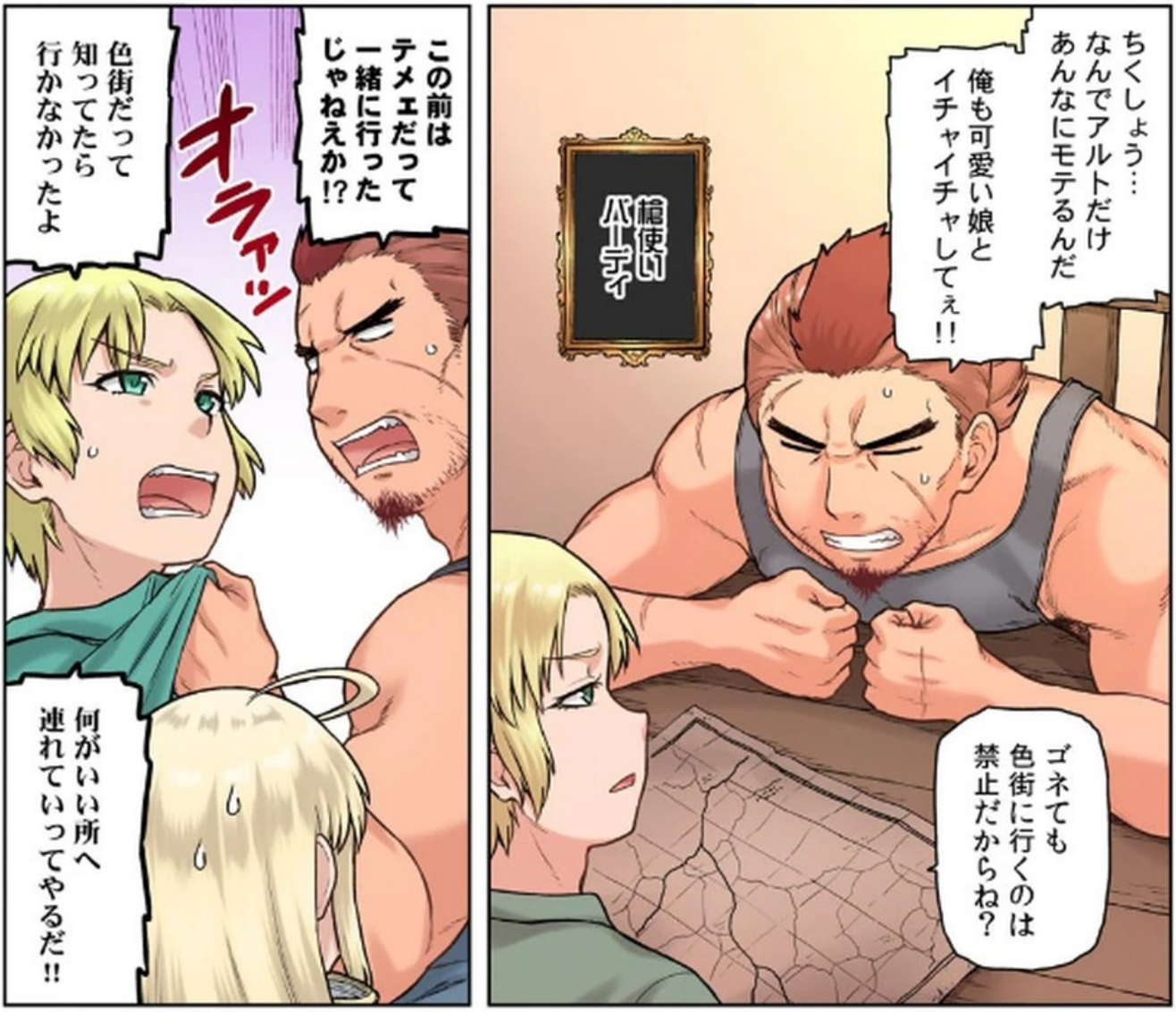

聞けよ
親友
オレはな
異世界に
転生するのが
夢だったんだよ
知ってるよ
もう飽きるほど
語りあっただろ

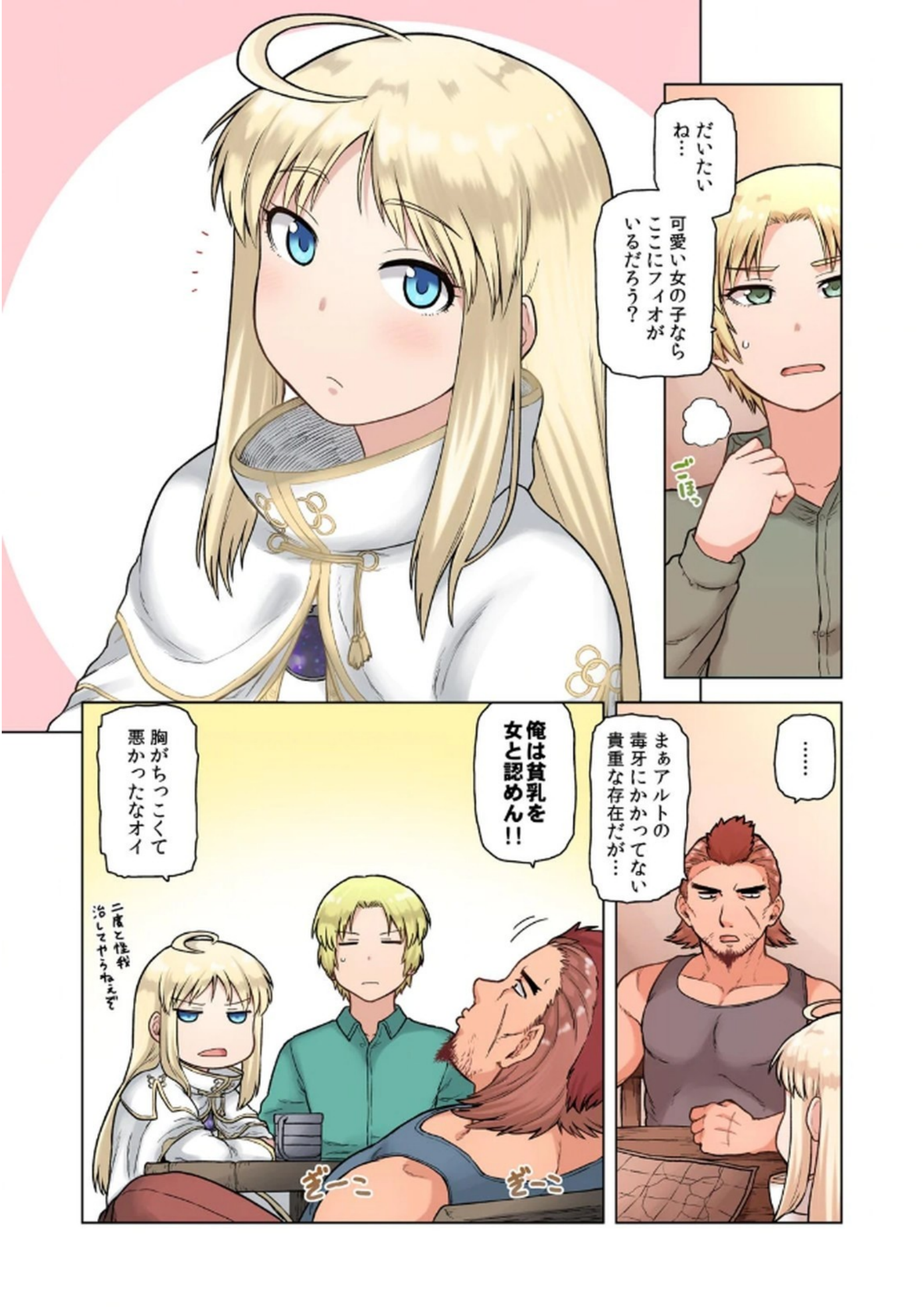

異世界でのオレは
超イケメンっ
そんなオレのことが
大好きな女の子達で
ハーレム作るんだよ
バカかよ
そりゃ都合
良すぎだ

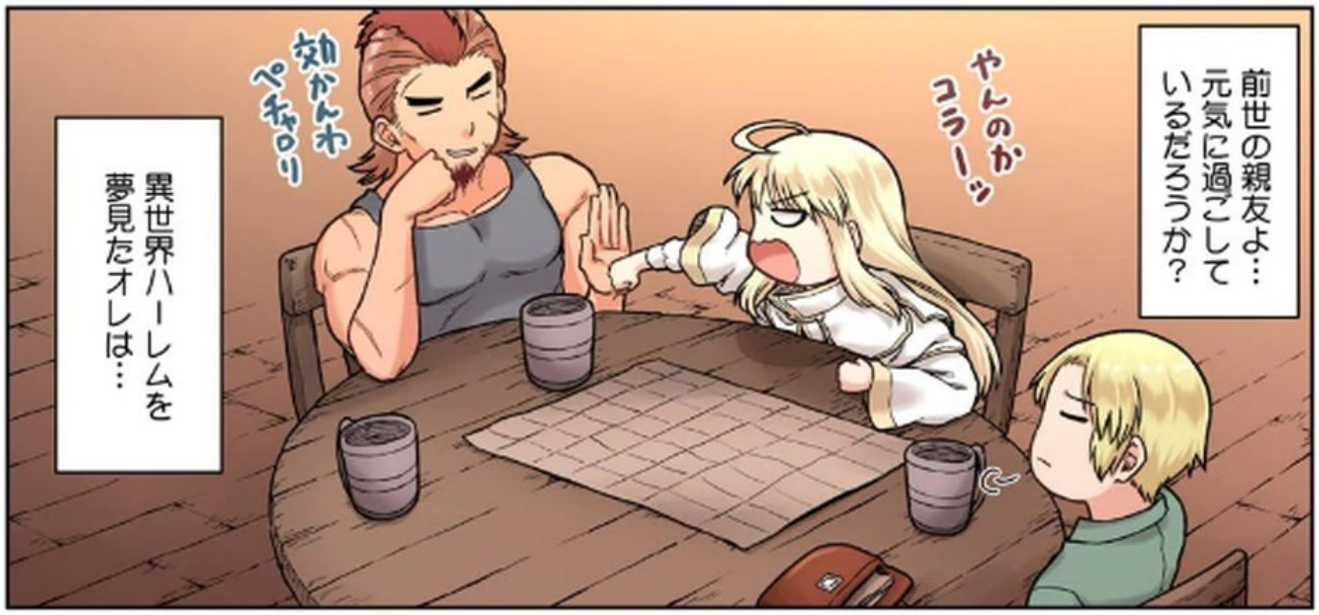

――とか
前世では考えて
いたんだが
親友の言うとおり
都合良くは
いかなかった

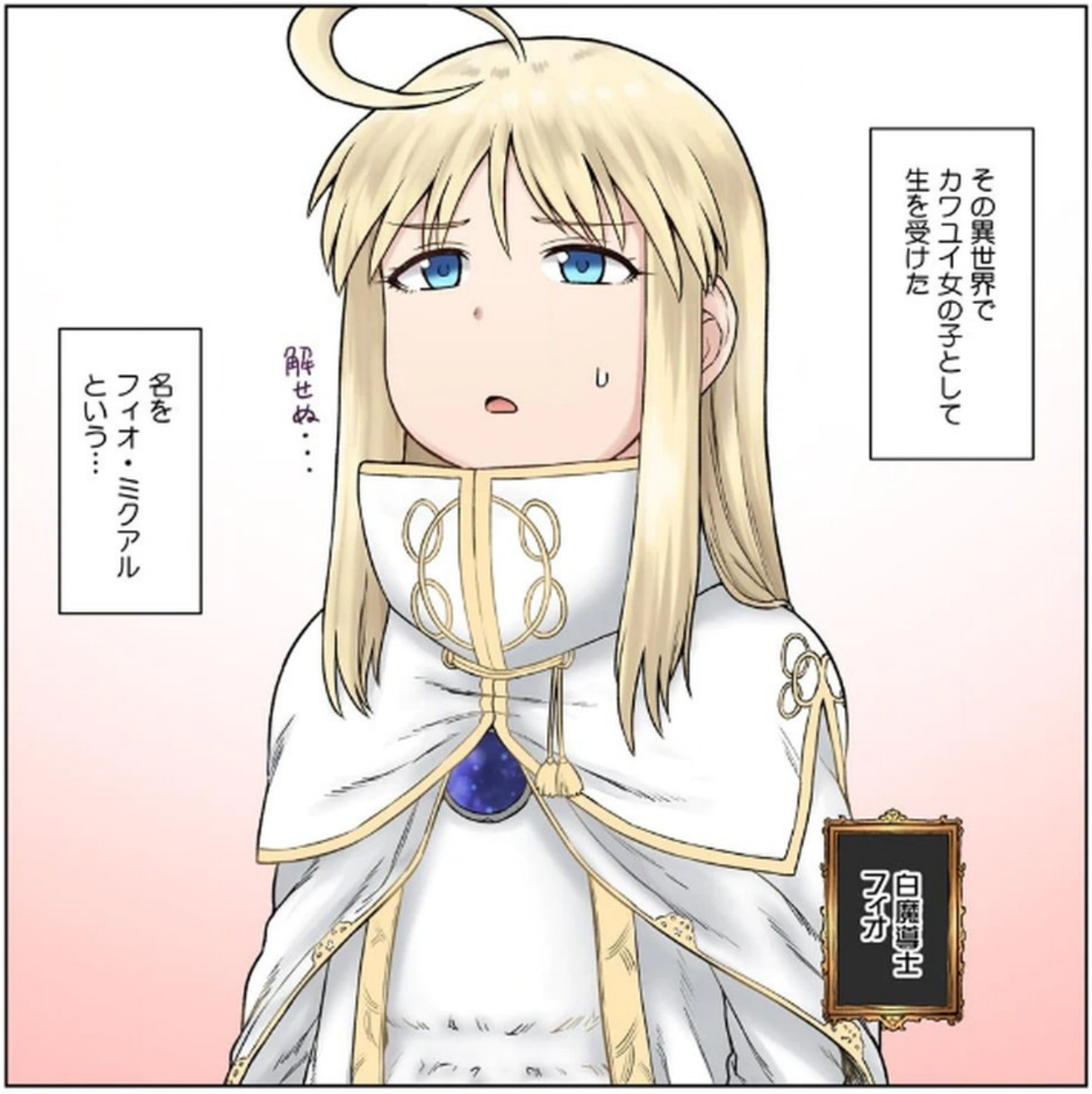

アルト様っ
今日はどこで
お食事に
しましょうか？
飯など
後にしろっ
アルトは私と
対魔王軍の
鍛錬をするのだ
ゲシ
ゲシ
ギ・・・ッ
ギリィッ
貴様はアルトを
独り占めしたい
だけだろ駄剣士
一人で
素振りでも
してろ
ねぇ…アルト
ウチとあそぼ？


精霊術士ルート
ねぇフィオ…
君はアルトのとこに行かなくていいのかい？
お前はオレを挽肉にしたいのかルート？
アルトに見えないように互いに足を踏みあってんじゃんおっかねぇ…


槍使いパーティ
ちくしょう…なんでアルトだけあんなにモテるんだ
俺も可愛い娘とイチャイチャしてぇ!!
ゴネても色街に行くのは禁止だからね？
この前はテメェだって一緒に行ったじゃねえか!?
オラァッ
色街だって知ってたら行かなかったよ
何がいい所へ連れていってやるだ!!

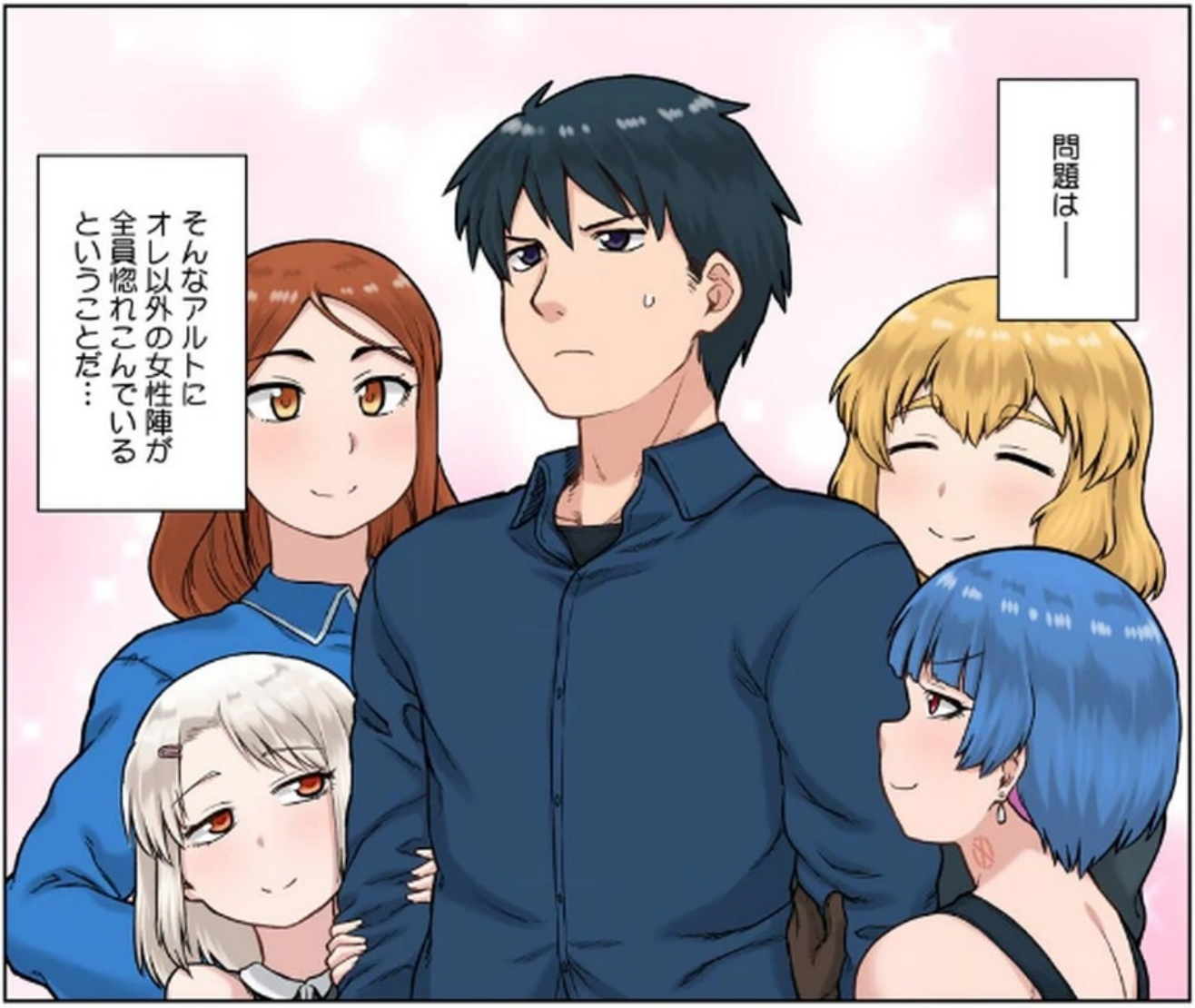

だいたい
ね…
可愛い女の子なら
ここにフィオが
いるだろう？
ごほっ
……
まぁアルトの
毒牙にかかってない
貴重な存在だが…
俺は貧乳を
女と認めん!!
胸がちっこくて
悪かったなオイ
二度と性我
治してやらねえぞ
ぎーこ
ぎーこ


前世の親友よ…
元気に過ごしているだろうか？
やんのかコラーッ
効かんわペチャロリ
異世界ハーレムを夢見たオレは…


その異世界でカワユイ女の子として生を受けた
解せぬ…
名をフィオ・ミクァルという…
白魔導士
フィオ


剣と魔法の
いかにもな異世界
人族領は
魔族を束ねる
魔王によって
侵略の危機に
さらされていた
王国は神々によって
選ばれた証である
聖痕を身体に宿した
8人の勇者を招集
勇者のみで
構成された
対魔王軍
パーティ
それが
オレ達だ
ちなみにオレは
回復担当
いわゆるヒーラー
ってやつだな
自慢じゃないが
戦闘能力は
からっきしだ!!


そんな我らが勇者パーティのリーダー
寡黙だが決して仲間を見捨てない色男
オレも助けてもらったことがあるし…まぁ本当にいい奴だ
魔法剣士アルト


問題は――
そんなアルトにオレ以外の女性陣が全員惚れこんでいるということだ…

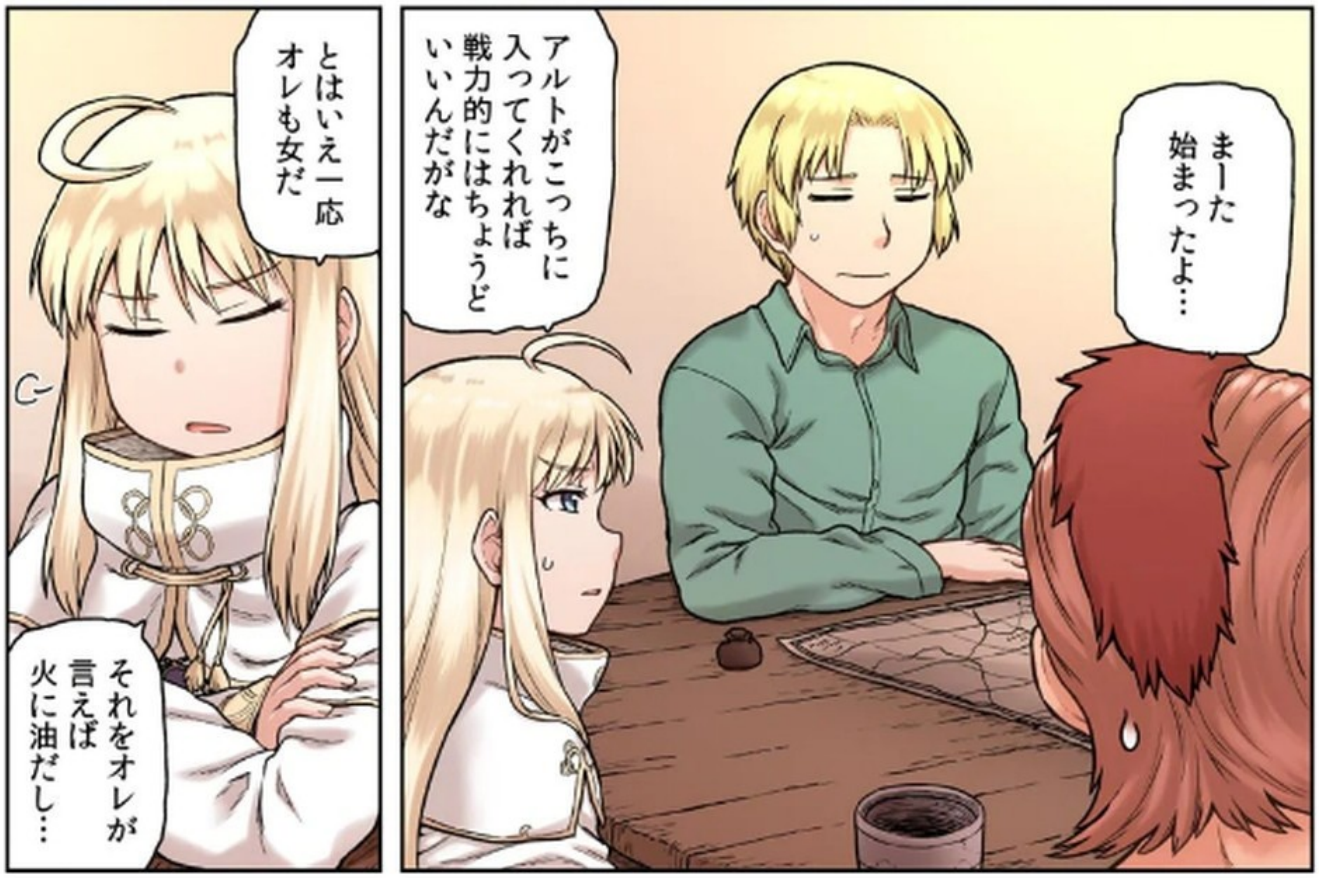

みんな
待ってくれ
食事や訓練も
いいがそれよりも
すべきことがある
もう一ヶ月も
魔王軍の動向を
掴めていないんだ

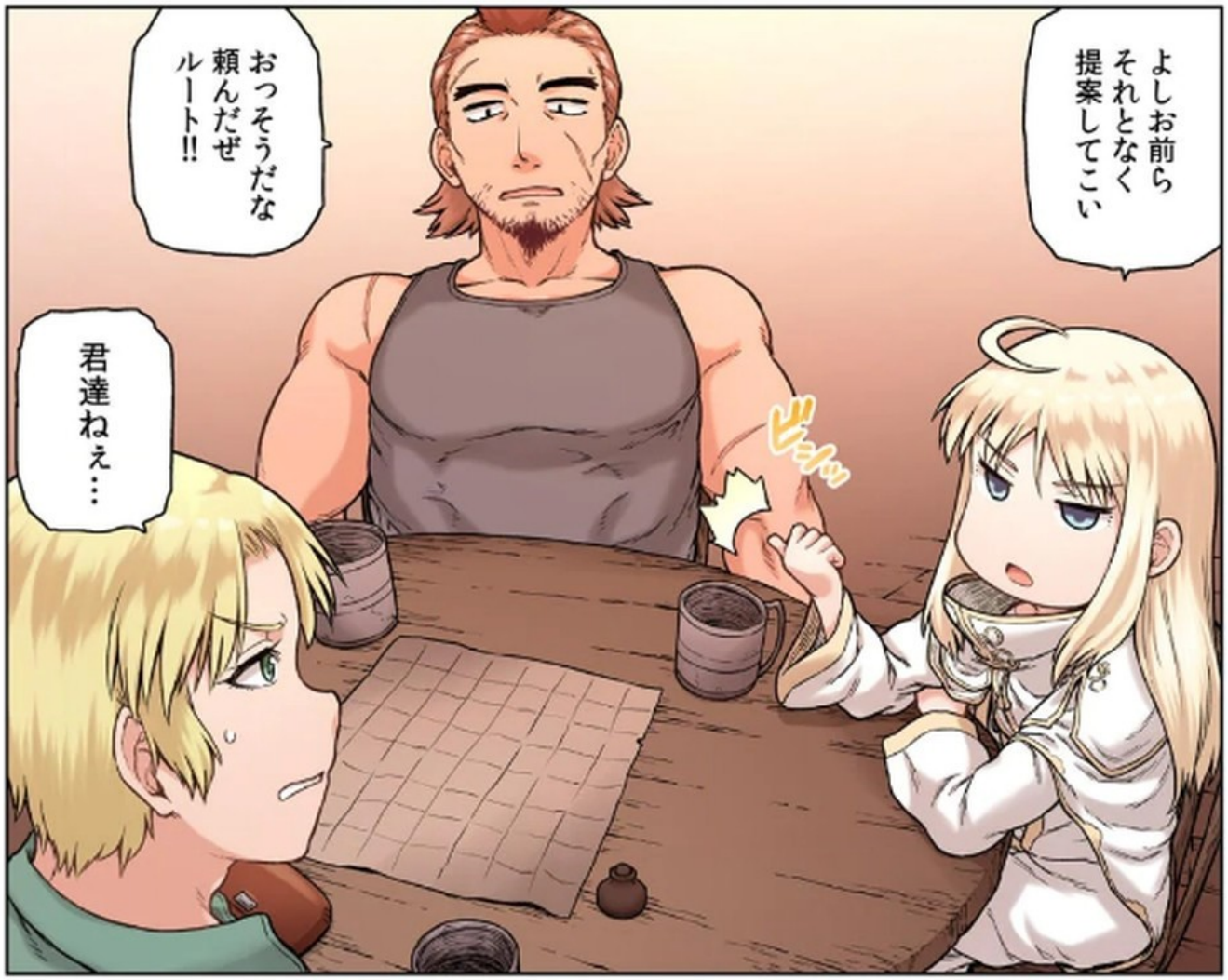

そろそろ奴らの
探索を行うべき
だと思う

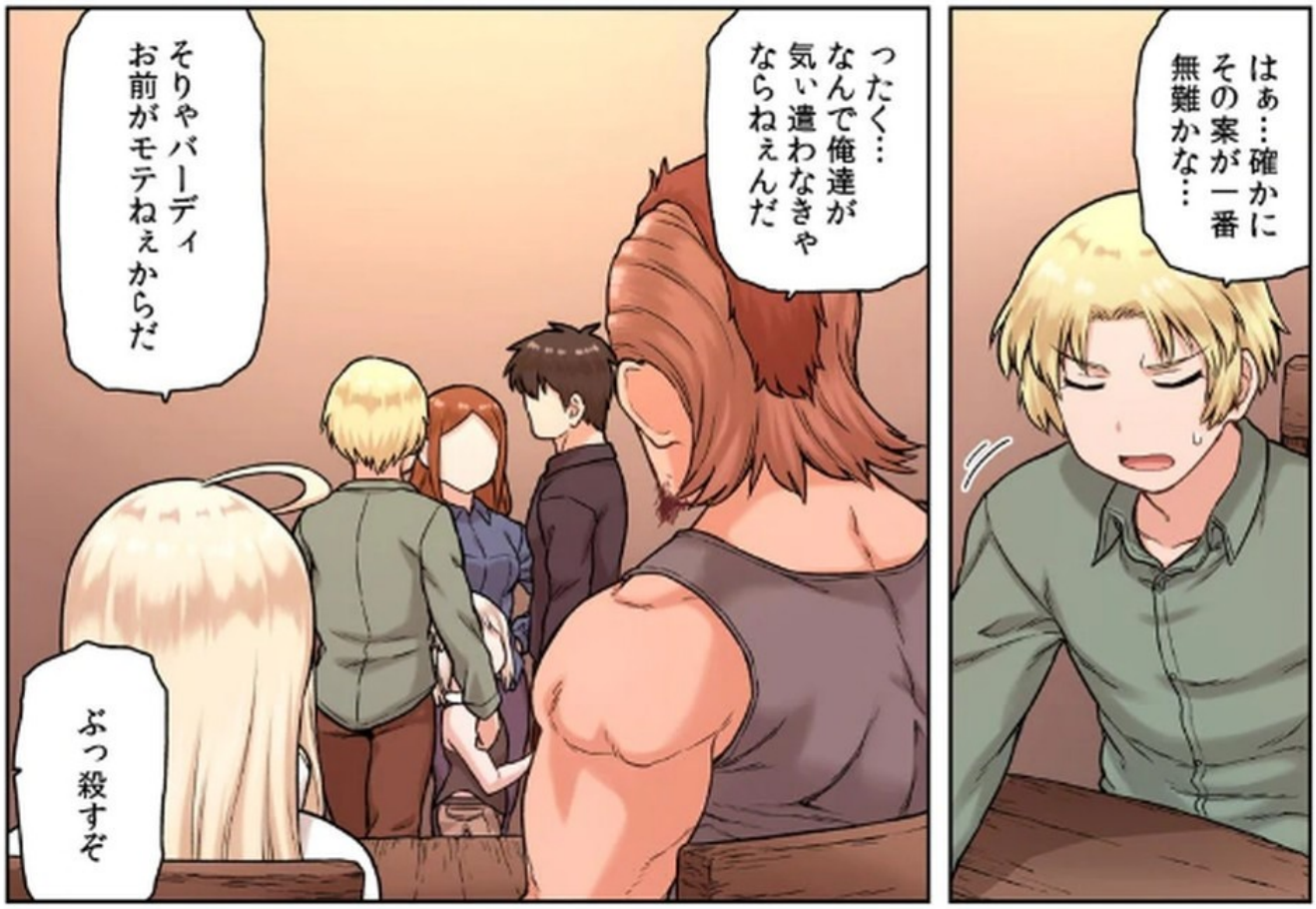

落ち着けよ
アルト
俺達が離れた隙に
街を襲撃されたら
どうすんだ？

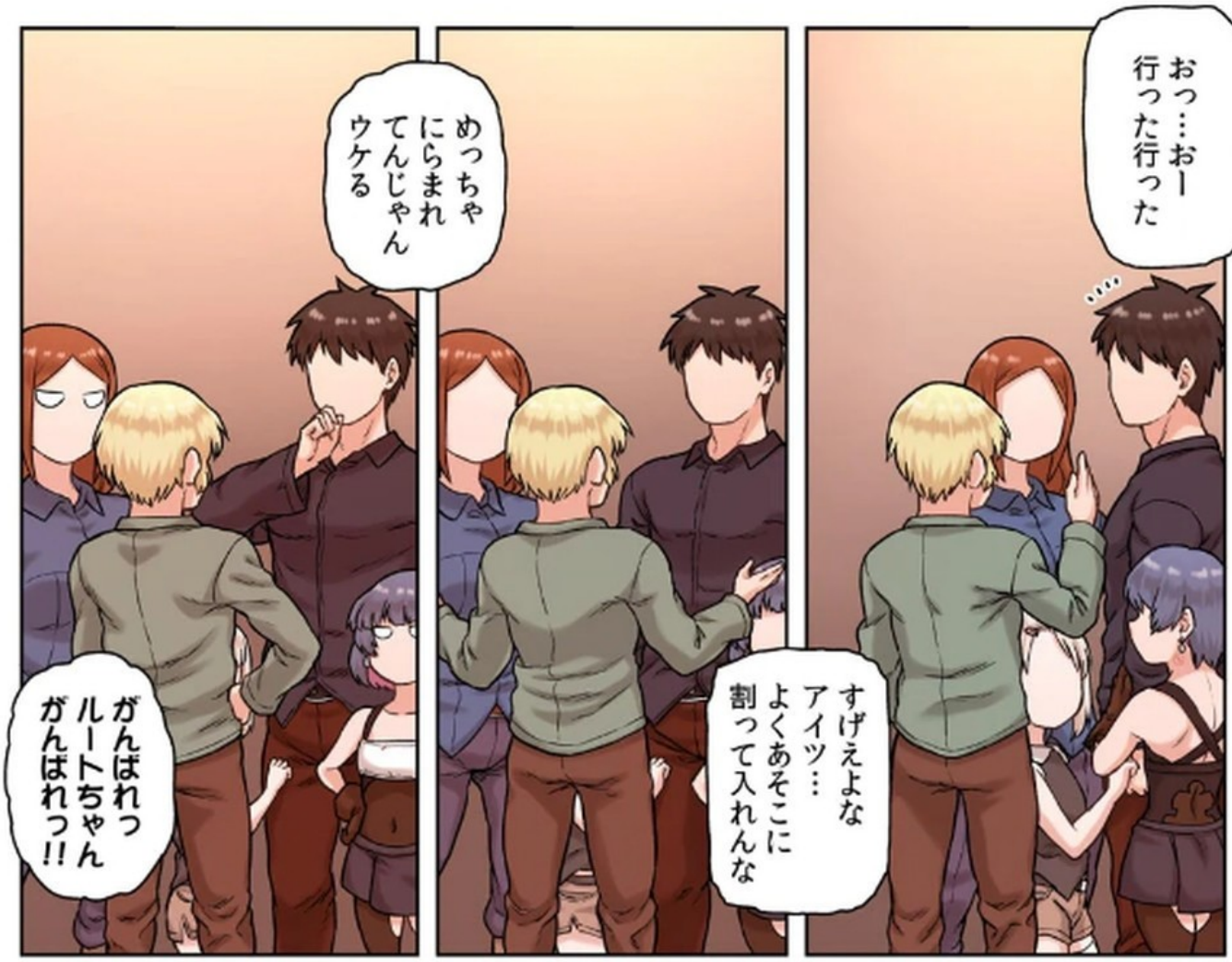

だがこのままでは
王や貴族達に
申し訳がたたない
彼らに出資して
もらっている以上
何かしらの
成果がなくては…
ハァ
だから
落ちつけって
焦っても
仕方ねえだろ
単純な話だ
なにも全員で
行くこたぁない
防衛と索敵
この2班に
分けりゃいい
会敵の確率が高く
臨機応変な対応が要る
索敵班はアルト
お前が行け
防衛班は
警戒と住民の
避難誘導に
努めりゃいい
む…っ
そうだな…


黒魔導士
レイ
ならば私がアルトに追従すべきだなっ
探査魔法なくして敵を探せるものかっ
剣士
マーニャ
いや お前はゴーレム出せるし防衛班だろ
アルトは私と行くんだ!!
僧侶
ユリィ
私はアルト様と一緒がいいですっ!!
盗賊
リン
アルトに寄るな女狐…
アルトは…ウチのだっ!!


まーた
始まったよ…
アルトがこっちに
入ってくれれば
戦力的にはちょうど
いいんだがな
とはいえ一応
オレも女だ
それをオレが
言えば
火に油だし…


よしお前ら
それとなく
提案してこい
おっそうだな
頼んだぜ
ルート!!
君達ねぇ…
ビシッ


はぁ…確かにその案が一番無難かな…
ったく…なんで俺達が気ぃ遣わなきゃならねぇんだ
そりゃバーディお前がモテねぇからだ
ぶっ殺すぞ


おっ…おー行った行った
すげえよなアイツ…よくあそこに割って入れんな
めっちゃにらまれてんじゃんウケる
がんばれっルートちゃんがんばれっ!!


…という訳で
どうかなアルト？
たまには僕らと
行動するのは？
ああ
それで構わない
よろしく頼む
ルート…
ゴゴゴゴ
ゴゴゴ
油断してたわ…
女顔の時点で
警戒しておく
べきだった…
ルートさんまで
ライバルだった
なんて…
負けられません!!
このガチホモ
ウチの恋路の
邪魔するな
衆道はいかんぞ
非生産的な…
実にけしからん!!


フィオ バーディ
助け…って
居ないし!?


誤解だ
ボクは本モノじゃ…
ガタン
ドタン
ガタン
もぐだけで
済ませてやるから
安心しろ
もげれて
たまるかあ!?


あぶねー
あぶねー
こっちにも
飛び火する
とこだったな
くっっ
さらば
ルート…
お前の尊い
犠牲は忘れない…

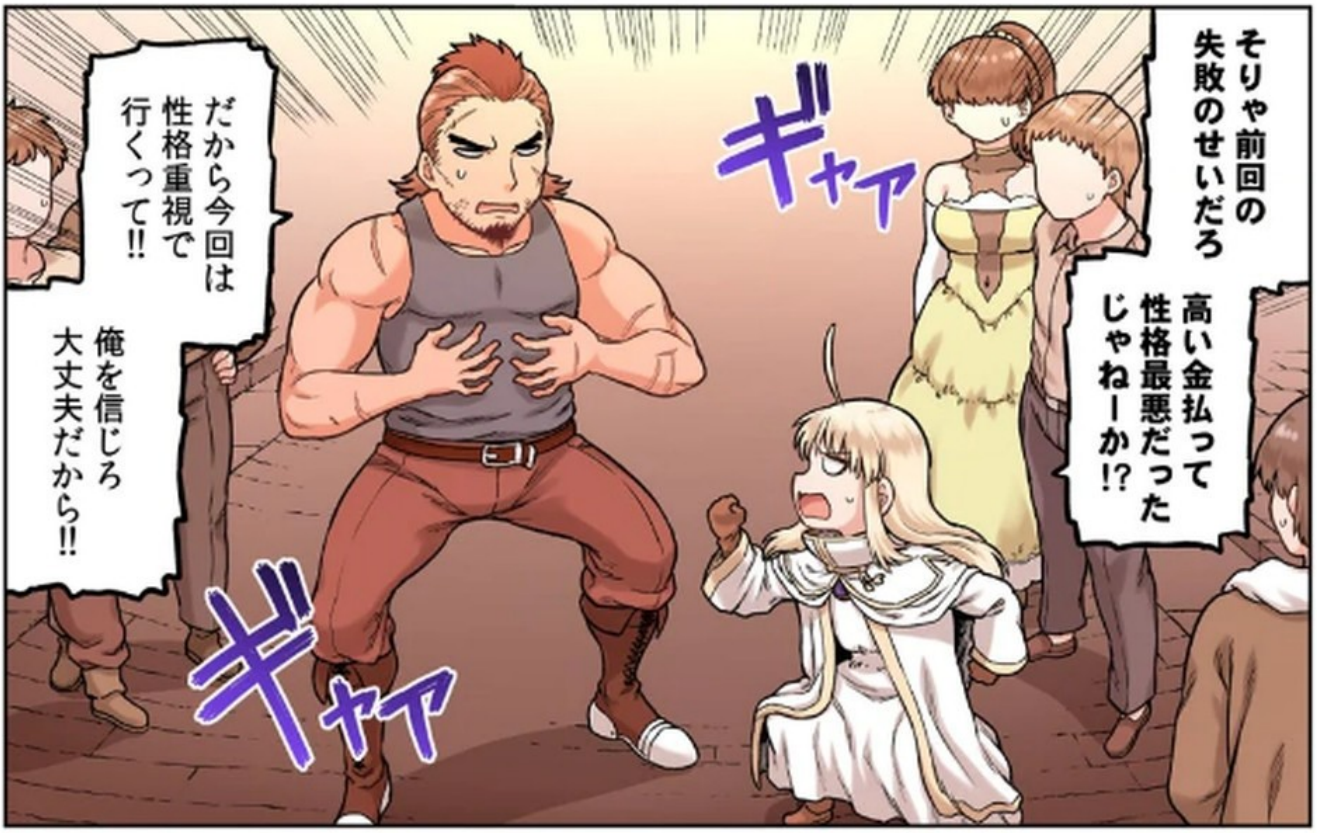

どうせしばらく
戻れんだろうし…
せっかく
だから
イっとくか?
いいねっ

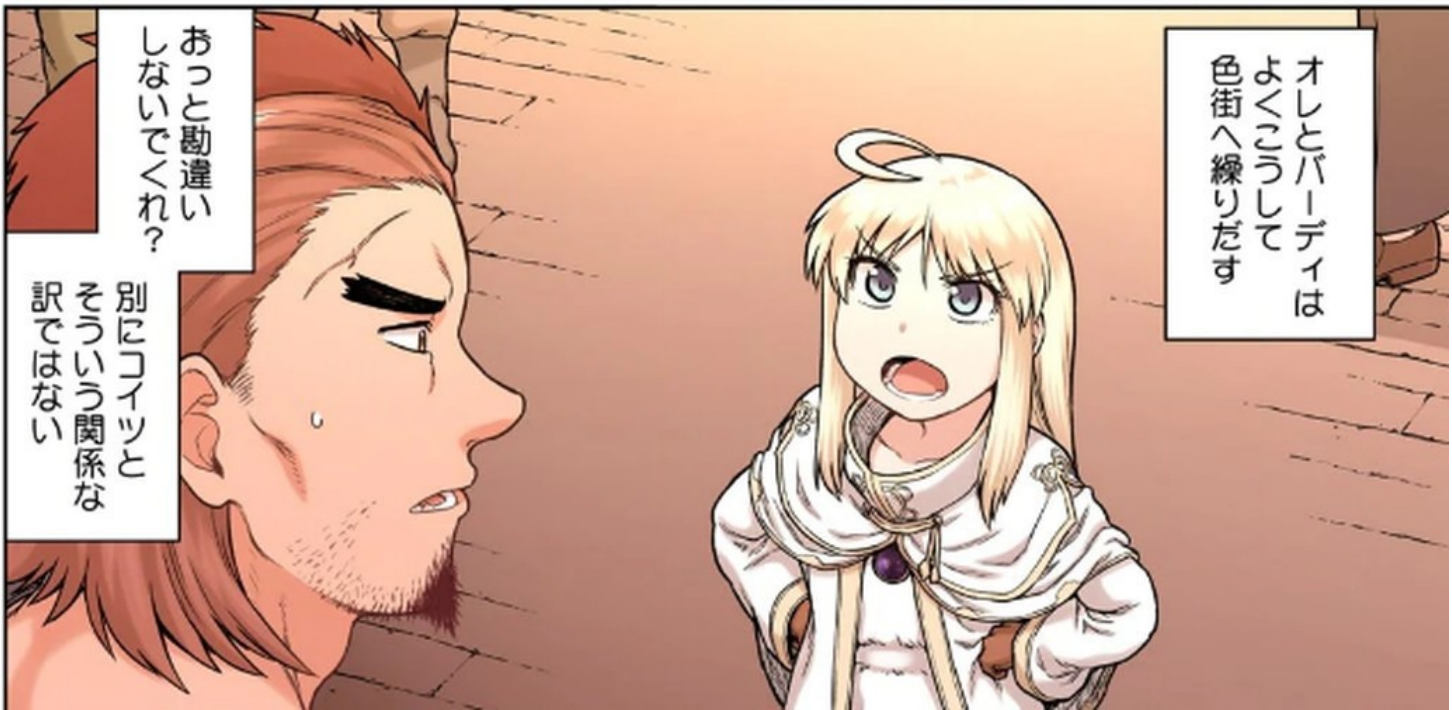


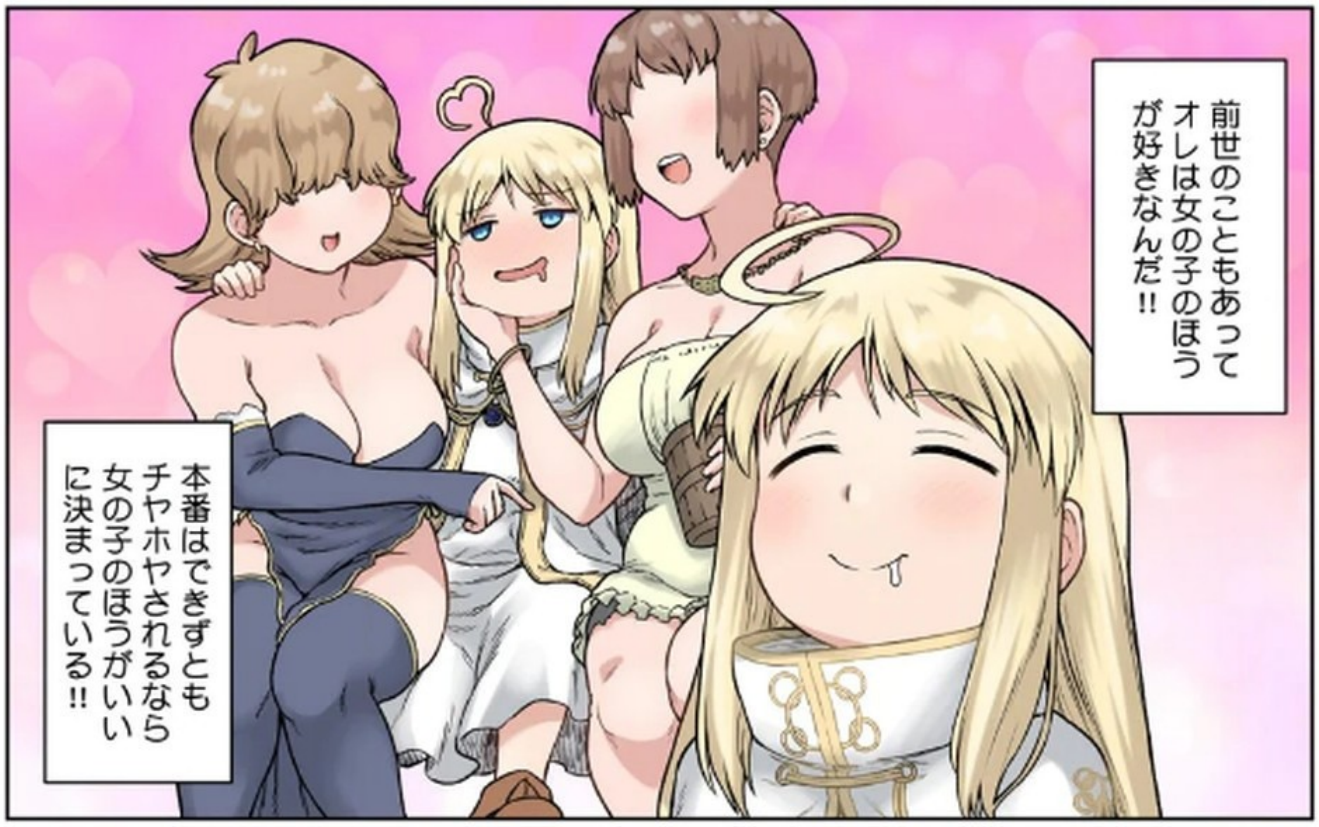

あらアンタ達
また来たの？
おにーさん
今日は私と
お喋りしようよ～

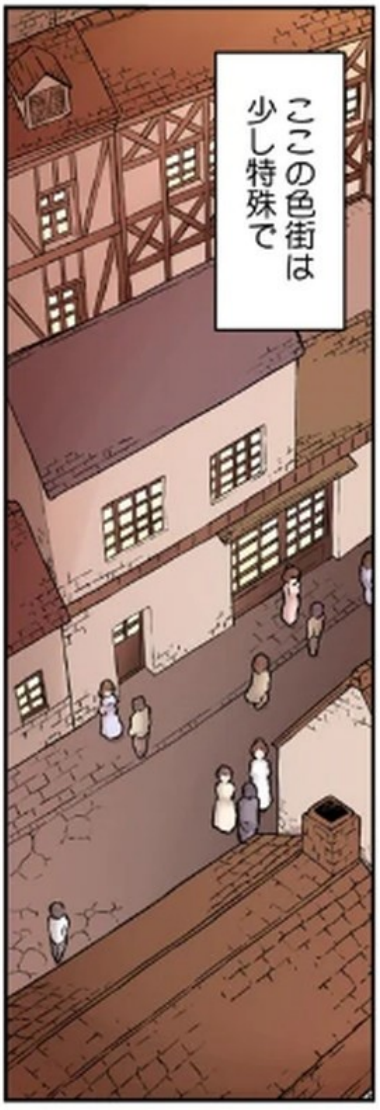

おっいいね～
なんか食べたい
モノとかある？
ﾊﾊﾊ
ﾆﾆﾆ
馬鹿っ
バーディ!?
ごめんね～
また今度ねっ？


今日はちゃんと紹介所に行くぞバーディ？
路傍の売りこみに当たりはいねえ
もう金があまりないんだココらで路傍嬢探すしかねーだろ

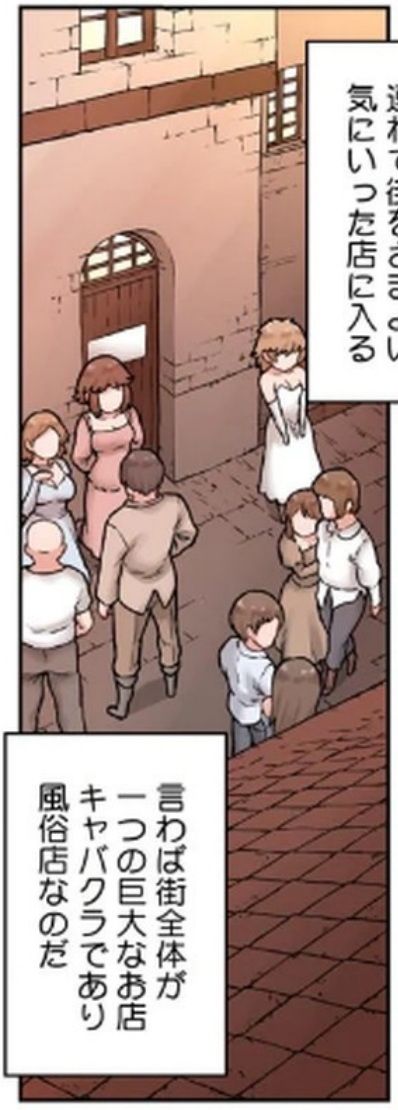

そりゃ前回の失敗のせいだろ
高い金払って性格最悪だったじゃねーか!?
だから今回は性格重視で行くって!!
俺を信じろ大丈夫だから!!
ギャア
ギャア


オレとバーディはよくこうして色街へ繰りだす
おっと勘違いしないでくれ？
別にコイツとそういう関係な訳ではない

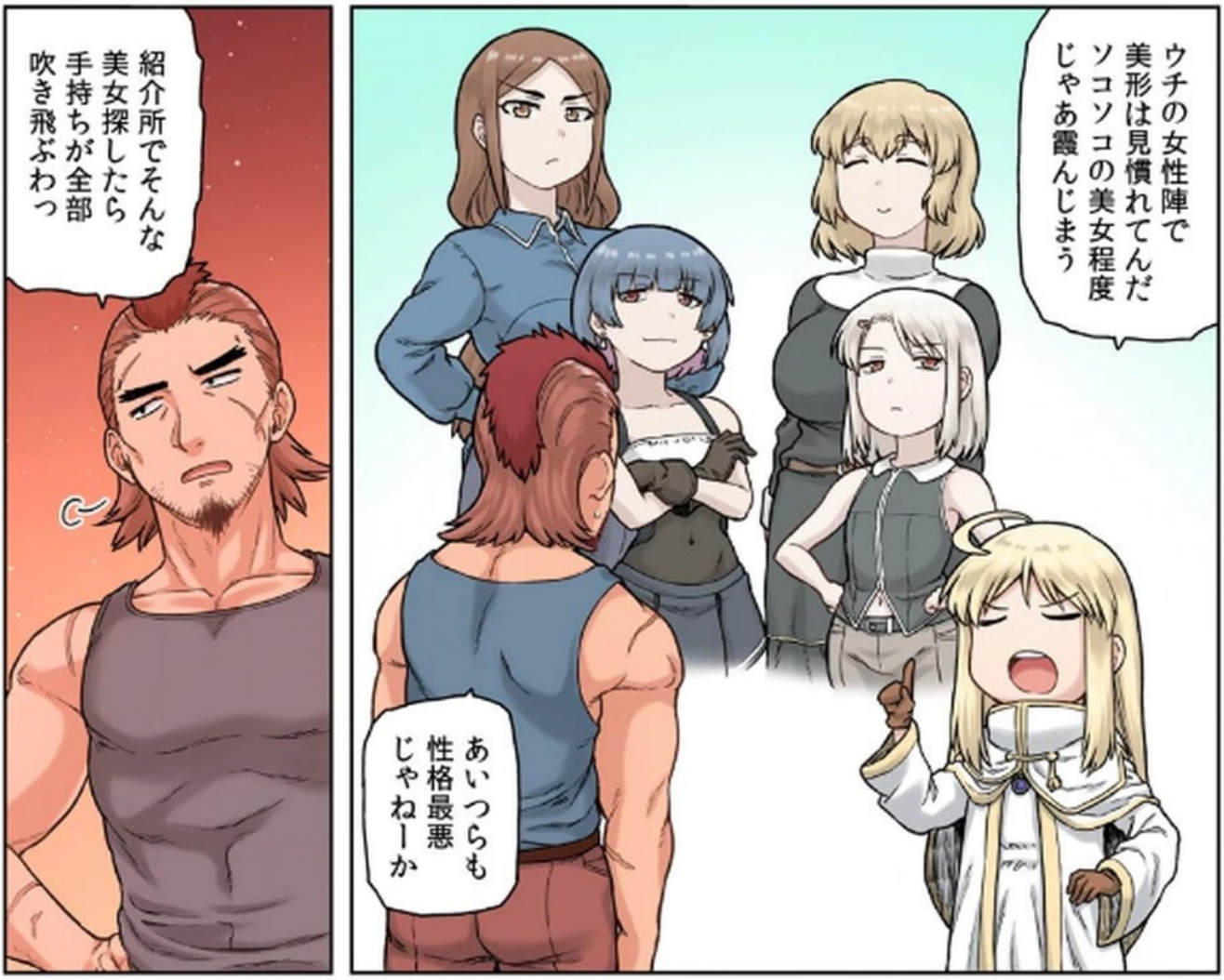

前世のこともあって
オレは女の子のほうが好きなんだ!!
本番はできずともチヤホヤされるなら女の子のほうがいいに決まっている!!


ここの色街は少し特殊で


そのまま女の子を連れて街をさまよい気にいった店に入る
店に所属する嬢はおらず路傍や紹介所で好みの娘を探し


言わば街全体が一つの巨大なお店キャバクラであり風俗店なのだ


路傍娘にだって
性格のいい娘は
いるハズだろ
俺は今回
それに賭けたいね
……
ウホァ
性格良くても
見た目ゴリラは
嫌だぞ…？


ウチの女性陣で
美形は見慣れてんだ
ソコソコの美女程度
じゃあ霞んじまう
あいつらも
性格最悪
じゃねーか
紹介所でそんな
美女探したら
手持ちが全部
吹き飛ぶわっ

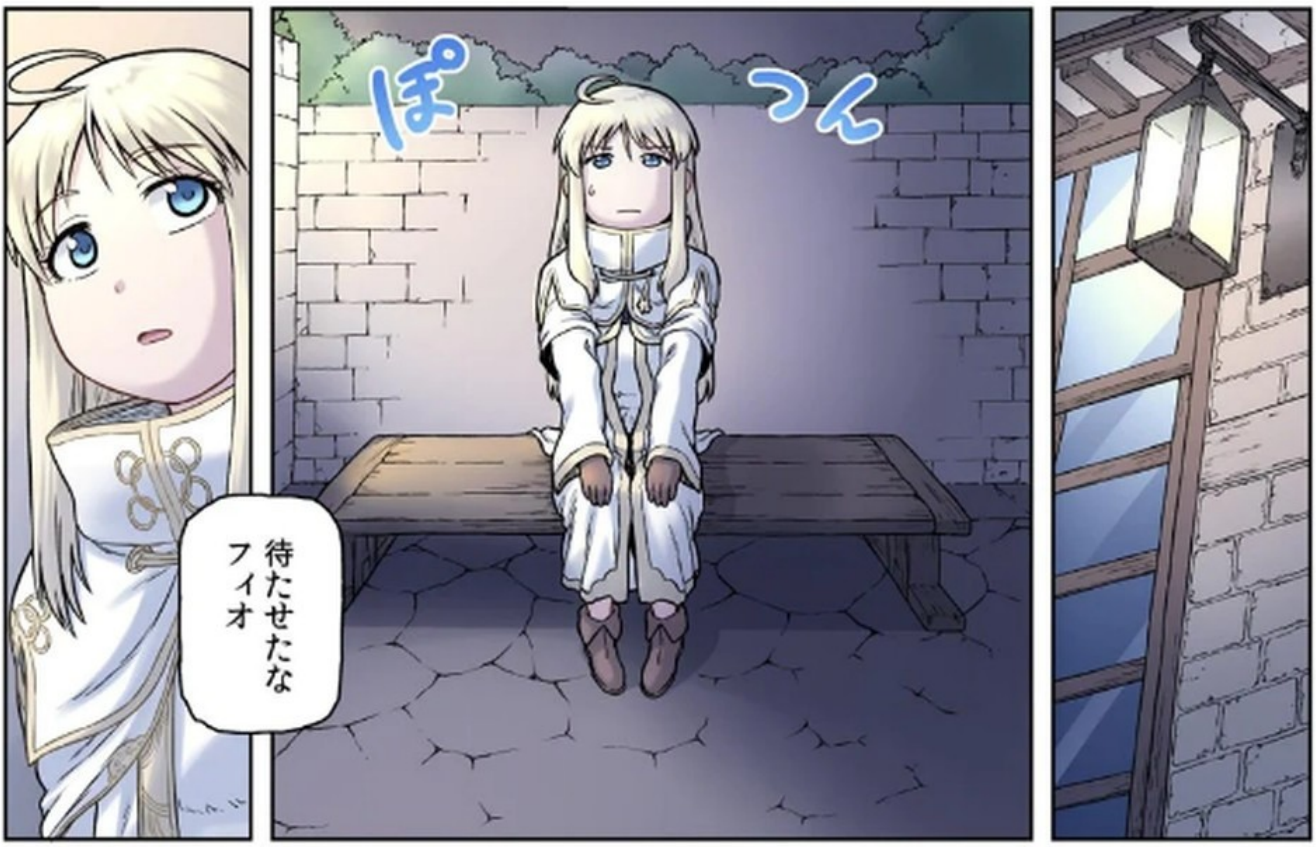

どた
ばた
嬢と遊ぶのに金かけねーでどうすんだよ!?
ブサイクと飲んでも酒が不味くなるだろうが!!
飲食代出せなきゃいい嬢呼べてもすぐ帰っちまうぞ!?
路傍嬢ならどっちも叶うじゃん!!


いーやここは全財産はたいてでもいい嬢を探すべきだ
じゃらっ

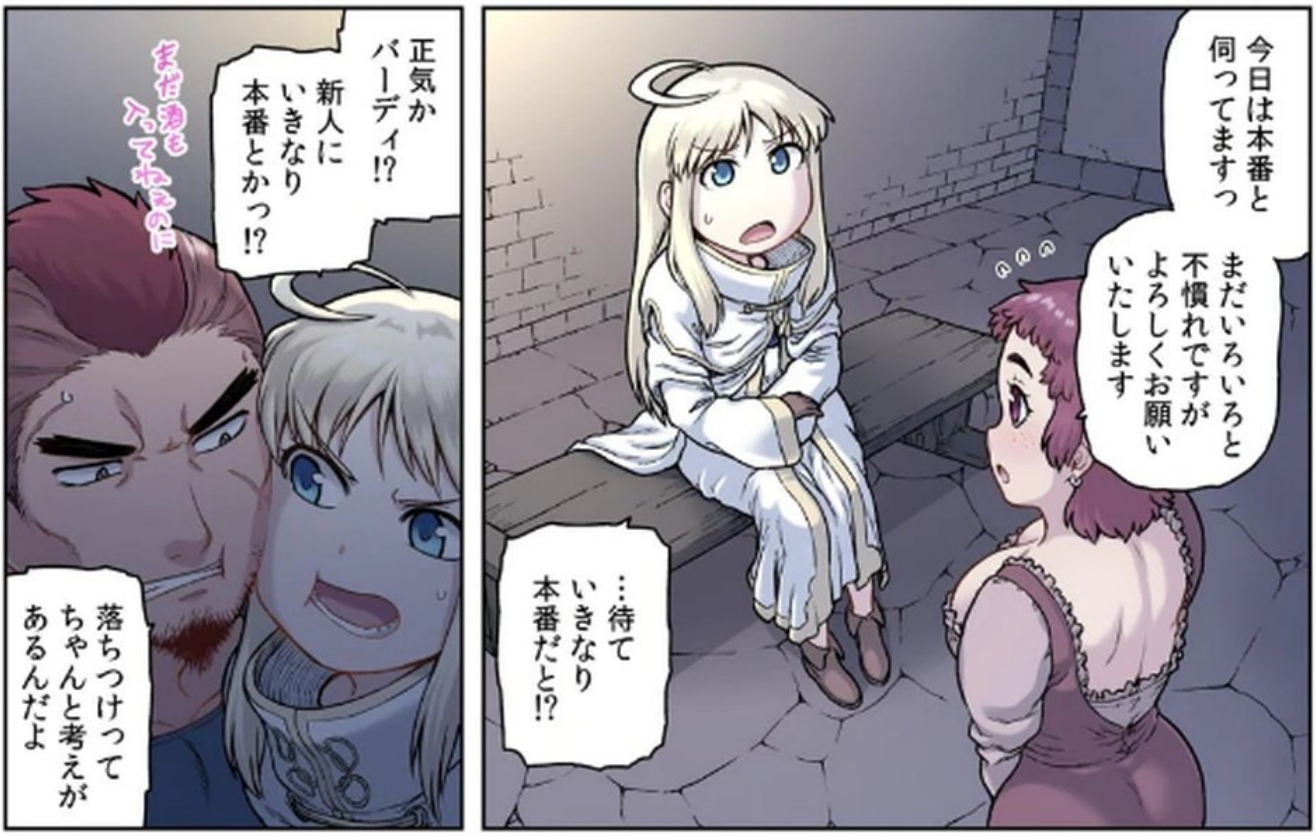

ふんっ!!
あコ!?

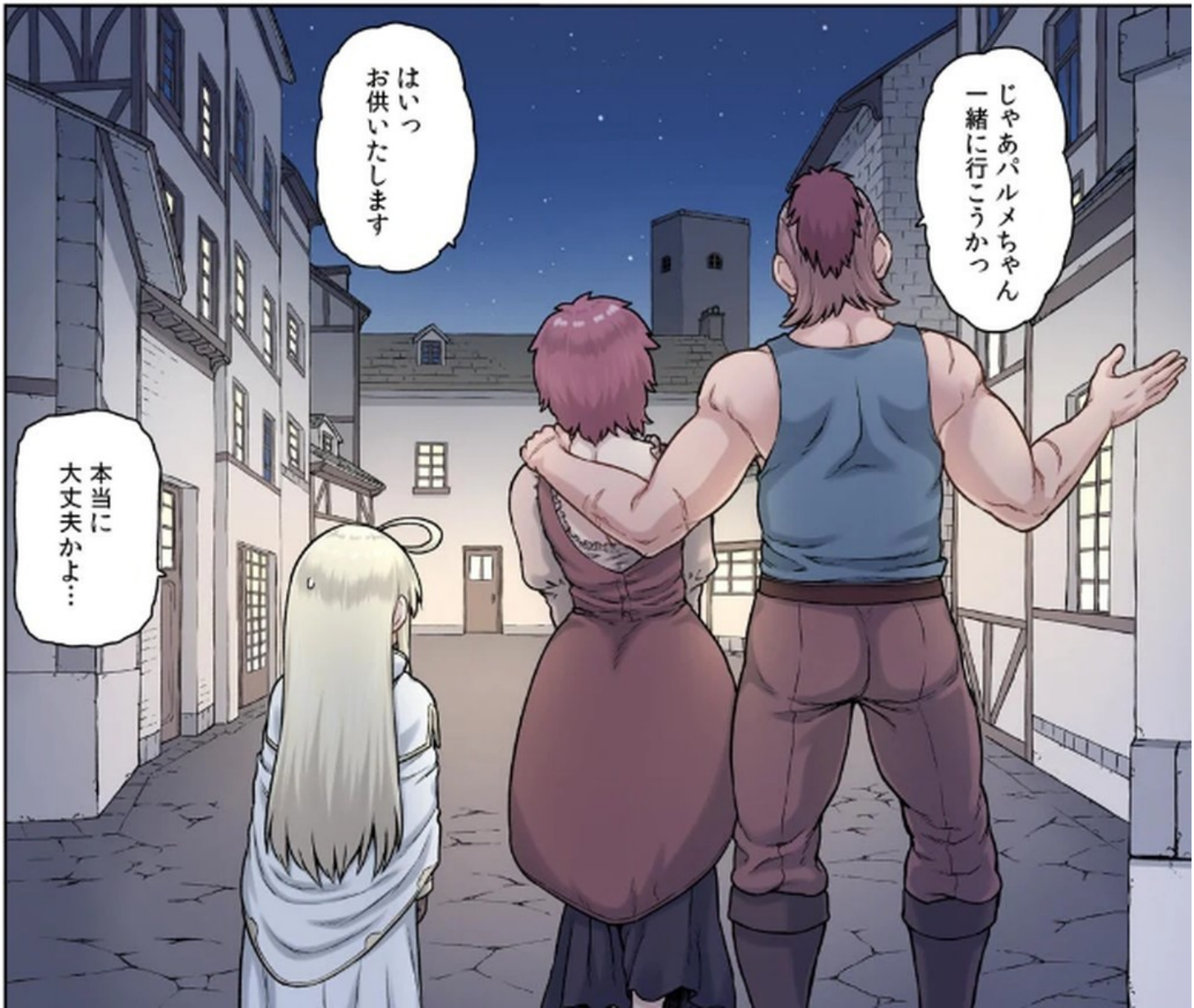

見とけよ
糞(くそ)ロリ
いい娘探して
くるぜよ!!
トヒュニッ
ゴラーッ!?




ぽつん
待たせたな
フィオ

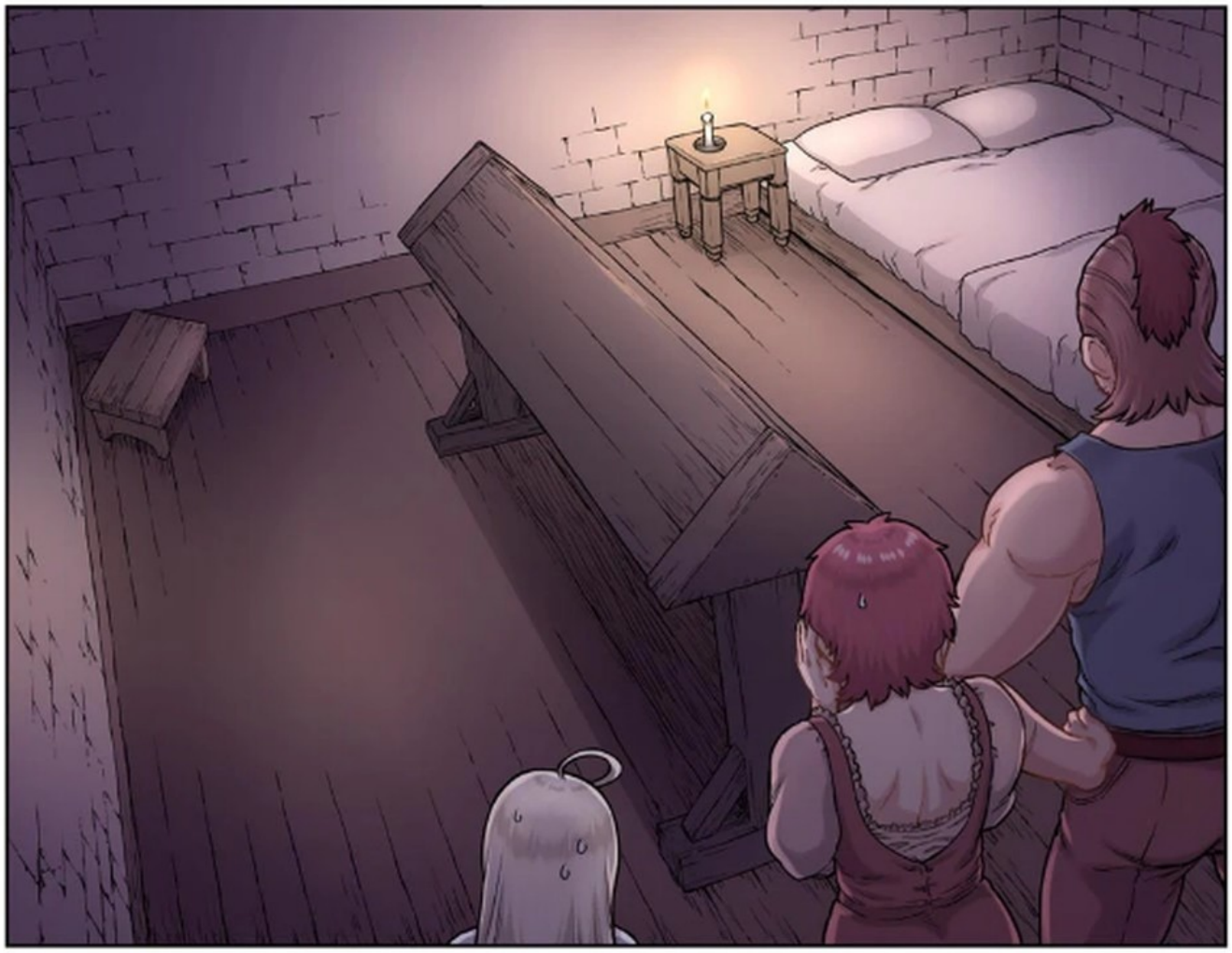

はっ…
初めましてっ
パルメと
いいます
……
もしかして
新人さんかな？
はいっ
今週から
働き始めました
バーディの奴
賭けにでやがった
たしかに新人なら
安くて若いし
性格がいい娘も
多いが…
その分こっちが
気を遣う
リスクもある


今日は本番と伺ってますっ
まだいろいろと不慣れですがよろしくお願いいたします
…待ていきなり本番だと!?
正気かバーディ!?
新人にいきなり本番とかっ!?
まだ勃ってねえのに
落ちつけってちゃんと考えがあるんだよ

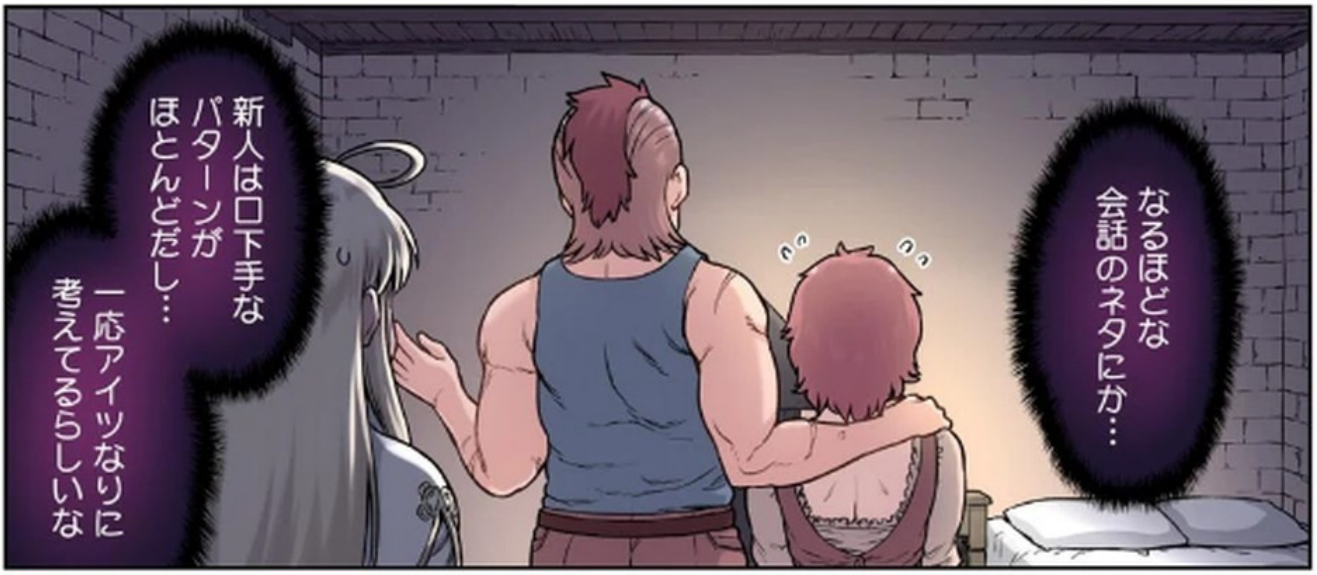

じゃあパルメちゃん一緒に行こうかっ
はいっお供いたします
本当に大丈夫かよ…




はわわわ




何？
パーディ…
お前そういう
趣味だったの？
いや アレを
実際に使うかは
ノリで決める
この部屋なら
話のネタに
なんだろ？

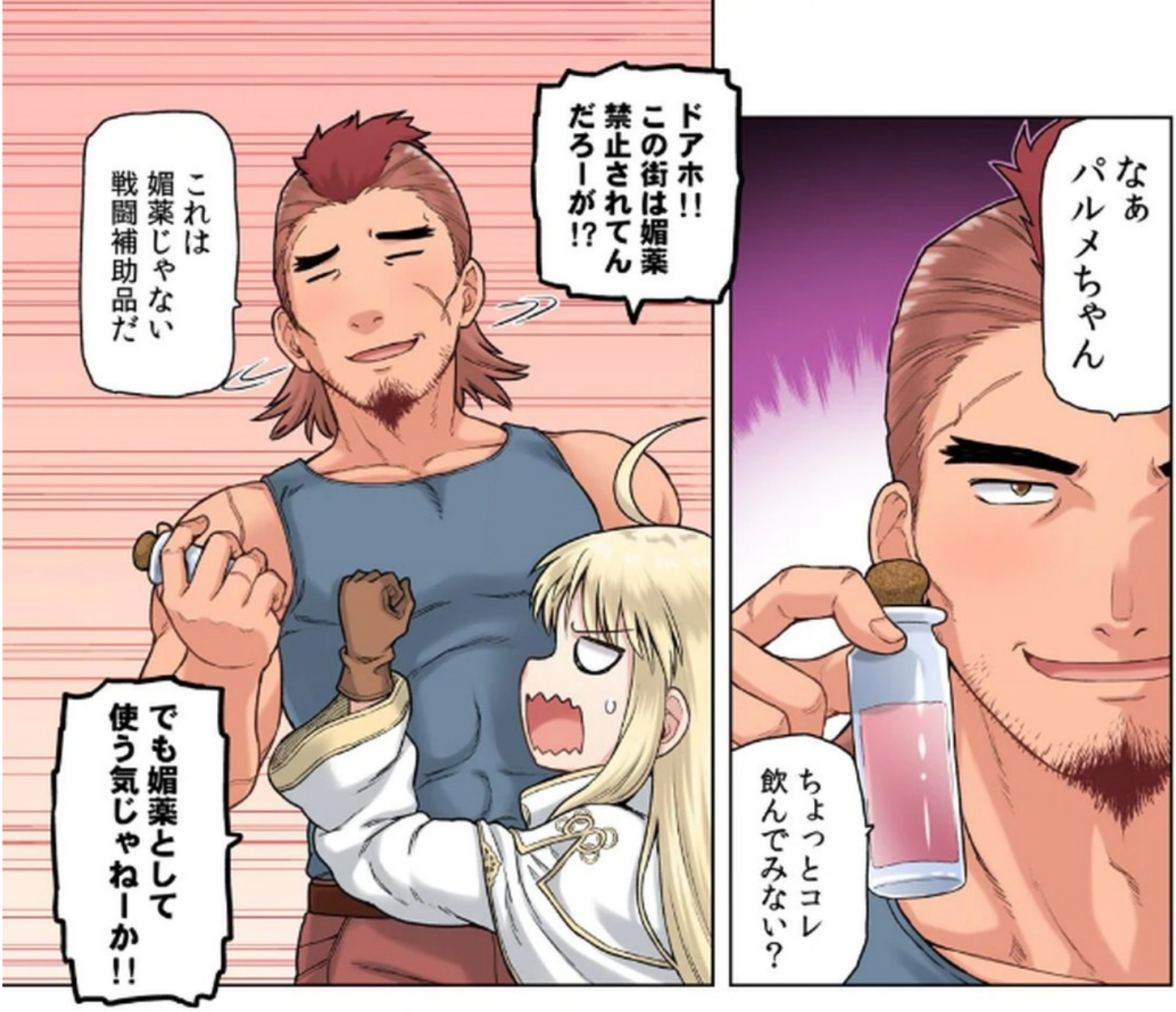

なるほどな
会話のネタにか…
新人は口下手な
パターンが
ほとんどだし…
一応アイツなりに
考えてるらしいな

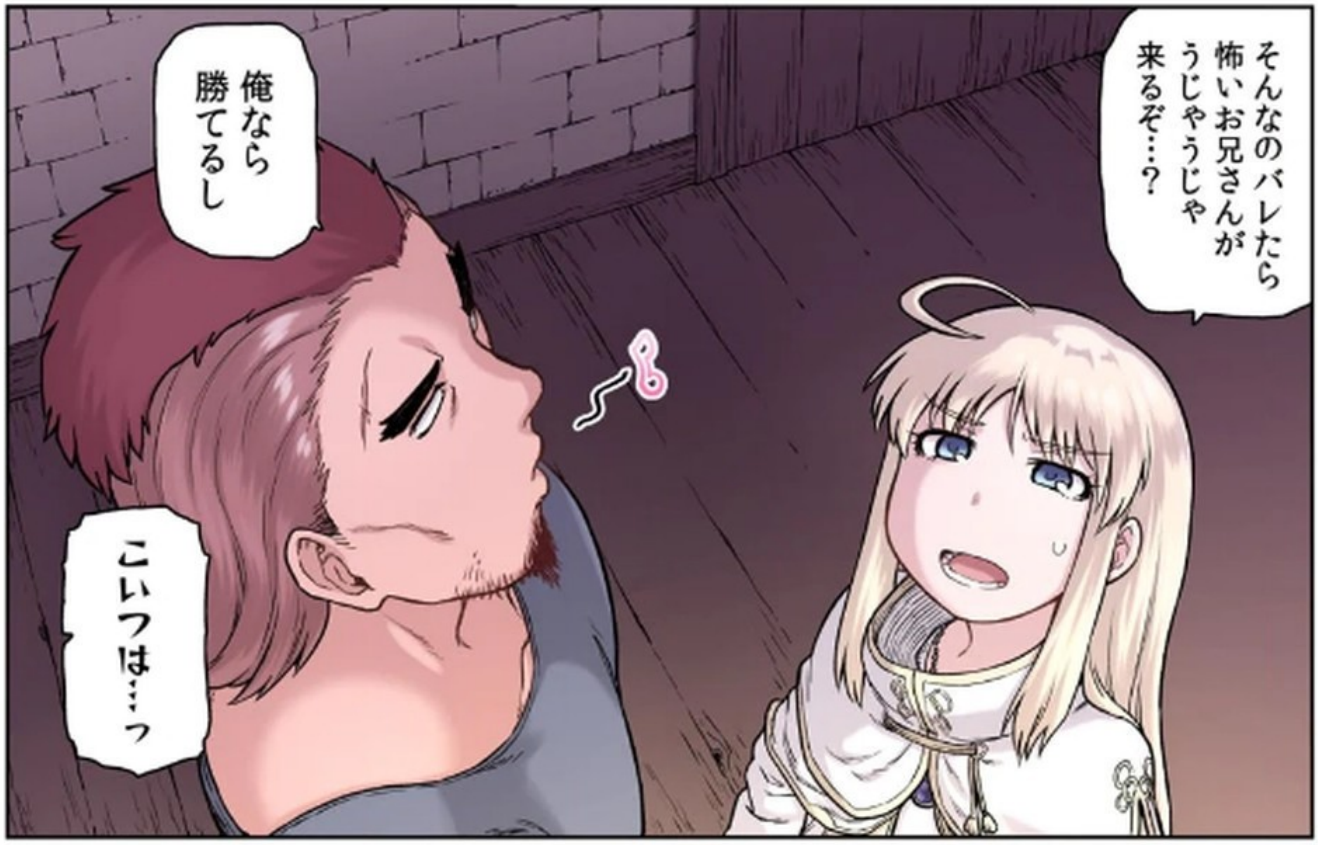

パルメちゃんは
こういうの
使ったことある？
いえっ その…
初めてですっ

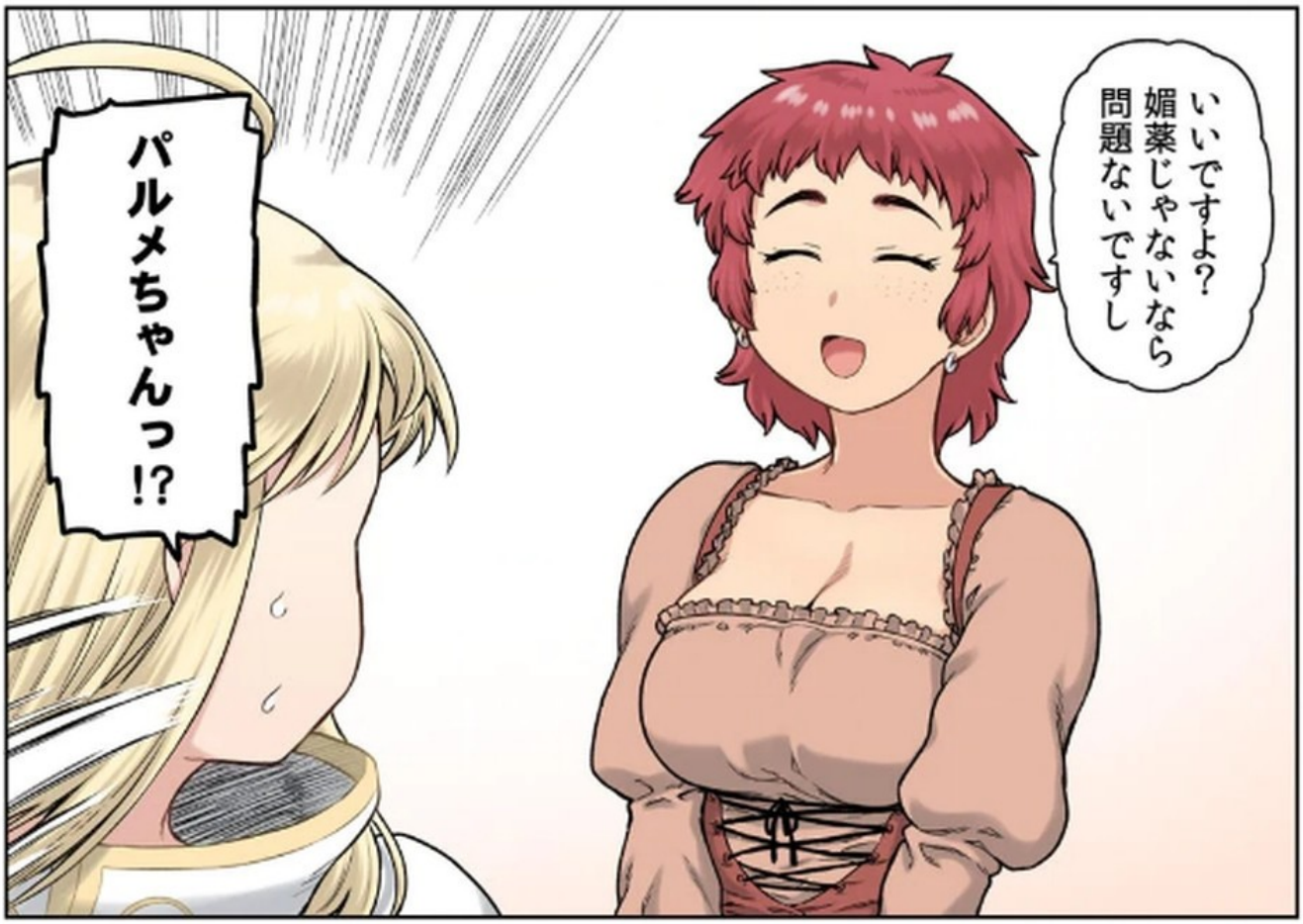

いや…
セクハラしたかった
だけかこれ…？


もしかして
本番自体も
初めてだったり？
あっそれは
ソコソコ
経験ありますっ
ほうっ
初めての時は
親友の弟を
押し倒しましたっ
え…
可愛いかったなぁ…♡
おい…マジで
大丈夫か？
思ったより
ヤバそうな
娘だぞ…？
大丈夫だって
むしろ
積極的で助かる
じゃねえか


さてっ
ここで今夜の
秘密兵器だ
ちゃぽんっ
アッパーって
知ってるかな
パルメちゃん？
えっと…たしか
戦士職の人が持つ
ポーションです
よね…？
そうだ
一時的に筋力を
底上げしてくれる
俺達のお守り
みたいなモノだ
ただ副作用が
すごくてな
1瓶で興奮が
止まらなく
なって…
2瓶飲んだら
性欲しか頭に
ない猿になる
おい
まさか…


なぁ
パルメちゃん
ちょっとコレ
飲んでみない？
ドアホ!!
この街は媚薬
禁止されてん
だろーが!?
これは
媚薬じゃない
戦闘補助品だ
でも媚薬として
使う気じゃねーか!!


そんなのバレたら
怖いお兄さんが
うじゃうじゃ
来るぞ…？
俺なら
勝てるし
こいつは…っ

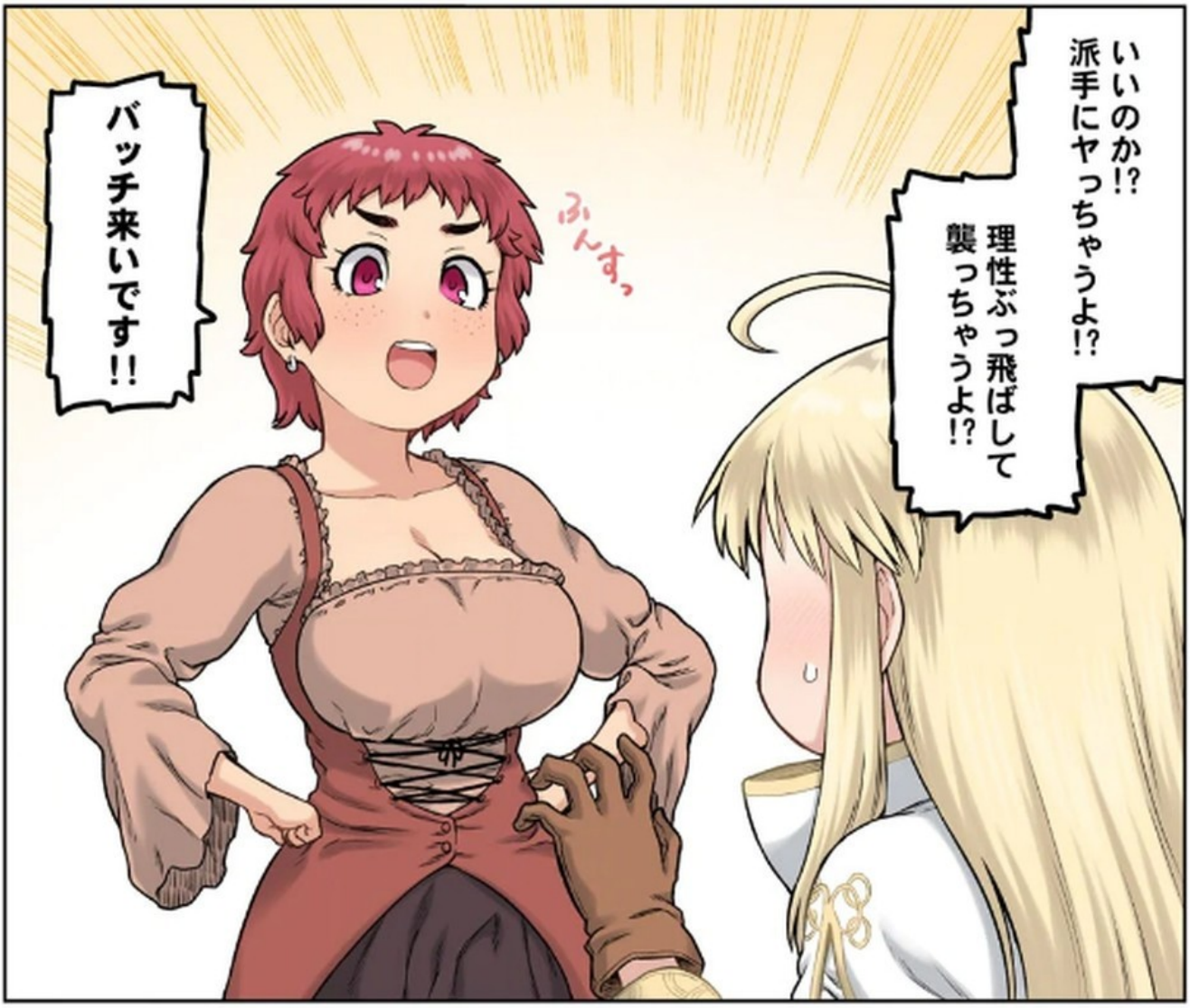

いいですよ？
媚薬じゃないなら
問題ないですし
パルメちゃんっ!?


いや コレ…
たしかに
健康上は
問題ないけどさ
マジでけっこう
危ないよっ!?
このアホが
飲んだときなんて
風俗で4人
一気食いしてたし
へへ…

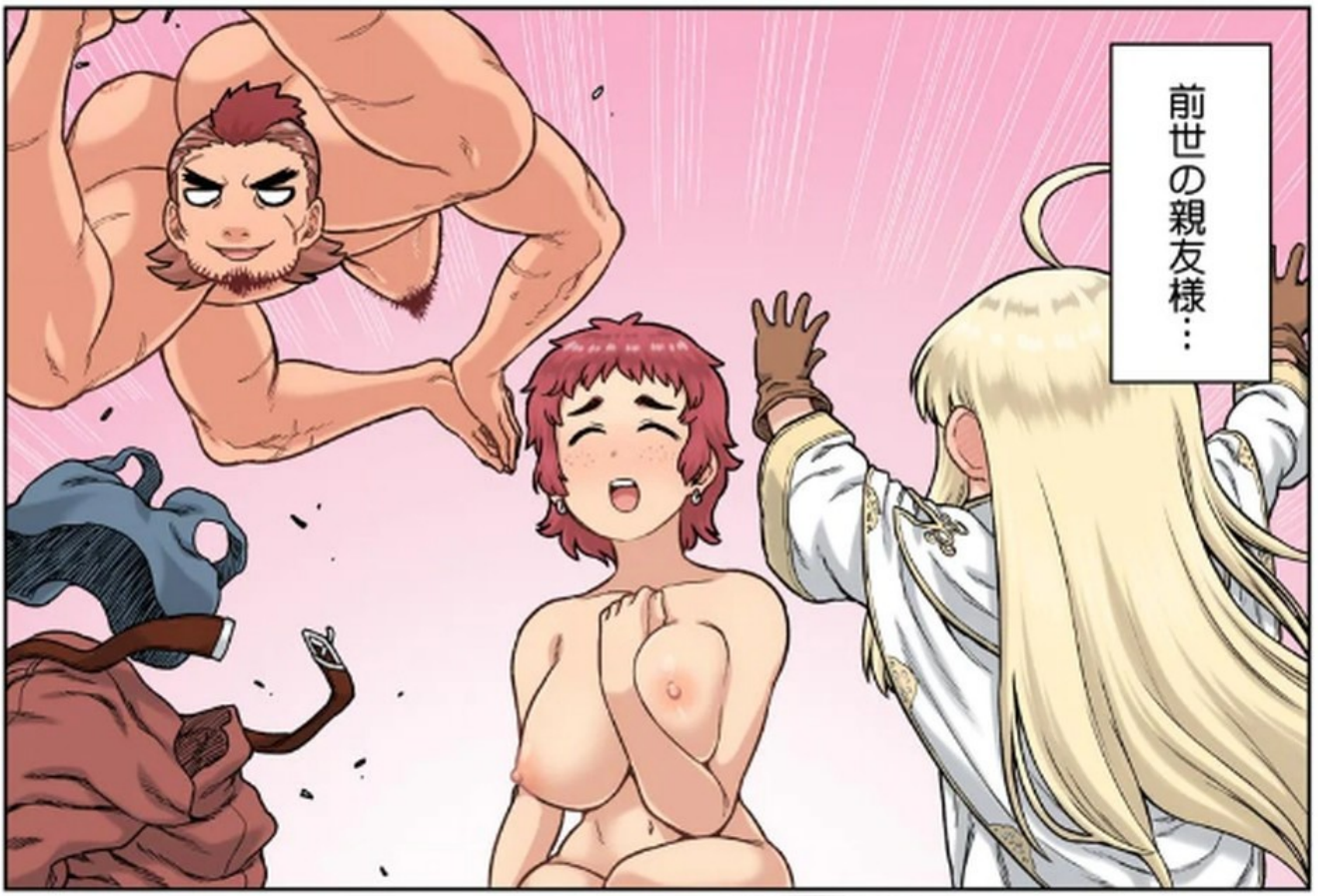

この街では
媚薬禁止みたい
ですけど…
うふふ♡

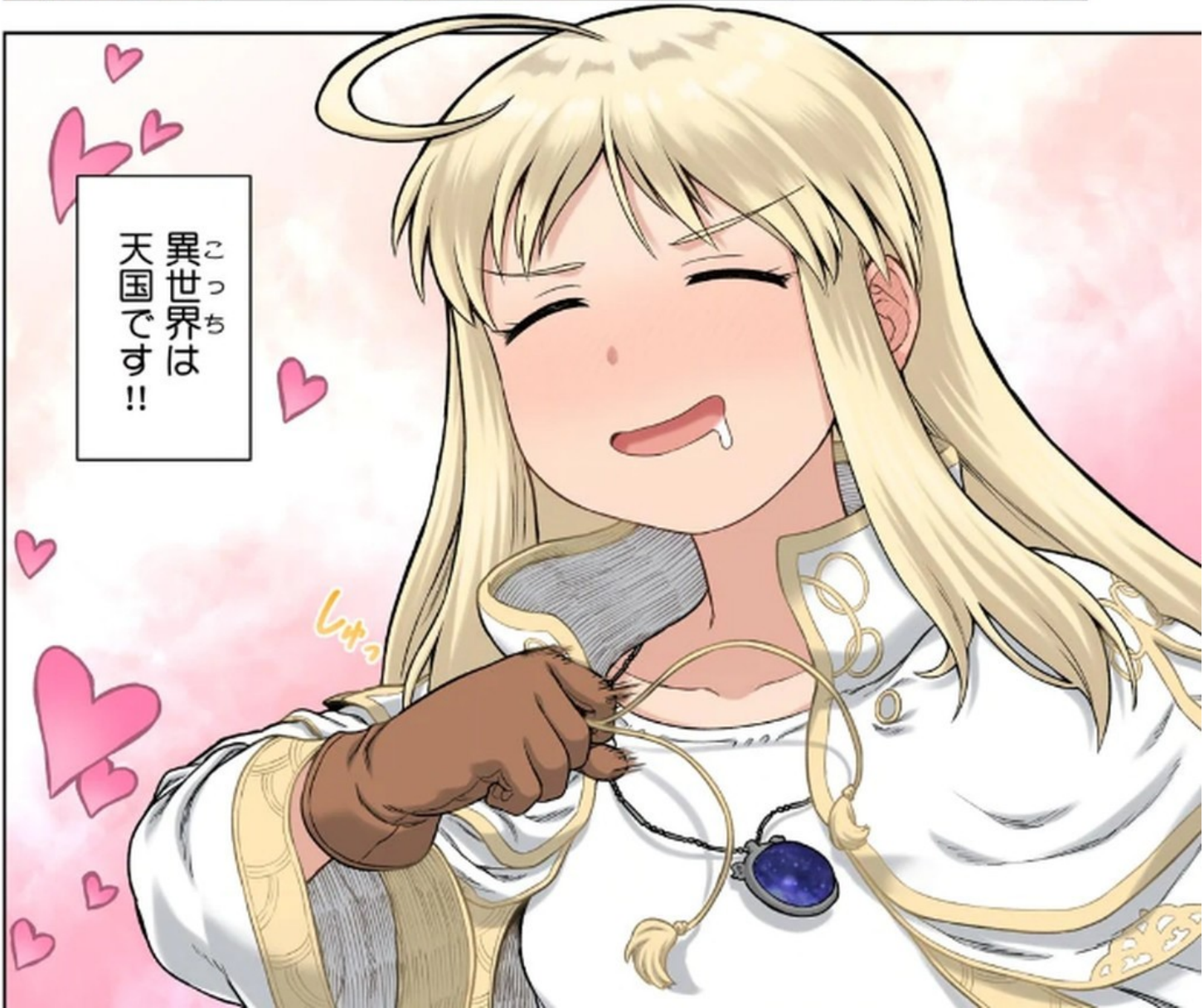

くいっ
あっ!?
ちゅ
ぽんっ♡
私はわりと好きなんです♥
激しいやつ♥


おおお…っ
おいこの娘
大当たりだぜ
フィオっ!!
ぺし ぺし
真面目そうで
実は好き者なんて
サイコーじゃねえか!!
お…おお
マジか…!?


いいのか!?
派手にヤっちゃうよ!?
理性ぶっ飛ばして
襲っちゃうよ!?
ふんすっ
バッチ来いです!!


その代わり…
滅茶苦茶にしてくださいね♥
ぷるん
ぷるん
うおおおおっ!?


前世の親友様…


異世界(こっち)は
天国です!!
しゅっ

フィオ デザイン案
ver. 1.5

アホ毛があっても
フィオには合うかも

アルトとイチャつく時に
ピョコピョコしてると可愛い

ミクアルの黒髪
巫女の防寒服

所々に星と回生を
イメージした円環の
装飾

一応防刃の
グローブと靴

配色イメージは
白と白金装飾

どこかに流星の
イメージで青や緑を
差してもいいかも

聖痕

野暮ったい服とは
ありましたが主人公がヒロインなので
ちょい盛りました

外套を外した状態
部屋着

下着

裸

魔法発動体のペンダント
普段は外套下に隠れて
見えない

濃い紺色でキラキラ
細かいラメが
入ってる

宇宙や星々の
からーなイメージ

アクションシーン等で
ちらちら見えると
良いのでは

後髪は
お尻ぐらいまで


TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.

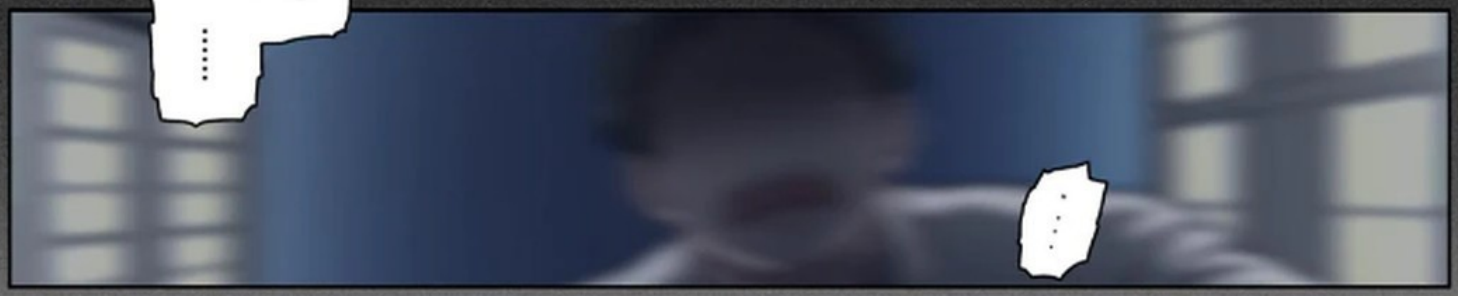

そんでさ…
異世界で
最強になった
オレはな
ごぼっ
各地で現地妻
作りながら
世界中を旅して
まわるんだ


うわっ
めっちゃ血い
出てんじゃん!?
ヤクザの抗争に
巻きこまれた
らしいよ…
銃で撃たれた
みたい…


ああ
いいな
そうなったら
最高だなオイ
だから
もう少し
がんばれっ!!


悪いがオレは
一足先に
ハーレム作りに
行ってくるわ…
両親には今まで
ありがとうって
伝えておいてくれ
馬鹿言うなって
もう救急車も
来るからっ!!

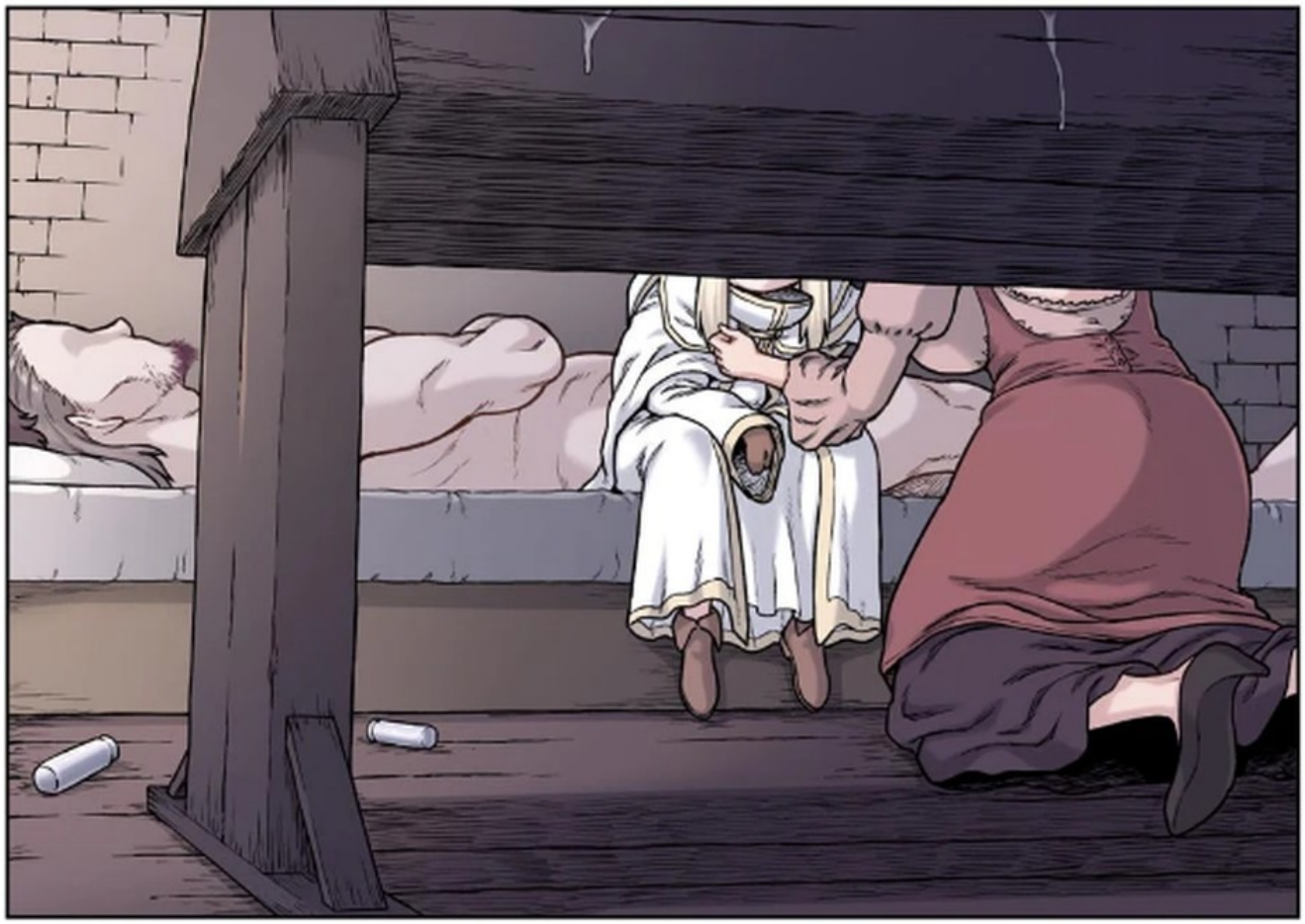

おい
寝るなっ!?


寝…な
救急…
……
……


……


ちゅん
ちゅん
ぱろろろろ
すう
すう
前世の親友よ
お元気でしょうか

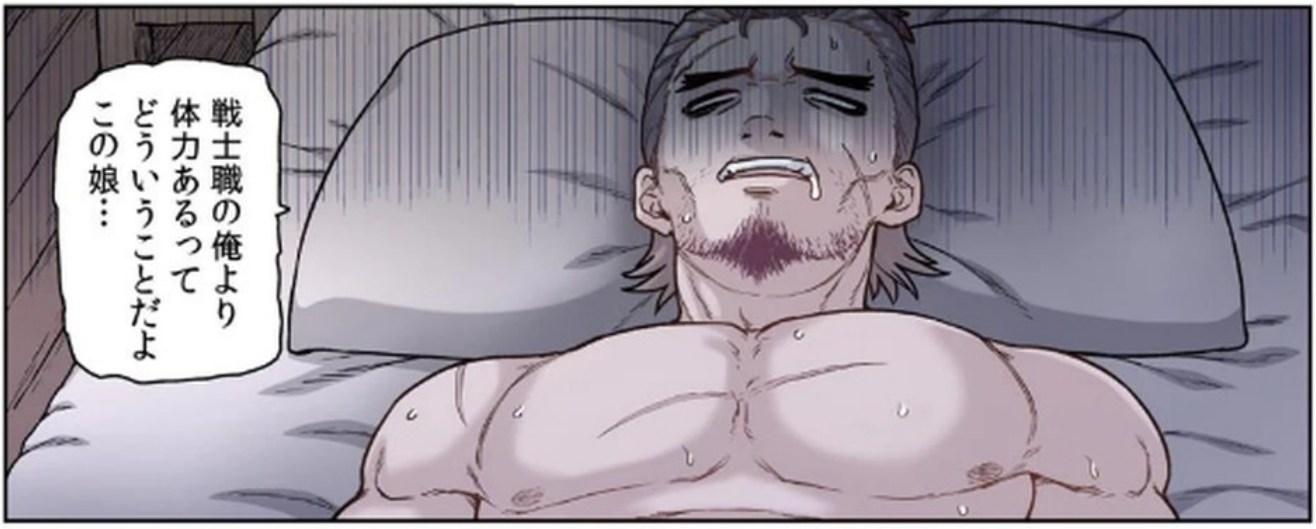

異世界(こっち)は
地獄です…





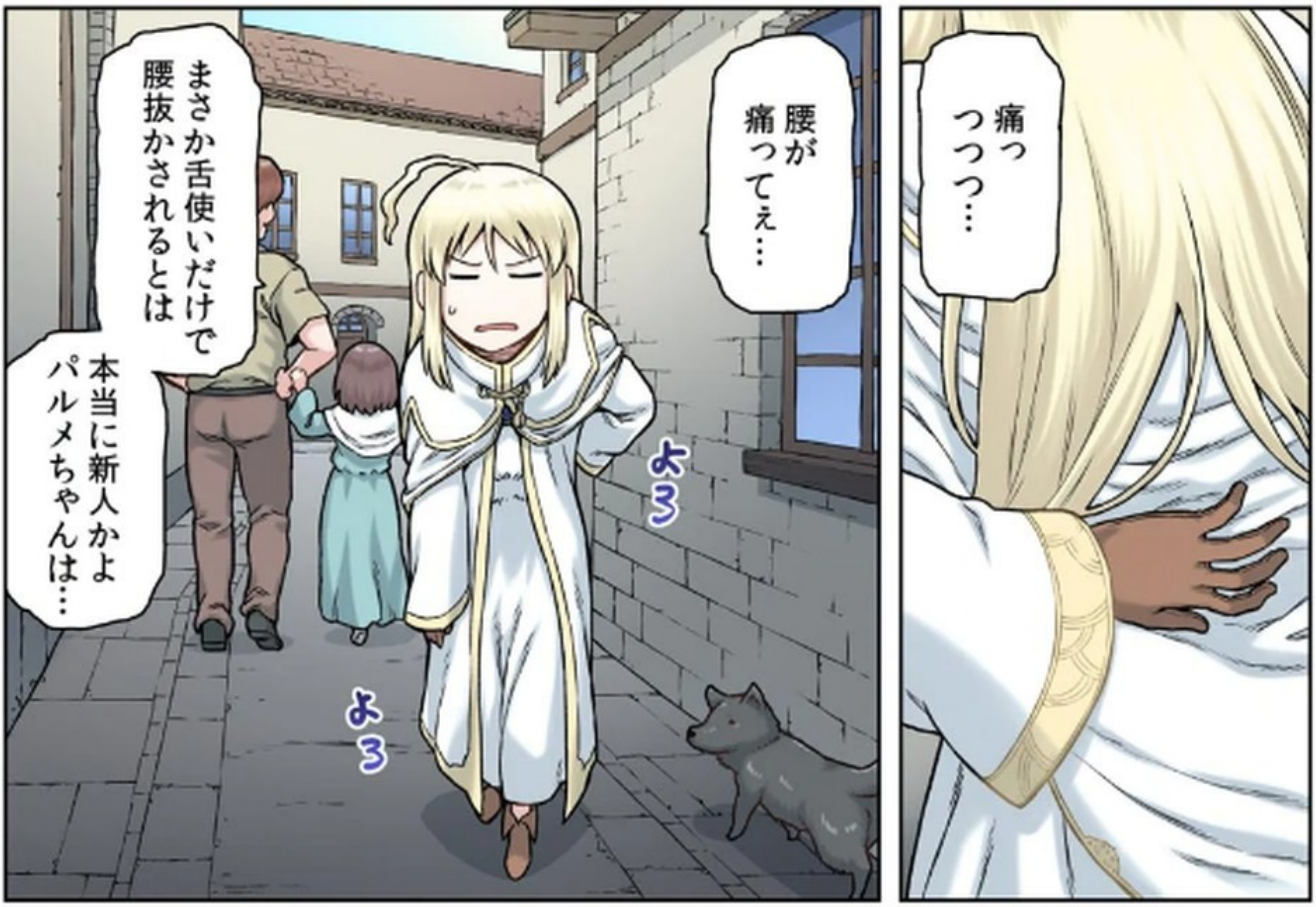

それではご指名ありがとうございましたっ
今日の営業に行かないとなのでこれでお暇しますね

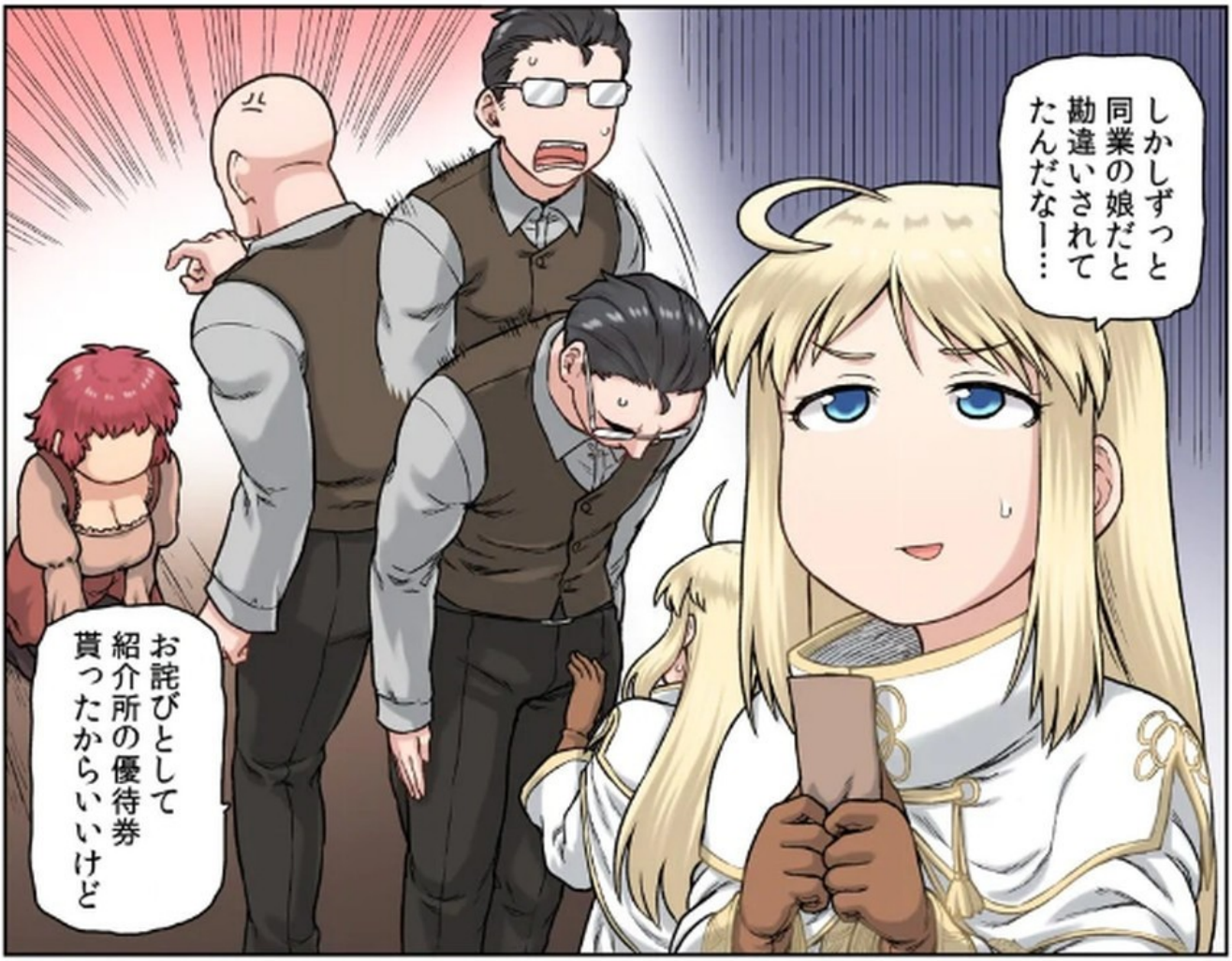

つ…
疲れた…

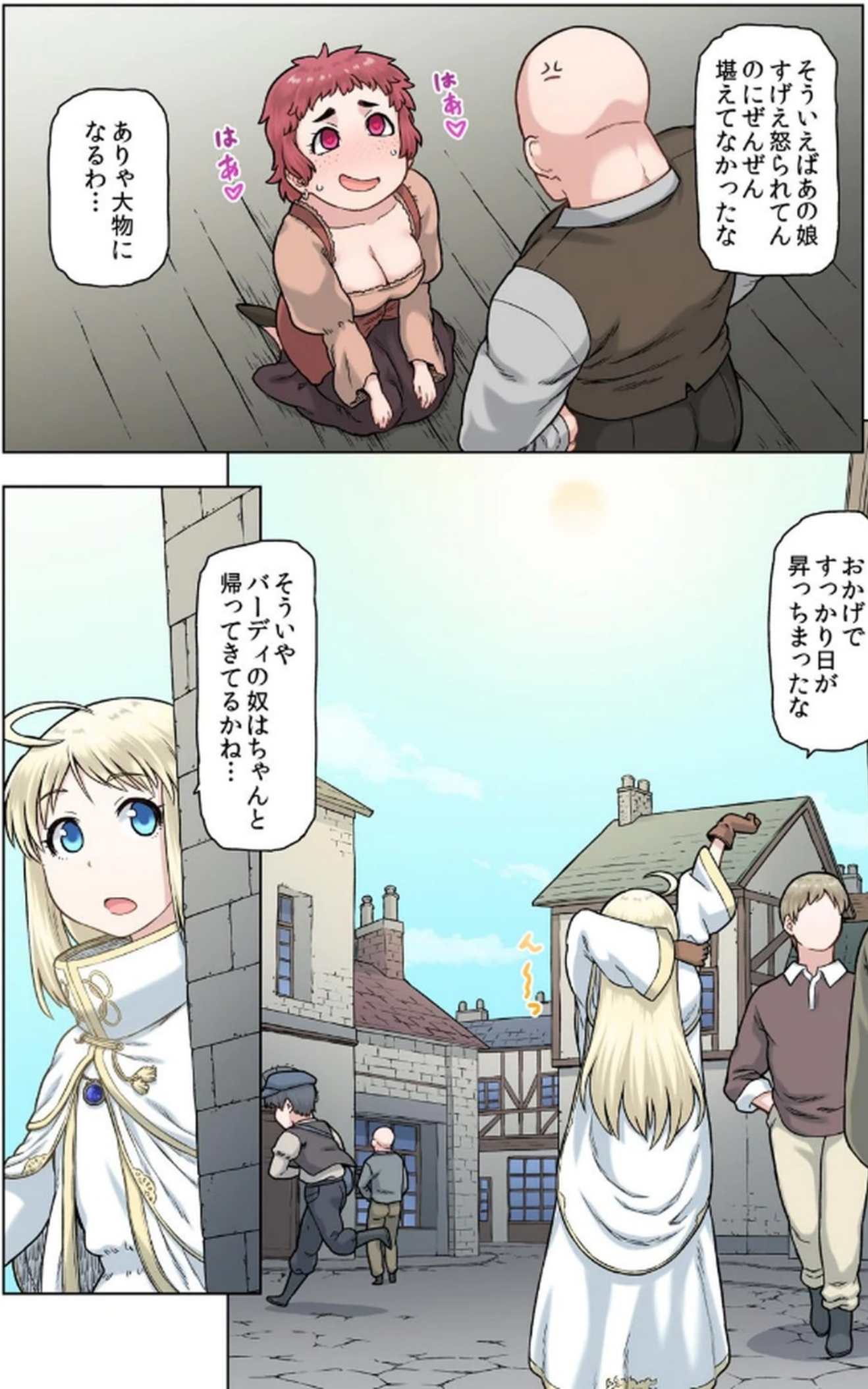

戦士職の俺より
体力あるって
どういうことだよ
この娘…

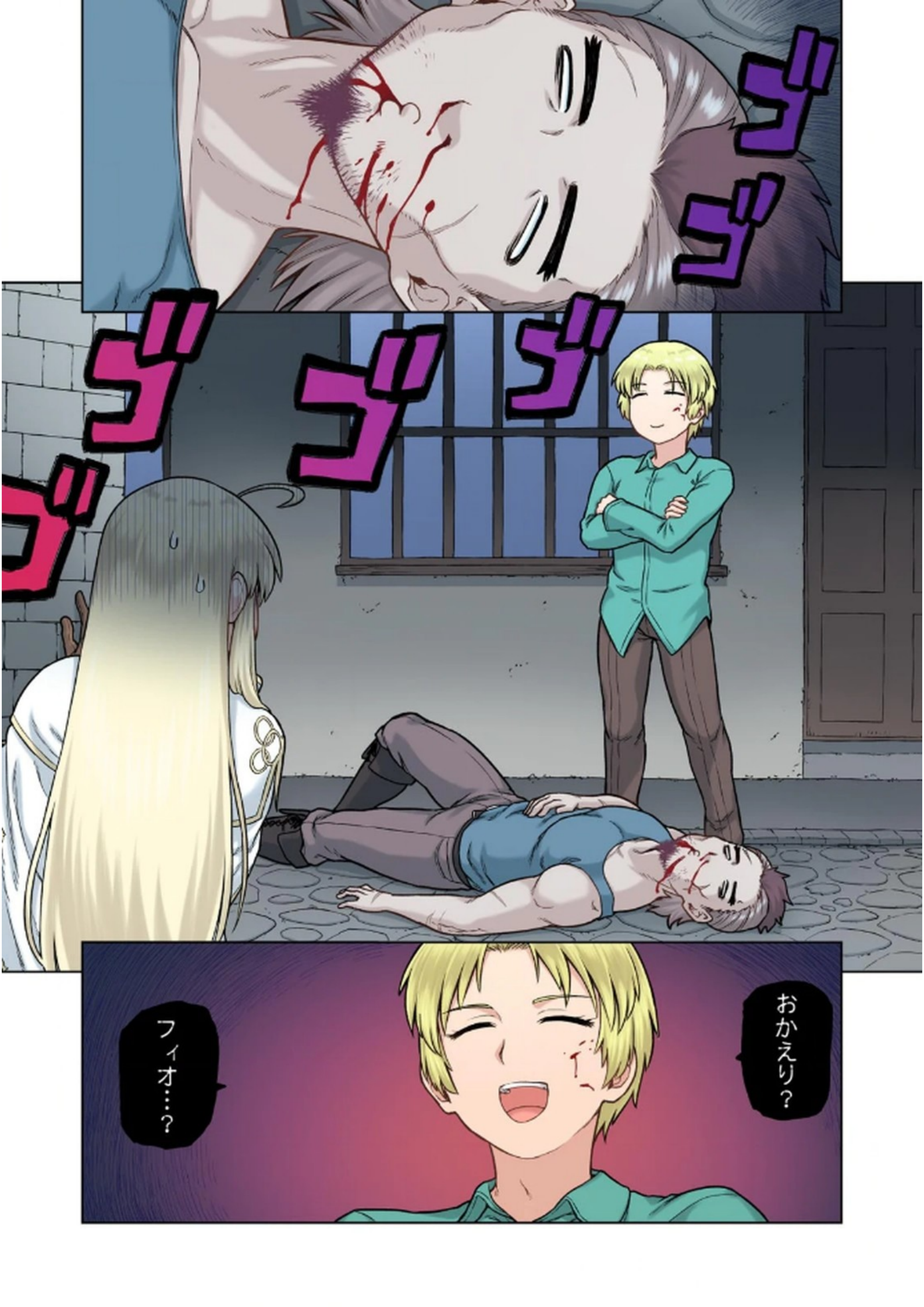

ぜひともまた
ご指名ください
じゃあ
フィオ先輩
行きましょうか
ひょいっ
は？


近くの寄宿舎まで
送りますよー
待て…
待ってくれ
オレは嬢じゃ…


痛っ
つつつ…
腰が
痛ってぇ…
よろ
よろ
まさか舌使いだけで
腰抜かされるとは
本当に新人かよ
パルメちゃんは…


しかしずっと
同業の娘だと
勘違いされて
たんだなー…
お詫びとして
紹介所の優待券
貰ったからいいけど

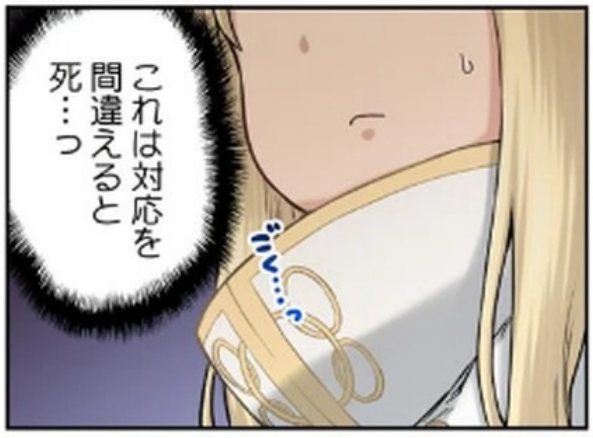

そういえばあの娘すげえ怒られてんのにぜんぜん堪えてなかったな
はあ♡
はあ♡
ありゃ大物になるわ…
おかげですっかり日が昇っちまったな
そういやバーディの奴はちゃんと帰ってきてるかね…
ん～っ

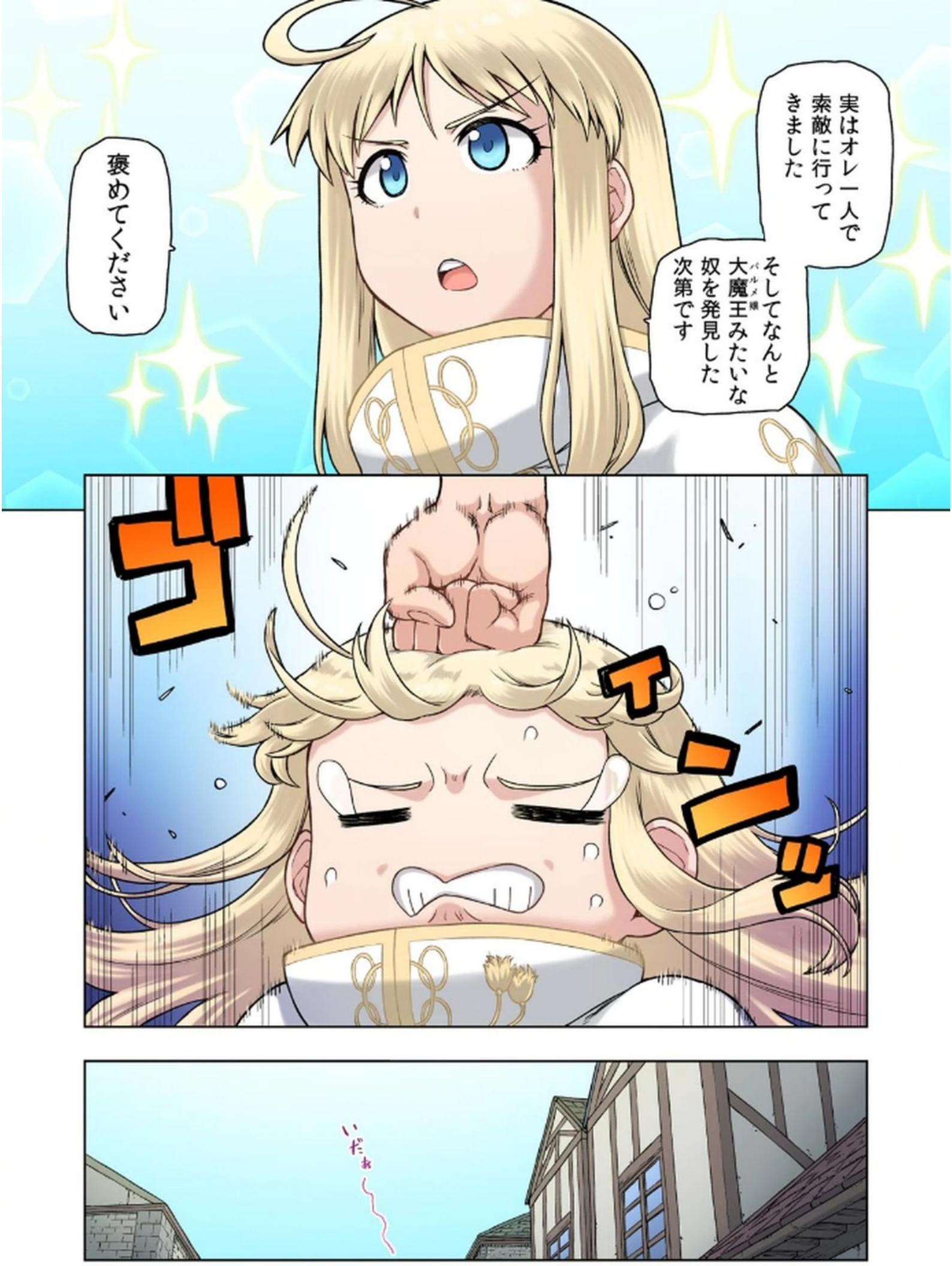

ゴゴゴゴゴ
おかえり？
フィオ…？


昨日からこんな時間までいったいどこに行っていたのかな？
ゴゴゴゴ
ル…ルートさん？
ゴゴ


いかん…かつてないほどルートがブチギレてる
フォ
オ
オ
オ
昨日4人娘への生け贄にしたのがマズかったか

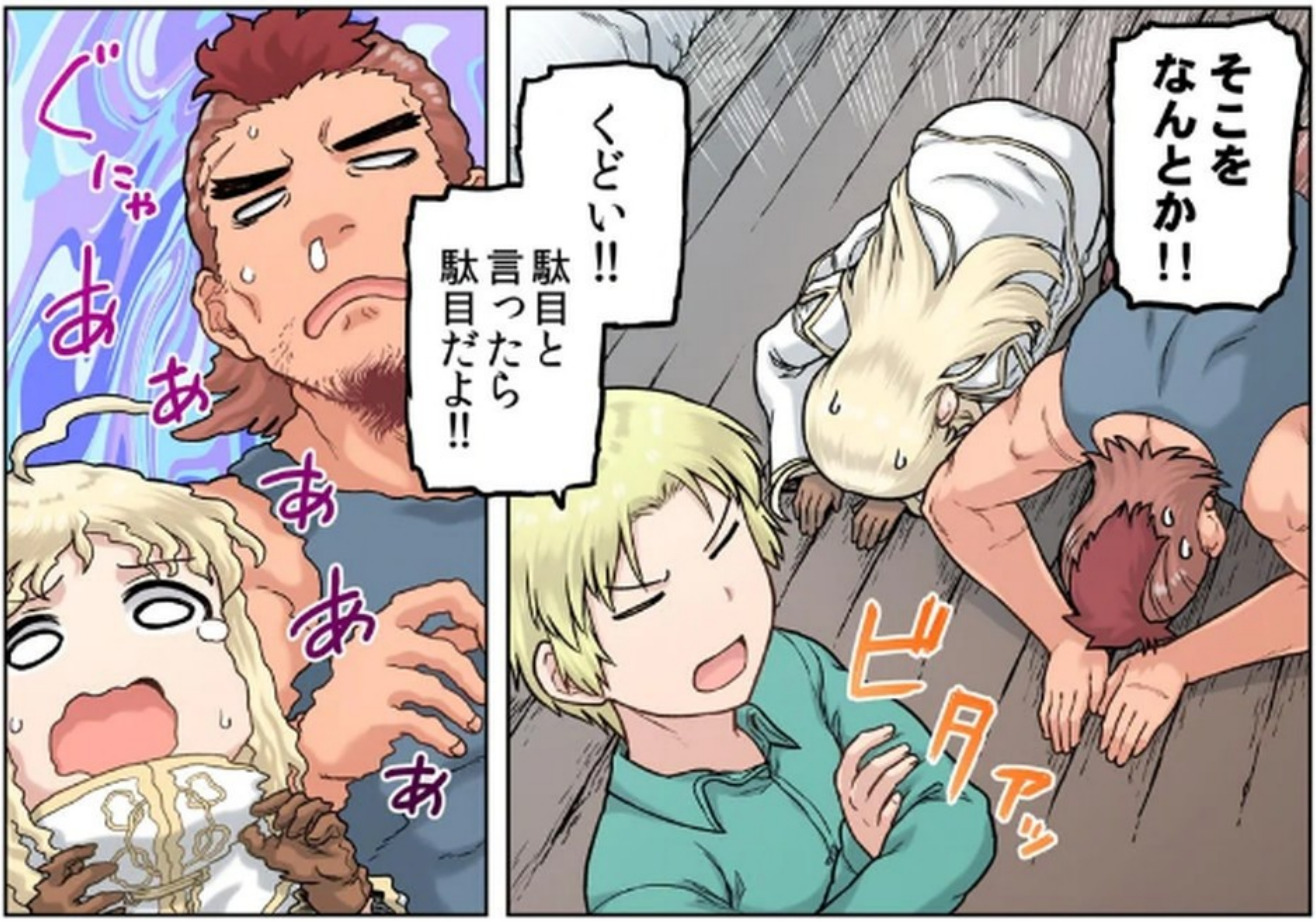

あのバーディすら倒しちまうとは…
そういえばあの娘（バルメ娘）に搾（しぼ）り尽くされてたっけ

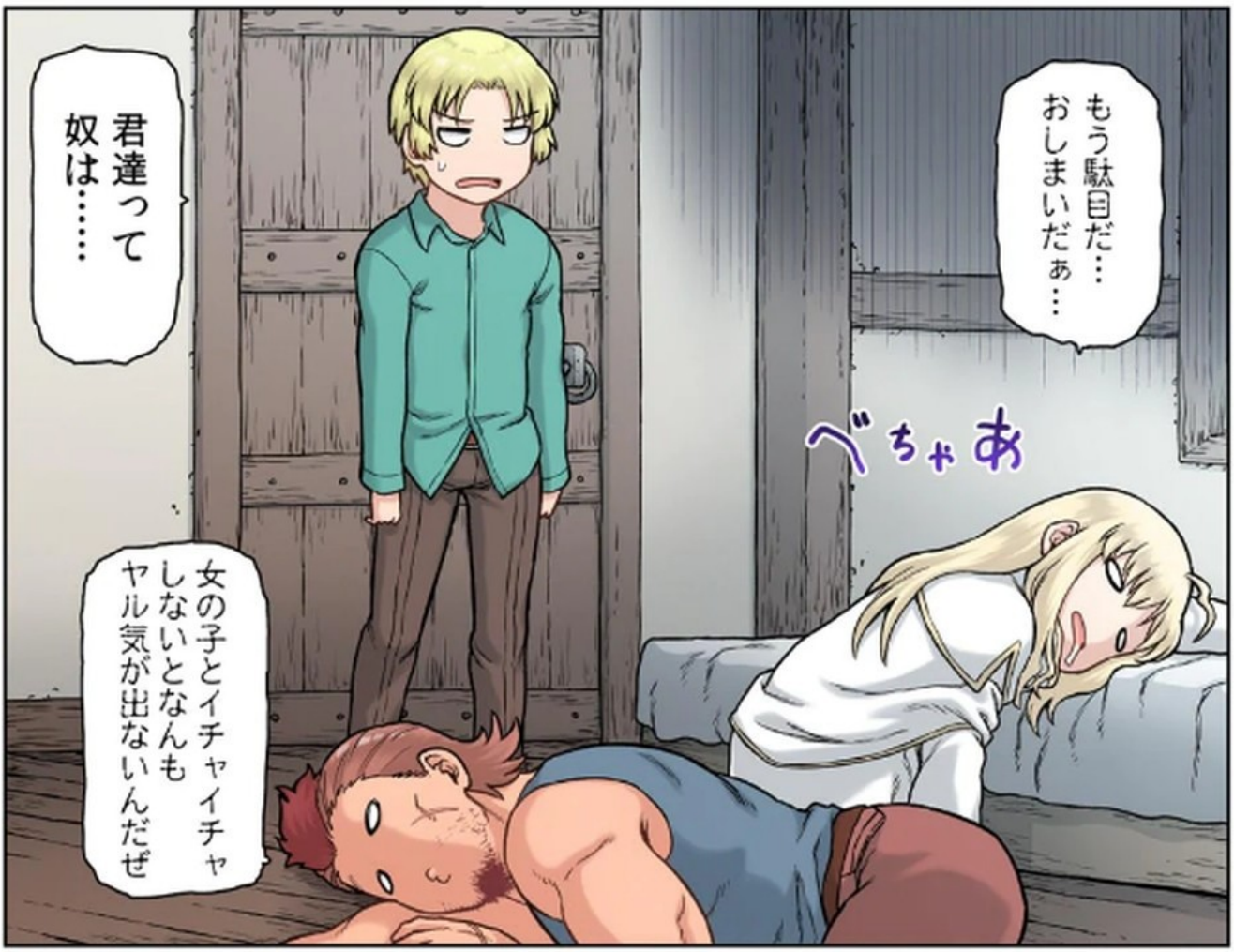

これは対応を間違えると死…っ
ごくっ…

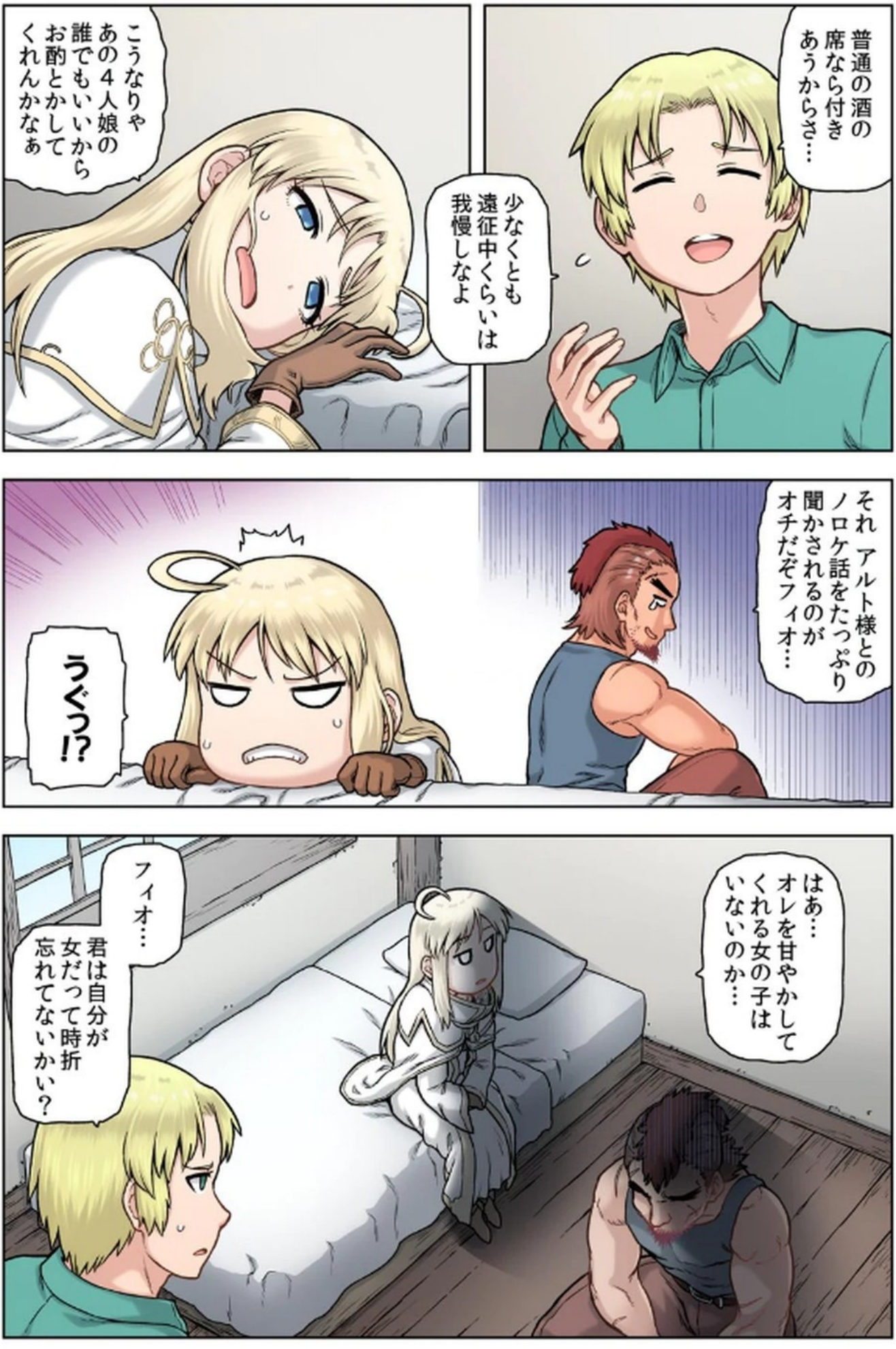

実はオレ一人で
索敵に行って
きました
そしてなんと
大魔王(パルメ嬢)みたいな
奴を発見した
次第です
褒めてください
ゴ
イ
ン
ッ
いだぁ～

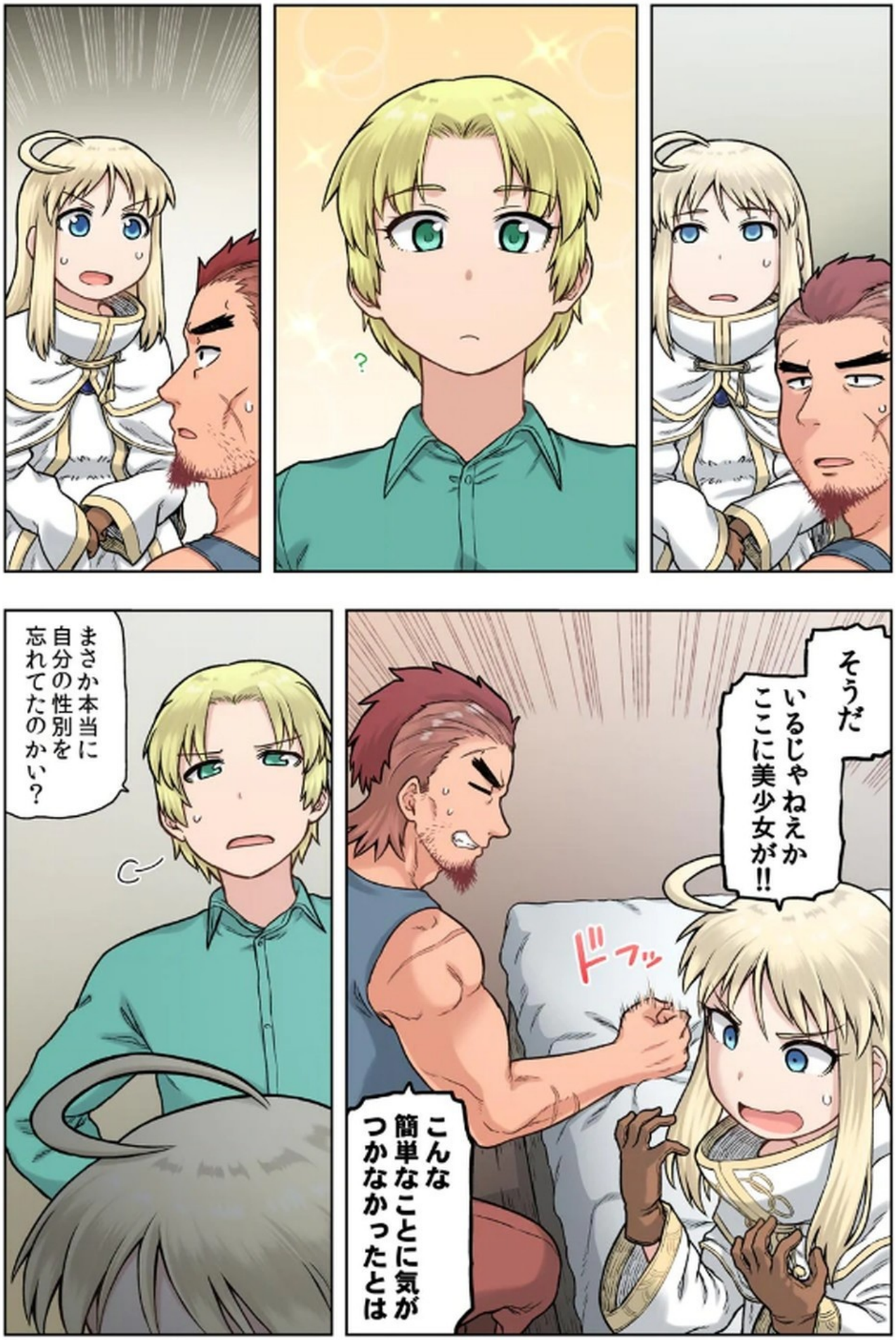

ジャリ…
これは…っ
ヒュオオオ

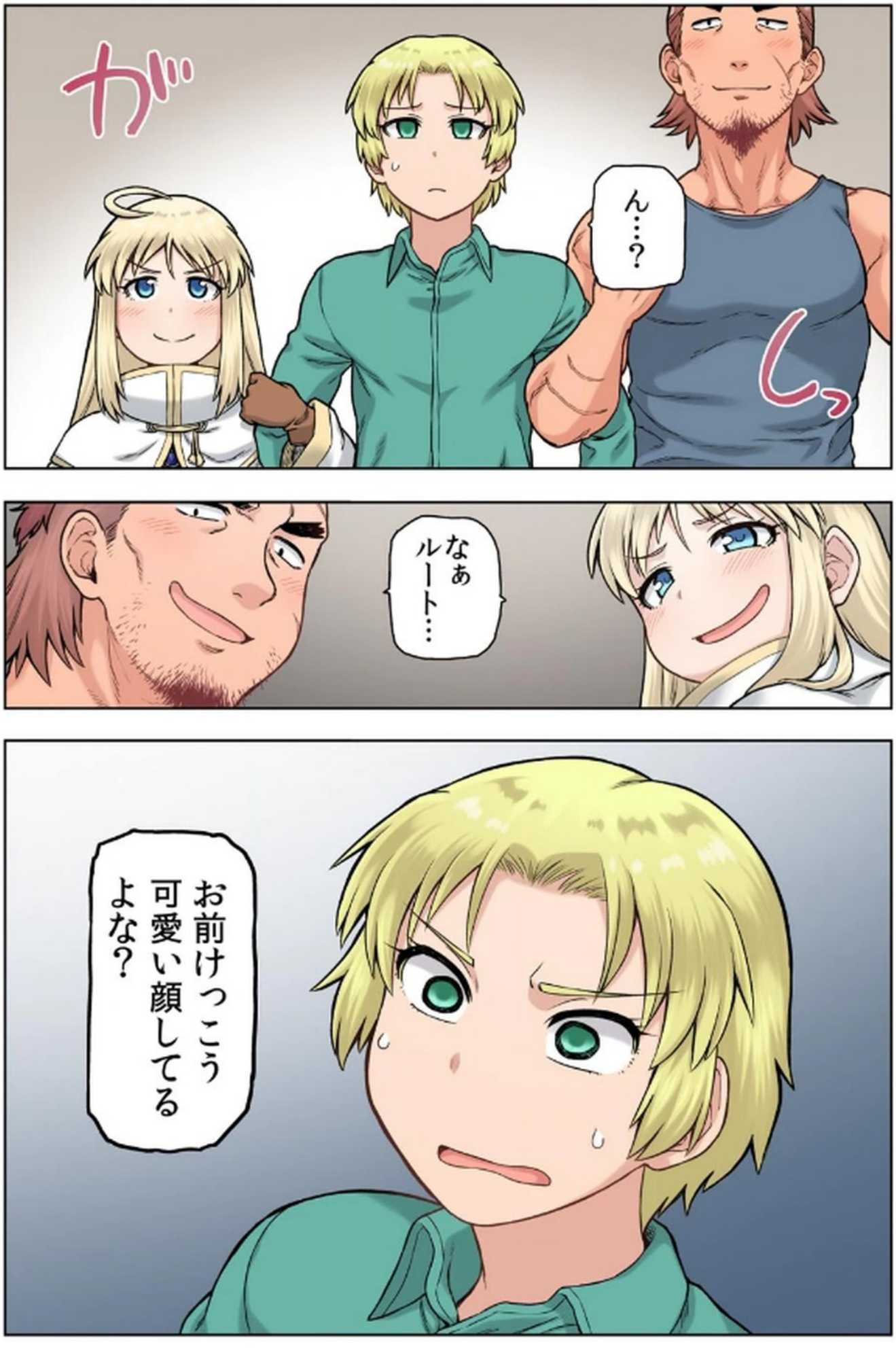

しゅう
うう
痛ってえなぁ…
ちょっとした
ジョークじゃんか
うるさいっ!!
こっちは
あれから散々な
目にあったんだ
からね
しばらく
色街に行くのは
禁止だよ
パーティの資金も
少なくなってきてるし
二人に無駄遣いさせる
余裕はないんだ
そりゃねーだろ
ルートちゃんよお!?
だいたいね…
僕らの沽券に
関わるからやめて
ほしいんだよ
そうだぞ
オレ達は小遣いの
範囲でしか
楽しんでないぜ!?


そこを
なんとか!!
くどい!!
駄目と
言ったら
駄目だよ!!
ビタァッ
ぐにゃ
あ
あ
あ
あ

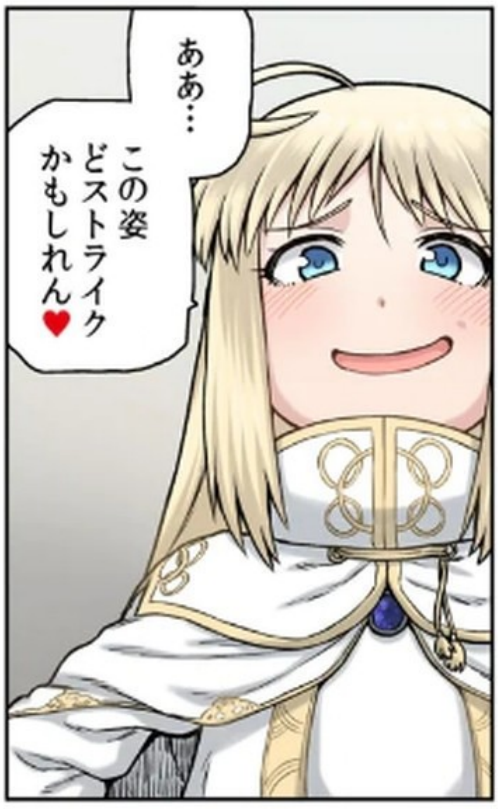

もう駄目だ…
おしまいだぁ…
べちゃあ
君達って
奴は……
女の子とイチャイチャ
しないとなんも
ヤル気が出ないんだぜ

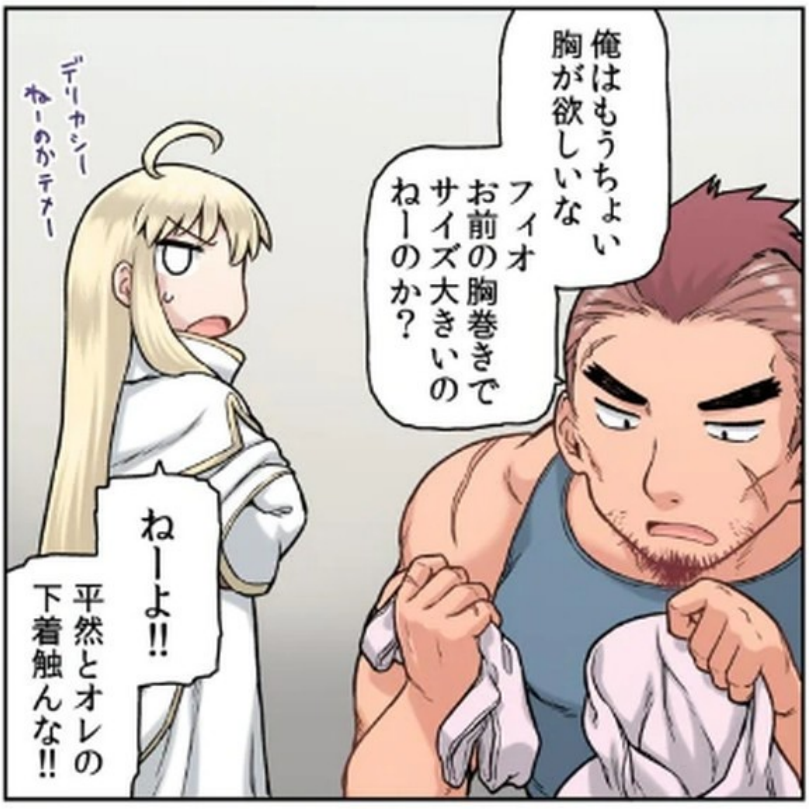

普通の酒の席なら付きあうからさ…
少なくとも遠征中くらいは我慢しなよ
こうなりゃあの4人娘の誰でもいいからお酌とかしてくれんかなぁ
それアルト様とのノロケ話をたっぷり聞かされるのがオチだぞフィオ…
うぐっ!?
はあ…オレを甘やかしてくれる女の子はいないのか…
フィオ…君は自分が女だって時折忘れてないかい？

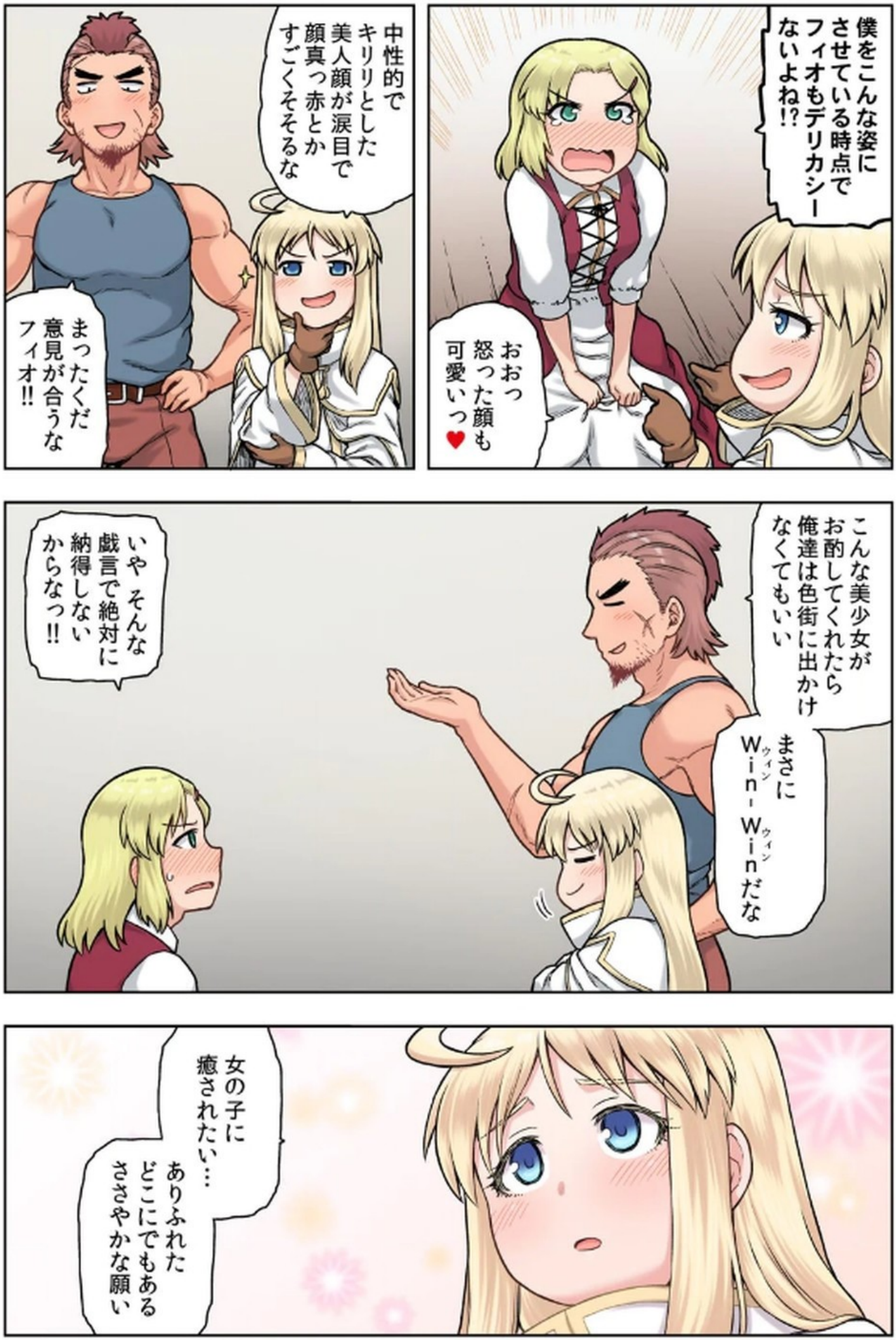

?
そうだ
いるじゃねえか
ここに美少女が!!
ドフッ
こんな
簡単なことに気が
つかなかったとは
まさか本当に
自分の性別を
忘れてたのかい?

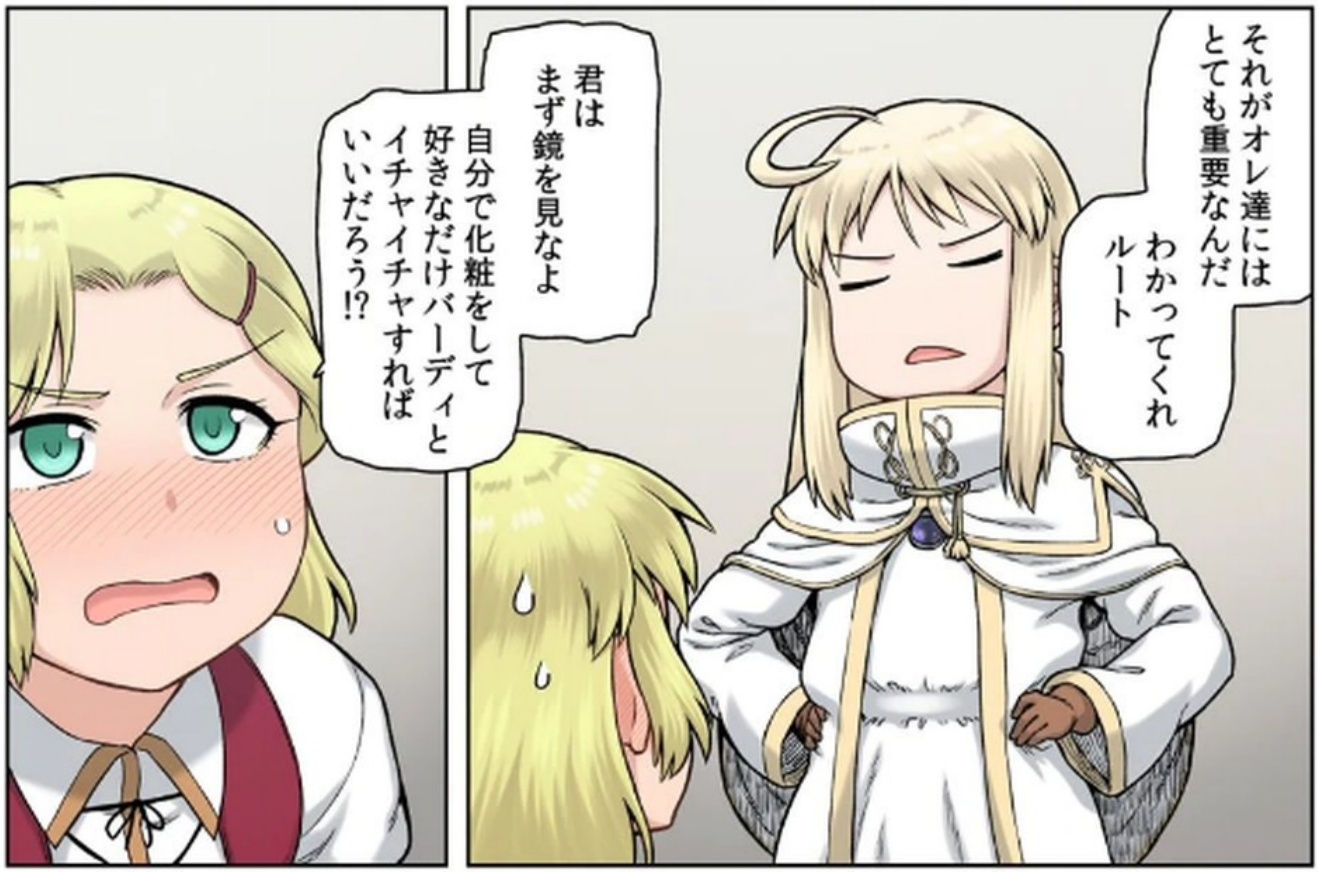

ガ
ん…？
しっ
なぁ
ルート…
お前けっこう
可愛い顔してる
よな？

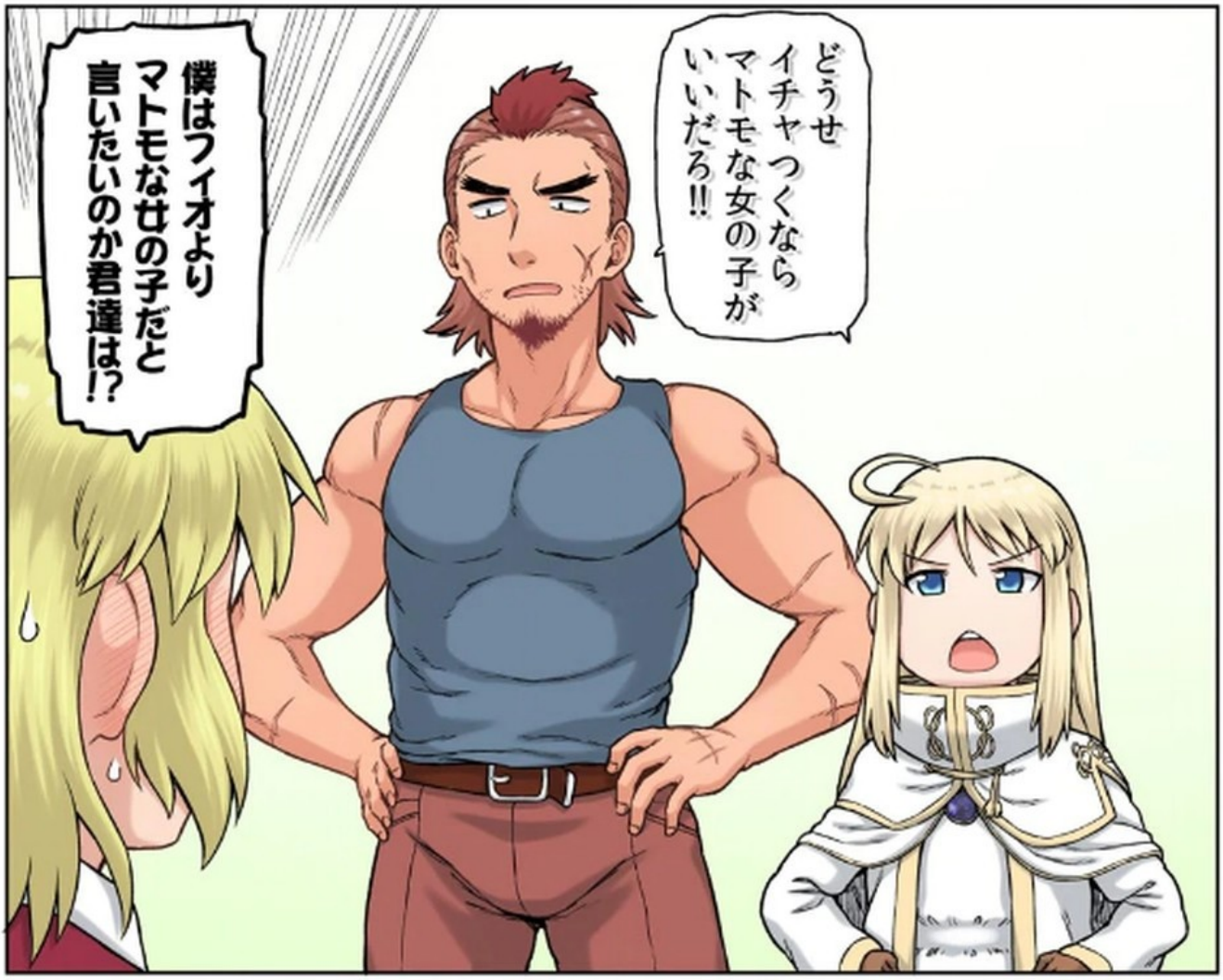

おかしい
だろおおおおっ!?


ああ…
この姿
どストライク
かもしれん♥


俺はもうちょい
胸が欲しいな
フィオ
お前の胸巻きで
サイズ大きいの
ねーのか？
デリカシー
ねーのかテメー
ねーよ!!
平然とオレの
下着触んな!!


僕をこんな姿にさせている時点でフィオもデリカシーないよね!?
おおっ 怒った顔も可愛いっ♥
中性的でキリリとした美人顔が涙目で顔真っ赤とかすごくそそるな
まったくだ 意見が合うなフィオ!!
こんな美少女がお酌してくれたら俺達は色街に出かけなくてもいい
まさにWin(ウィン)-Win(ウィン)だな
いや そんな戯言で絶対に納得しないからなっ!!
女の子に癒されたい…
ありふれたどこにでもあるささやかな願い


それがオレ達には
とても重要なんだ
わかってくれ
ルート
君は
まず鏡を見なよ
自分で化粧をして
好きなだけバーディと
イチャイチャすれば
いいだろう!?

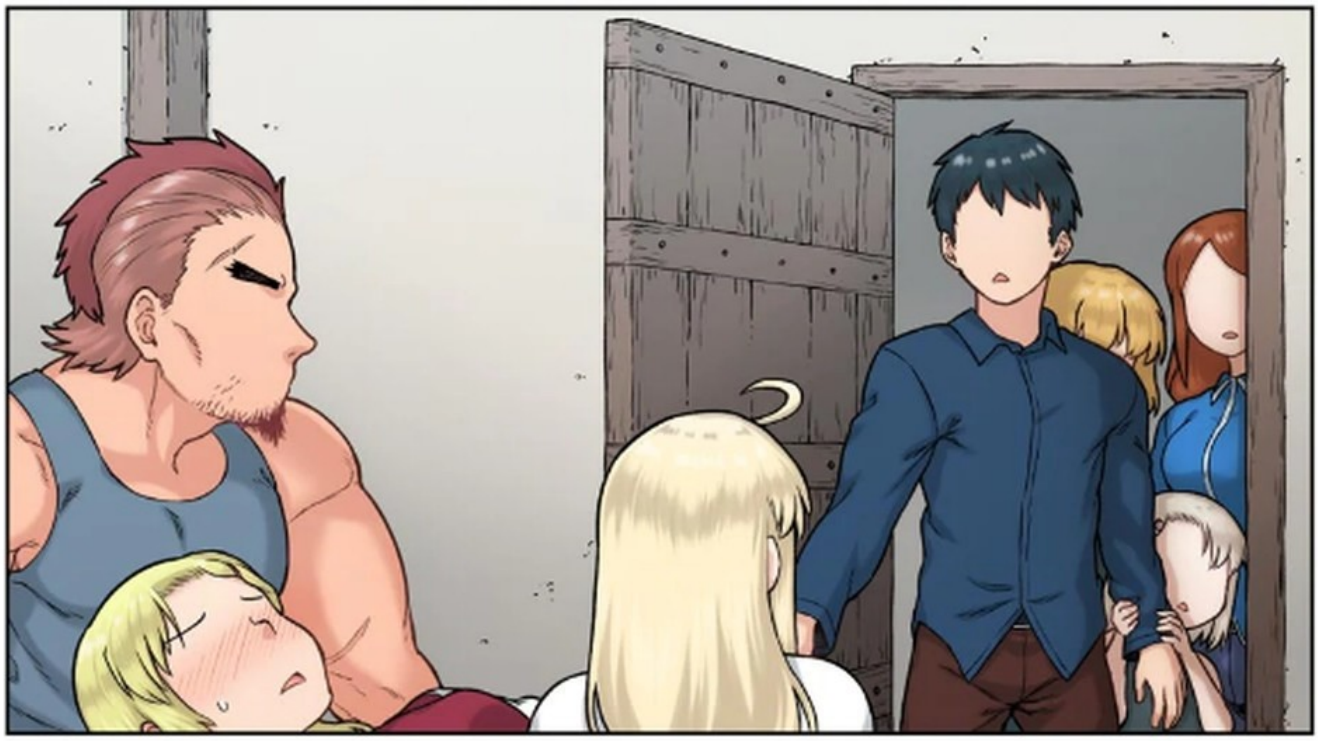

どうせ
イチャつくなら
マトモな女の子が
いいだろ!!
僕はフィオより
マトモな女の子だと
言いたいのか君達は!?


せっかくだし
このままルートを
4人娘の修羅場に
放りこんでみないか
バーディ？
Hoo!
そいつはとても
クールだぜフィオ!!
この人の皮を
被った悪魔共め!!


そしてこの
パーティグッズ
5分間だけ
性格が変わる
飴玉～っ


これ飲ませて
修羅場に
投げこもう
それで奴らが
何分後にルートだって
気がつくか賭けようぜ

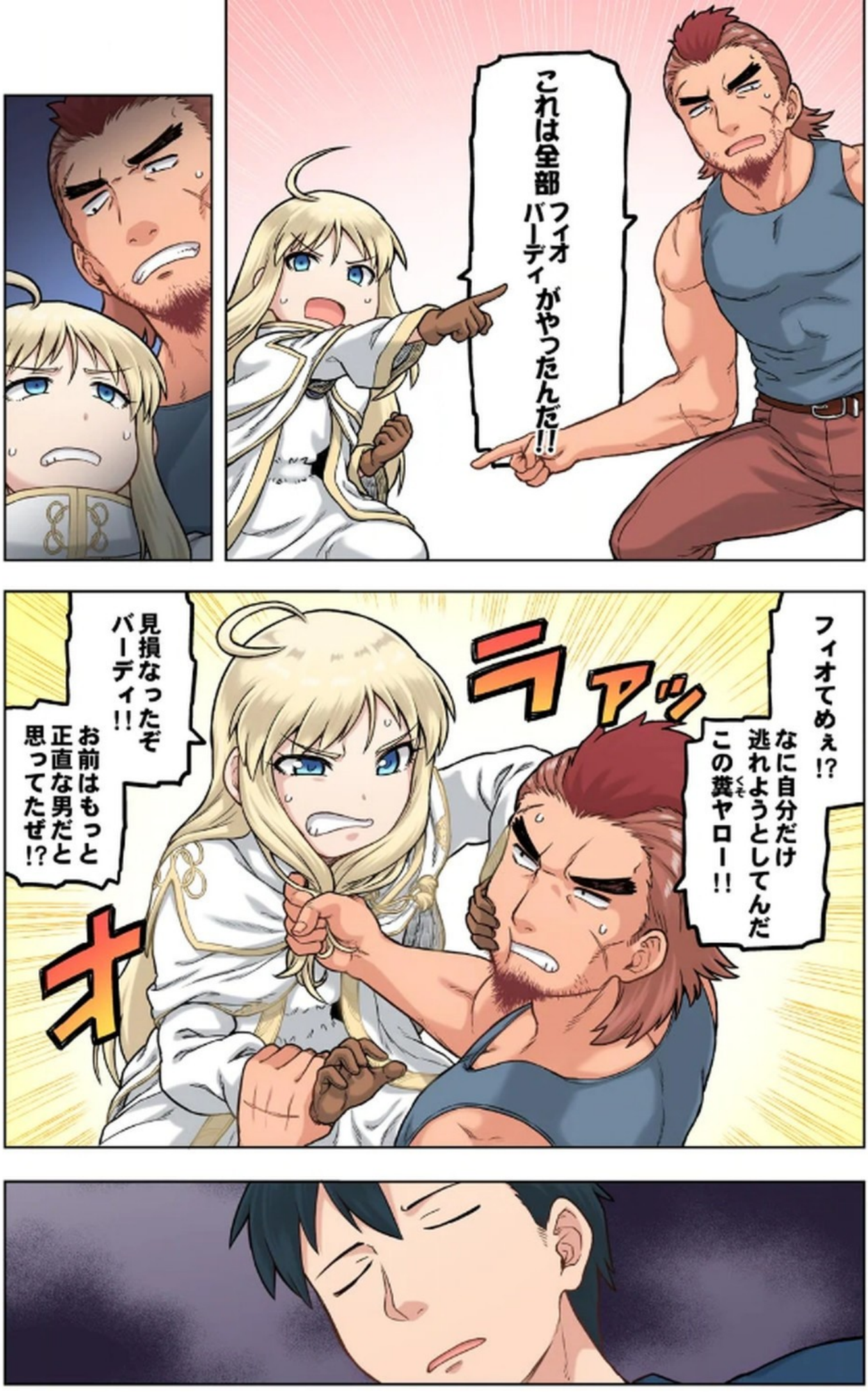

いいねぇ～
なら俺は効果の
ある5分内で
じゃあオレは
5分以上だなっ
こいつら本当に
勇者パーティ
なのか…？
オラオラ口開けろ
ツンデレルートちゃんに
してやるよ!!
ドタ
待て待て俺は弱気な
ルートちゃんが
見たいぞ
こっちを飲め
オラァ!!
ぎゅ
むっ
んんっ!?
ガ
バタ
離せーっ
立派な犯罪だぞ
コレはーっ!?
お前ら
さっきから
何を騒いで…
チャッ




お二人共…
その女性は
どなたです？
いったい
その娘に
何を…？


え…っ
いや…っ
これはそのっ




これは全部フィオバーディがやったんだ!!
フィオてめぇ!?
なに自分だけ逃れようとしてんだこの糞(くそ)ヤロー!!
ラァッ
オ
見損なったぞバーディ!!
お前はもっと正直な男だと思ってたぜ!?


おおお落ちつけアルトっ!!
これは罠だっ無実なんだ!!
俺達仲間じゃねえか!!
対話をすればわかってもらえるハズだぜっ!?
ゴゴゴゴゴ


そこのお嬢さんこの2人に何かされたかい?

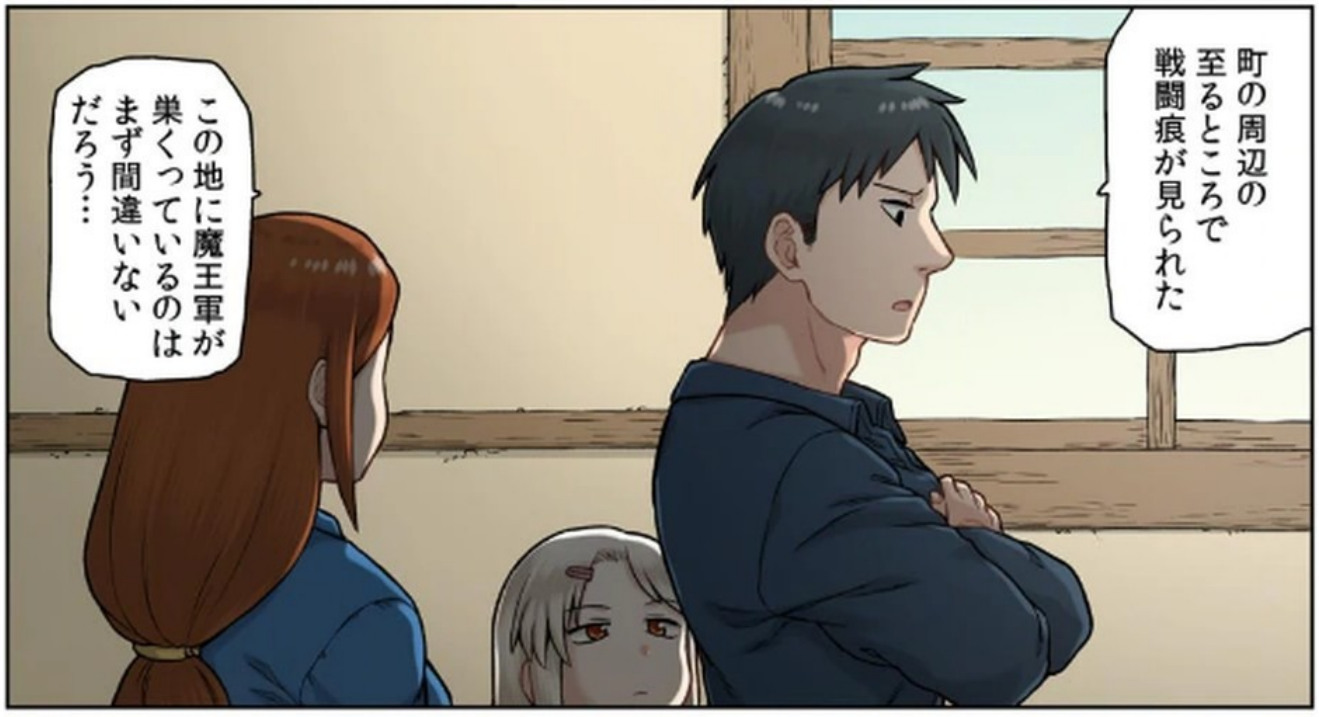

いきなり拉致されて乱暴されそうになりました…
くすん
ちょっと待てええっ!!?

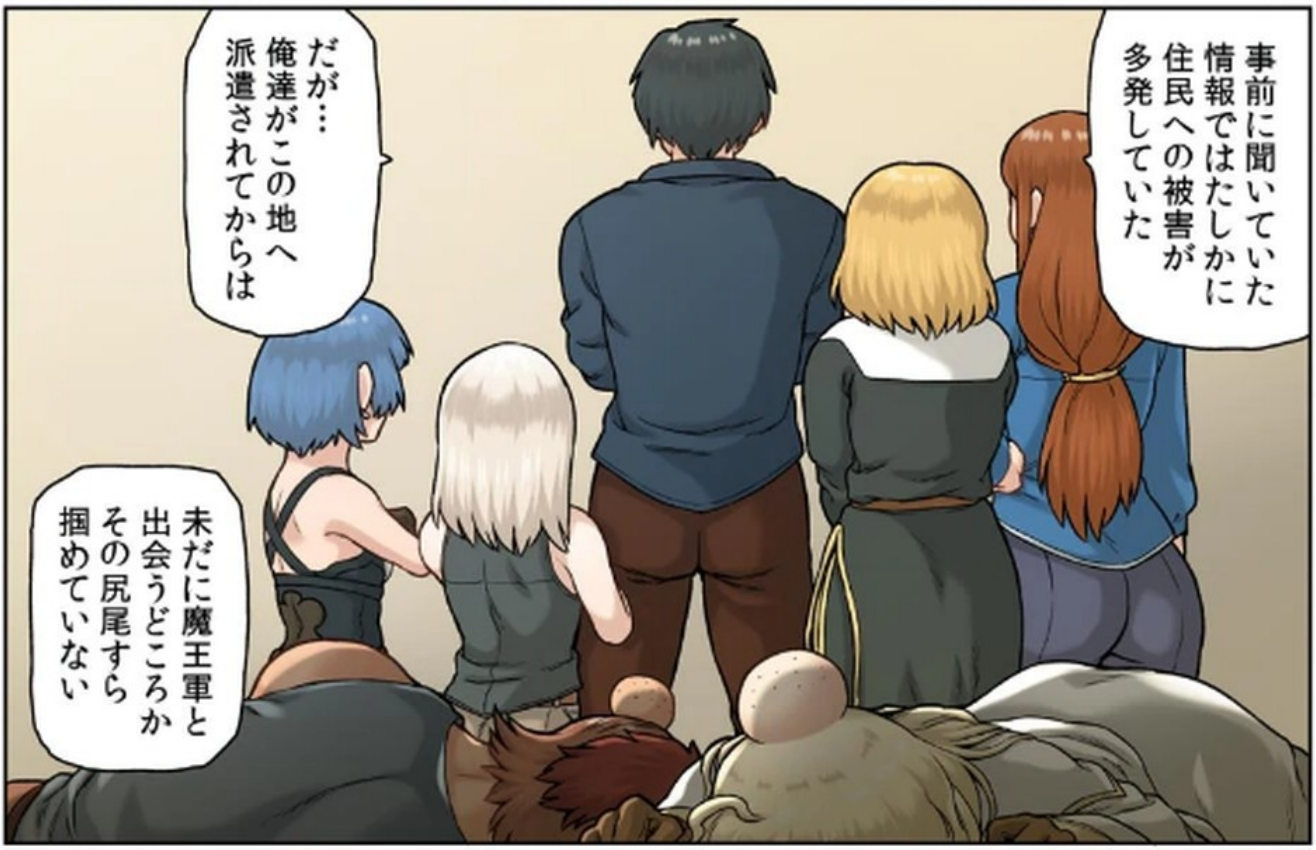

今ふざけるのはやめろルート!?
無理矢理口に変なモノ突っ込まれました…
それは事実だけども!!
あんなにイヤだって言ったのに…
効果切れてんだろ!!
たゃり
おい今笑ったぞコイツ!?
やめろやめろそれ前に魔将軍を一刀で切り捨てた技の構えだろ!?
黙れ…そして散れ
ひぃぁぁぁ
ギュァァァ
ドズッ
ギュィィィ




それで索敵の結果だが…
どうにも妙でな…


ふむ…


町の周辺の至るところで戦闘痕が見られた
この地に魔王軍が巣くっているのはまず間違いないだろう…


事前に聞いていた
情報ではたしかに
住民への被害が
多発していた
だが…
俺達がこの地へ
派遣されてからは
未だに魔王軍と
出会うどころか
その尻尾すら
掴めていない

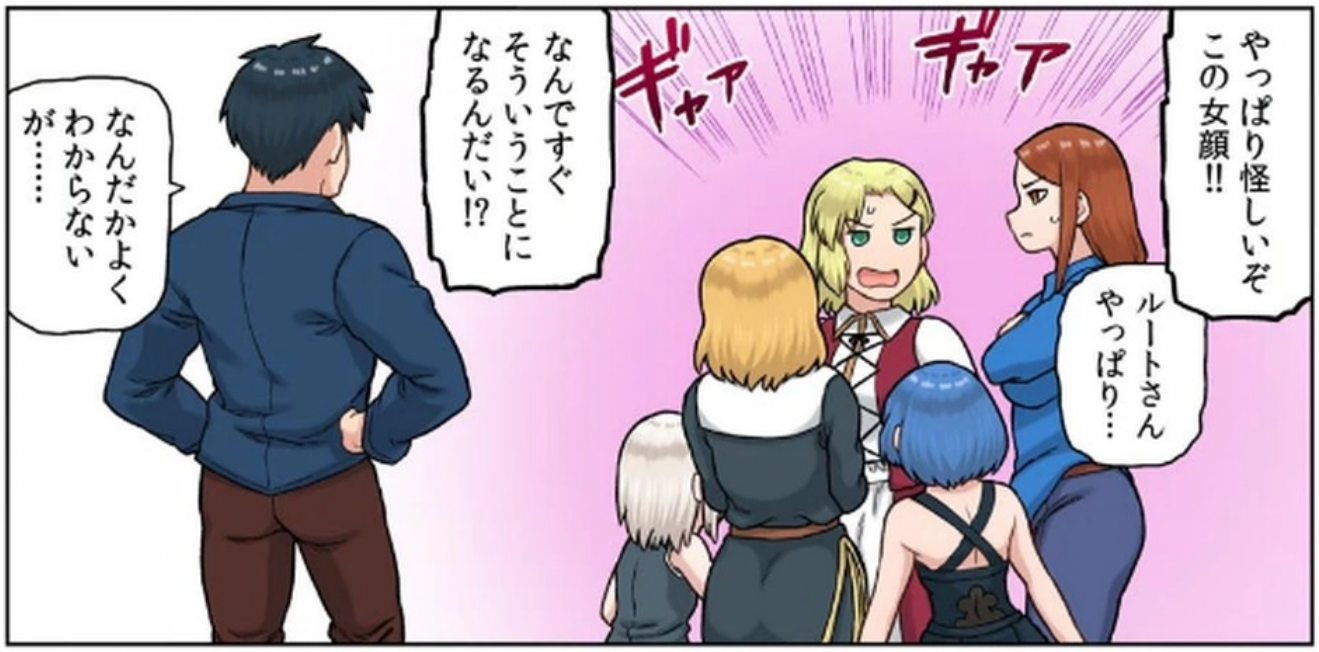

僕らが来るのを
察知して撤退したん
じゃないかな?

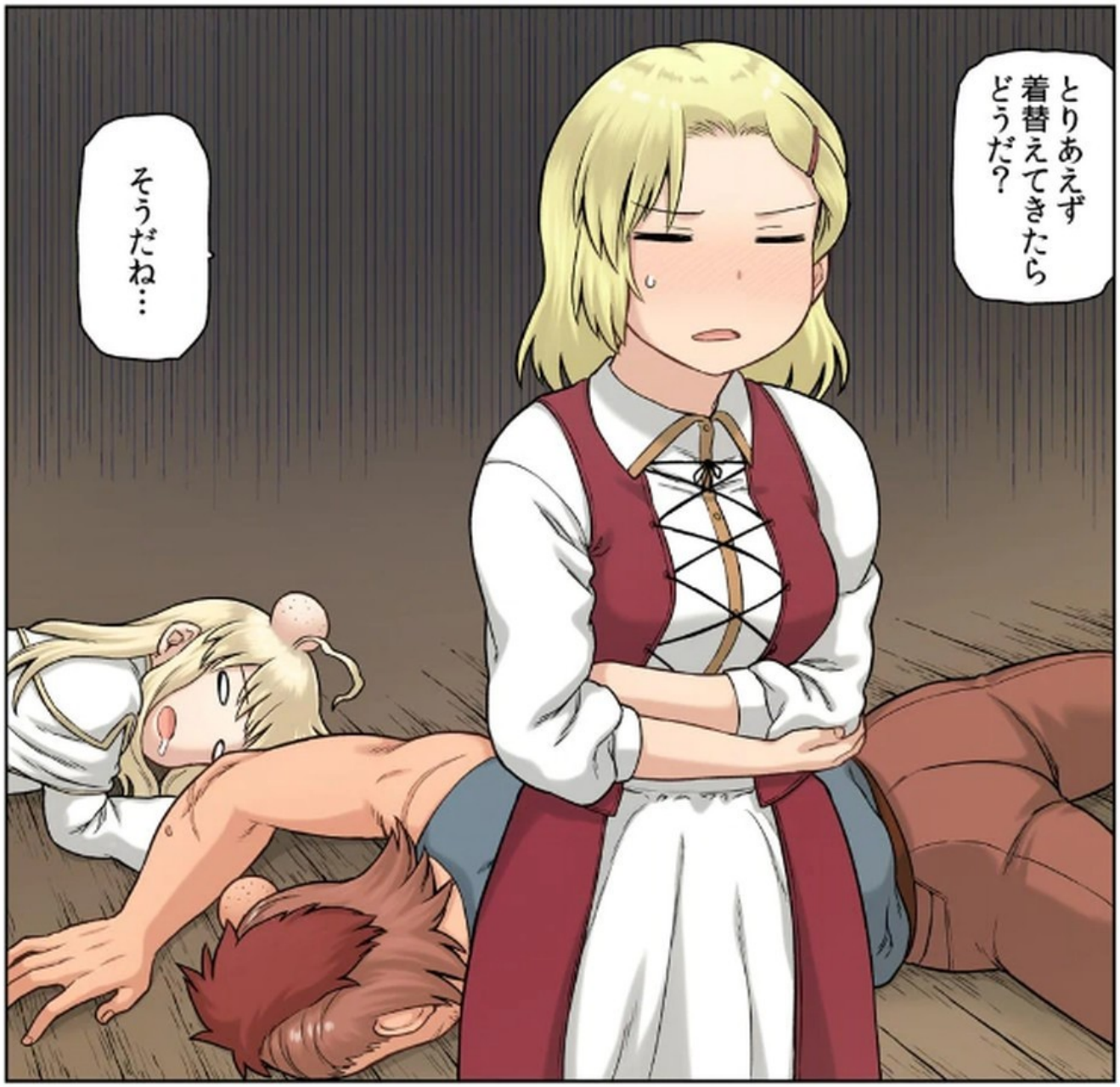

そうとしか
思えないが…
どうもな…


何か気になる点があるのかい？
いや…特にはない
ないはずなんだが…
どうにも嫌な予感がするんだ…
もうすぐ何か良くないことが起こるような…
…いやすまん忘れてくれ
ふむ

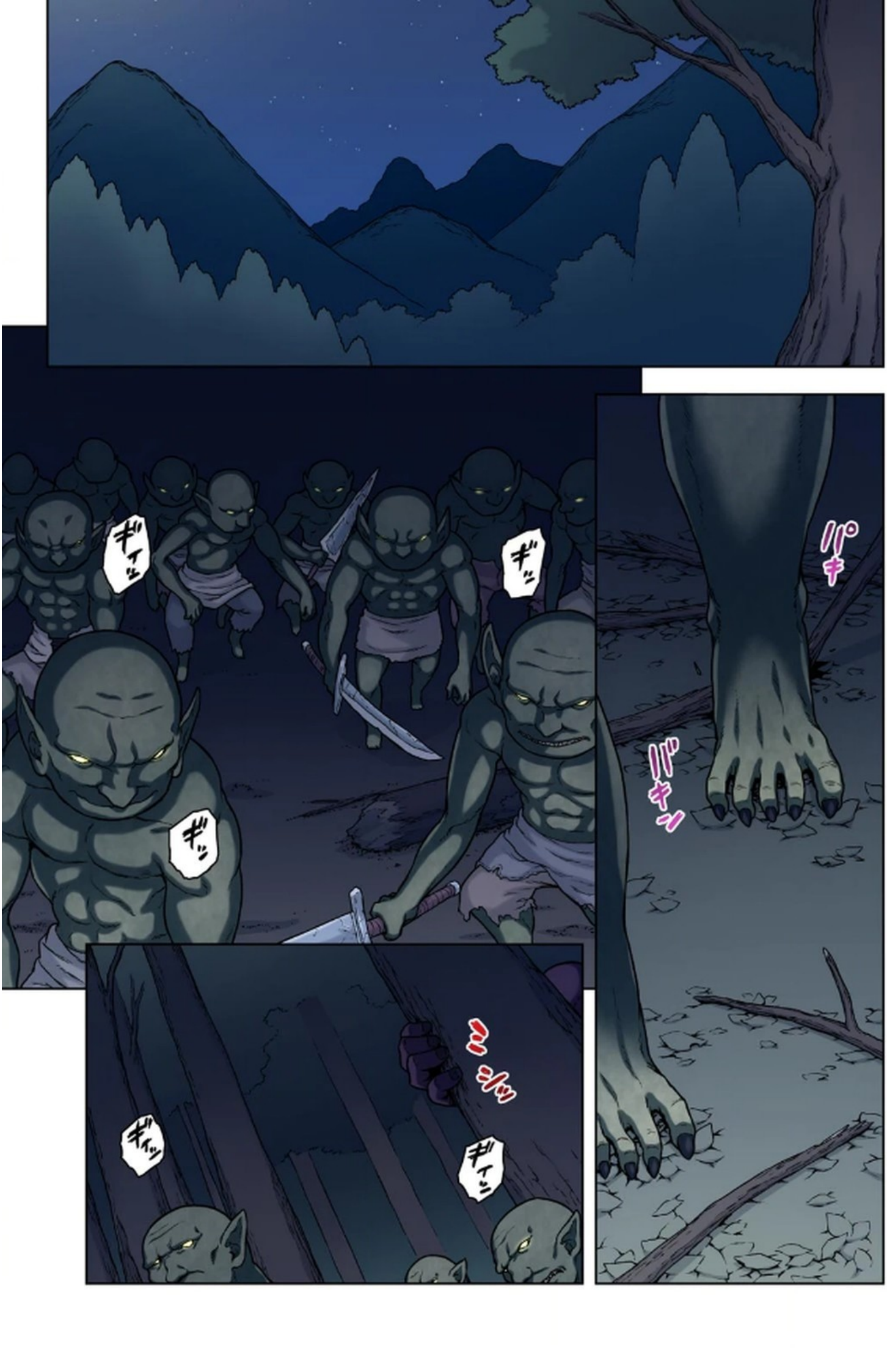

いいよ
僕も星読みで
調べてみよう
こういう時の
アルトの勘は
よく当たる
からね
そうか…
すまないな


いつも
ありがとう
ルート
頼りにしている
ふふっ
なんだい
急に
仲間なんだ
当然じゃないか


やっぱり怪しいぞ
この女顔!!
ルートさん
やっぱり…
ギャア
ギャア
なんですぐ
そういうことに
なるんだい!?
なんだかよく
わからない
が……


とりあえず
着替えてきたら
どうだ？
そうだね…




ギィッ
ギッ
ギッ
パキ
バキン
ミシッ
ギィッ
ギィッ

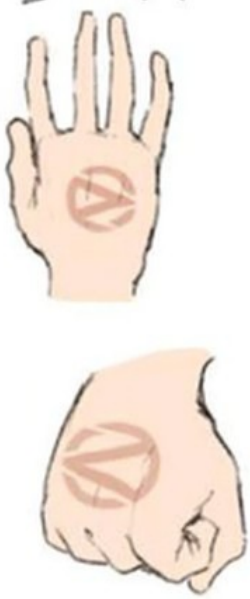

ズ

アルトデザイン案
Ver.1.5



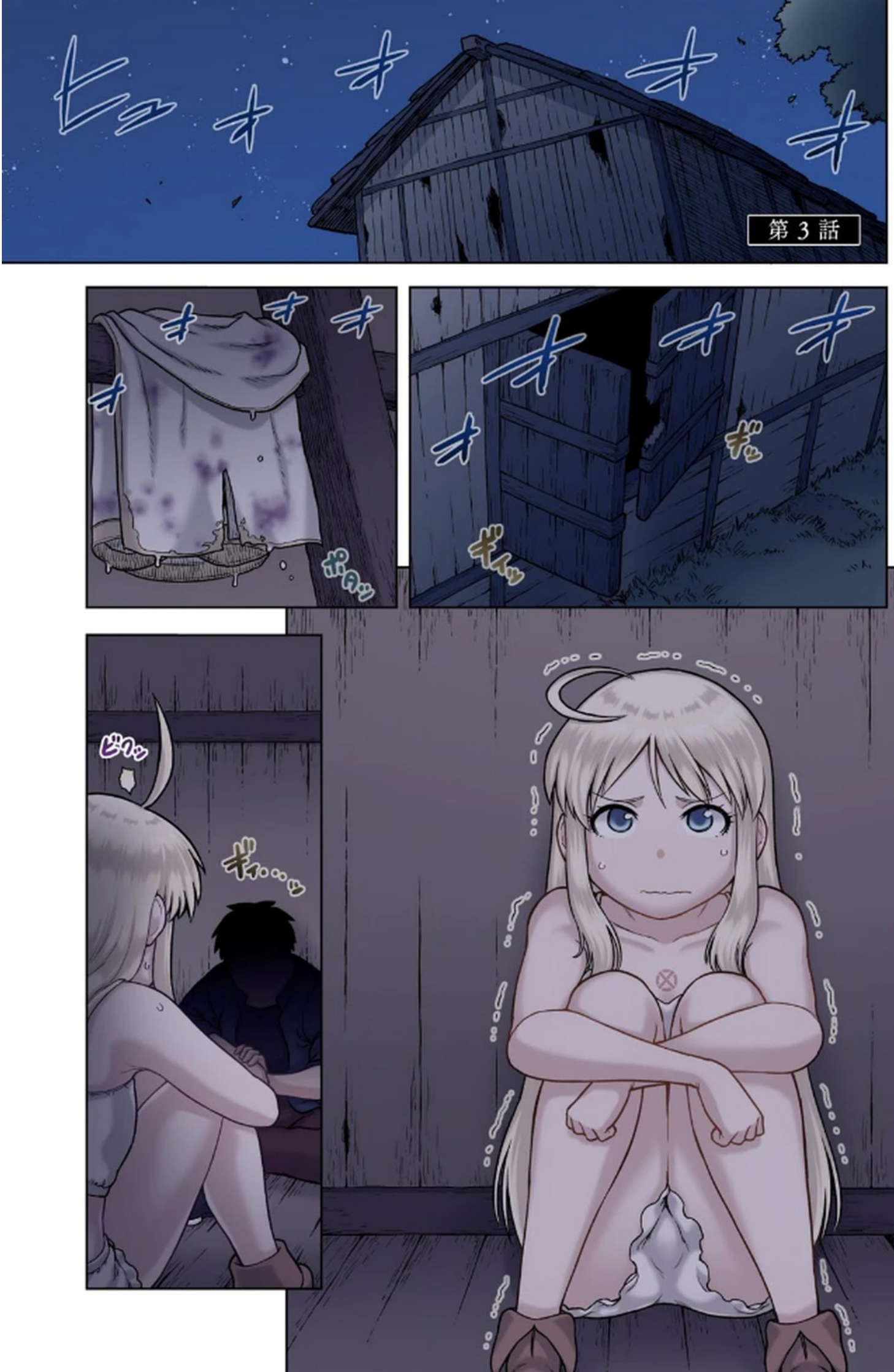


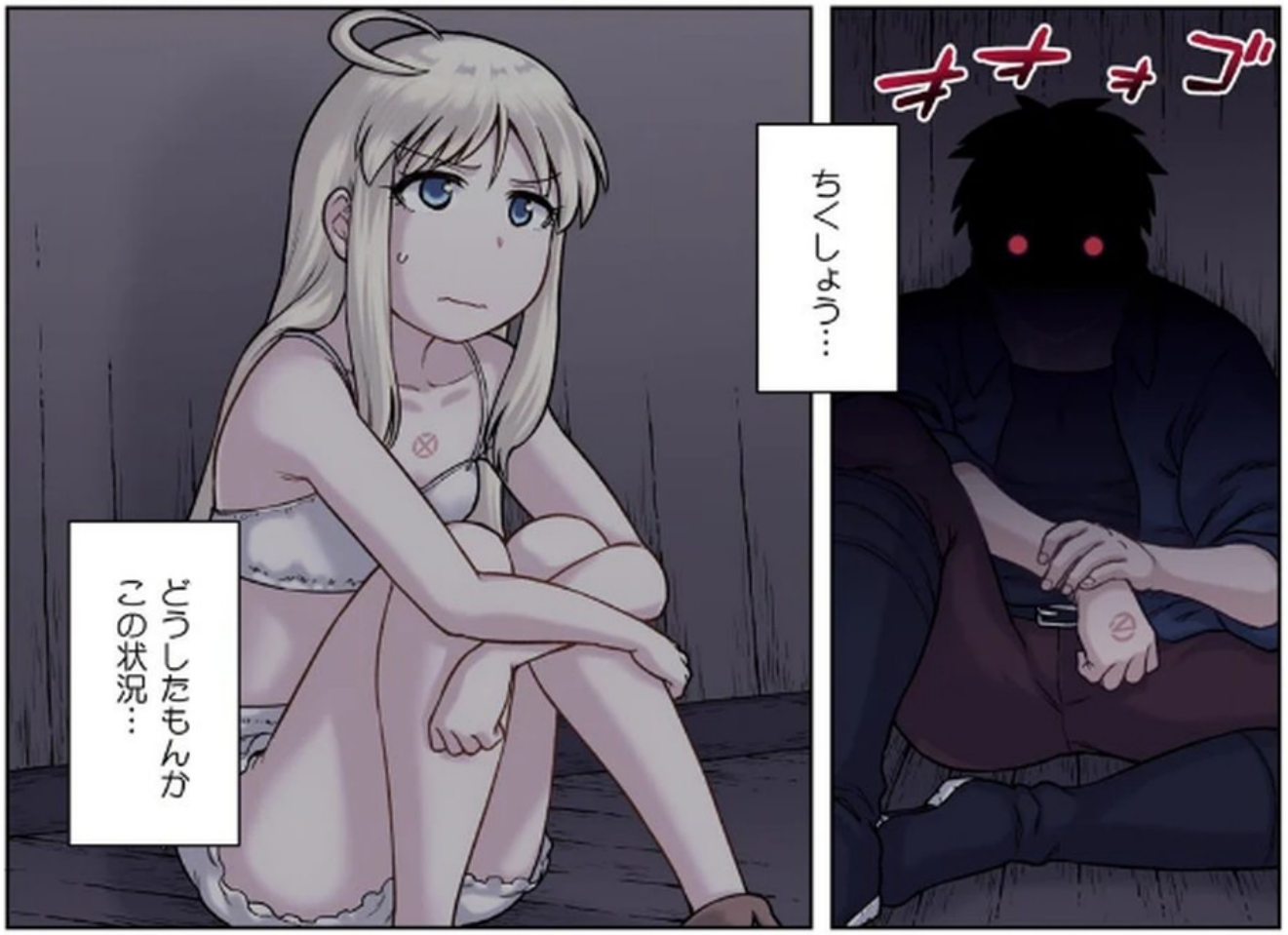
聖痕 右手甲






TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.


第３話
ポタッ
ギッ
ギィッ
ビクッ
ギィ…ッ


ナナォゴ
ちくしょう…
どうしたもんか
この状況…


魔王軍の痕跡が
掴めぬままだった
オレ達に…
王都から
帰還命令が
下された


王は魔族が撤退したと判断した
アルトは嫌な予感がすると言っていたが…
久しぶりに王都へ帰れるとオレやバーディは大喜びだった

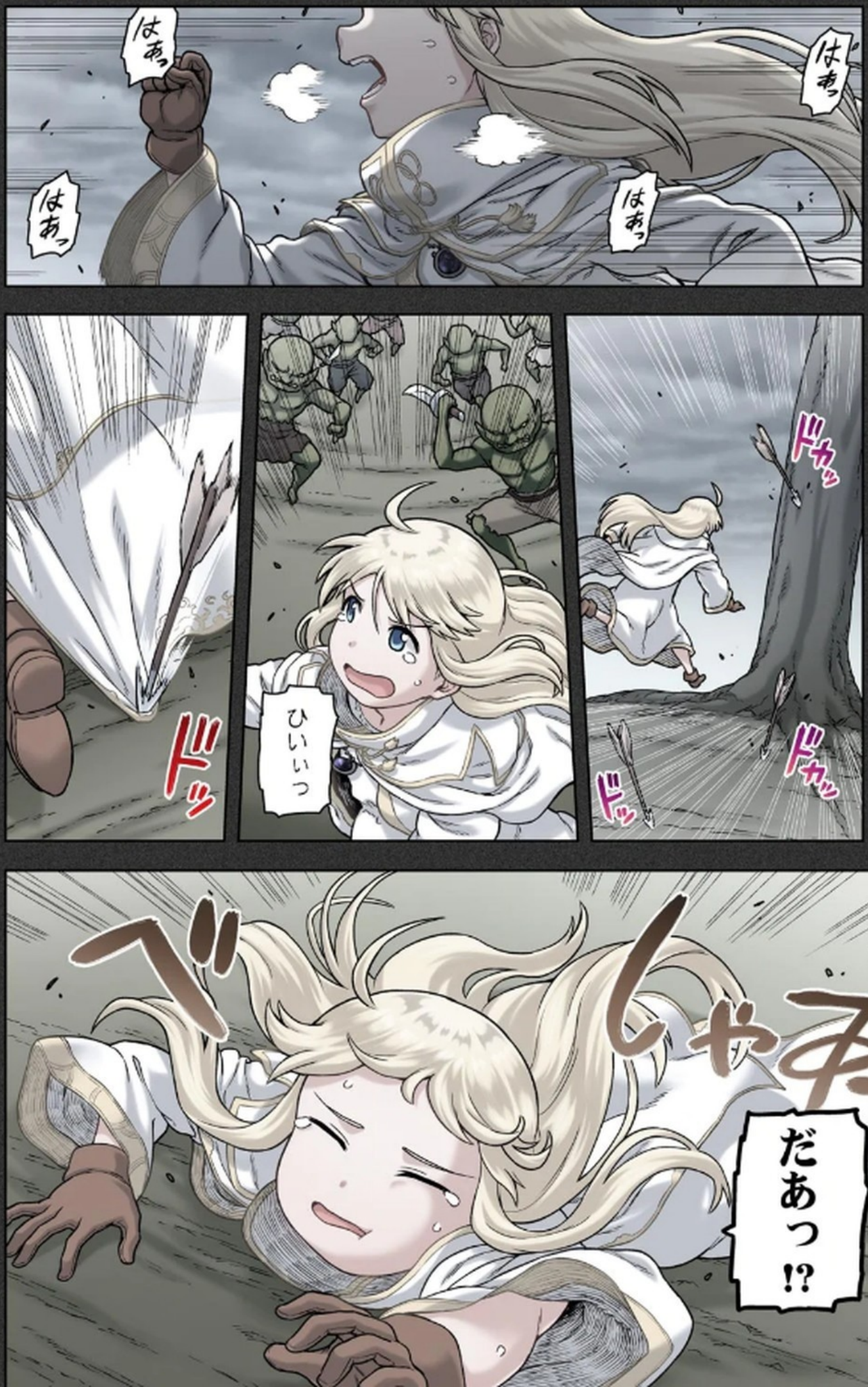

だが…
魔族はオレ達が街を離れるこの時を狙っていたのだ
火の手が上がる街に気付き慌てて引き返そうとしたその時――


ヒュ
次に魔族が
奇襲を仕掛けた
のは…
オレ達
勇者パーティ
御一行だった


不意を突かれたオレ達にいつもの陣形をとる暇はなく…
それぞれが個別に魔族の対処をするしかなかった…
ギィア
ア
ア
!?
リン下がれっ!?


ゴ!!!ァッ
アルトッ!?


…っと!?
うぜぇんだ
糞共がぁ!!


はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
ドカッ
ドカッ
ドッ
ひいいっ
ドッ
べしゃあっ
だあっ!?


くそ…っ
誰かフィオのカバーを!!
痛ってて…
ズ…
ズ…


ガ
かは…っ
み
しっ
フィオッ!?


ブン
ブン
ブン
やべ…っ!?
これは…
死…っ!?
ガガガド
ガガ
カル


…っ
う…

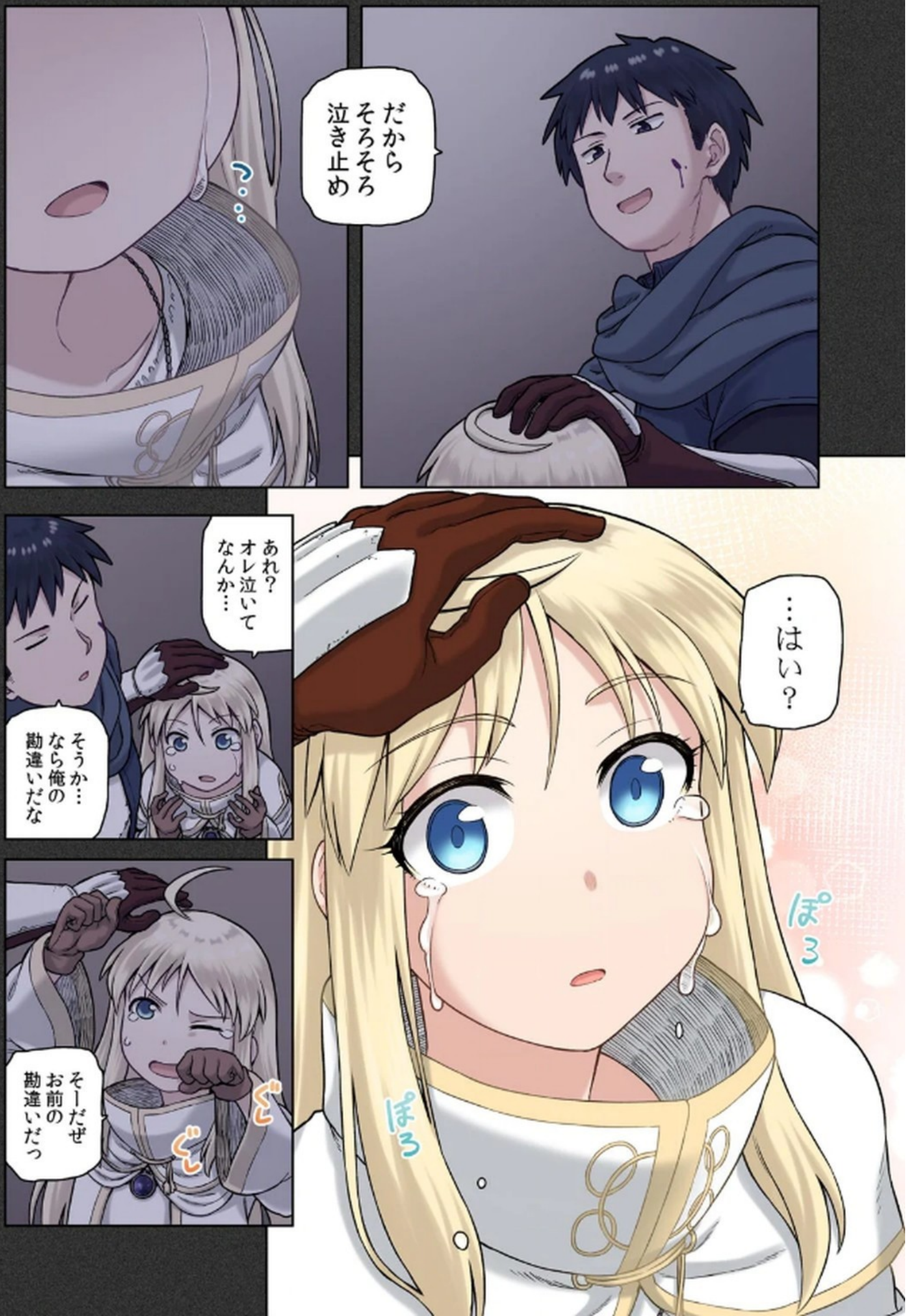

ドドドドド
敵さん全部そっち行ってるぞ!!
でも…っ
ナイスだアルト!!
一時散開だ!!
ルート!そっちは任せた!!
ガアア


潜伏して敵を撒く
王都で合流だ!!
了解!!


アルトどうか無事で!!
ドーンッ
ズドーンッ
ドーンッ



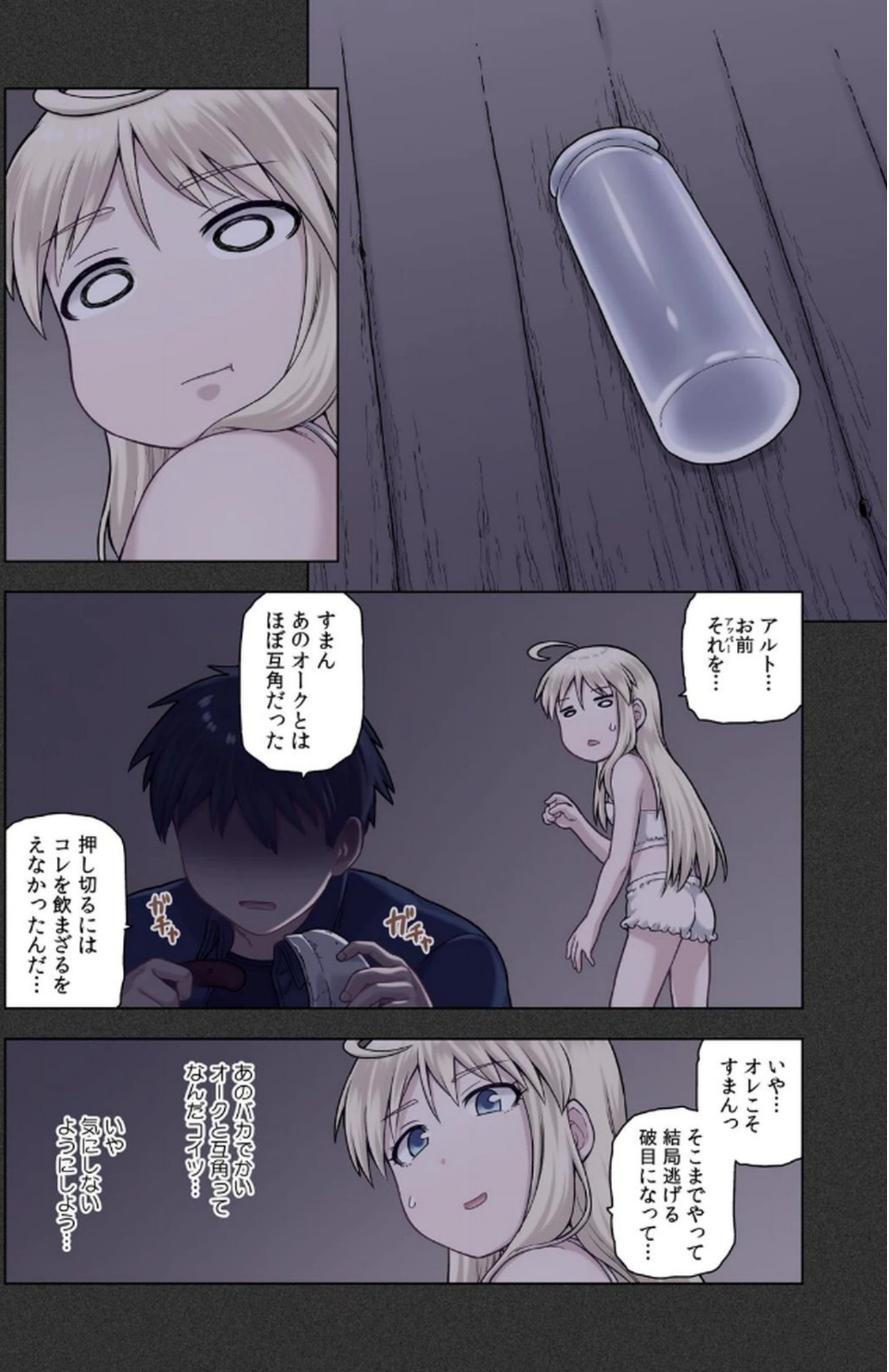

バタン
なんとか
追っ手を撒けた
とりあえず
お前はここで
体を治せ
おーすまねぇ
助かったわ…
ありがとな
アルト…
まったく今日は
死ぬかと思ったぜ
ぽん
ああ
もう大丈夫だ
敵はいない…


だから
そろそろ
泣き止め
？？？
…はい？
ぽろ
ぽろ
あれ？
オレ泣いて
なんか…
そうか…
なら俺の
勘違いだな
そーだぜ
お前の
勘違いだっ
ぐし
ぐし


…くそっ
…ぐっ
ぼろ
ぼろ
ぼろ
ひぐっ
ちょっと…
あっち向いてろ…っ
……わかった
ふぐっ…
づあ…っ
あぁああ…っ


ヒュオオオ
ゴオオオン
ぐすっ
敵を撒くために無茶をしたせいでここがどこなのかわからない…
一晩待って明朝に近くの村を探そう
あーそうだな…
ぴゅ～
こいつ(アルト)と一つ屋根の下で二人きりか…
4人娘にバレたらヤバいな…
ぐいっ


明日に備えて早めに休もう
おう
まあ…あのアルトだ心配なかろう
水魔法で洗うか…
おとこ女でちんちくりんのオレだしな…
ゴドンッ
ゴ…


アルト…
お前(アッパー)
それを…
すまん
あのオークとは
ほぼ互角だった
押し切るには
コレを飲まざるを
えなかったんだ…
ガチャ
ガチャ
いや…
オレこそ
すまんっ
そこまでやって
結局逃げる
破目になって…
あのバカでかい
オークと互角って
なんだコイツ…
いや
気にしない
ようにしよう…

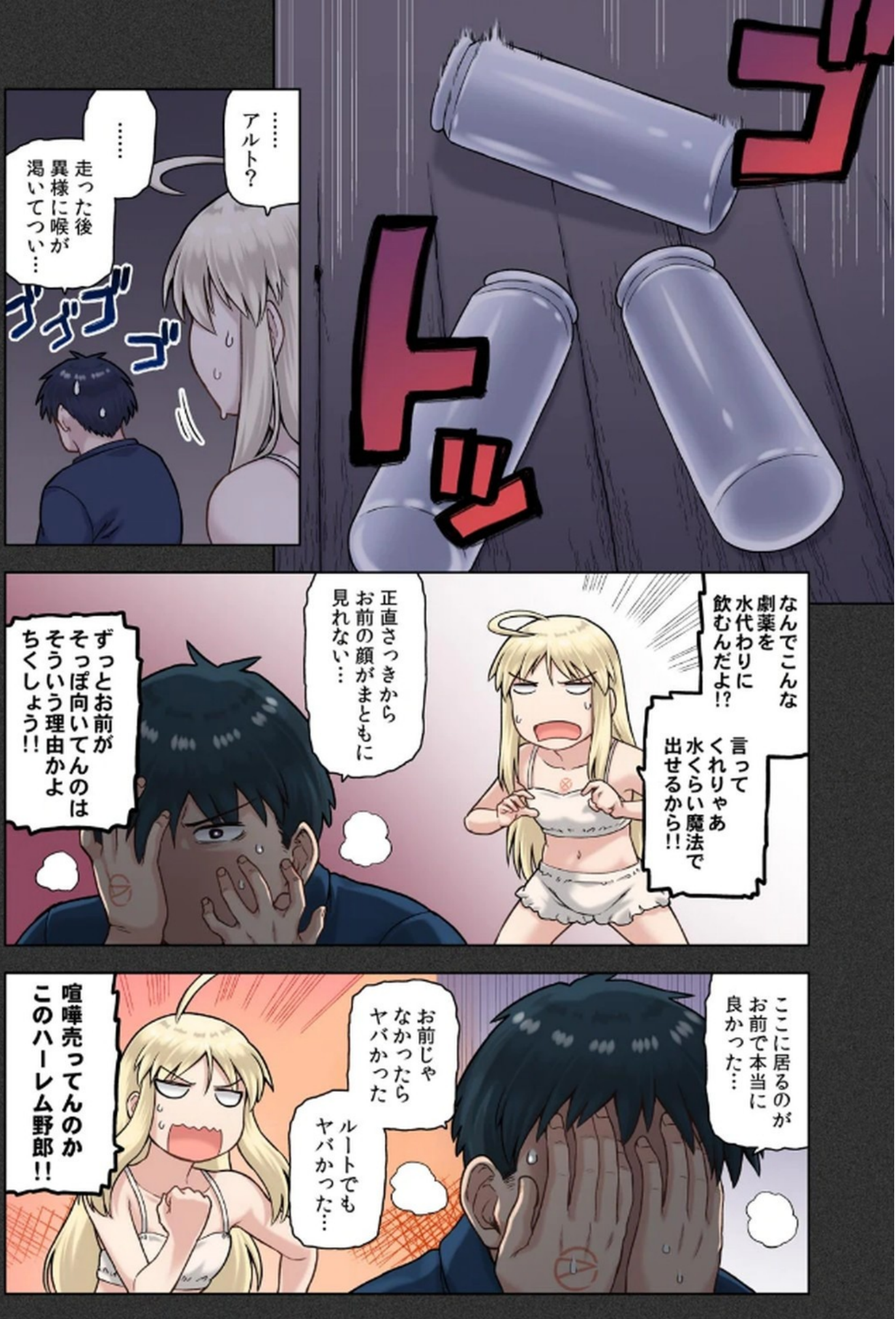


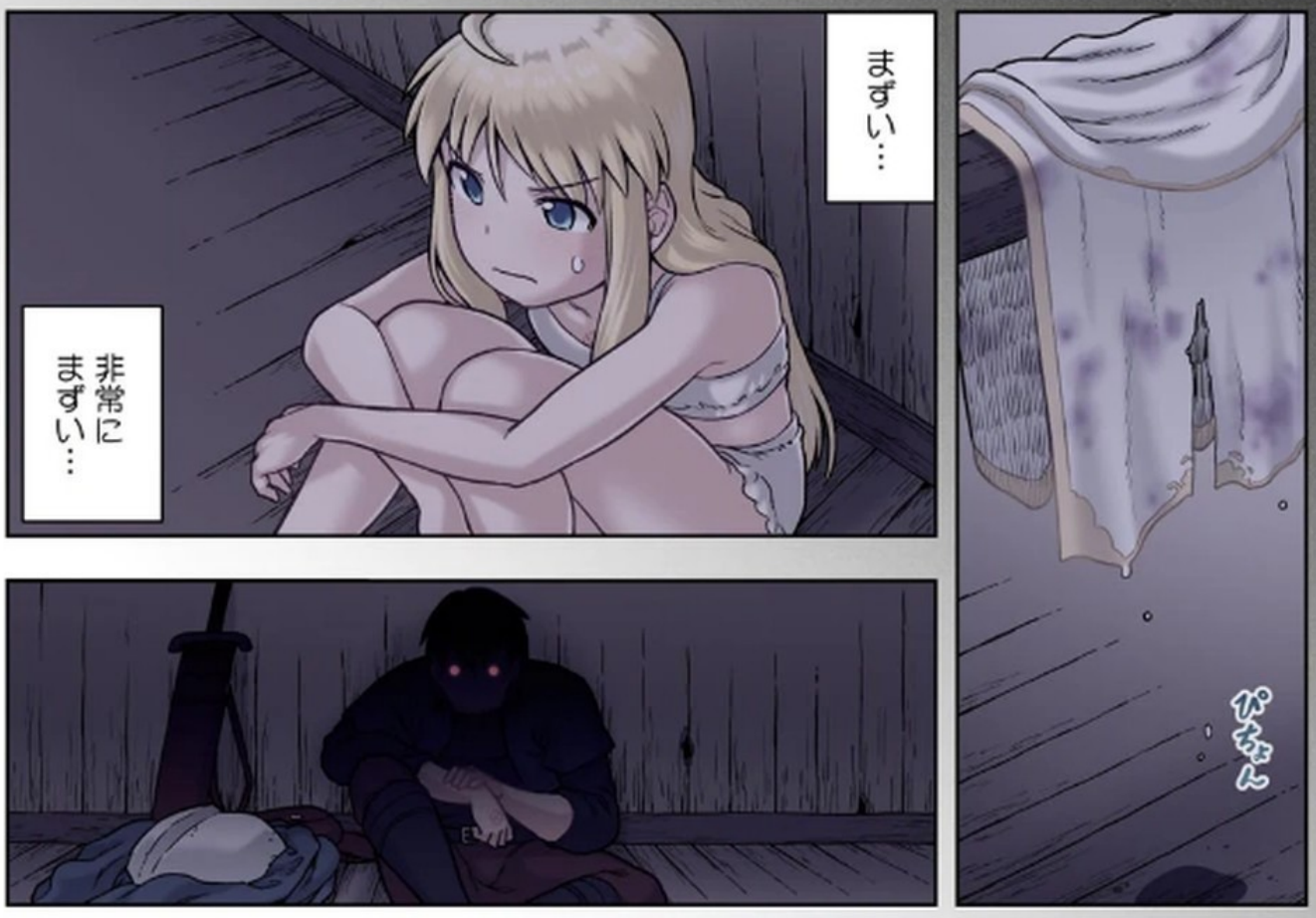


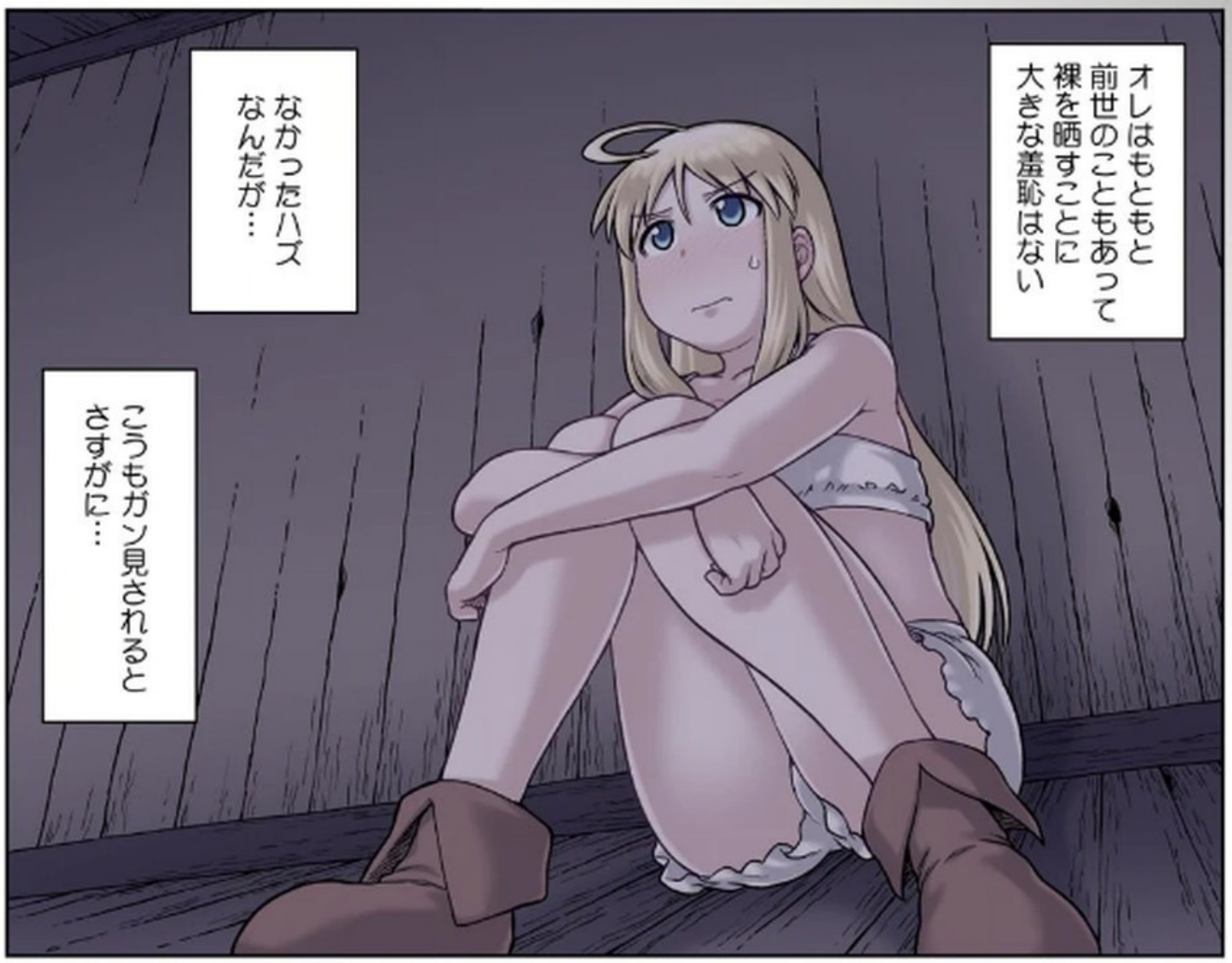

おいおい…
それは一日
一瓶までと
聞いたぞ？
奴らから
逃げる際に
途中で息が
切れかけてな
俺の未熟ゆえに
すまない…


いやっそれは
オレを抱えて
走りまわって
たからだろ？
こっちこそ
すまんっ

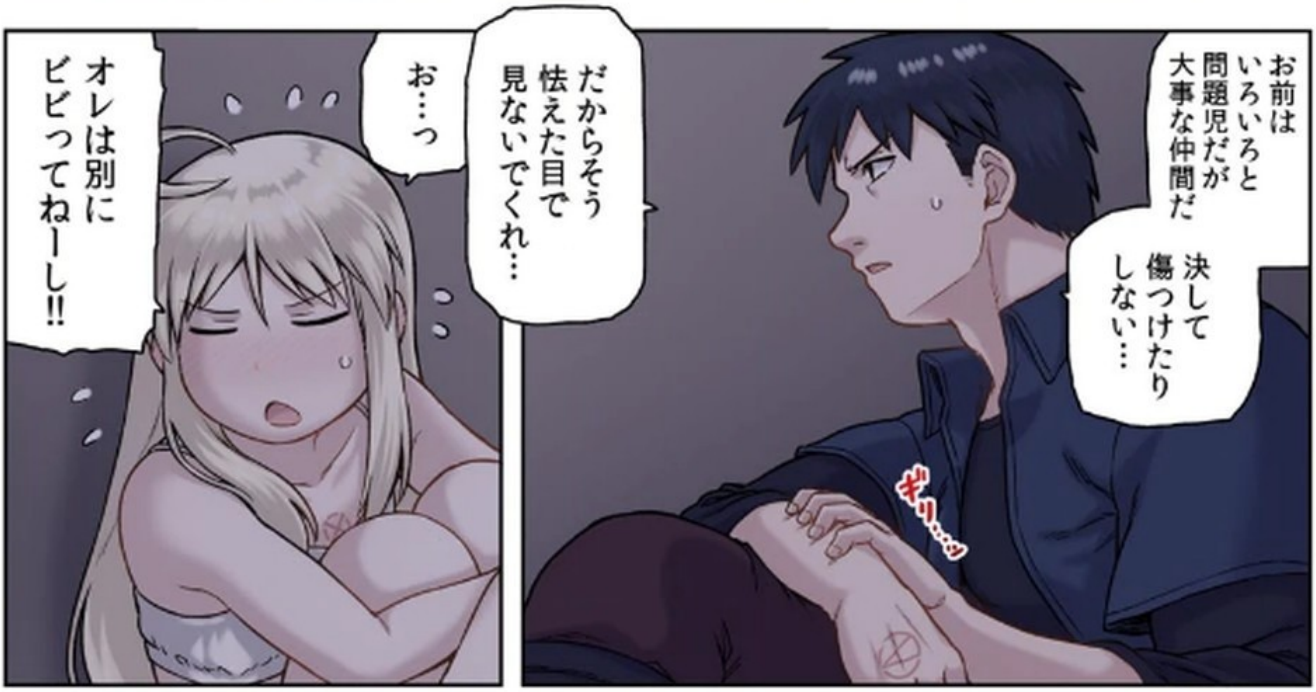

確かアッパーは
二瓶飲んだら
性欲が暴走するん
だよな？
そういえば
さっきから
目が合わねな…


ゴ
トッ
……
アルト？
……
走った後
異様に喉が
渇いてつい…
ゴゴゴゴ
なんでこんな
劇薬を
水代わりに
飲むんだよ!?
言って
くれりゃあ
水くらい魔法で
出せるから!!
正直さっきから
お前の顔がまともに
見れない…
ずっとお前が
そっぽ向いてんのは
そういう理由かよ
ちくしょう!!
ここに居るのが
お前で本当に
良かった…
お前じゃ
なかったら
ヤバかった
ルートでも
ヤバかった…
喧嘩売ってんのか
このハーレム野郎!!

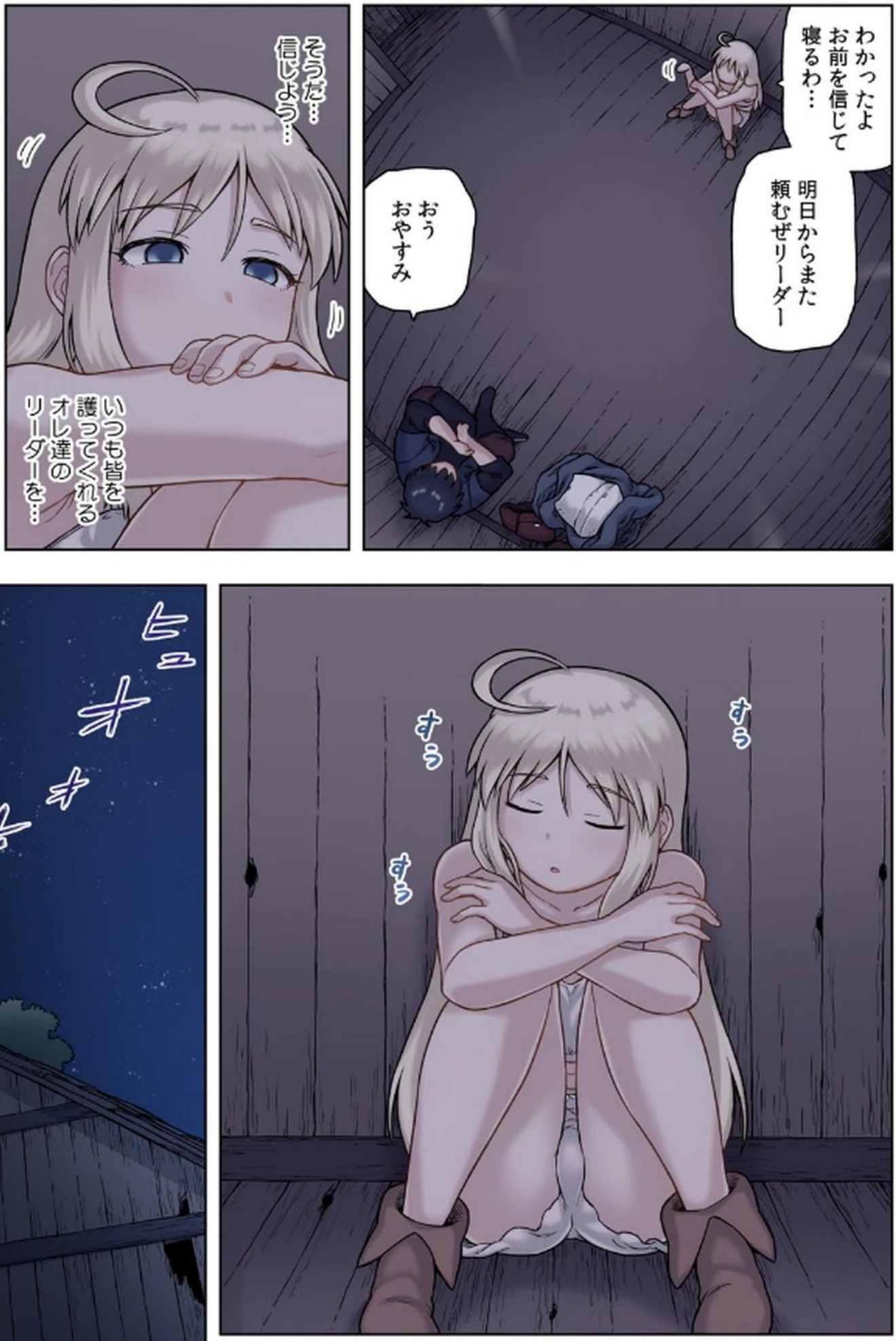

まずい…
非常に
まずい…
ぴちょん

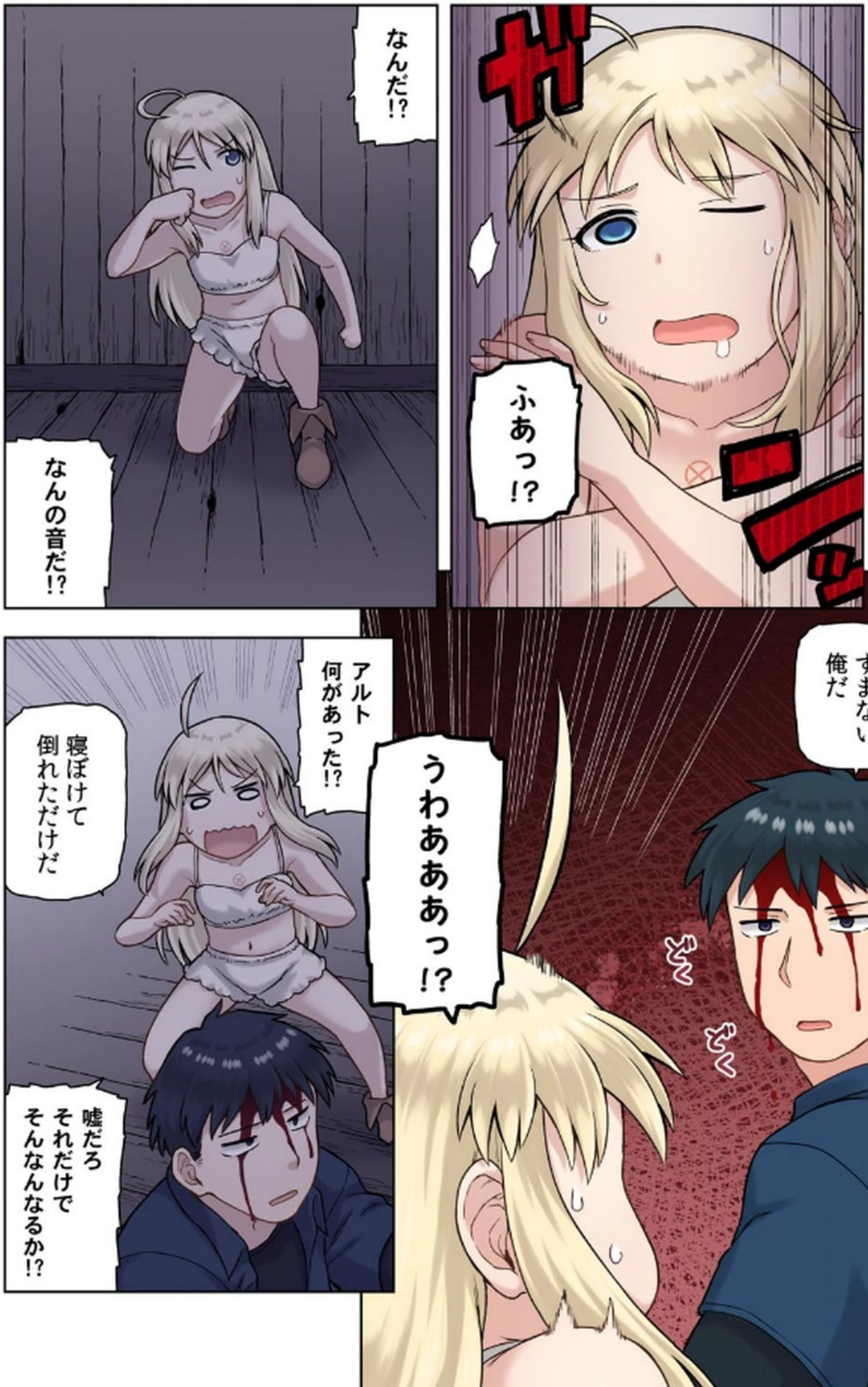

オレはもともと
前世のこともあって
裸を晒すことに
大きな羞恥はない
なかったハズ
なんだが…
こうもガン見されると
さすがに…

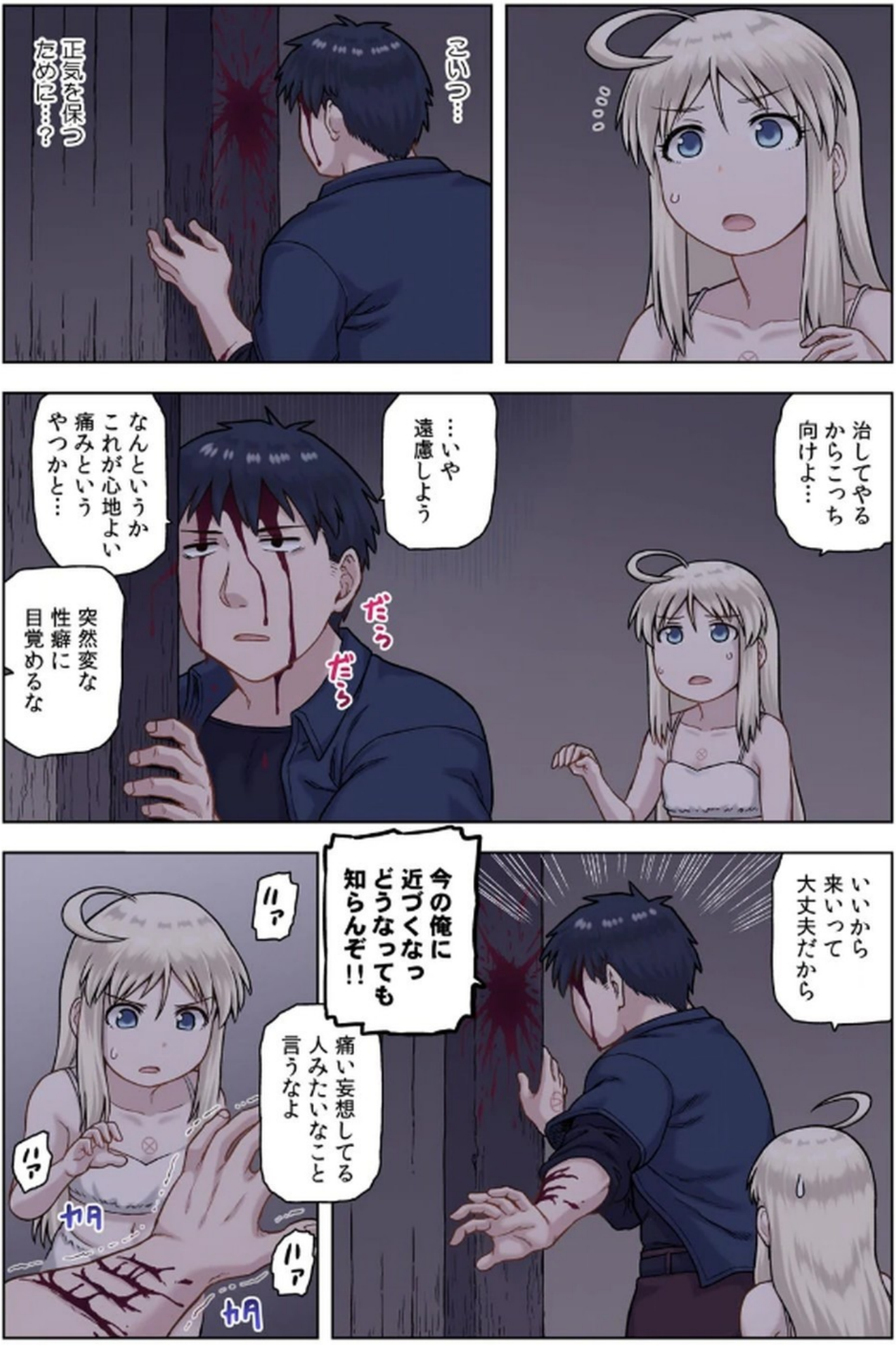

……
そう
警戒するな
何もしない
ビクッ


お前は
いろいろと
問題児だが
大事な仲間だ
決して
傷つけたり
しない…
ギリ…
だから
そう
怯えた目で
見ないでくれ…
お…っ
オレは別に
ビビってねーし!!


これは
ひょっとして
奴の理性が
保つんじゃないか?
アルトは
約束を守る
男だし…
信用してみても
いいかもしれない


わかったよ
お前を信じて
寝るわ…
明日からまた
頼むぜリーダー
おう
おやすみ
そうだ…
信じよう…
いつも皆を
護ってくれる
オレ達の
リーダーを…
すう
すう
すう
ヒュオオオオ


なんだ!?
なんの音だ!?
ガ
ふあっ!?
すまない
俺だ
うわあああっ!?
ずく
ずく
アルト
何があった!?
寝ぼけて
倒れただけだ
嘘だろ
それだけで
そんなんなるか!?

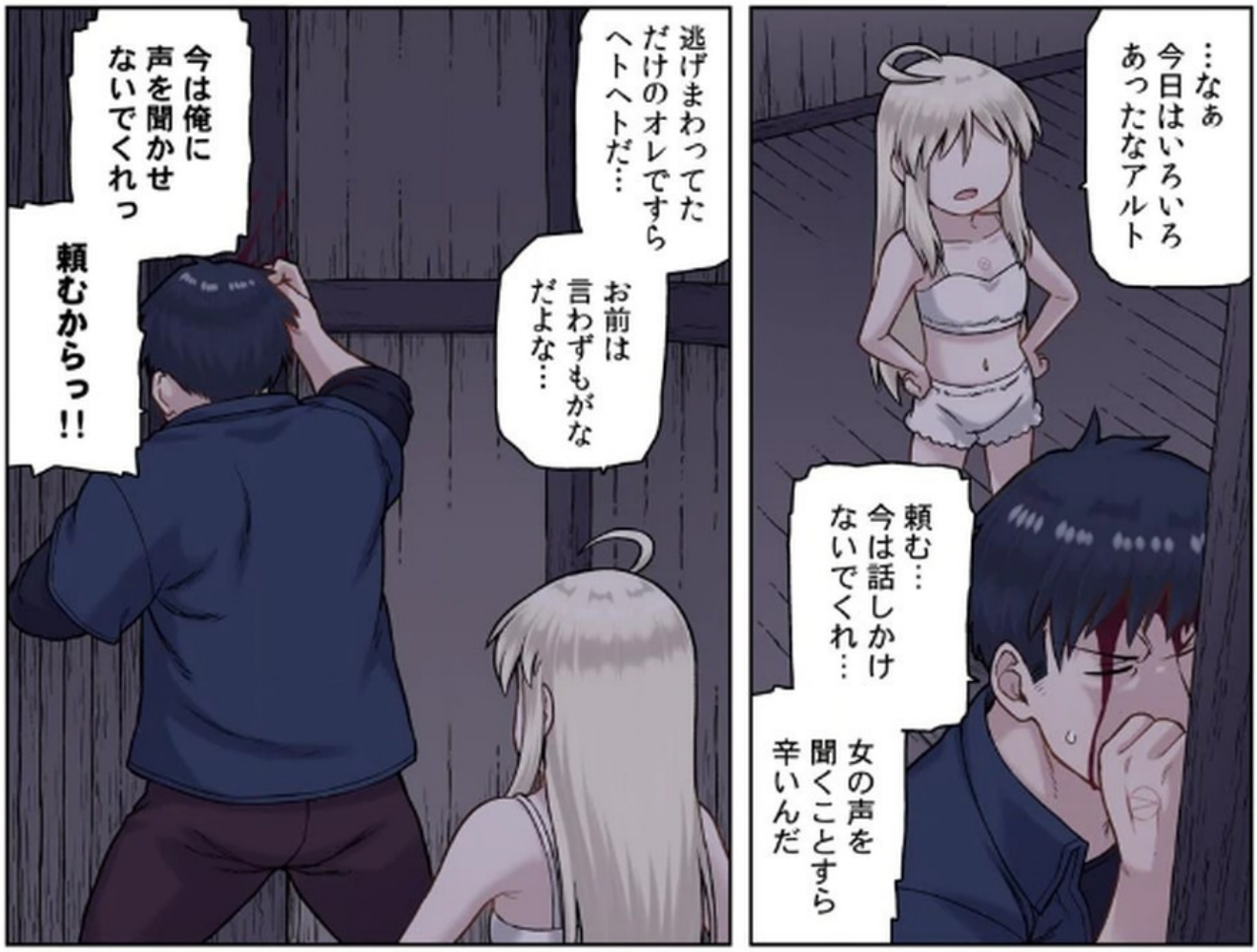

こいつ…
正気を保つために…？
治してやるからこっち向けよ…
…いや遠慮しよう
なんというかこれが心地よい痛みというやつかと…
突然変な性癖に目覚めるな
だら
だら
いいから来いって大丈夫だから
今の俺に近づくなっどうなっても知らんぞ!!
痛い妄想してる人みたいなこと言うなよ
ハァ
ハァ
ハァ
九月
九月


腕も見せろ…
大した自制心だよ
お前は…
来ないでくれ…っ
お前に
近づかれるほうが
ずっと辛い…っ


そうかい…
アルト…

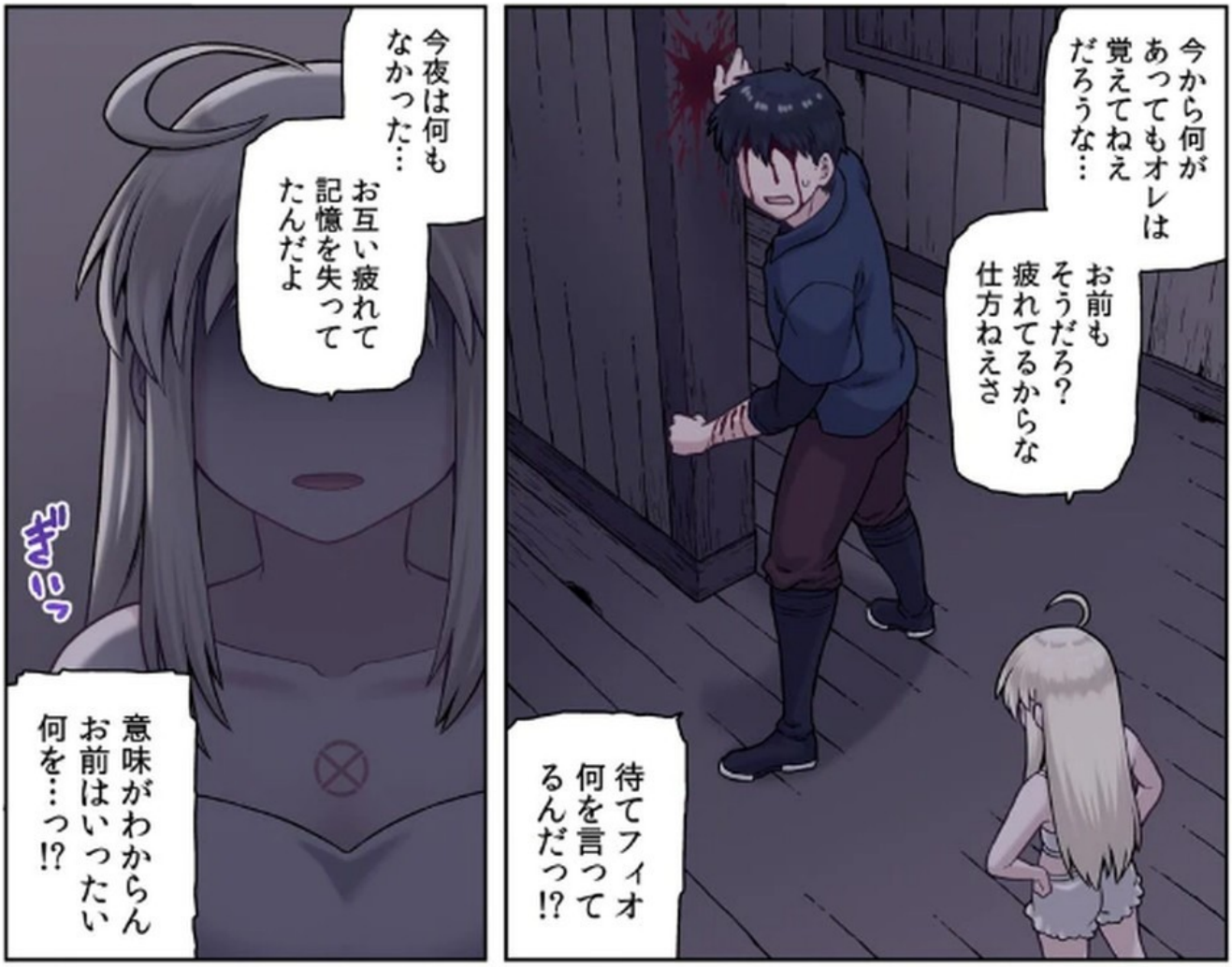

今日のコイツは
まさにヒーローだった
仲間の窮地を救い
危機的状況を
一人でひっくり返した
それなのに
こんなに独りで
もがいて…


全部オレの
せいじゃねーか…っ!!
ギリ…ッ
オオオオオ


…なぁ
今日はいろいろ
あったなアルト
頼む…
今は話しかけ
ないでくれ…
女の声を
聞くことすら
辛いんだ
逃げまわってた
だけのオレですら
ヘトヘトだ…
お前は
言わずもがな
だよな…
今は俺に
声を聞かせ
ないでくれっ
頼むからっ!!

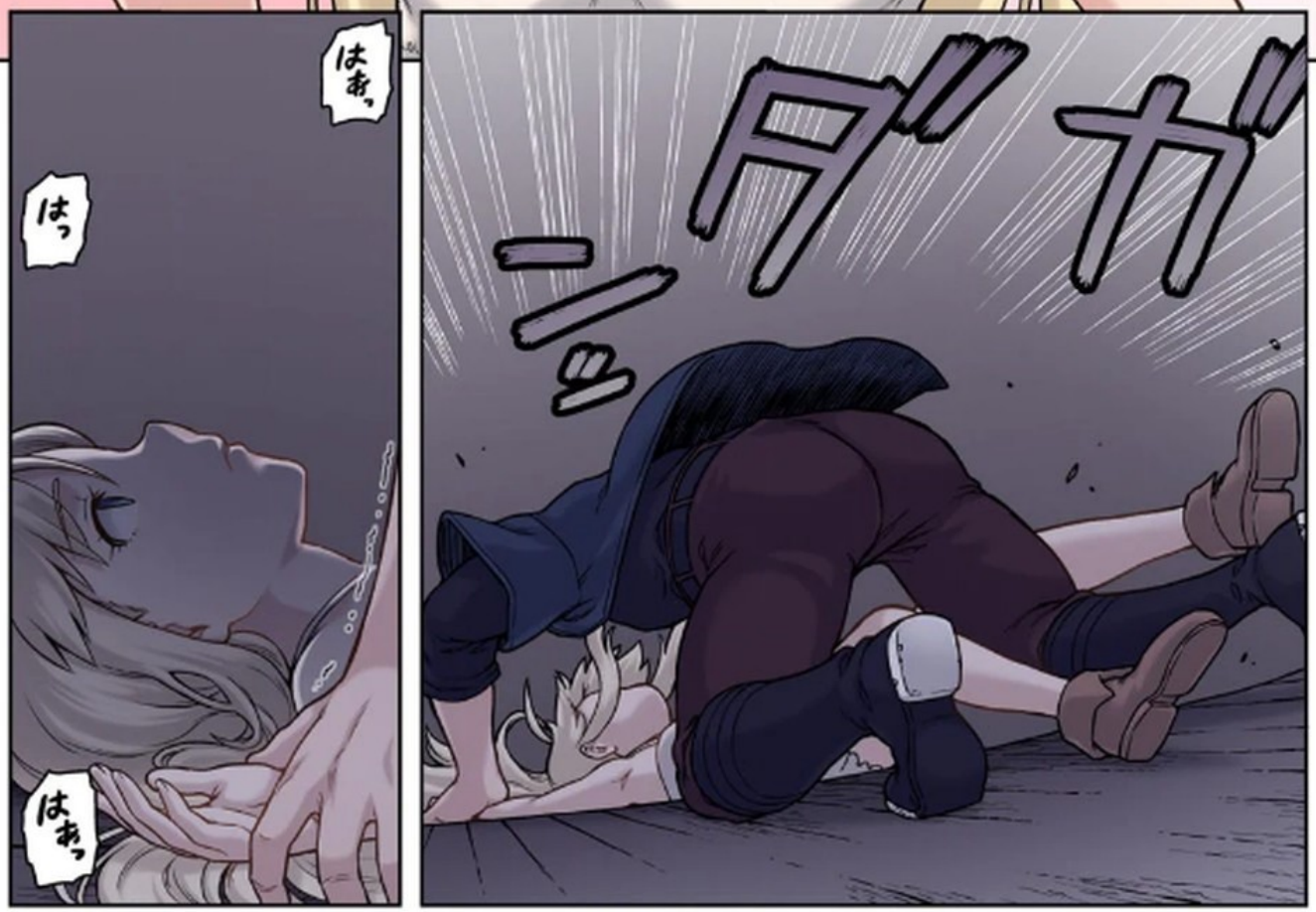

つまりさ…
こんな夜は
何があっても
記憶に残らねえと
思うんだ



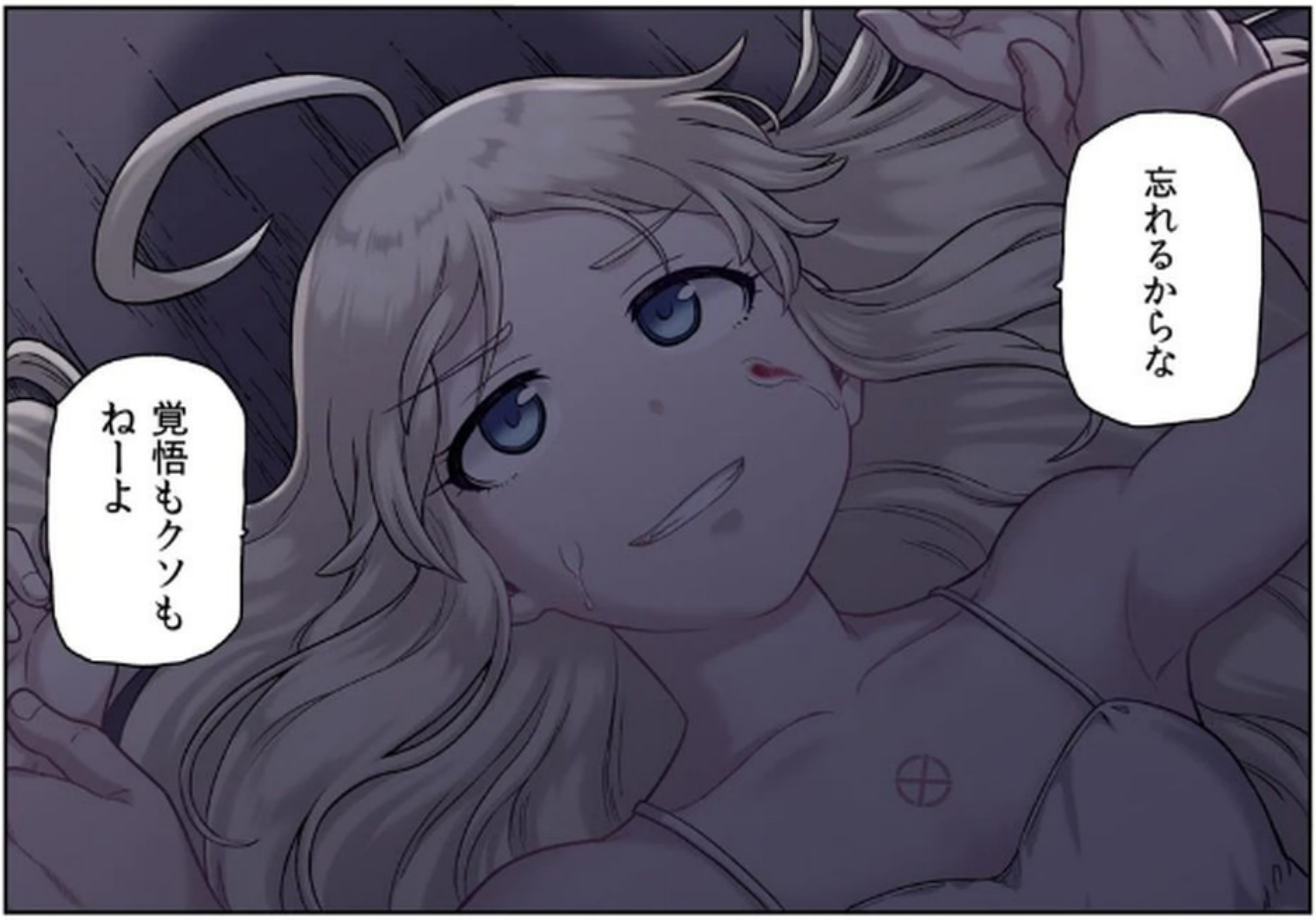

今から何が
あってもオレは
覚えてねえ
だろうな…
お前も
そうだろ?
疲れてるからな
仕方ねえさ
待てフィオ
何を言って
るんだっ!?
今夜は何も
なかった…
お互い疲れて
記憶を失って
たんだよ
ぎゅっ
意味がわからん
お前はいったい
何を…っ!?

…だから
忘れてやるって
言ってんだよ

好きにしろ




悪い…
そんなことを
言われたら
我慢はできん
覚悟は
いいんだな?

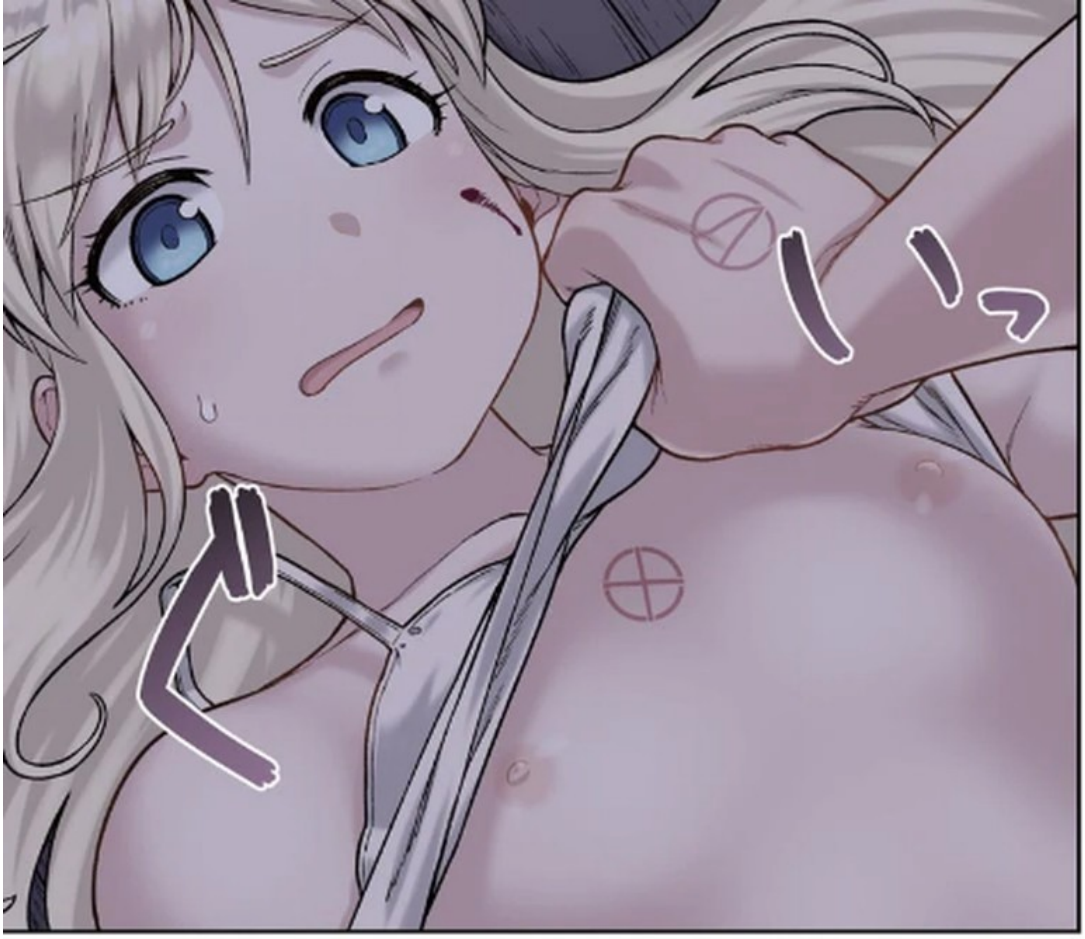

忘れるからな
覚悟もクソも
ねーよ


ビュオオオ

バーディ デザイン案 ver.1.5



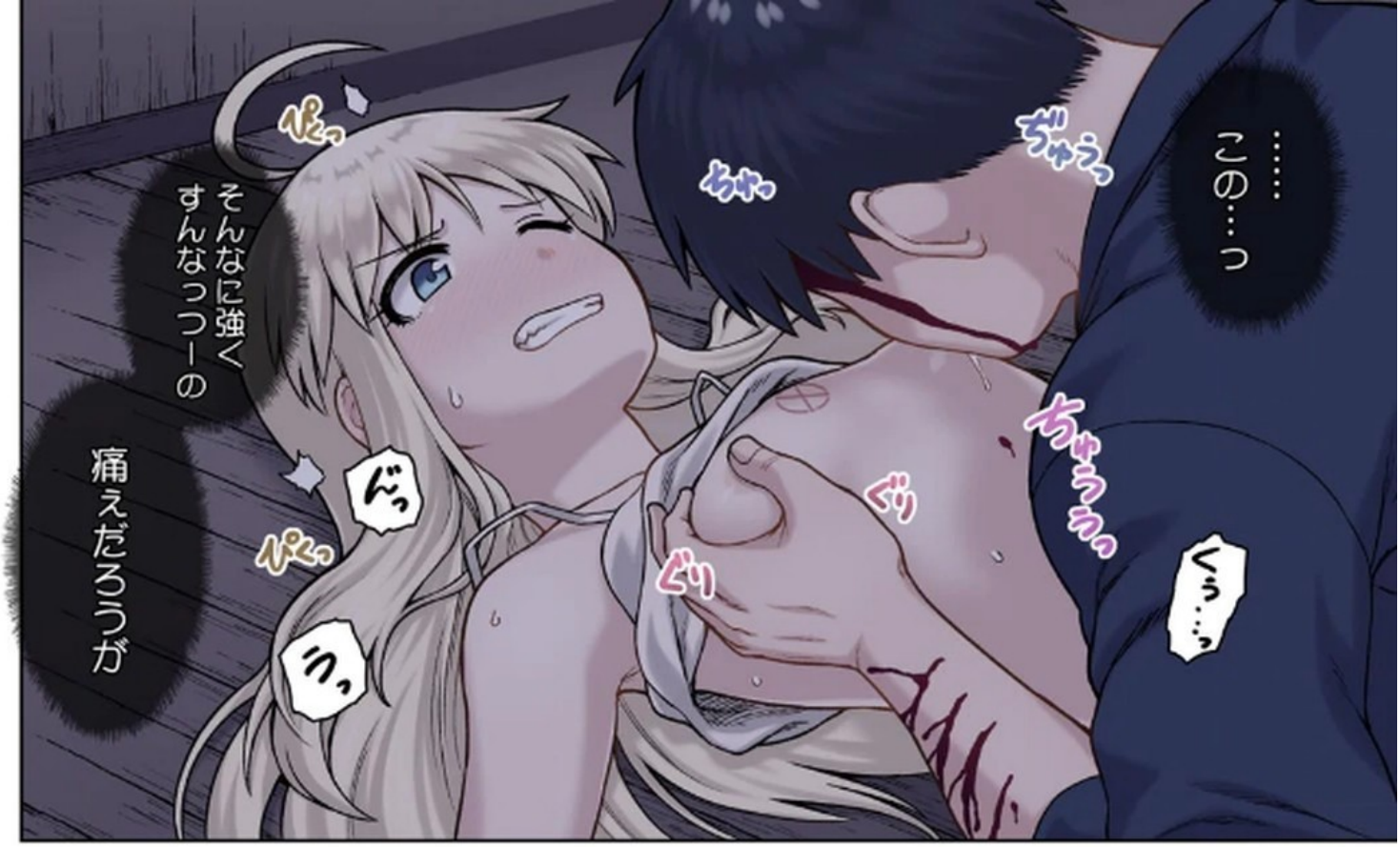

TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.


いっ




ちゅうっ
…うっ


ぐっ
ビクッ
グリっ
ちゅうっ
ちゅっ

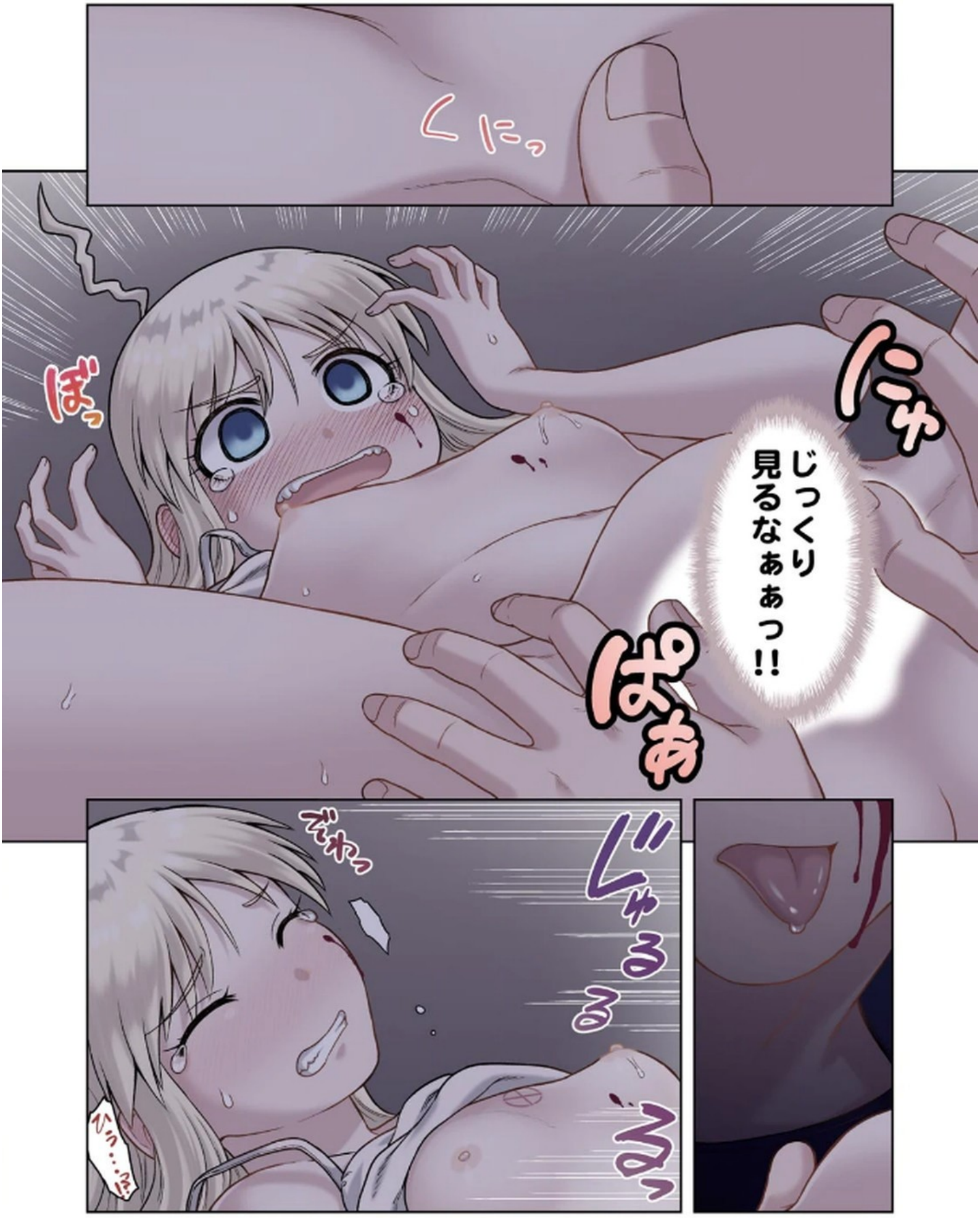

……この…っ
ぢゅうっ
ちゅっ
ちゅうううっ
ぐり
ぐり
くぅ…っ
そんなに強くすんなっつーの
ぱっ
ぐっ
ぱっ
うっ
痛えだろうが


れろぉ


するっ
……っ!?
や…っ!?


はぁ
はぁ
はぁ
じん
じん

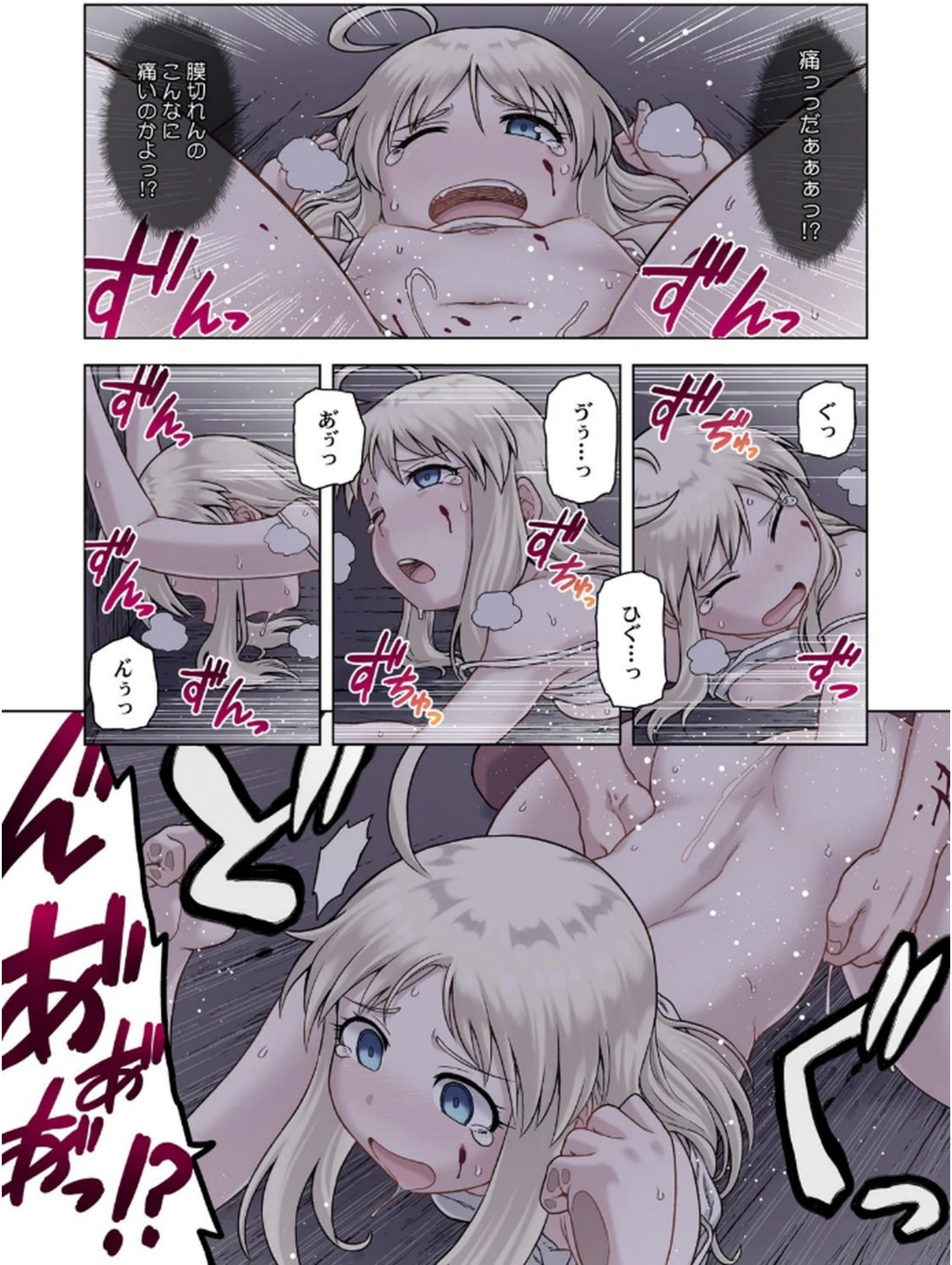

ちょ…待…っ
ぐぐ…っ
うぅ…っ
ばぁ
わが

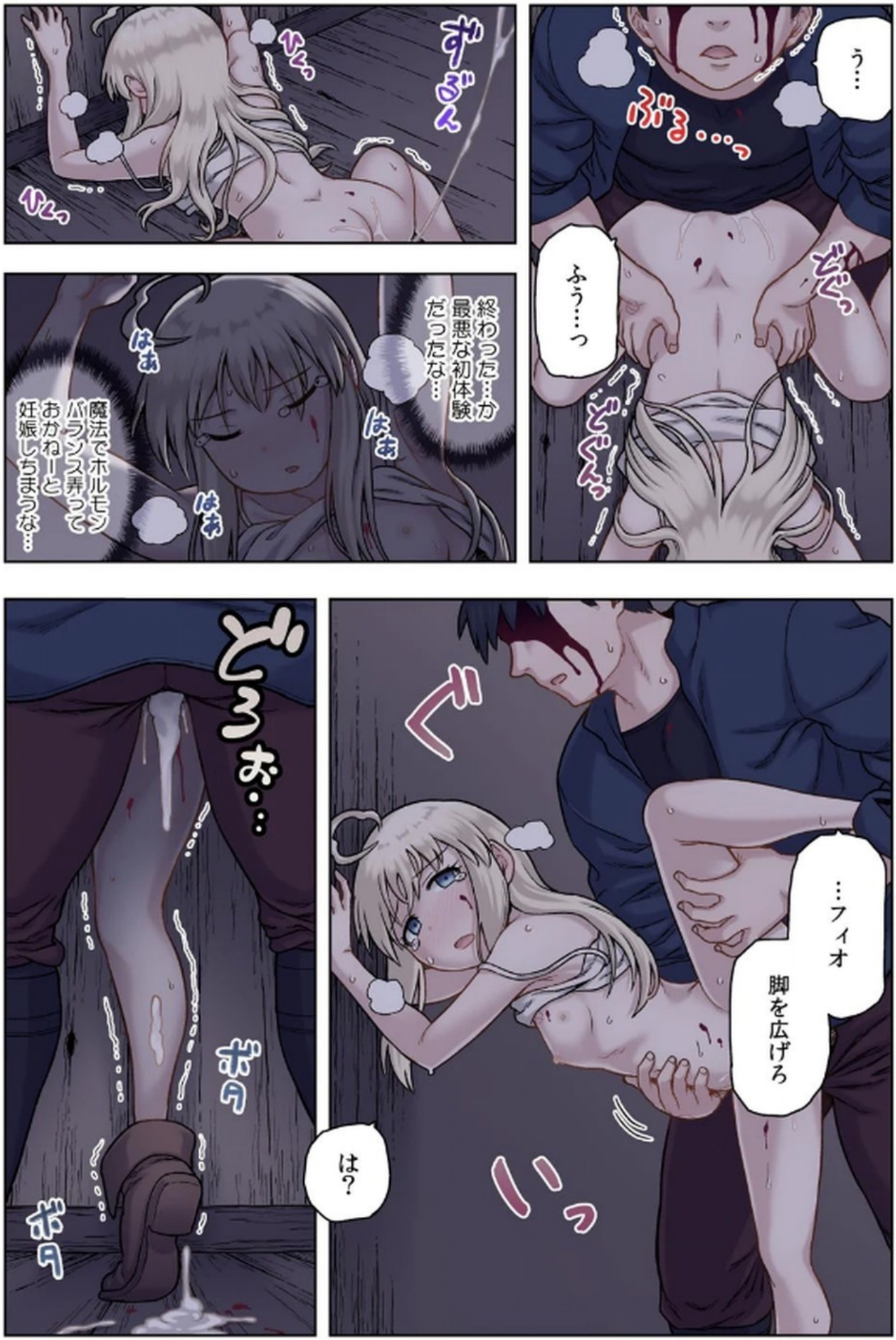

くにっ
にゃ
ぼっ
じっくり
見るなぁぁっ!!
ぱあ
ぐぃるるるっ
でわっ
ひぅ…っ!?


じゅるっ
ぎゅるるっ
ぬちゃ…
ぺろっ
ひっ
…っ
んうっ
うっ
フィオ…
いくぞ…
ぇっ!?
ズシッ
ドドドドド
あ…あんなにデカかったっけ!?
前に見たバーディのより…
というか前世のオレよりも…っ!?


ま…っ
待って…
ぐぐぐ…っ
そんなにデカい
なんて聞いてな…っ
いったん
止め…っ
ずずず
あっ!?
あっ
あっあっ…
ずずず

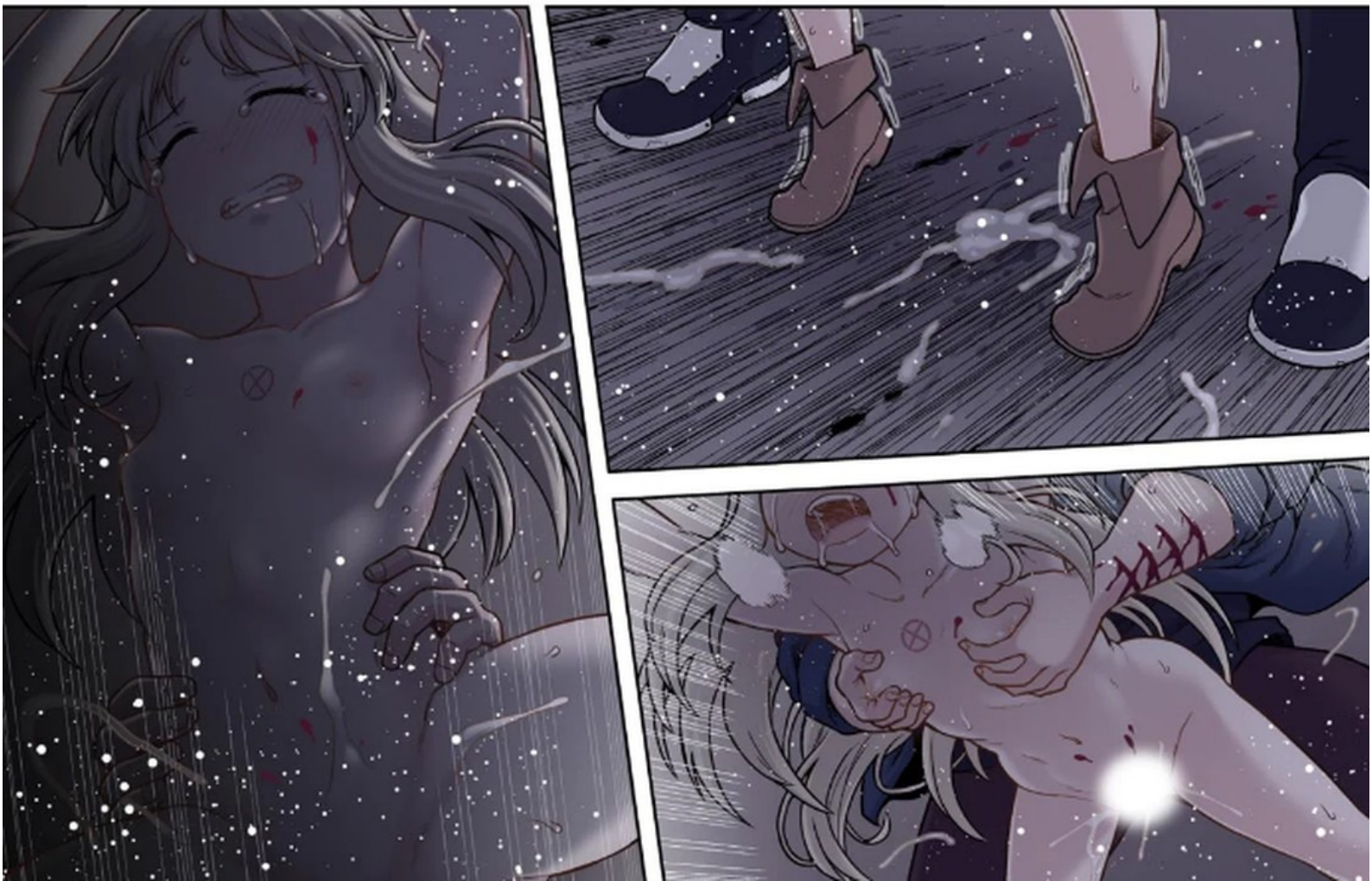

かふ…っ
ずぎんっ
ずぎっ
…はっ
づ…
ずぎんっ
おお…っ
ぶるるっ
ずんっ
ずんっ
づお!?
おぶっ…
おっ!?
づっ
ずっ

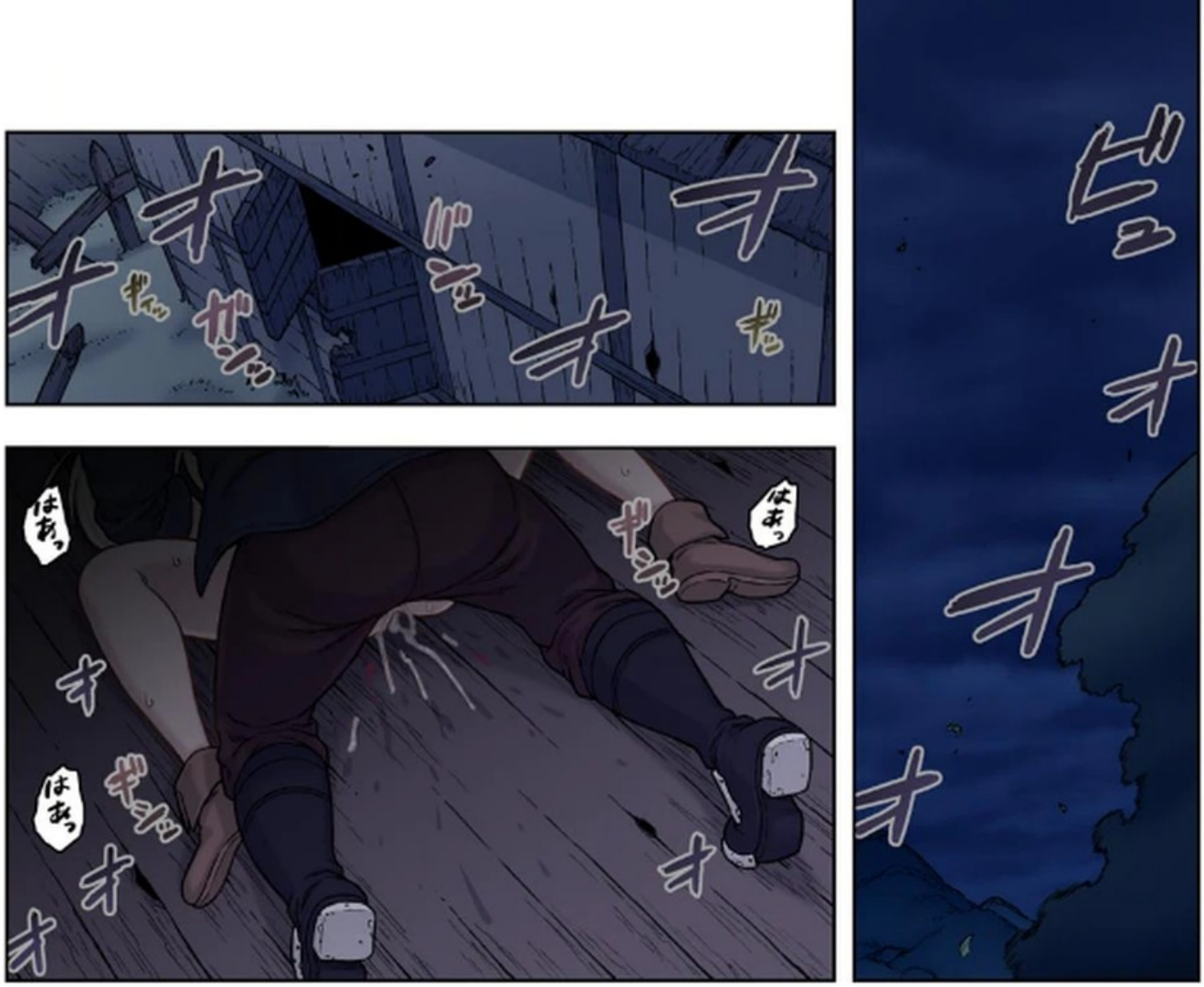

痛っっだぁあぁっ!?
膜切れんのこんなに痛いのかよっ!?
ずんっ
ずんっ
ぐっ
ずぢゅっ
ずっ
ひぐ…っ
ずぢゅっ
づぅ…っ
ずぢゅっ
あづっ
ずんっ
ずんっ
んうっ
ずんっ
ぐぐっ
おおおっ!?

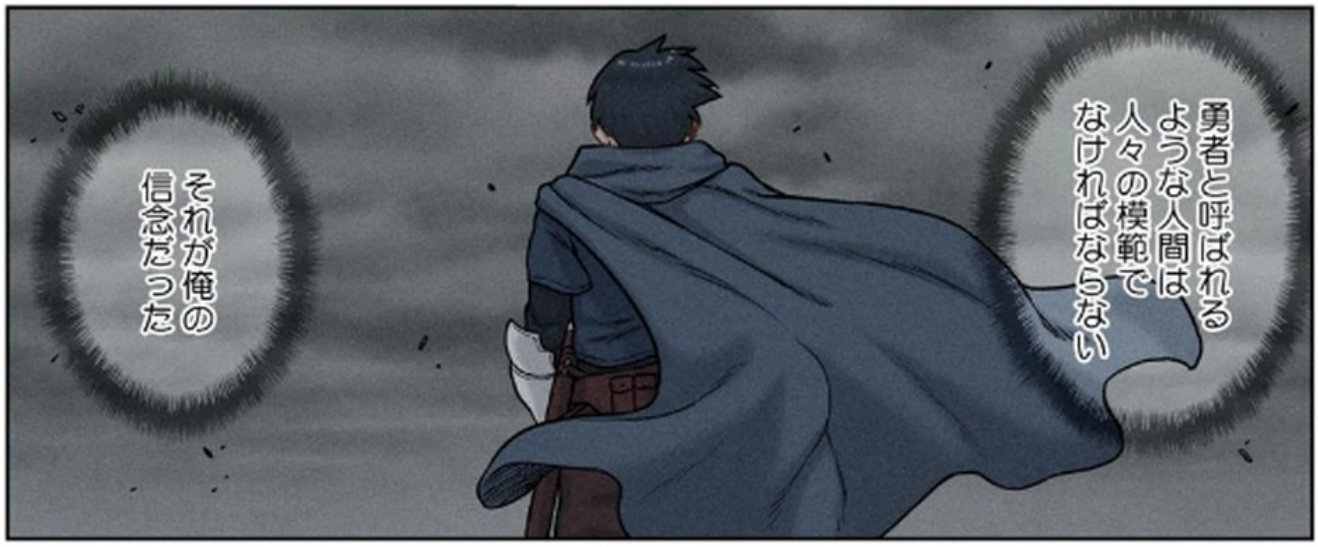

う…
ぶる…っ
どぐっ
ふう…っ
どぐんっ
ずぶん
びくっ
びくっ
終わった…か
最悪な初体験
だったな…
はぁ
はぁ
はぁ
魔法でホルモン
バランス弄って
おかねーと
妊娠しちまうな…
…フィオ
脚を広げろ
ぐ
いっ
は？
どろぉ…
ボタ
ボタ


これで少しは滑りがよくなっただろう
始めるぞフィオ

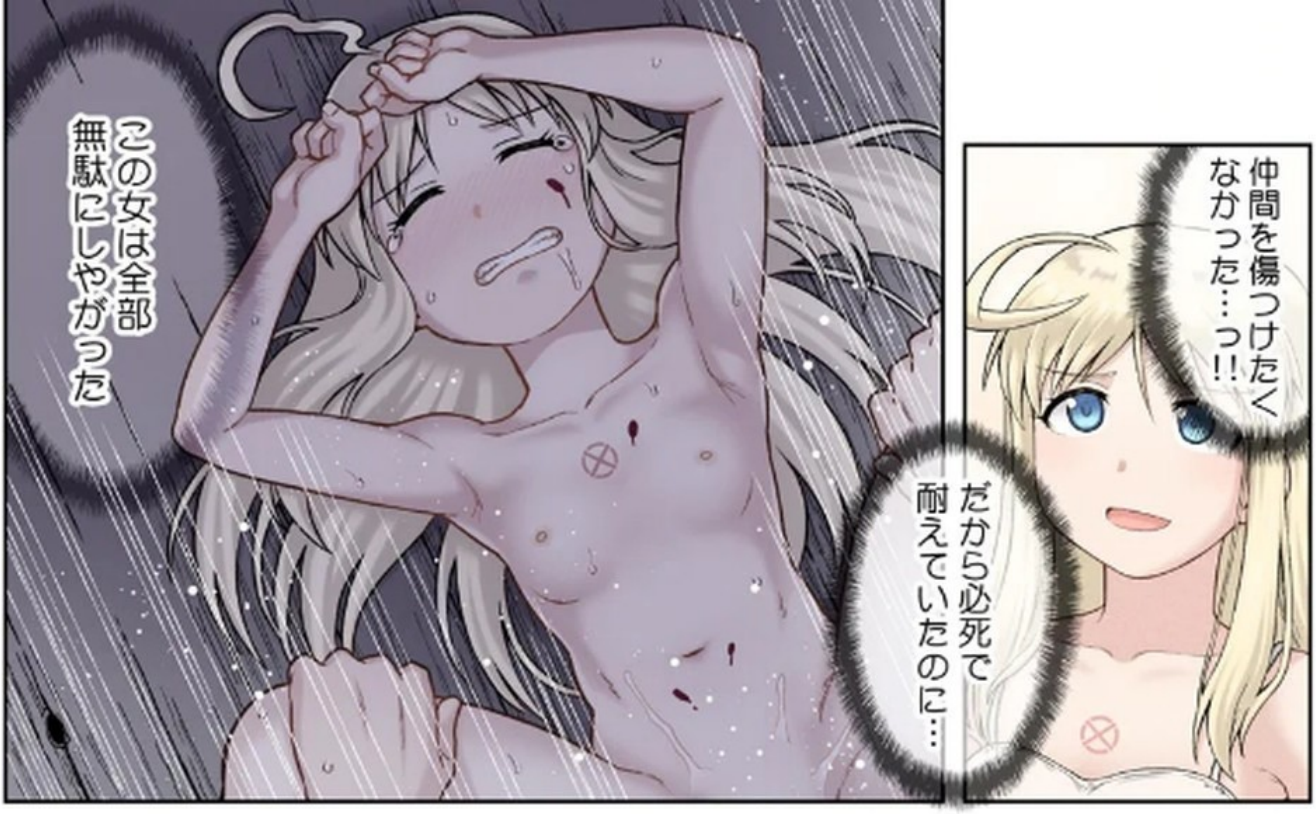

嘘だろ…？




ビュオオオ
オオオ
ガンッ
バンッ
ガンッ
はあっ
ガンッ
はあっ
ガンッ
オオオ
オオオ


勇者と呼ばれるような人間は人々の模範でなければならない
それが俺の信念だった

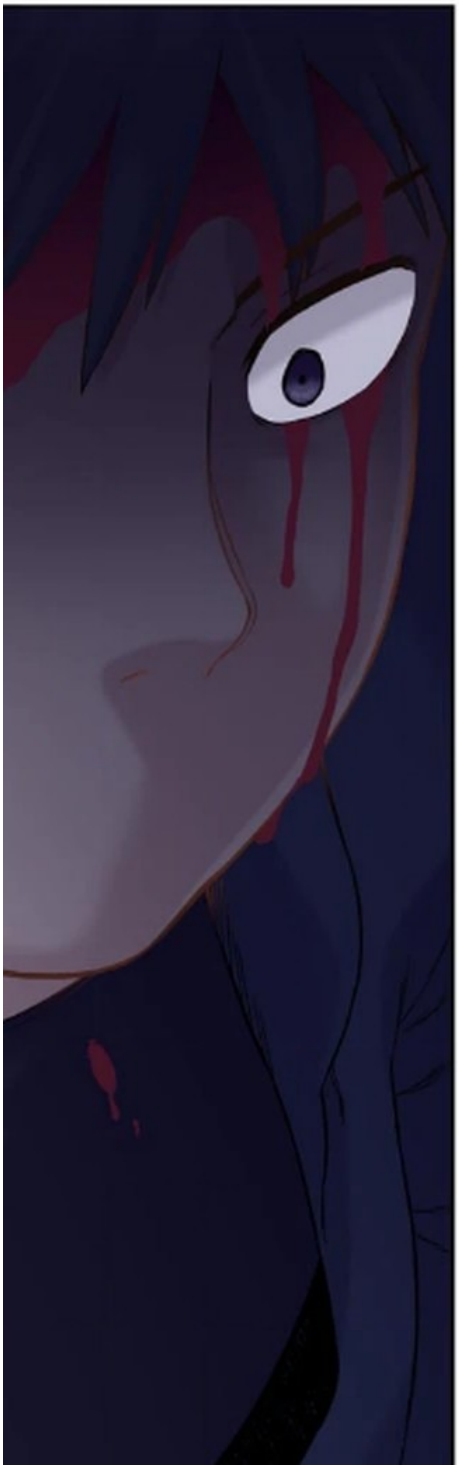

はあっ
ぎしっ
はあっ
ぎしっ
ぎしっ


仲間を傷つけたくなかった…っ!!
だから必死で耐えていたのに…
この女は全部無駄にしやがった

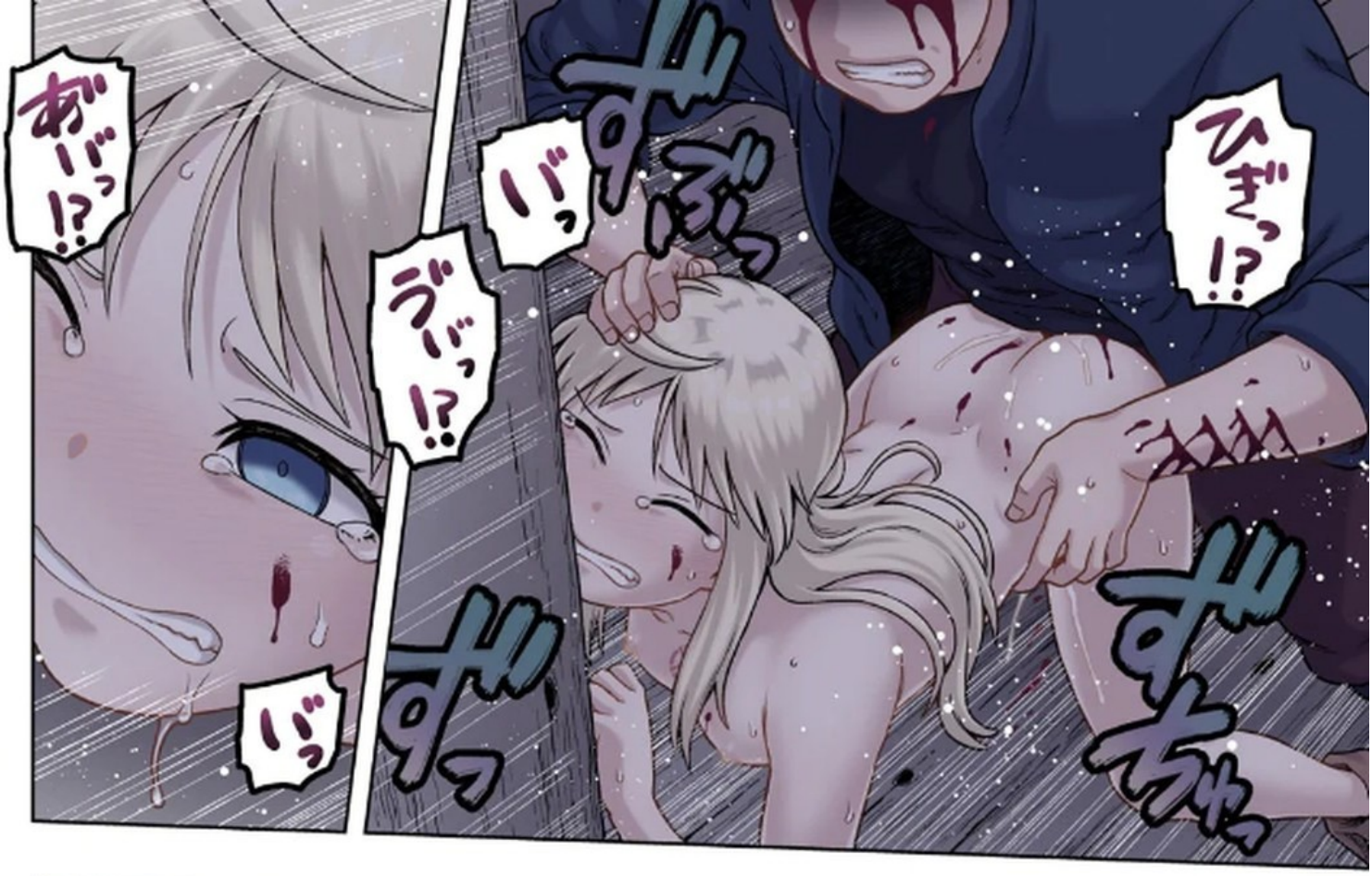

はあっ
ぎしっ
はあっ
ぎしっ

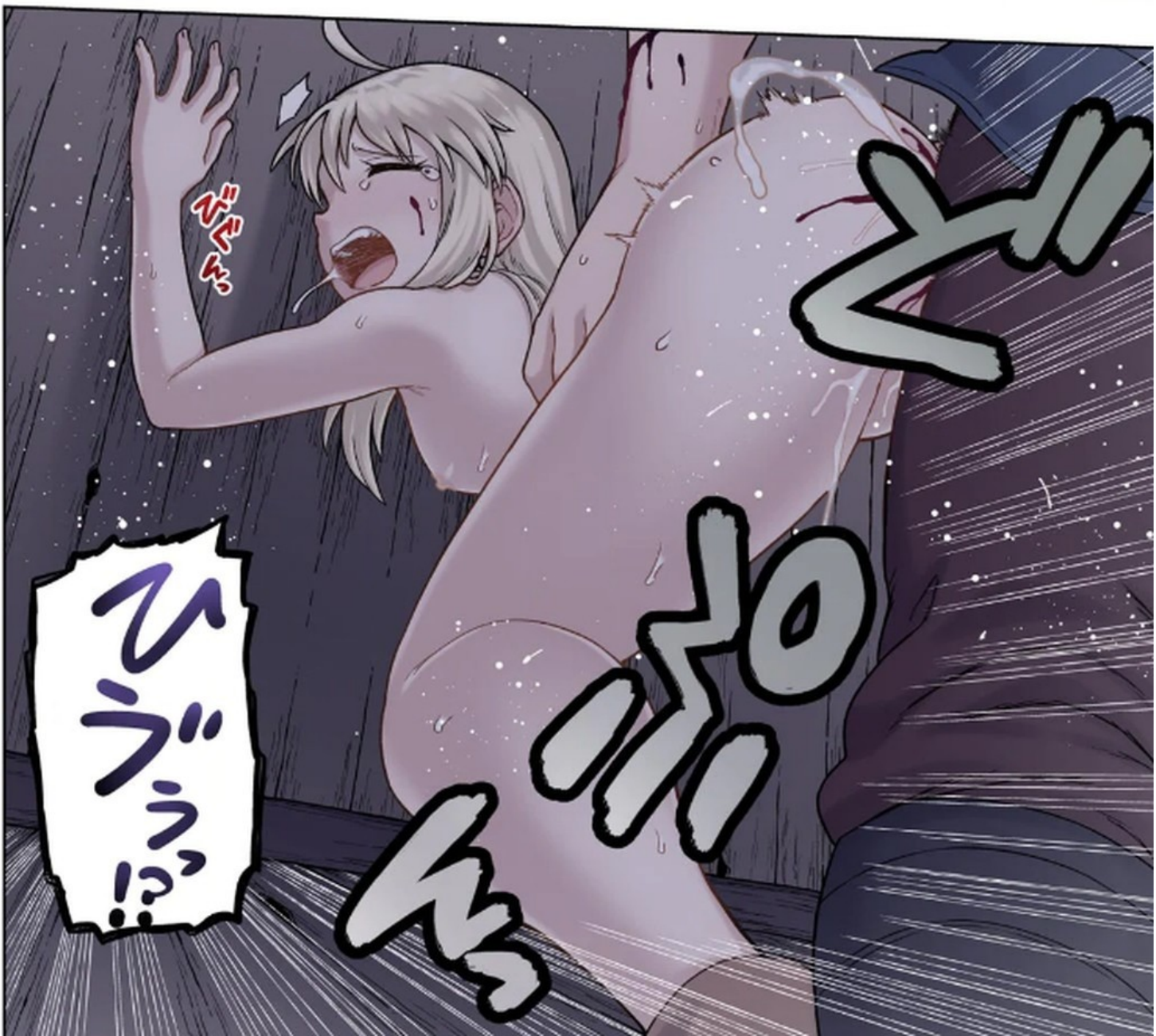

こいつはよくバーディと色街へ出かけているらしい
もう経験済みでこの程度は気にしていないのかもしれない
ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ
んぐっ
ぐっ


本人がいいと
言ってるんだ
ためらう
必要なんて…




…やめて
痛いから…
もうやめてぇ…

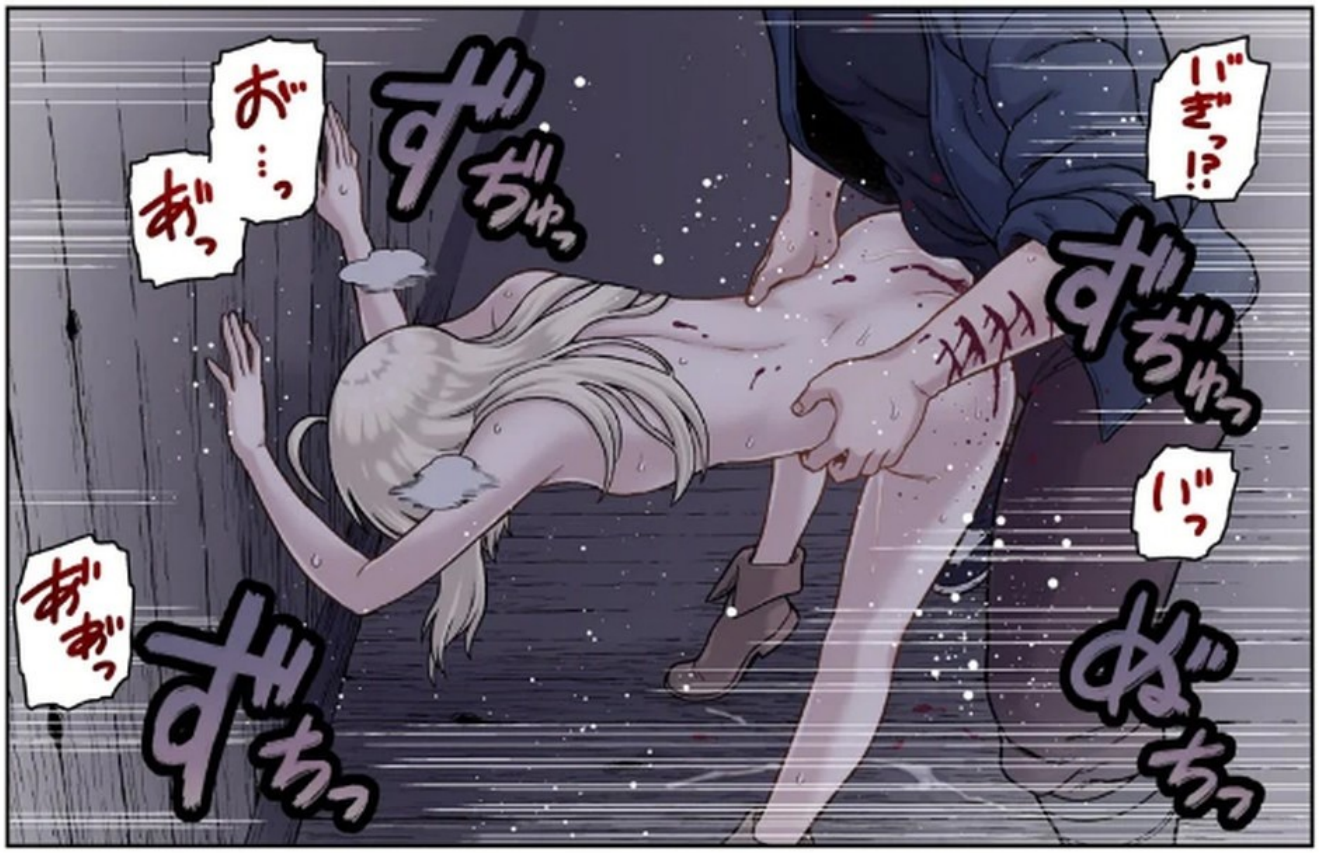


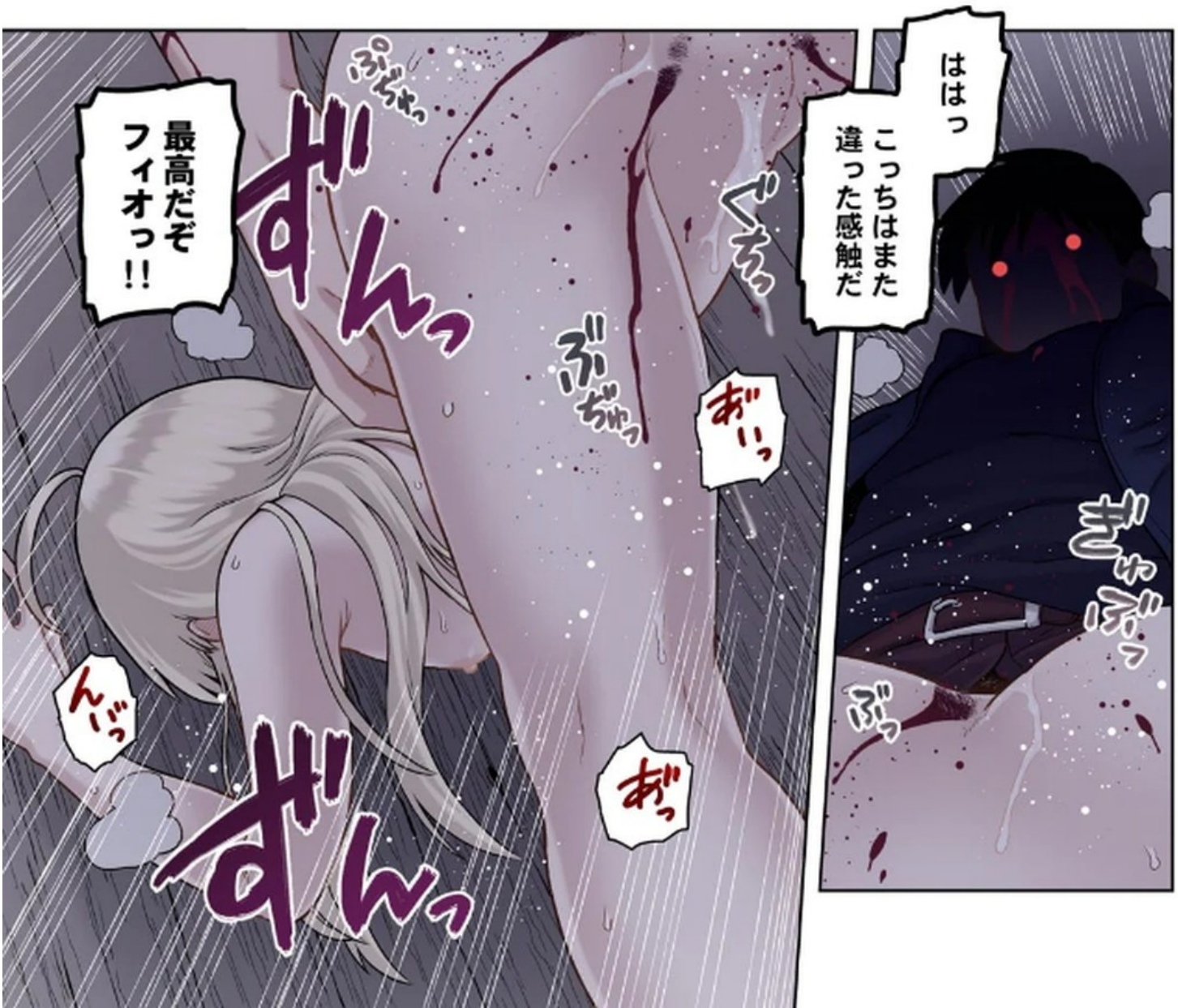

びぐっ
ぐぐぐ


はぁ
はぁ
…ひっ
ひくっ
ひくっ
ひん…っ
ごぽっ
つぅ…
ぐすっ
びくっ
中が切れてしまったか…
ぐっ
なら…
ぐぐ…
…っ!!?
わっ


や…っ
やだやだやだっ
そこは…っ!?
なにを
今さら
今夜のことは
明日には忘れるん
だろうフィオ?
でもそっちは
だめっ!!
だ……っ
みぢ
ぢ


みぢっ
みぢ
ぐぎぎぎっ!?
がく
がく
がく


ずぢゃっ
おっ…っ
おっ
ずぢゃっ
いぎっ!?
いっ
ぬぢっ
おおっ
ずちっ


はは っ
こっちはまた
違った感触だ
ぐちっ
ぶぢゃっ
ずんっ
おっ
ぎゅぶっ
ぶっ
最高だぞ
フィオっ!!
ぶぢゃっ
ずんっ
んぐっ
おっ


やだっ
もうやだぁあぁっ
ずぢっ
ずっずぢゃっ
本当に最高だ…
いつもは男のような言動のこの女が…
今は年相応の少女のように泣き喚いて…

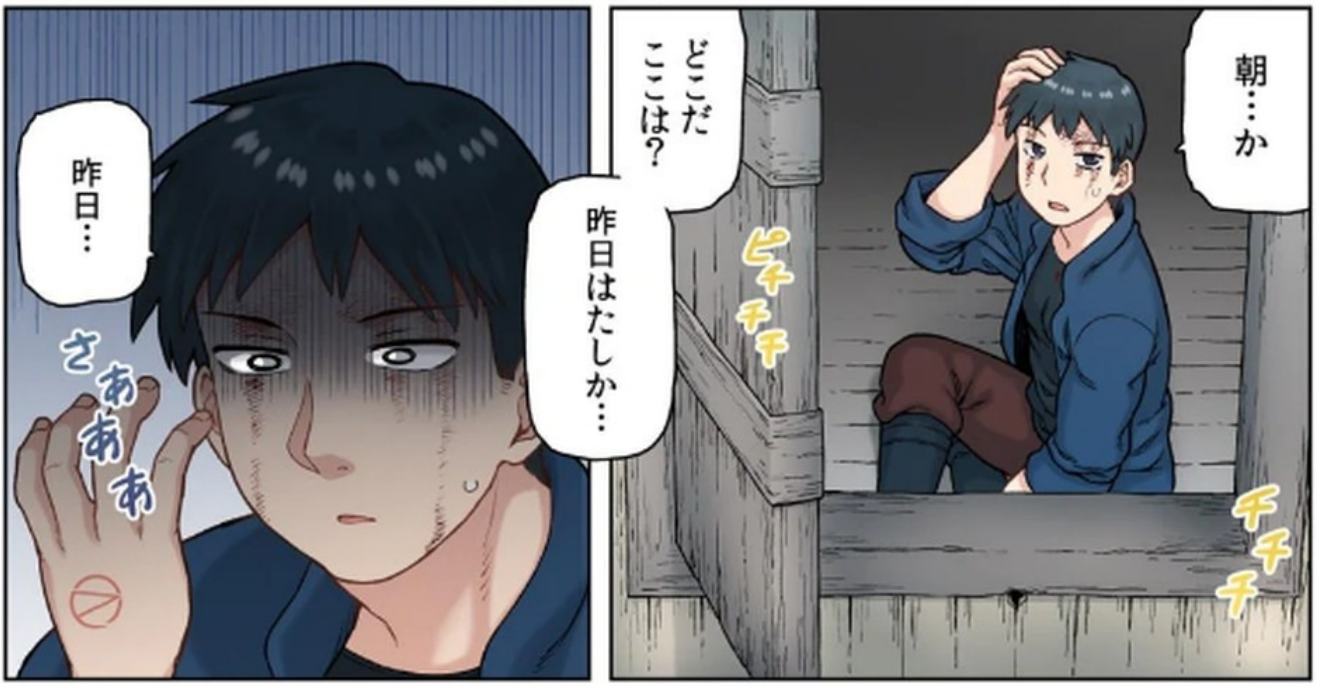

そうだ…
がばっ
今まで我慢していたぶん…
ねば
おっぷ!?
がく
ちかっ
ちかっ
がく
がく
ごんっ
ごりゅっ


がくんっ
おっ!?
がくっ
遠慮なく
注ぎこんでやるっ!!
ぼた
ぼた
ぼた
あ…
ふっ
は…

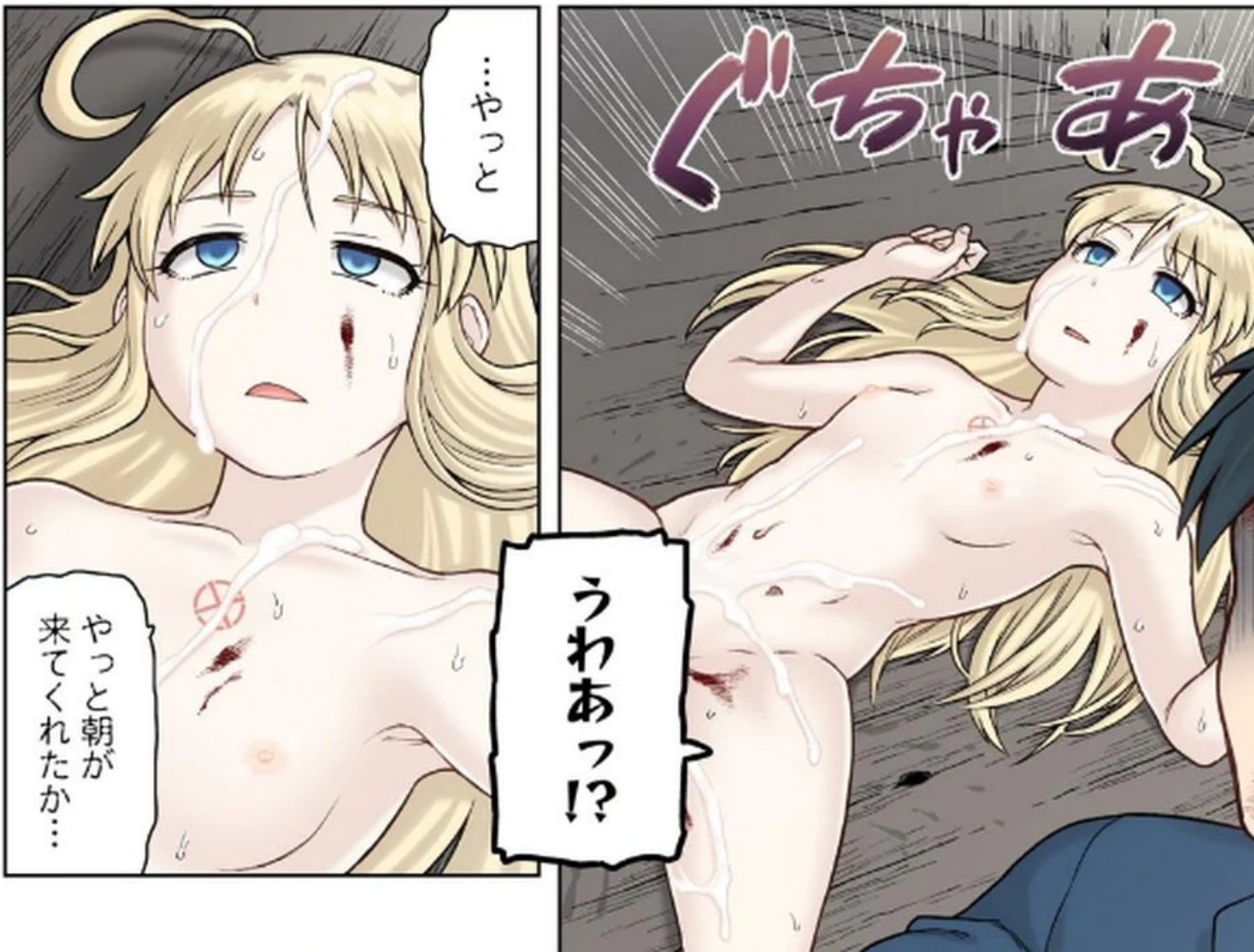

フィオ？
かとん
は…っ
は…っ
は…っ
ぎしっ
くたぁ
ずろ…
気を失ったか…
だが…


ぎっ
しっ
俺はまだまだ
物足りない
約束どおり
朝まで付きあって
もらうぞ
フィオ…




朝…か
ピチチ
チチチ
どこだここは？
昨日はたしか…
昨日…
さあああ


ゴゴゴ
ゴゴゴ


ぐちゃあ
うわあっ!?
…やっと
やっと朝が来てくれたか…

ルートデザイン案

軽装の革鎧

ポーチには止血帯や
ポーション類の
基本装備の他
地図や後々
な情報を

まとめた
メモ帳など
測量道具
とかも
世界観に
合っていれば

女装ルート

2話

胸盛られてます

ヤヤ細身
多少鍛えてはいるが
あくまで
護衛として

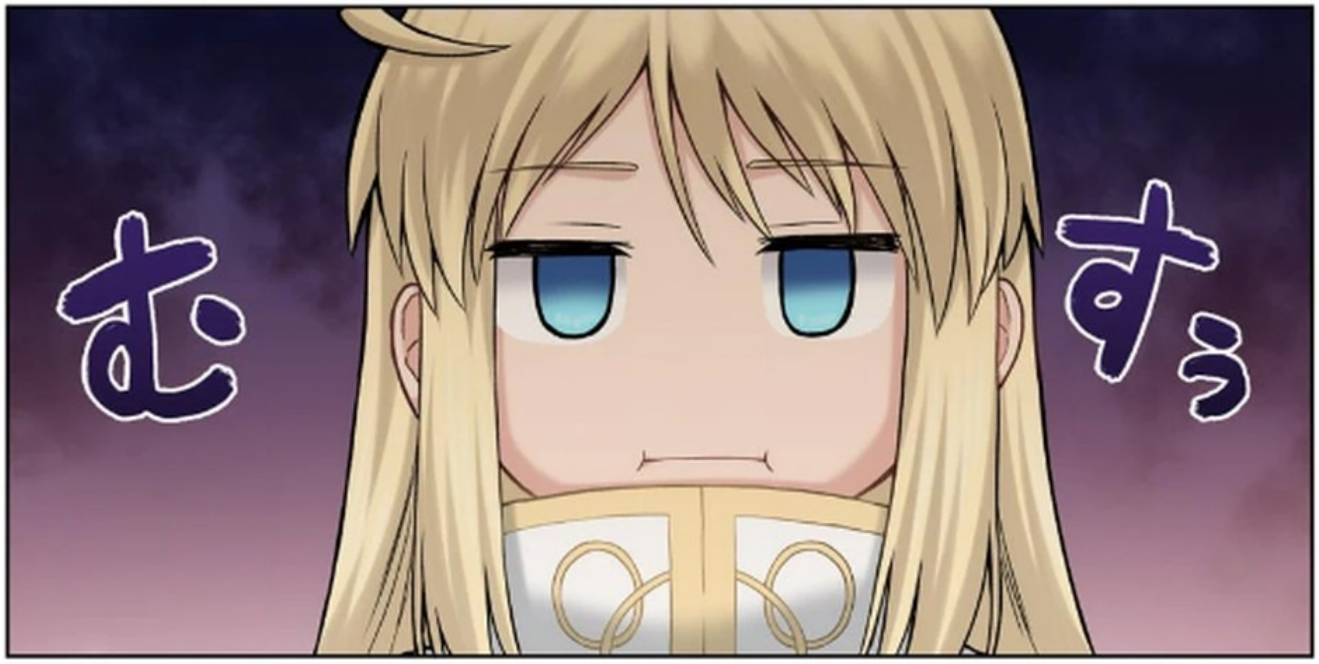
聖痕

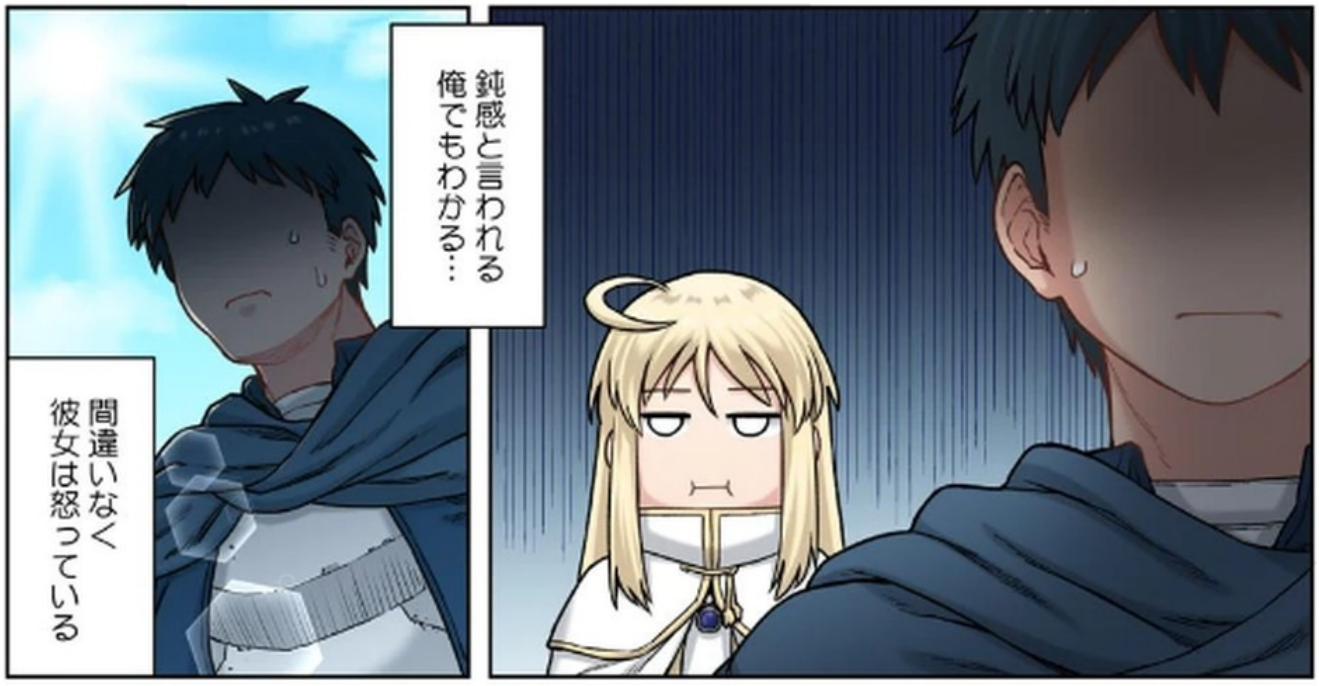
御立派様

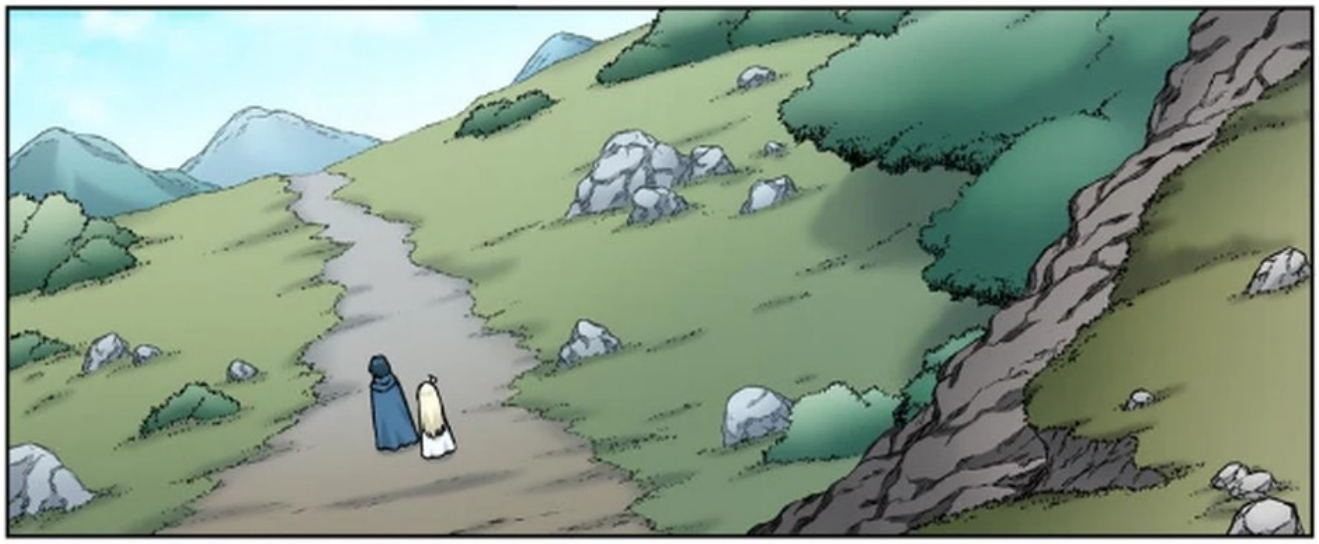
髪色は緑がかった金髪
瞳の色も翡翠色
少し若草色が
混じる

風の精霊
イメージ


TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.


む
すぅ

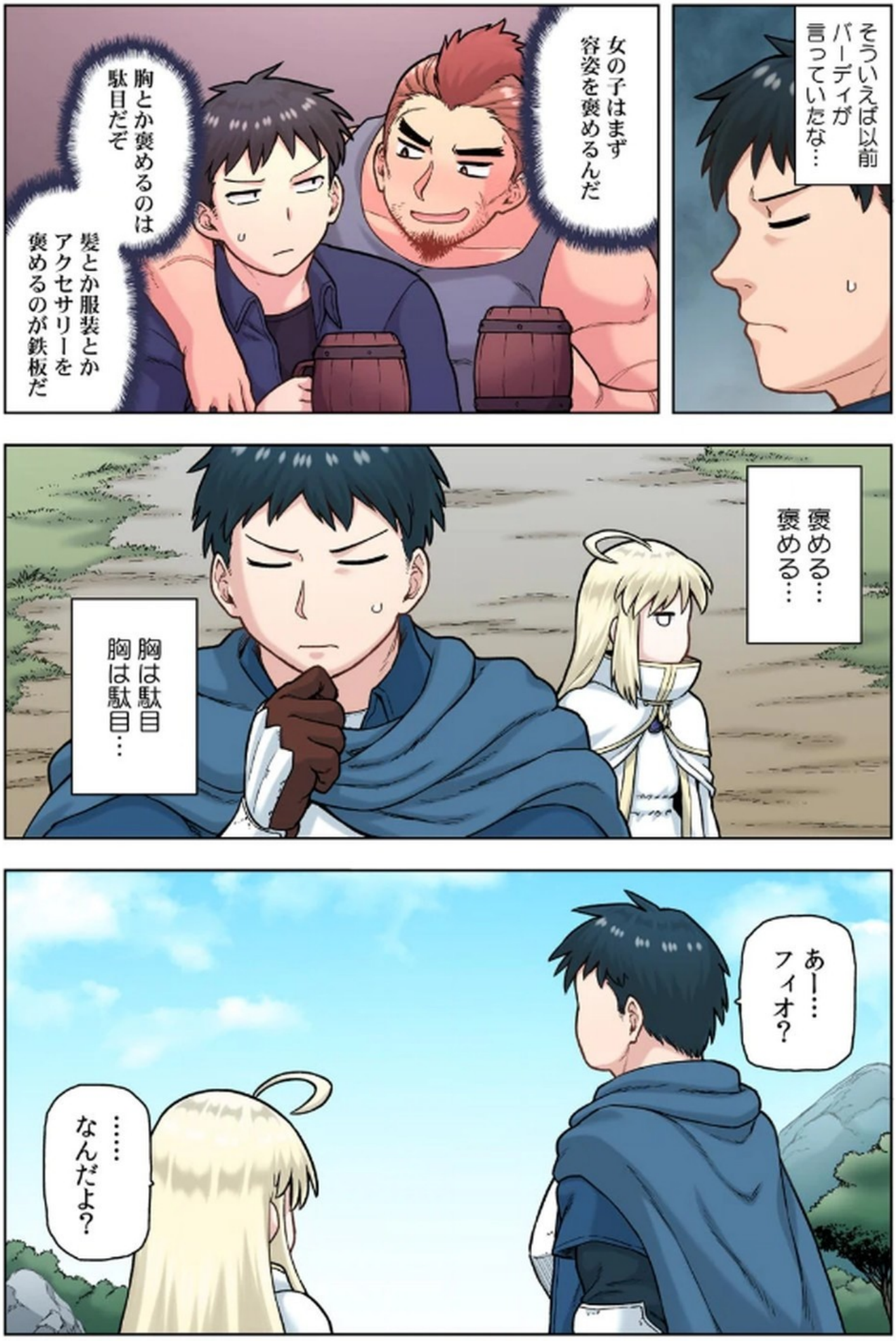

鈍感と言われる
俺でもわかる…
間違いなく
彼女は怒っている



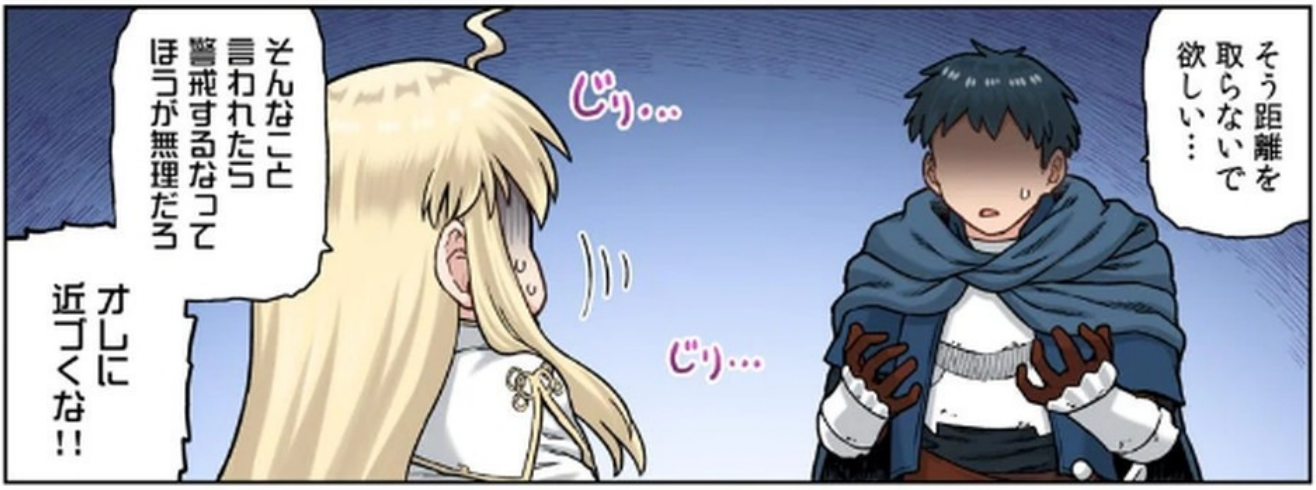

いや…
怒るのは
当然だ…
薬の影響とはいえ
昨夜の俺は彼女を
性具扱いしたのだ
彼女はなにも
なかったことに
すると言うが
到底許される
ことではない

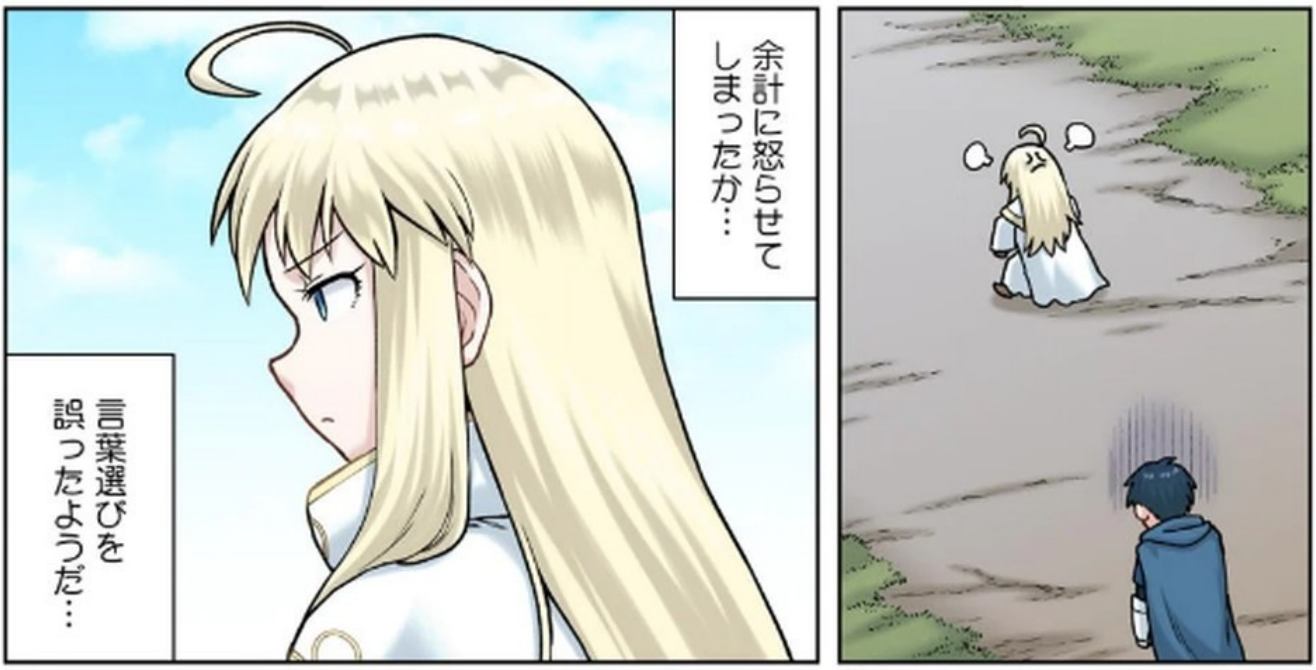

普段がいくら
エキセントリックな
フィオとはいえ
女性だ…
俺は彼女を深く
傷つけてしまった
最低野郎だ…


なんとか彼女に
謝って信頼を
取り戻さなくては
口下手な
自分が憎い…


そういえば以前バーディが言っていたな…
女の子はまず容姿を褒めるんだ
胸とか褒めるのは駄目だぞ
髪とか服装とかアクセサリーを褒めるのが鉄板だ
褒める…褒める…
胸は駄目胸は駄目…
あー…フィオ？
……なんだよ？


フィオ
君は素晴らしい腰つきをしているな
ひゅんっ

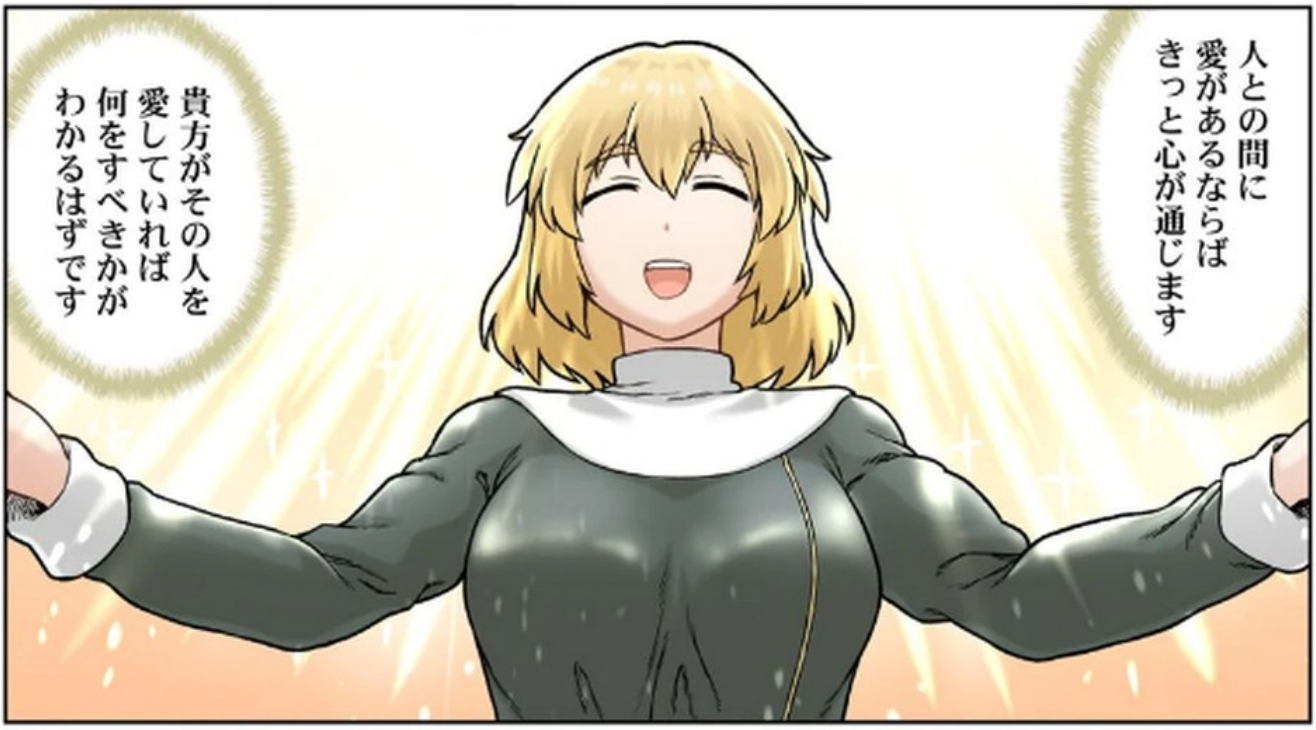

そう距離を取らないで欲しい…
じり…
じり…
そんなこと言われたら警戒するなってほうが無理だろ
オレに近づくな!!


余計に怒らせてしまったか…
言葉選びを誤ったようだ…


そういえば
バーディがモテない
のは女心が理解でき
ていないからだと
他ならぬ
フィオがそう
話していたな
俺としたことが
頼る相手を完全に
間違えていたようだ


いや…まだ
諦めるには早い
俺には他にも
頼るべき
仲間達がいる


愛です
アルト様

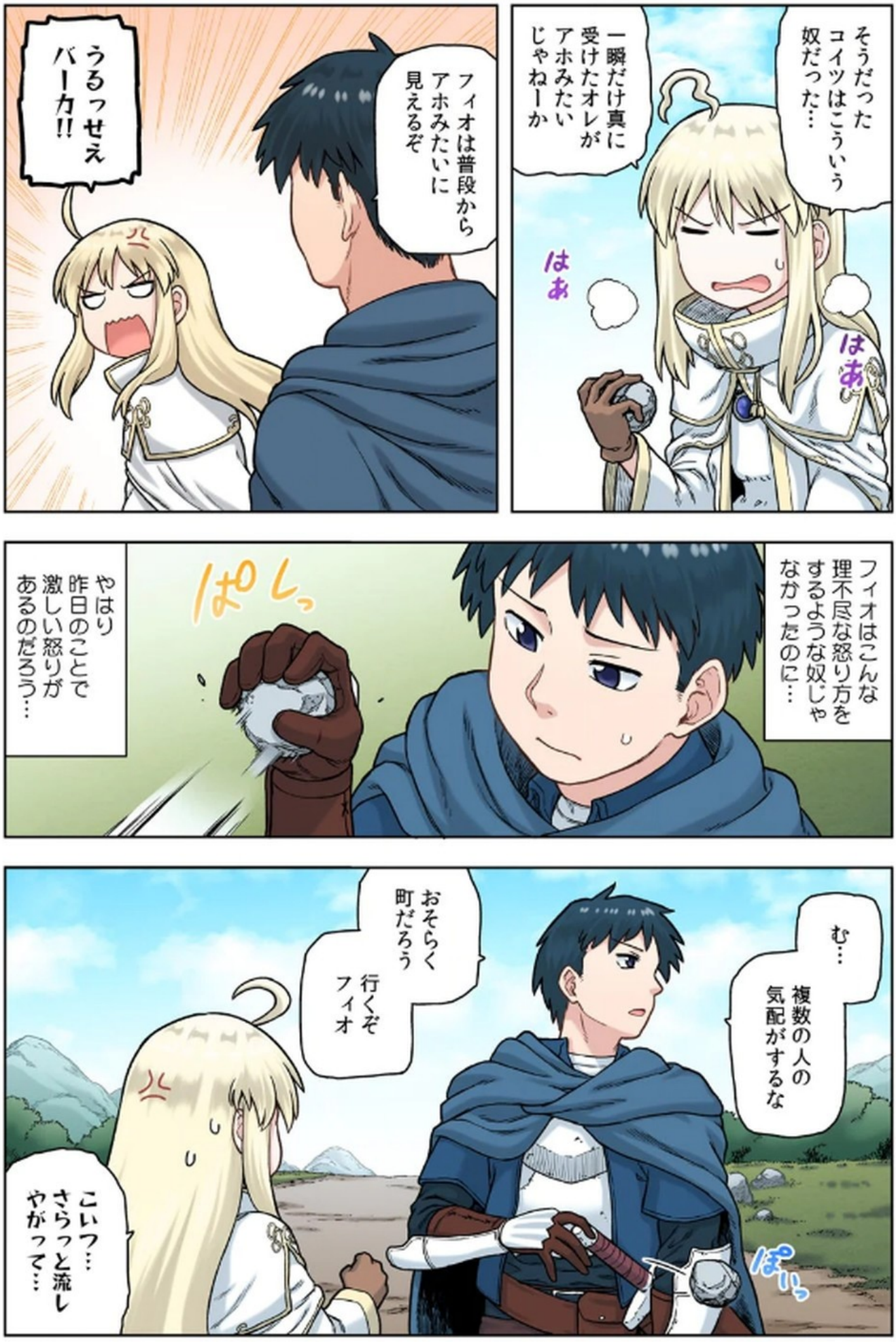

人との間に
愛があるならば
きっと心が通じます
貴方がその人を
愛していれば
何をすべきかが
わかるはずです


敬虔な修道女のユリィなら…っ
彼女の言葉ならバーディよりきっと役に立つだろう
だが彼女に何をすべきか俺にはわからない
ということは俺はフィオを愛していないということか？
ズ
フォッ
…フィオ
お前は俺を愛しているか？

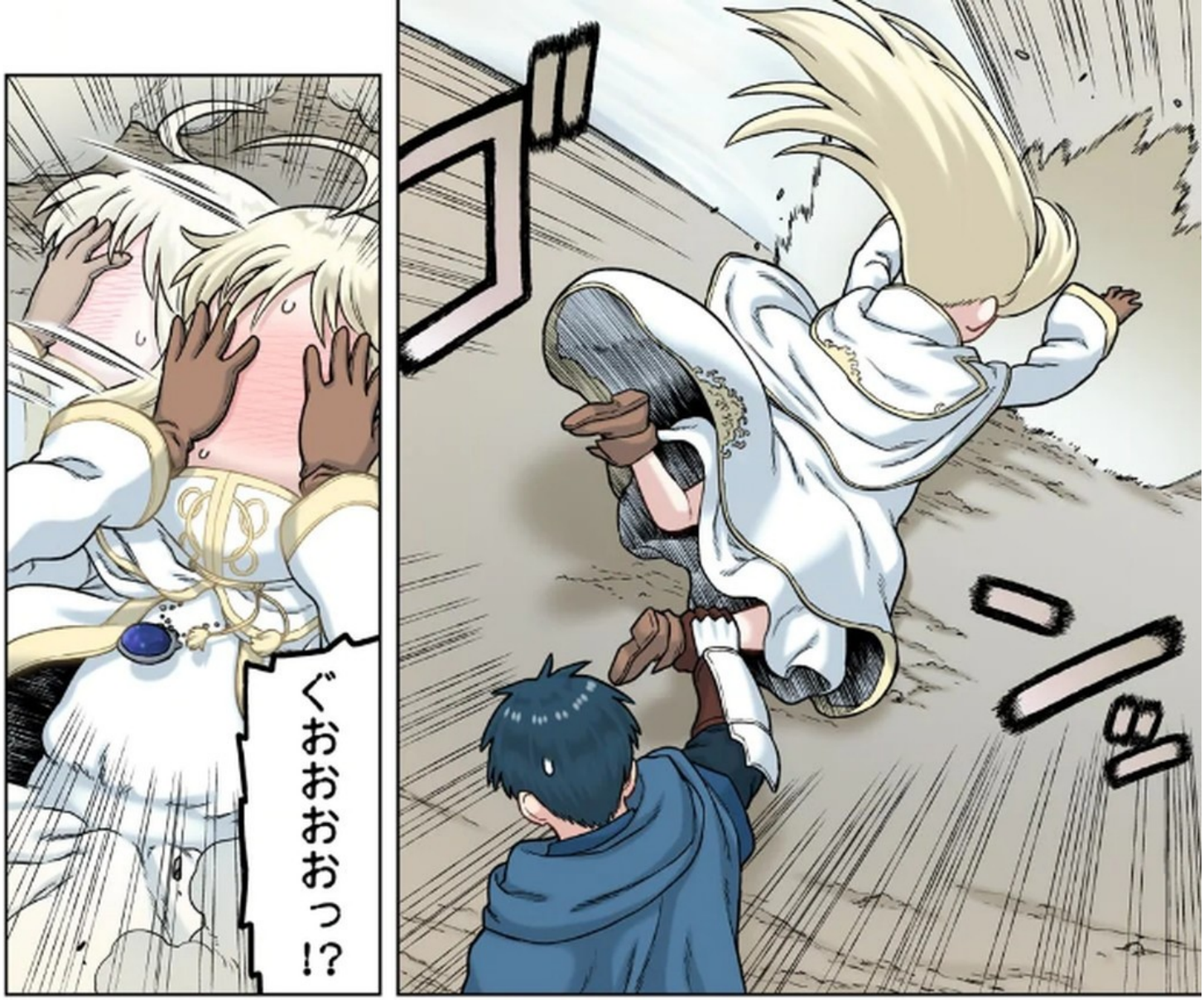

なんなのお前
さっきから
気持ち悪いよ!?
ていうか
嘘だろ!?
お前ってば
オレのこと
好きなの!?


いや どうやら
俺はフィオのことを
愛していないようだ
お前本気で
ぶっ殺すぞ!!
ビュッ
ひょいっ


どうした
何を怒って
いるんだ?
避けんな
ゴミ屑野郎!!
ポイ
ポイ

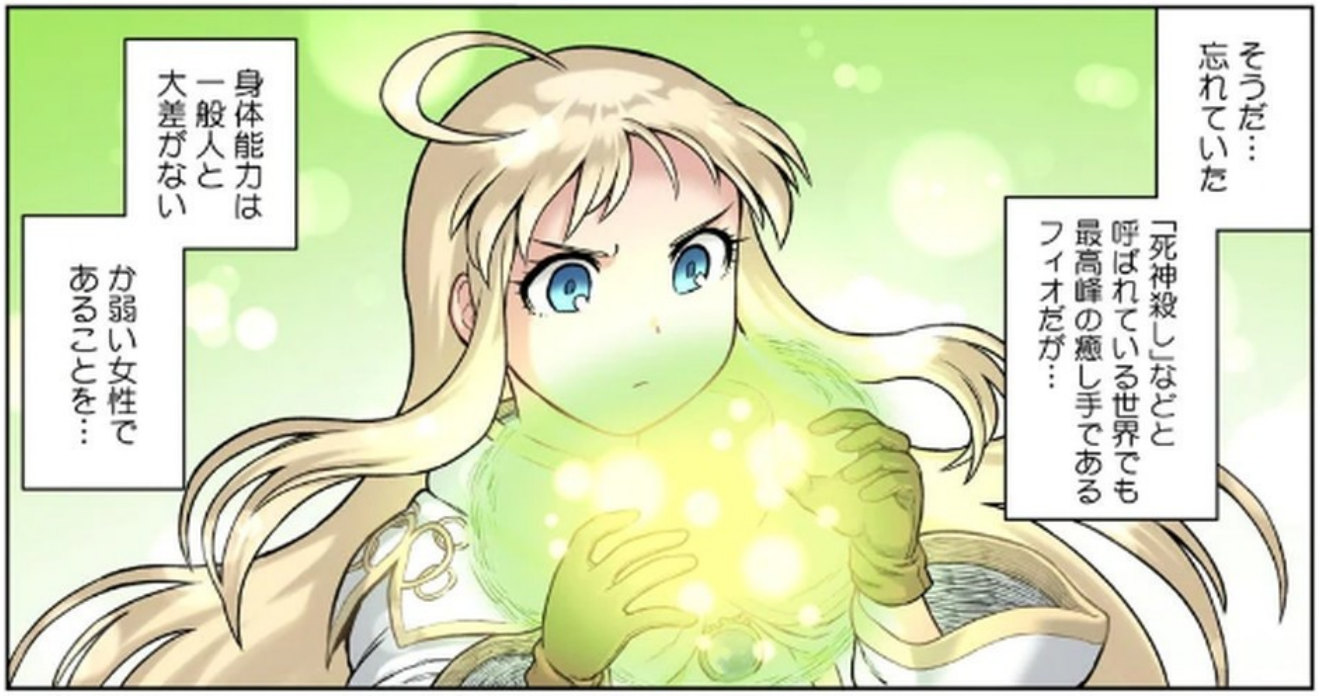

そうだった
コイツはこういう
奴だった…
一瞬だけ真に
受けたオレが
アホみたい
じゃねーか
はぁ
はぁ
フィオは普段から
アホみたいに
見えるぞ
うるっせえ
バーカ!!
フィオはこんな
理不尽な怒り方を
するような奴じゃ
なかったのに…
ぱしっ
やはり
昨日のことで
激しい怒りが
あるのだろう…
む…
複数の人の
気配がするな
おそらく
町だろう
行くぞ
フィオ
ぽいっ
こいつ…
さらっと流レ
やがって…

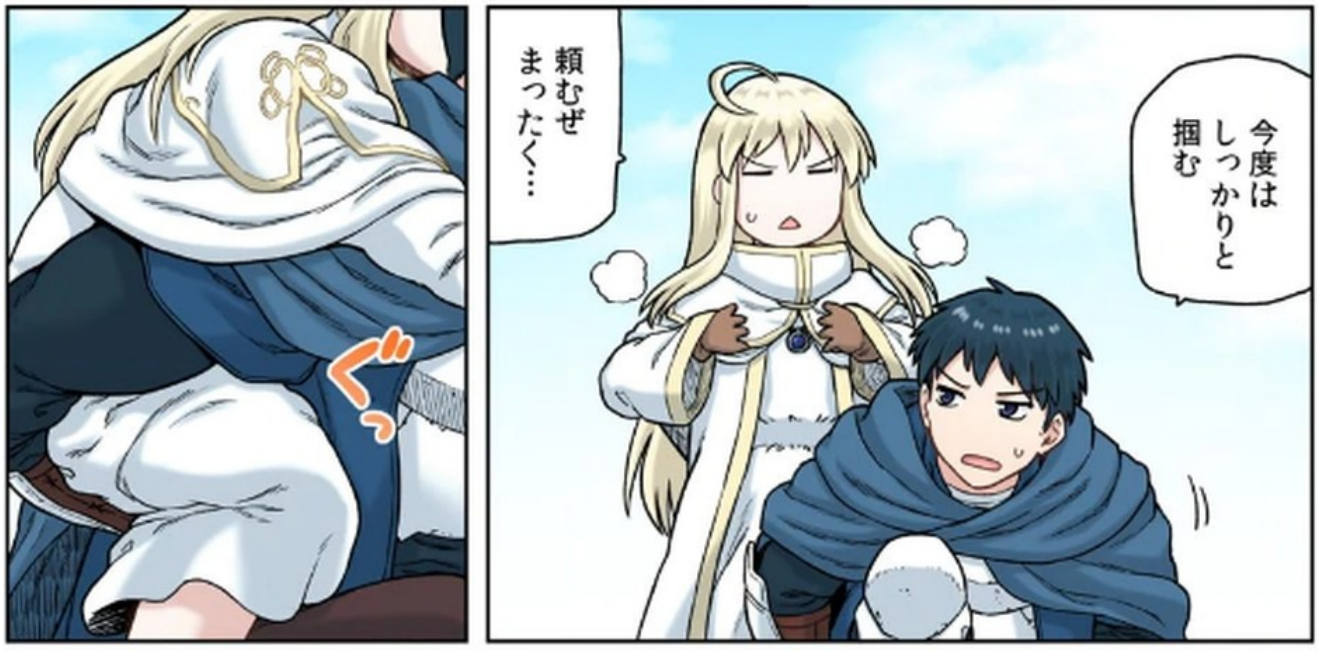

よし
では行くぞ
ああ
ドロ
は!?
ガシッ


ぐおおおおっ!?


おまっ
おま…っ
おまえぇぇぇ
殺す気かぁ!?
すまない
間に合って
よかった
間に合ってねえよ
めっちゃ顔面
ぶつけたわバカ!!


なんだあの加速は…
身体強化するならちゃんと言っとけ!!
ブゥ
ウウン
そもそもなんでオレをしっかり掴んでないんだ!!
いや…すまなかった


そうだ…忘れていた
「死神殺し」などと呼ばれている世界でも最高峰の癒し手であるフィオだが…
身体能力は一般人と大差がない
か弱い女性であることを…

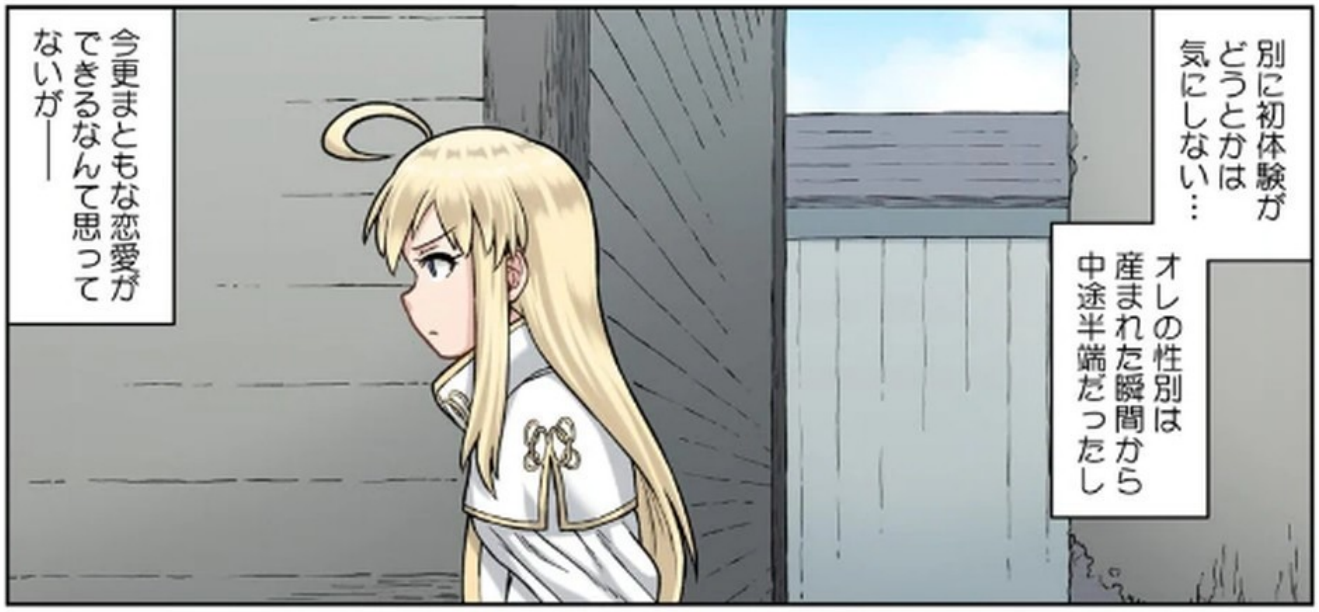

今度はしっかりと掴む
頼むぜまったく…
ぐっ

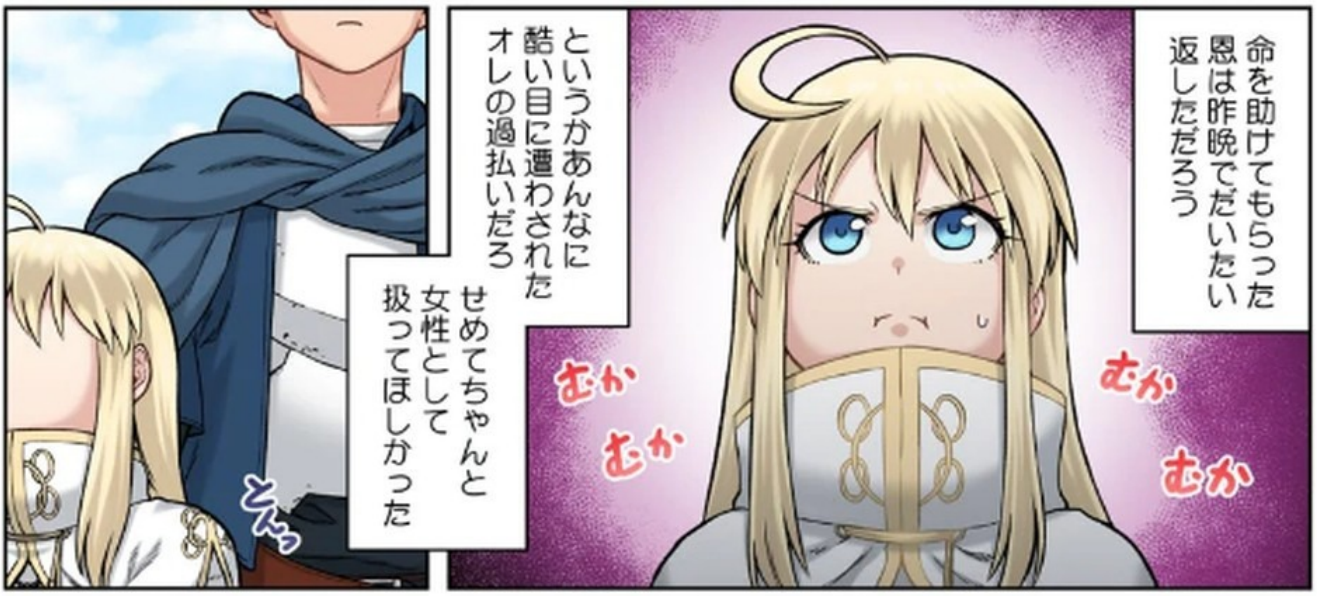

今度は安全速度で頼むぜ
ああ…わかった
気付かなかった…
昨夜たった一人で俺を受け止め続けた少女は…
こんなにも柔らかく――
そしてか細い存在だったのか…

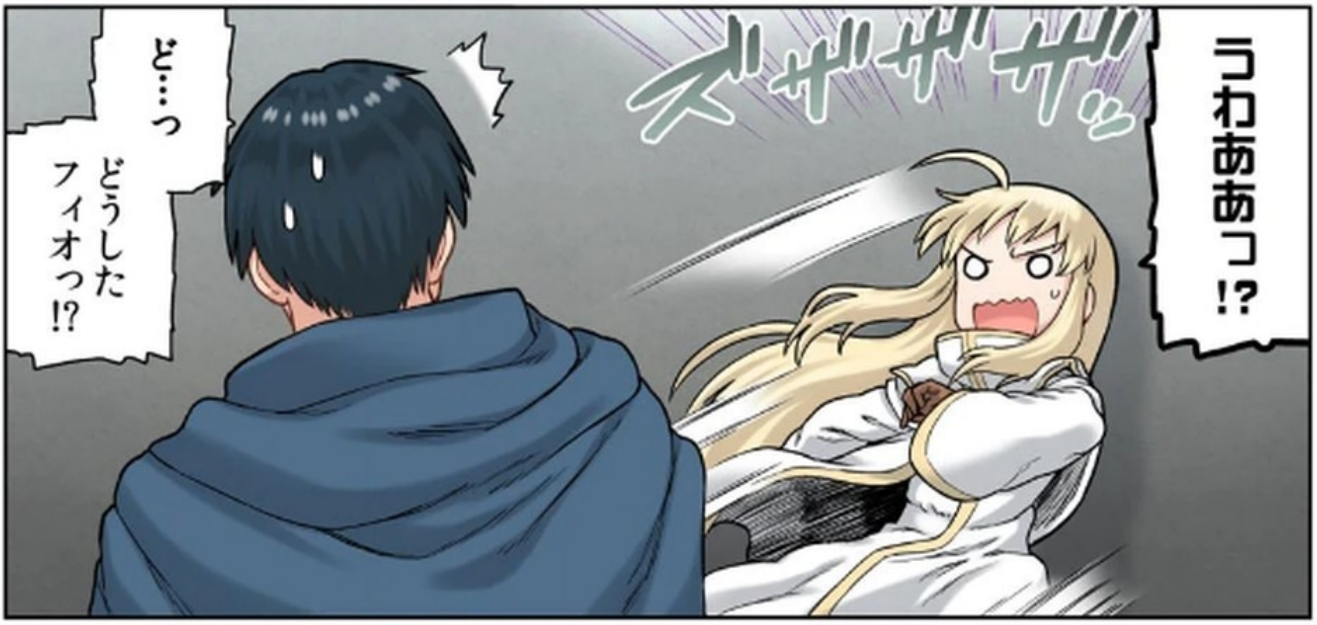


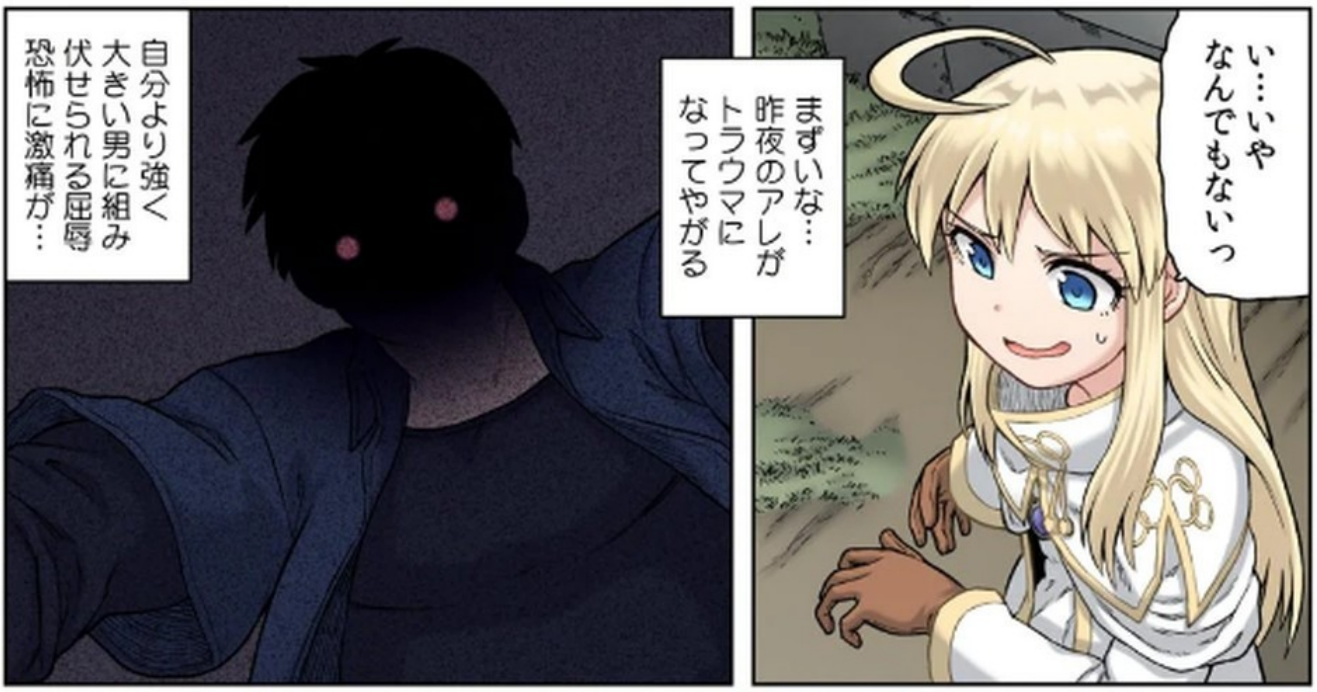

昨夜のオレは愚かだった…
超絶鈍感とはいえ男だぞアルトは…

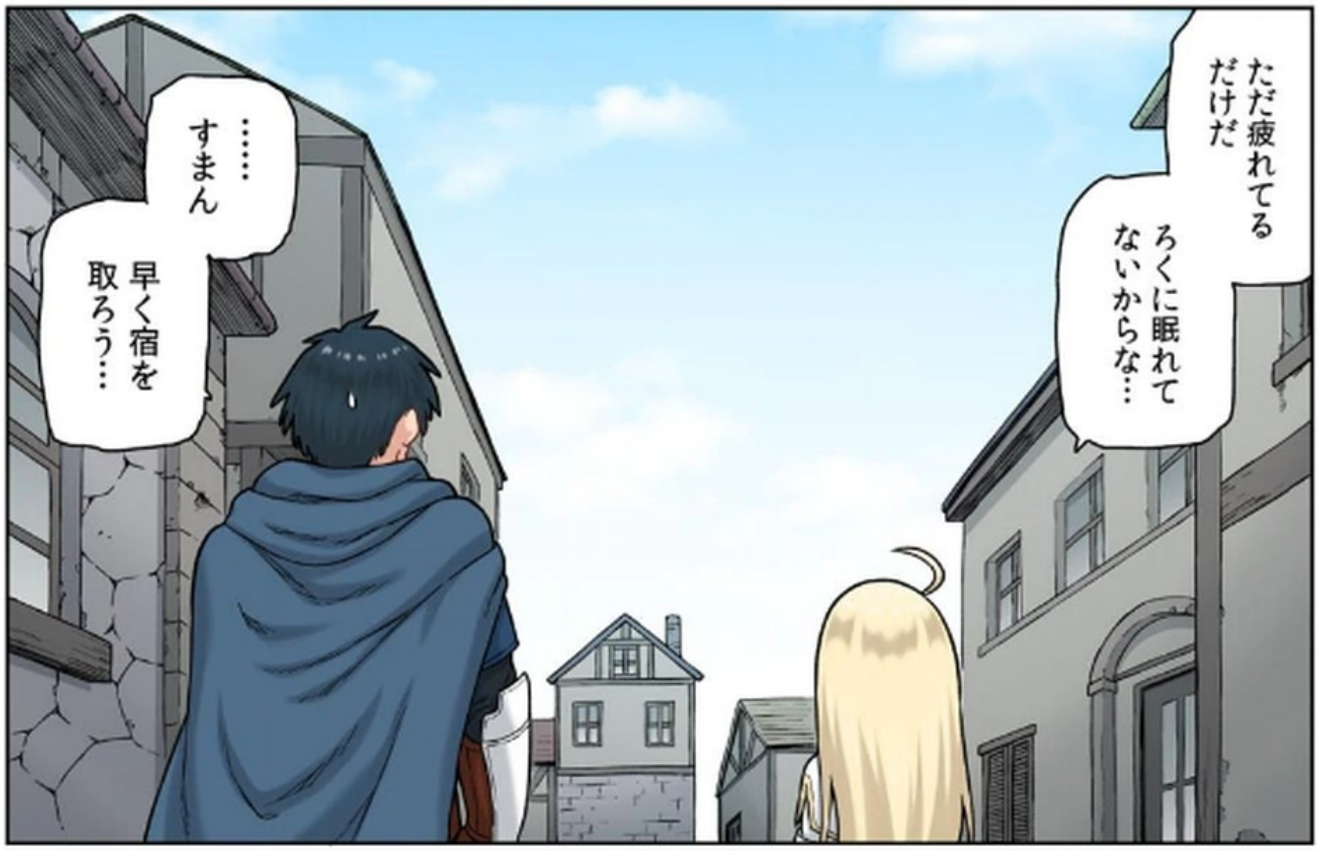

機嫌を直せフィオ
…いいからオレに話しかけるな

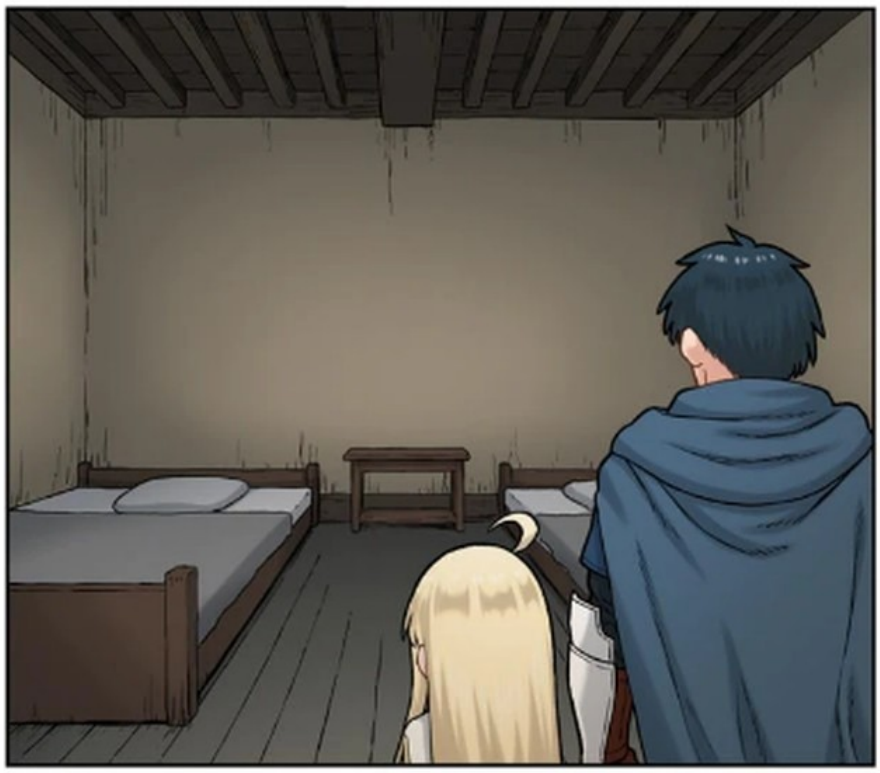

別に初体験がどうとかは気にしない…
オレの性別は産まれた瞬間から中途半端だったし
今更まともな恋愛ができるなんて思ってないが――


命を助けてもらった恩は昨晩でだいたい返しただろう
むか
むか
むか
むか
というかあんなに酷い目に遭わされたオレの過払いだろ
せめてちゃんと女性として扱ってほしかった
とんっ

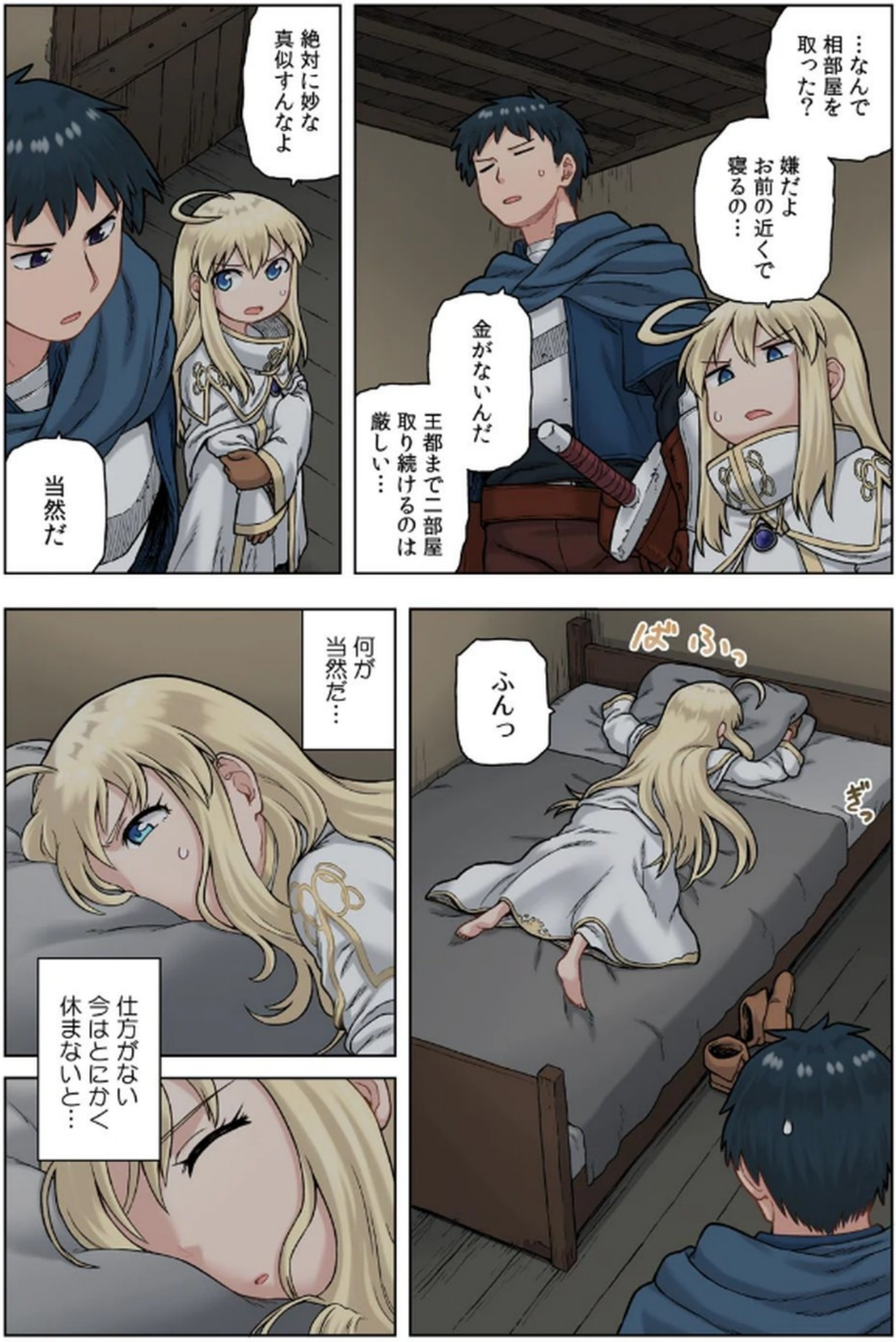

うわあああっ!?
ズザザザ…
ど…っ
どうしたフィオっ!?

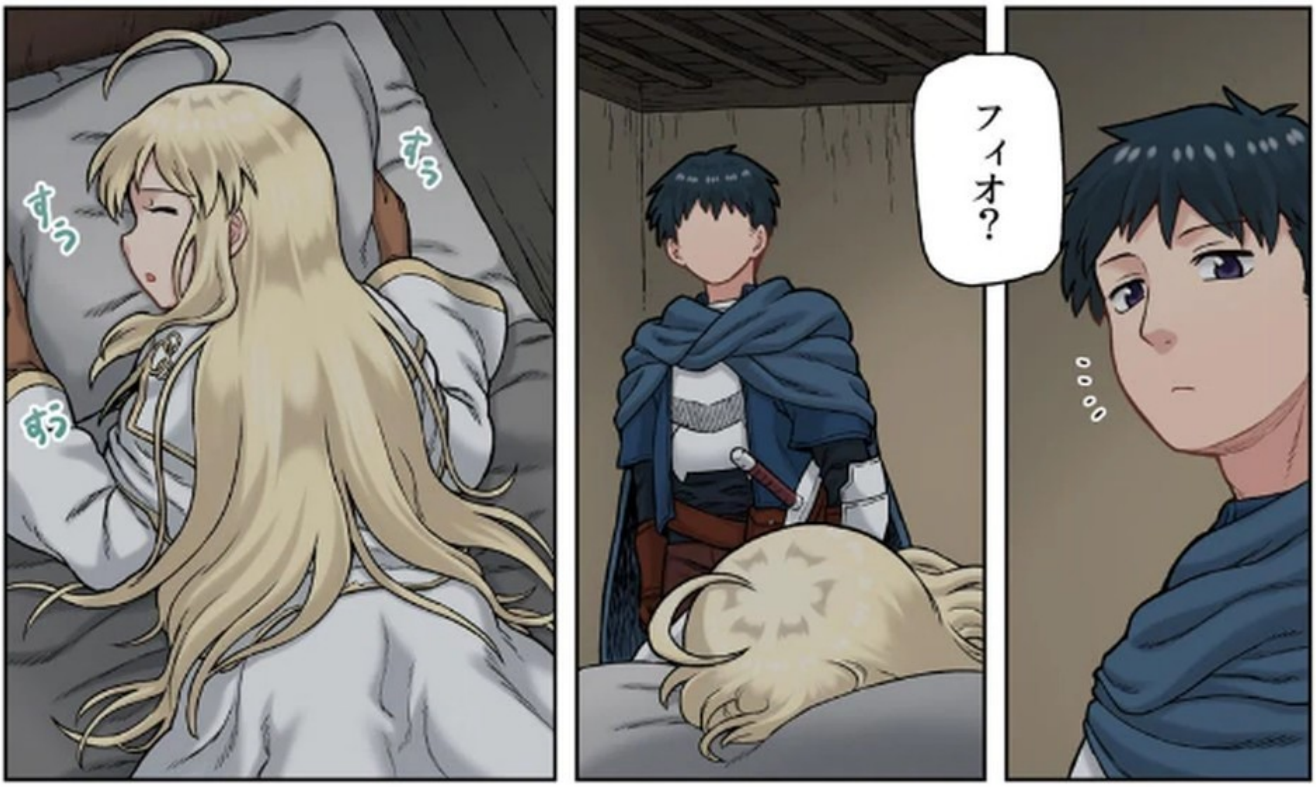

い…いやなんでもないっ
まずいな…昨夜のアレがトラウマになってやがる
自分より強く大きい男に組み伏せられる屈辱恐怖に激痛が…


ただ疲れてるだけだ
ろくに眠れてないからな…
……すまん
早く宿を取ろう…

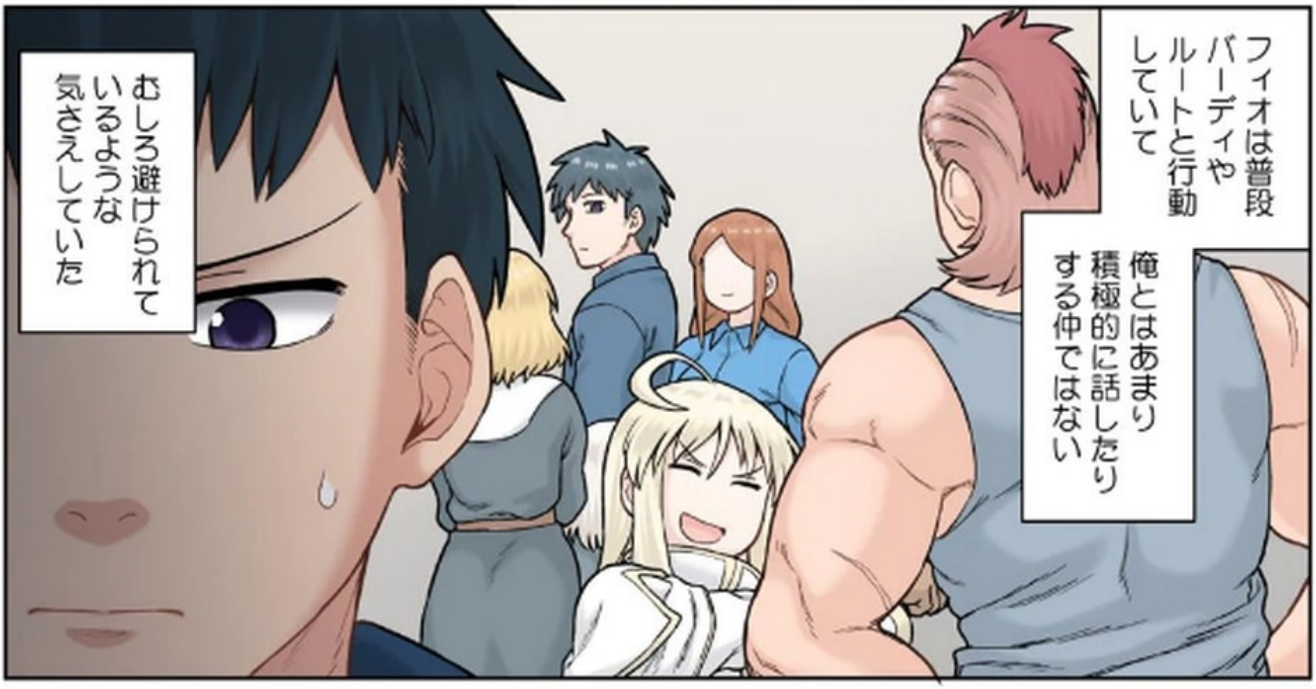





…なんで相部屋を取った？
嫌だよお前の近くで寝るの…
金がないんだ
王都まで二部屋取り続けるのは厳しい…
絶対に妙な真似すんなよ
当然だ
ばふっ
ふんっ
ぎっ
何が当然だ…
仕方がない今はとにかく休まないと…


フィオ？
すう
すう
すう


眠ってしまったか
はぁ
また謝罪を切り出せなかった


フィオは普段パーティやルートと行動していて
俺とはあまり積極的に話したりする仲ではない
むしろ避けられているような気さえしていた


女性の機嫌を
損ねたなら何か
プレゼントを
贈るといいよ


そうだっ
ルートから
聞いたことが
ある…っ
小さい集落だが
フィオに似合う
装飾品が見つかる
かもしれない!!
カチャ…






この集落は
旅人向けの
宿場のようだ


数少ない商店には
携帯食などの
実用品しか見つけ
られなかった…

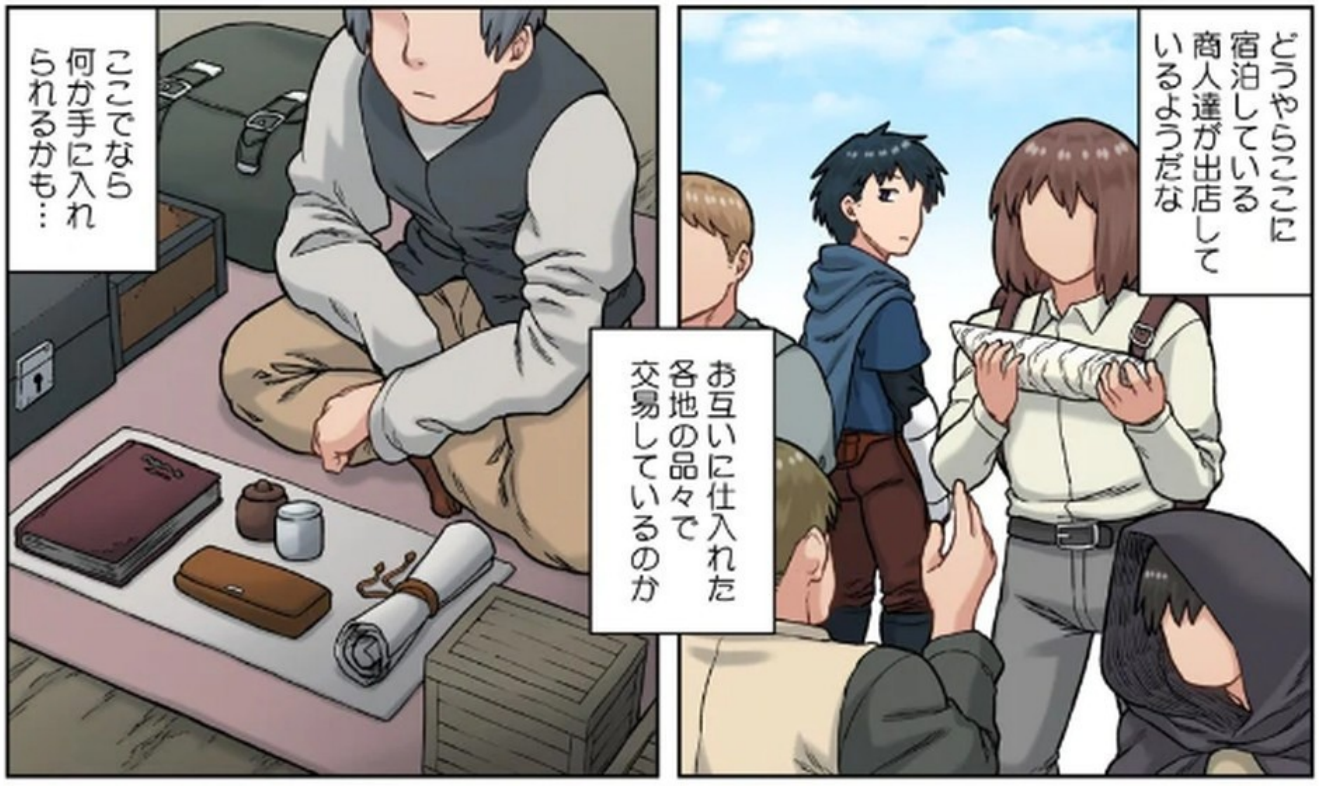

これではフィオへの
贈り物を見つける
のは難しいか…
王都へ戻る
道中でなんとか
なるだろうか…
こんなをオレに?
ありがとう
アルト!!
もや
もや
むむ…

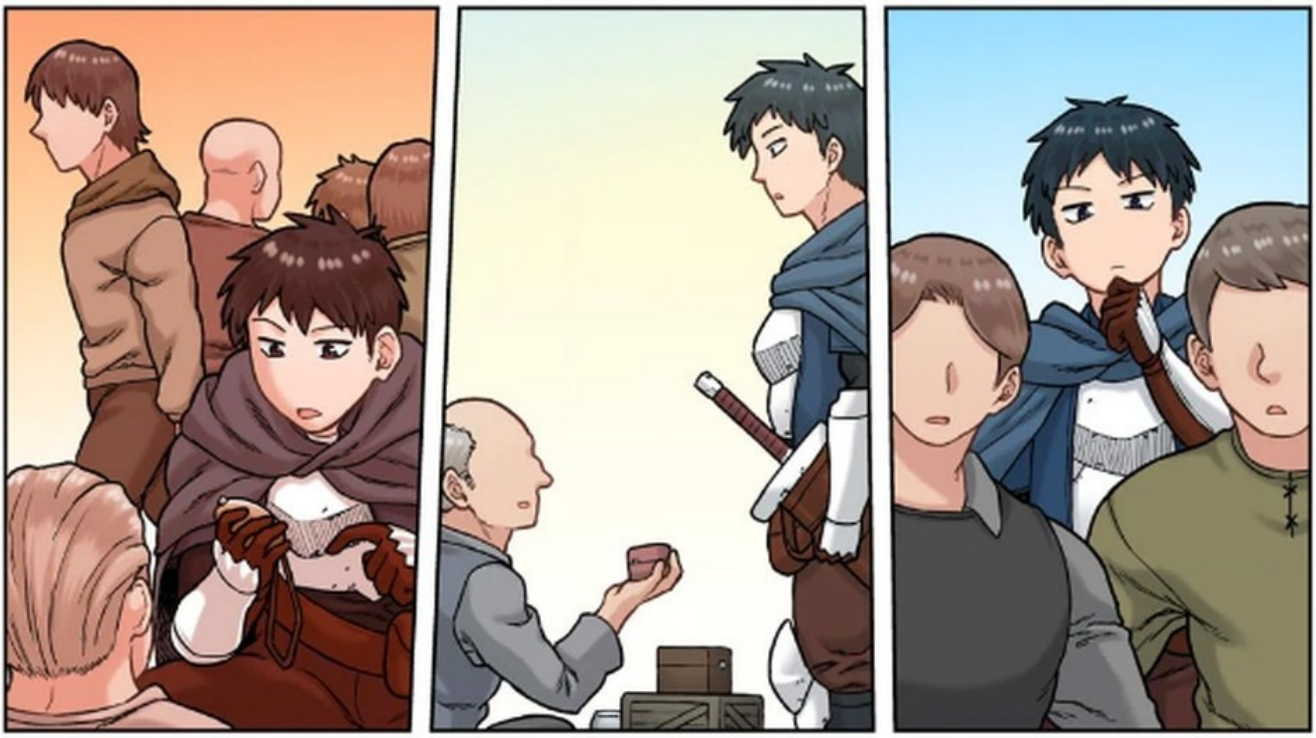


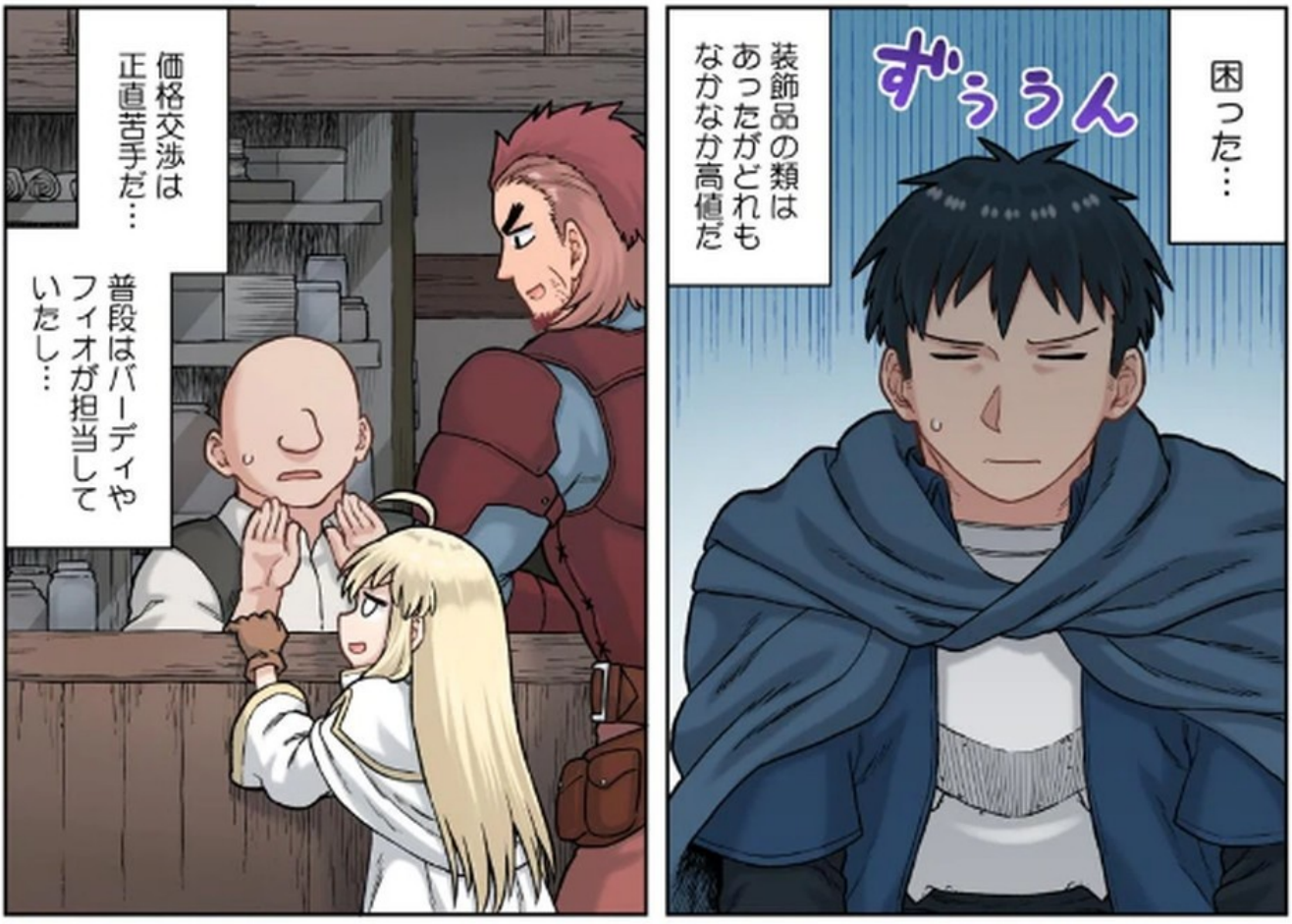

おおっ




ここは…
市場か


どうやらここに
宿泊している
商人達が出店して
いるようだな
お互いに仕入れた
各地の品々で
交易しているのか
ここでなら
何か手に入れ
られるかも…




困った…
ずぅぅん
装飾品の類はあったがどれもなかなか高値だ
価格交渉は正直苦手だ…
普段はバーディやフィオが担当していたし…


仲間達がいなくなった途端これだ
やはり俺は一人じゃ何もできない存在なのか…
前世のように…
前世の俺は仕事のできないサラリーマンだった
同期が出世していく中で…要領の悪い俺は雑用しかできなかった
だからせめて真面目であろうとした
体が不調を訴えようと無視して働き続けた
結局はそれが原因で命を落としてしまったが…

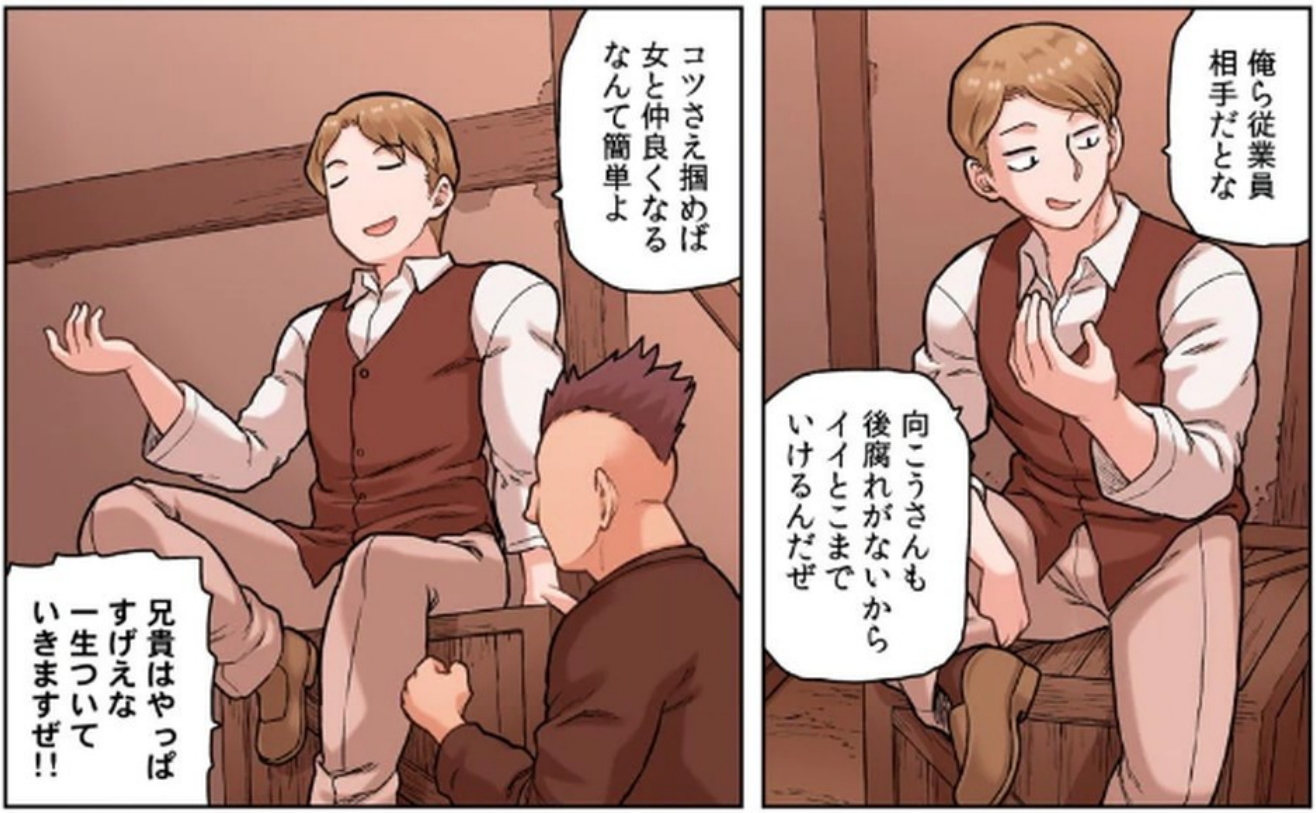

落ちつけ…
今世の俺は
もう無能なんか
じゃない…っ
必死で難解な
魔法体系を
勉強し…
時間の限り
肉体を鍛え
あげたんだ

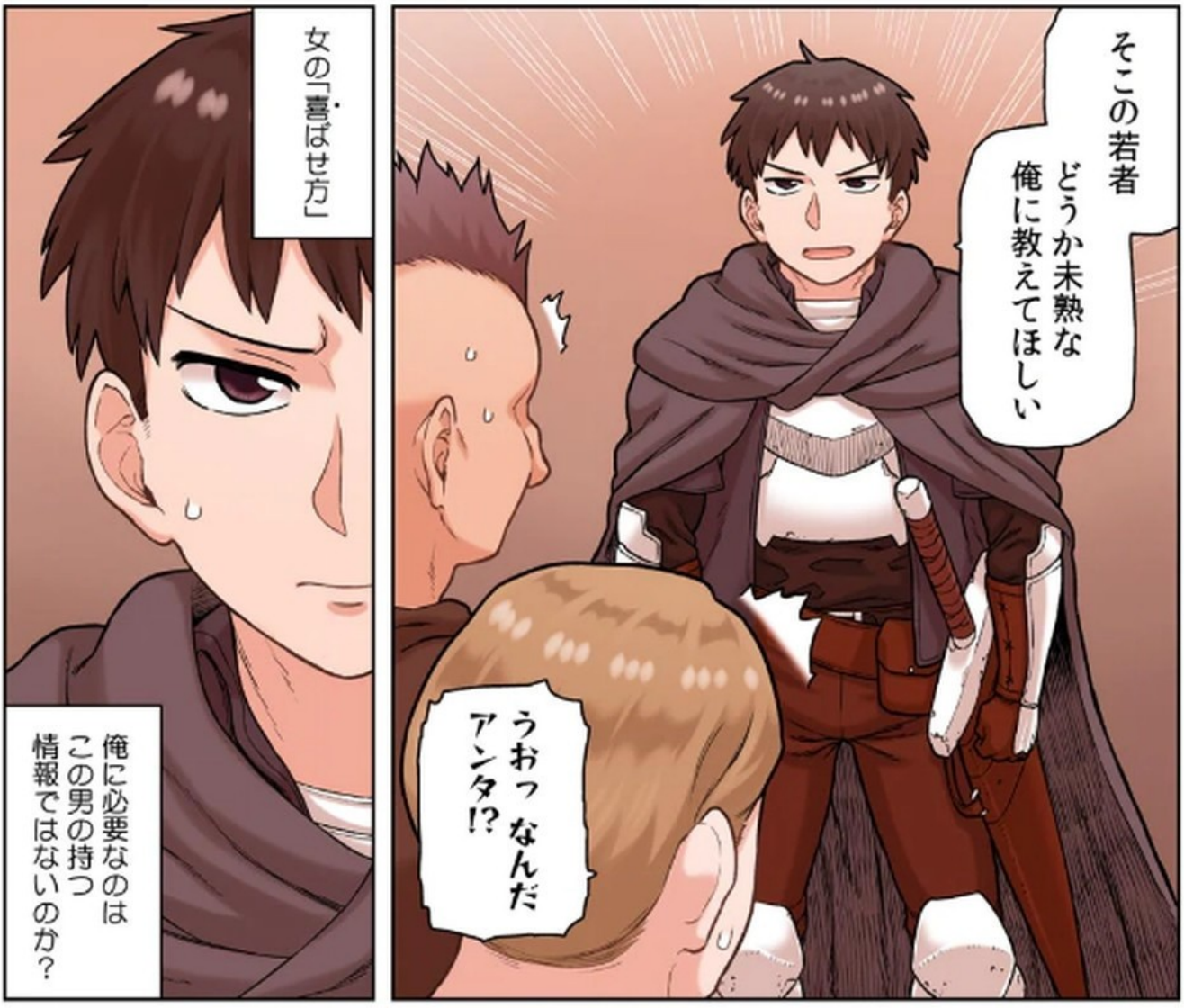

この世界の
俺は…
魔法剣士
アルトは
きっと誰かに
頼られる存在に
なれているはずだ

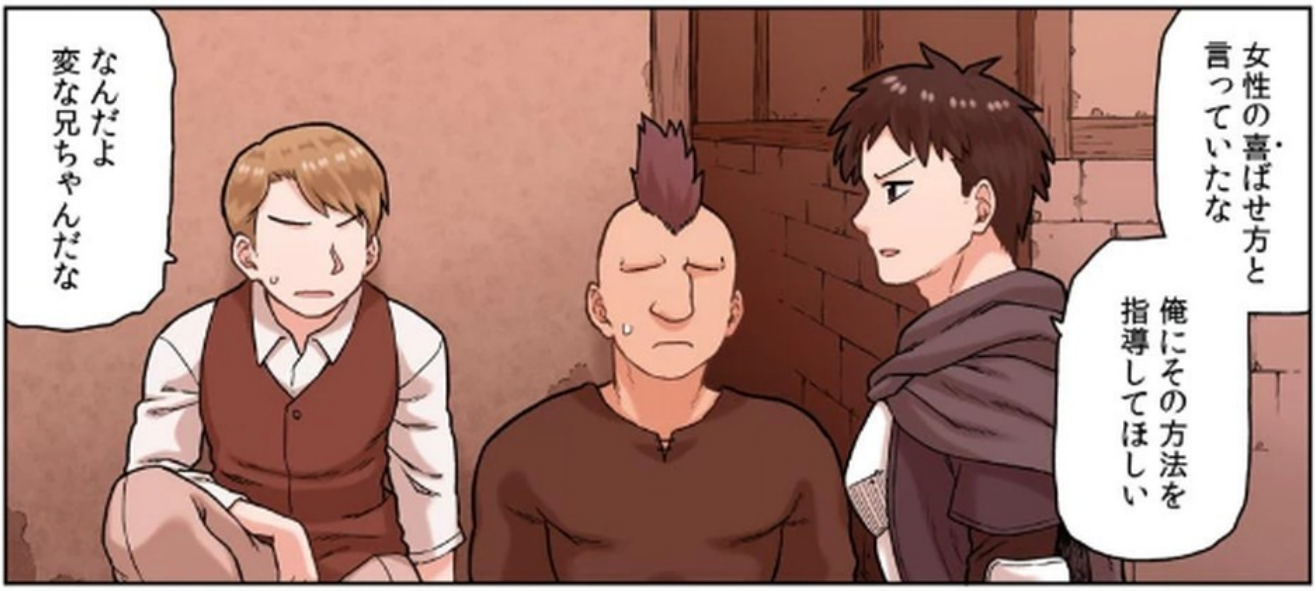

とはいえ昨夜の仕出かしは取り返しがつかない
俺にできることは誠心誠意謝ることだけだ
フィオを元気づける手段も考えないと…
手甲を売って金に変えるか…


だからお前はいつまで経っても女ができないんだよ


でもよぉ兄貴
オレはブサイクで口下手だし…
ばーか顔も口も関係ねえよ
要は女の悦ばせ方を知ってるかどうかだ


俺ら従業員相手だとな
向こうさんも後腐れがないからイイとこまでいけるんだぜ
コツさえ掴めば女と仲良くなるなんて簡単よ
兄貴はやっぱすげえな一生ついていきますぜ!!

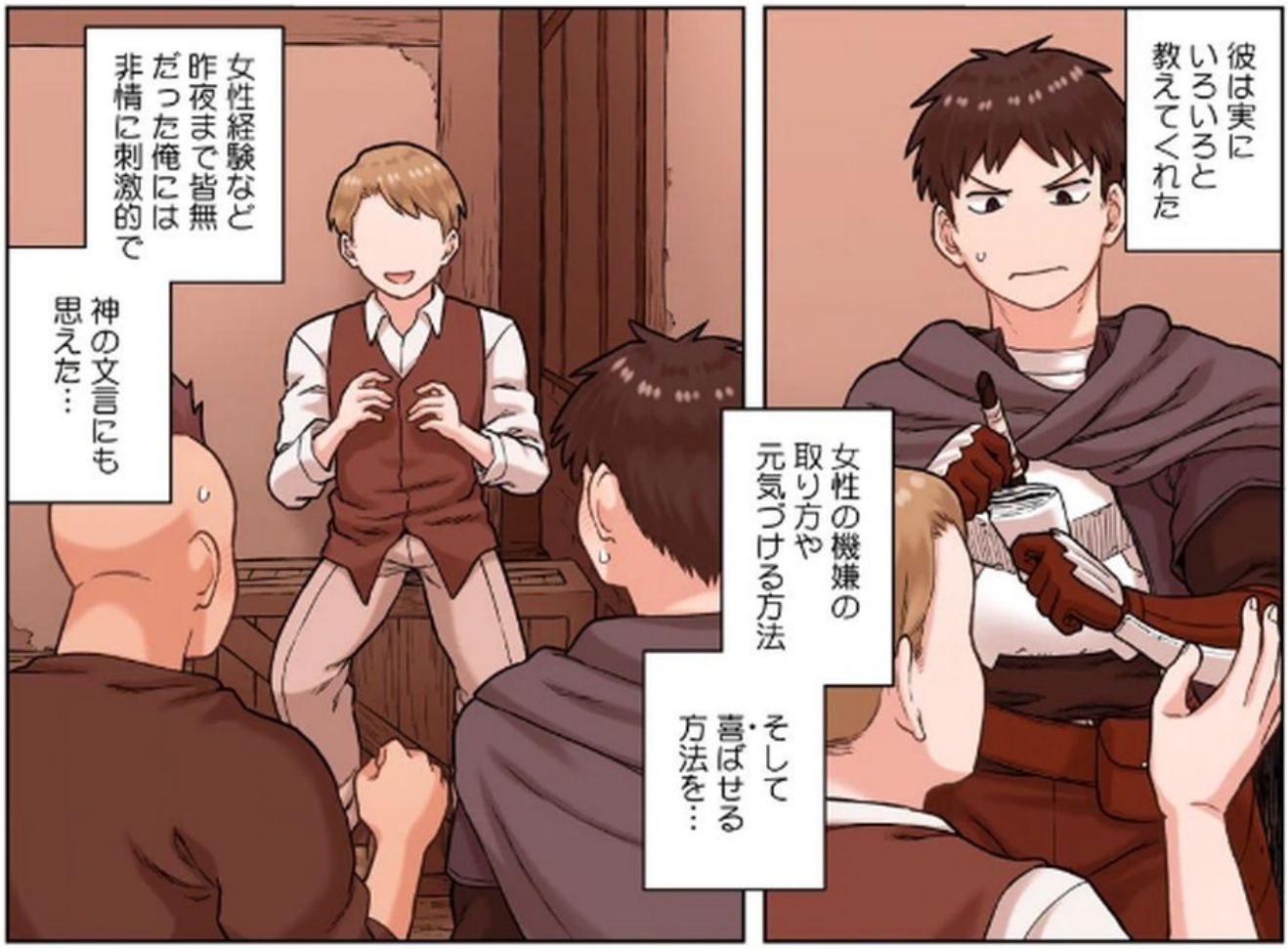

そこの若者
どうか未熟な俺に教えてほしい
うおっ なんだアンタ!?
女の「喜ばせ方」
俺に必要なのはこの男の持つ情報ではないのか?

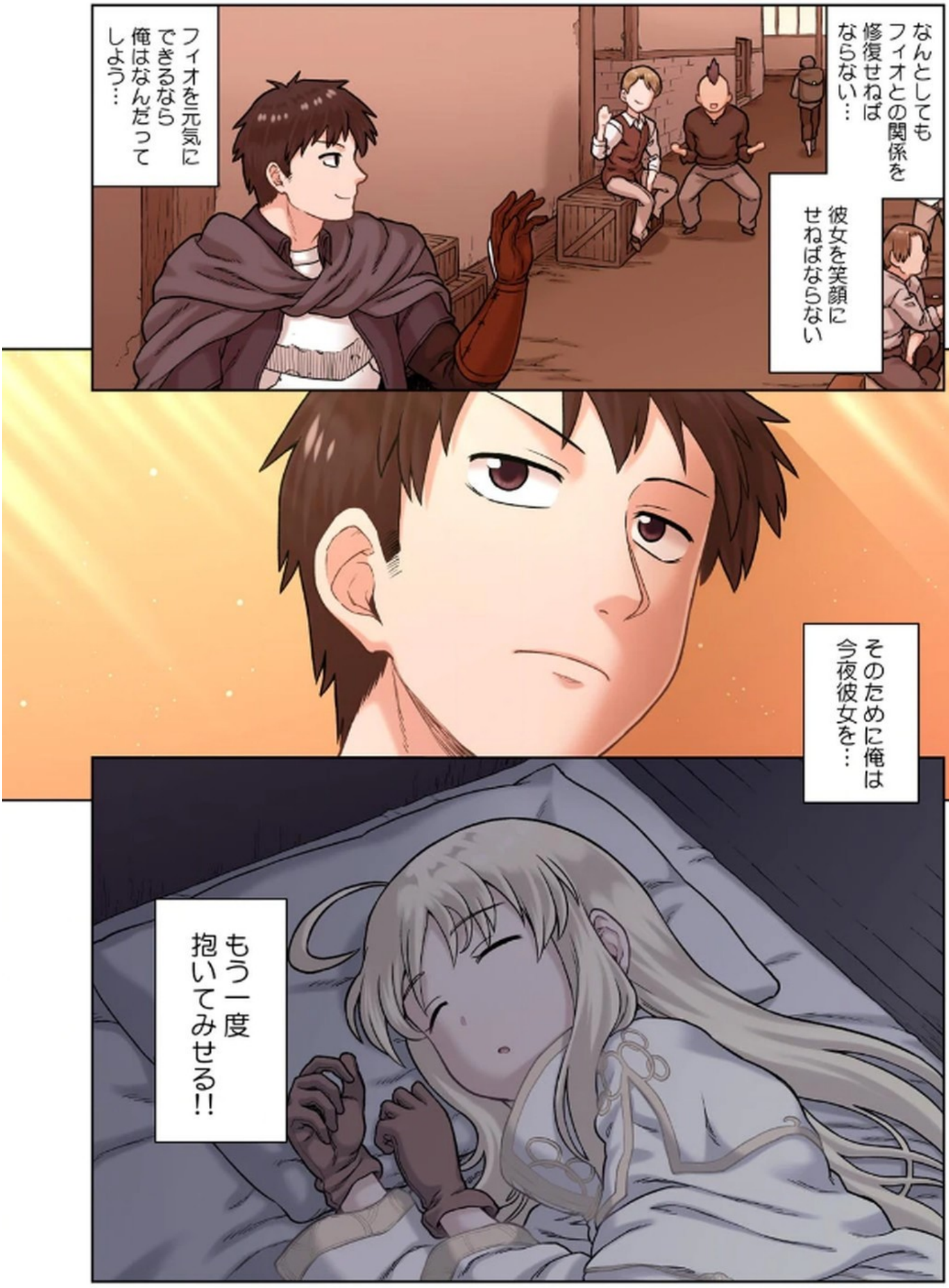

女性の喜ばせ方と
言っていたな
俺にその方法を
指導してほしい
なんだよ
変な兄ちゃんだな


厚かましいことは
理解している
だが
わからないのだ…
女性をどう扱えば
いいのか
俺はどうしたら
許してもらえる
のかが…!!
頼む!!
どうか俺に
教えてくれ!!




ふぅん…
よしっ
いいだろ
お前は真面目
そうだし俺が
女の悦ばせ方を
伝授してやるよ
おお本当か
感謝する!!


彼は実に
いろいろと
教えてくれた
女性の機嫌の
取り方や
元気づける方法
そして
喜ばせる
方法を…
女性経験など
昨夜まで皆無
だった俺には
非情に刺激的で
神の文言にも
思えた…


なんとしても
フィオとの関係を
修復せねば
ならない…
彼女を笑顔に
せねばならない
フィオを元気に
できるなら
俺はなんだって
しよう…
そのために俺は
今夜彼女を…
もう一度
抱いてみせる!!

パルメデザイン案


バーディが連れてくると
いうことはそれなりに
巨乳なはず!!
胸元強調
脚のラインが
出る動きやすめの
スカート


背中ぱっくり
開いてます


脱ぐとムチムチ

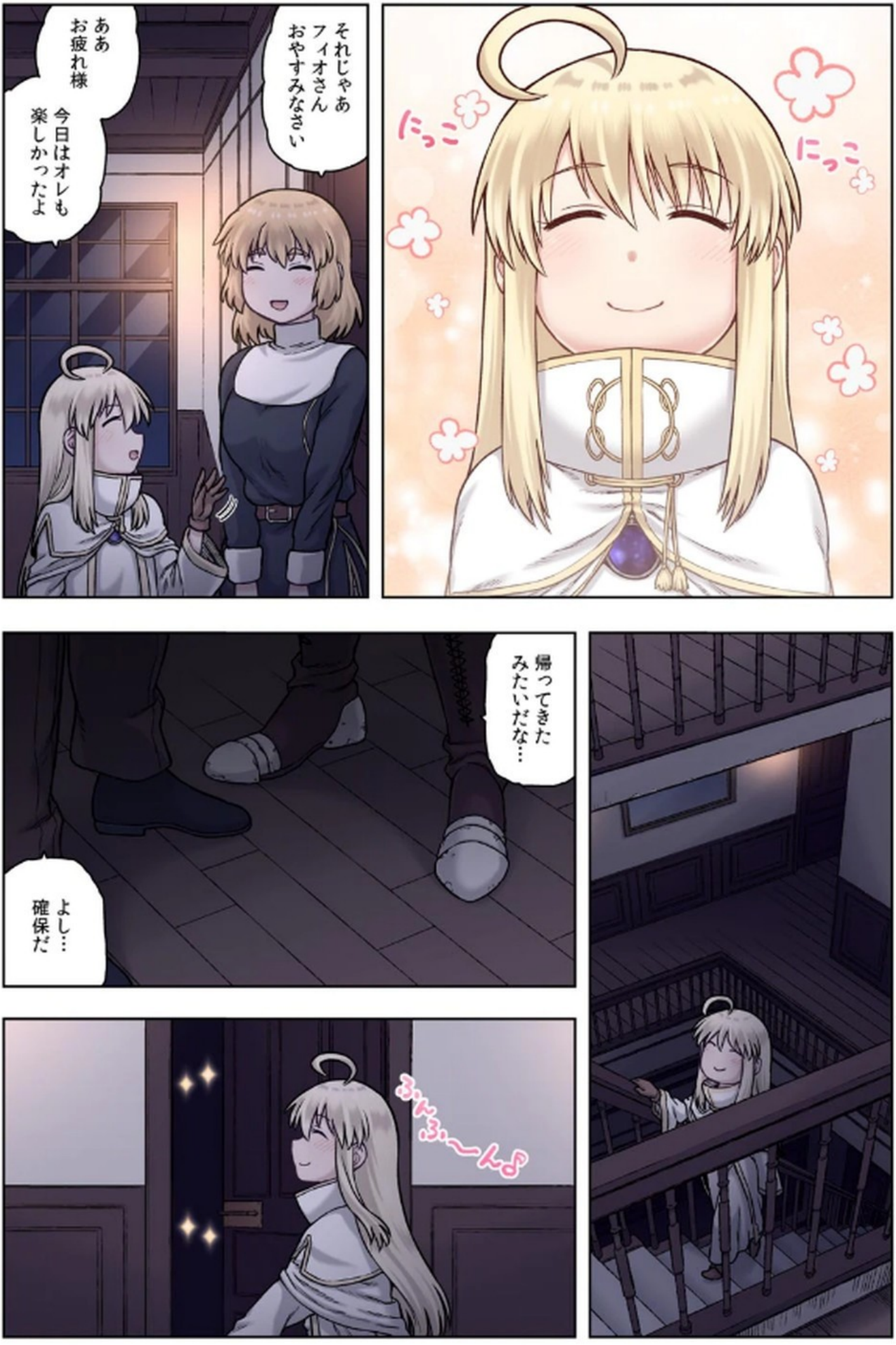

はわわっ


3人の身長比

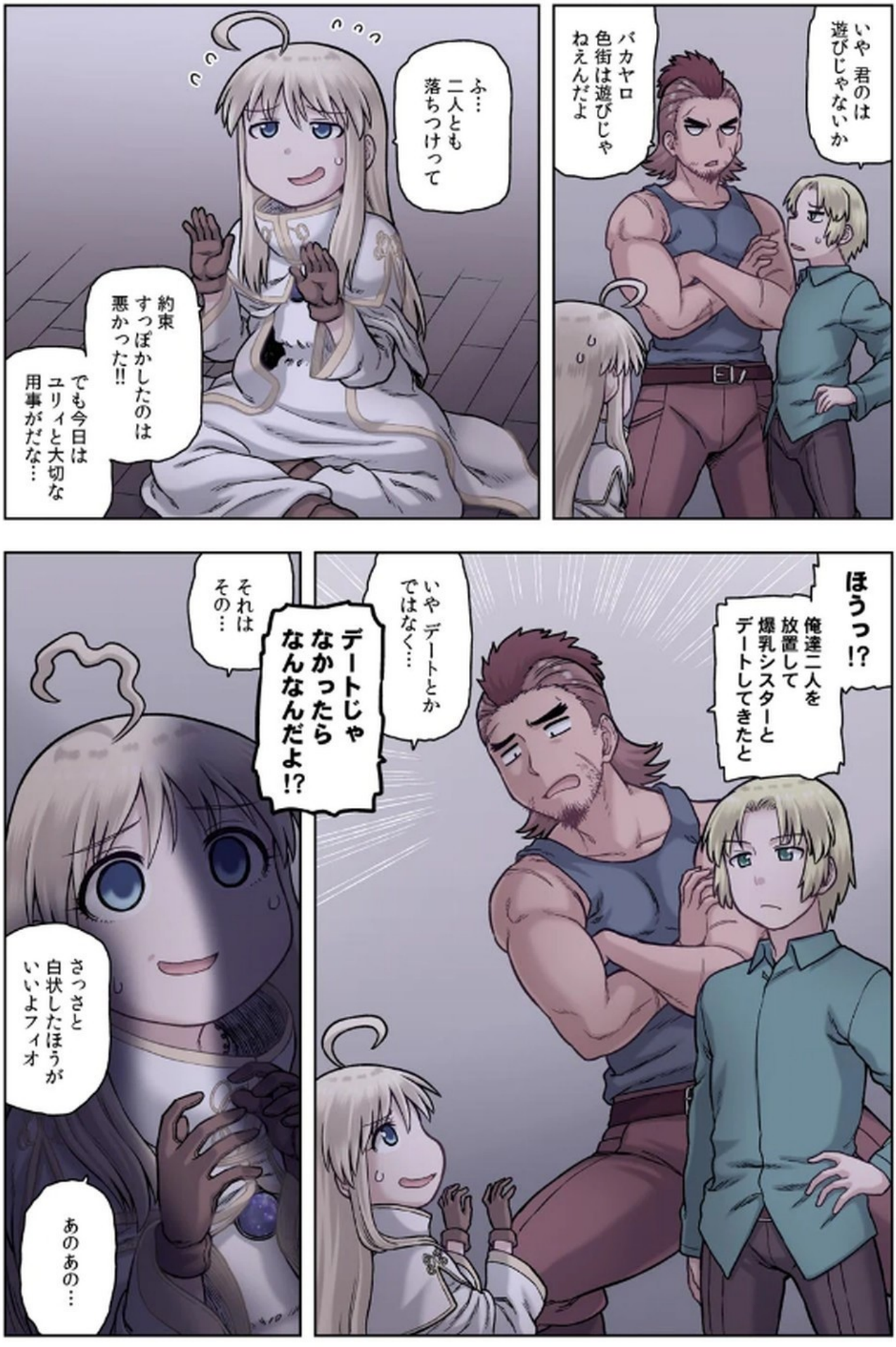

マッキリ♡

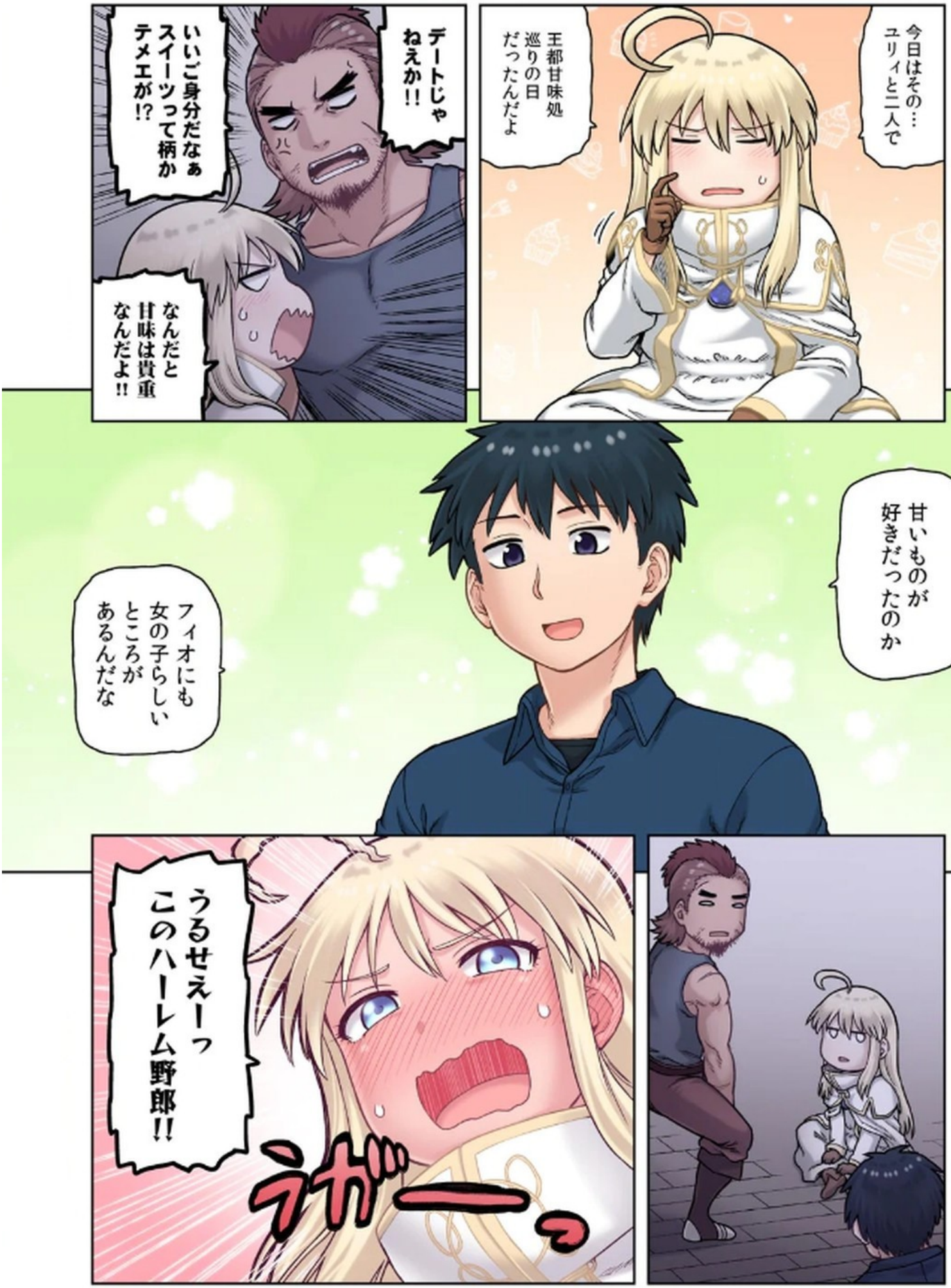

TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.

書き下ろし漫画


それじゃあ
フィオさん
おやすみなさい
ああ
お疲れ様
今日はオレも
楽しかったよ
にっこ
にっこ
帰ってきた
みたいだな…
よし…
確保だ
ふんふ〜ん♪


ず
お…っ
な…
どさっ
なんだ
なんだ!?
お帰り
フィオくん
丸一日どこに
行っていたの
かな?
ゴゴゴゴゴ
今日は倉庫の
整理と備品確認の
日だったはず
だけど?
う…
それは
申し訳ない…
俺と色街に
行く約束
だっただろ!!
忘れてたわ
マス掻いて
寝とけ


いや 君のは
遊びじゃないか
バカヤロ
色街は遊びじゃ
ねえんだよ
ふ…
二人とも
落ちつけって
約束
すっぽかしたのは
悪かった!!
でも今日は
ユリィと大切な
用事がだな…
ほうっ!?
俺達二人を
放置して
爆乳シスターと
デートしてきたと
いや デートとか
ではなく…
デートじゃ
なかったら
なんなんだよ!?
それは
その…
さっさと
白状したほうが
いいよフィオ
あのあの…


今日はその…
ユリィと二人で
王都甘味処
巡りの日
だったんだよ
デートじゃ
ねえか!!
いいご身分だなぁ
スイーツって柄か
テメエが!?
なんだと
甘味は貴重
なんだよ!!
甘いものが
好きだったのか
フィオにも
女の子らしい
ところが
あるんだな
うるせえーっ
このハーレム野郎!!
うがーっ

おしまい

オーク ver.1.5

隊長のオークは特殊個体
皮膚がほぐ赤黒く変異している



隊長用



元々は冒険者の服装



通常オーク

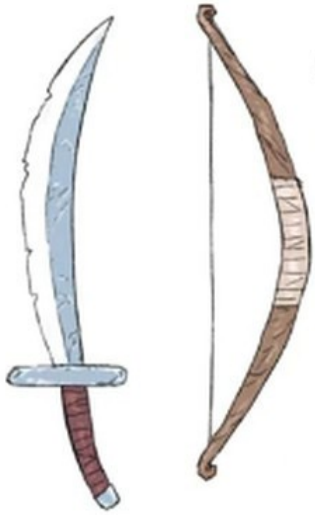


一般オーク用



ゴブリン ver.1.5

実際の原稿では
汚なめの肌
テクスチャ入れて
ください



冒険者から奪った装備

手入れする頭などないので
ボロボロ



服も強奪。。







ゴブリン　人間　オーク

だいたいの身長比


TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.

「あー、その。すまないんだが」

売春街の片隅で。

私は二人組のお客に、声を掛けられた。

「複数プレイは遠慮してくてね。お兄さんだけならいいよ」

「えええぇぇ……」

「そっちの娘は帰してきな」

その相手は珍しく、男女二人組だった。

小柄ではあるが可愛らしい金髪の少女と、人相の悪い反社会的な顔立ちの男である。

「多人数ダメなら、コイツだけってのは？」

「……どういうこと？　そいつ、女の子だよね？」

「ああ、女好きの女なんだ。お前さんに惚れこんで、猛烈に押してるのはコッチ」

悪いが複数人を相手にする気はない。

そう告げると、小柄な金髪女のほうがすり寄ってきた。

「お姉さん凄く可愛いね！　ぜひ、今夜はオレと……」

「ごめん、同性も断ってる」

「そんなぁぁぁぁぁ」

二人の風貌を見て、てっきり人相の悪い男はもう一人の女を買っているものと思ったが。

どうやら二人はそういう関係ではなく、単なる友人らしい。



「ツンとした雰囲気と、いい感じのお胸と、スラっとした身体が、ドンピシャでオレ好みなんだ。お金は惜しまないから、どうか」
「う、うーん。ごめんな、やっぱ無理」
「ちくしょおおおおお」
「諦めろ、フィオ。しつこくすると嫌われるぞ」
まさか女の側に求められているとは思わなかった。
お金は惜しまない、という言葉に心は揺れたが……。
必死過ぎてちょっと怖かったので、断ることにした。
「たしか……、ここから二つ曲がった通りに同性愛の区画があった。女同士をお望みなら、そこで探すといいかもね」
「情報サンキュ。ほら行くぞフィオ」
「……ぐすん。運命の出会いだと思ったのに」
金髪の少女は、名残惜しそうに私のほうを何度も振り返る。
私は苦笑いして、その二人を見送った。
本当にそれなりの額が貰えるなら、相手をしても良かったかも。
ほんのり、そんなことを考えた。

……そして今夜も、結局私が買われることはなかった。
何度か声を掛けられたが、条件が合わなかったので断ってしまった。
これでもう、三日も路上で立ちんぼをしているが、収入はゼロ。
これじゃあ、半裸で路上に立っているだけの痴女である。
――私は今日も、お金を稼ぐ勇気を出せなかった。

「帰ったぞ」
「おかえりなさい」
空っぽの財布をカバンに入れて、着崩した服を正し。
夜遅くに帰宅した私を、可愛らしい声が出迎えてくれた。
「今日もご苦労様、お姉ちゃん」
「……ああ」
弟は朝と同じ場所、同じ体勢で。
皺だらけの固いベッドの上に横たわっていた。

「ほら、ゆっくり飲み込め」
「うん」
弟は数年前から、重い病に侵されていた。

それは街のヒーラーでは治せない、難しい病気だった。
全身の力が入らなくなり、ピクリとも動くことができなくなる。
やがて呼吸する筋肉も動かせなくなったその時、弟は窒息死してしまうのだとか。
かつて元気に、公園を駆け回っていたころの面影はない。
今や弟の体躯は痩せ細り、頬もこけ、私の介助なしでは食事もとれないほどである。
「いつもありがとう、お姉ちゃん」
母親は私達を見捨て、どこぞへ蒸発してしまった。
父親はいない。おそらく、母親の客だった誰かだろう。
私と弟はあばら家で二人きり、手を取り合って生きてきた。
「気にするな。さあ、今日も一緒に寝よう」
「うん、お姉ちゃん」
弟はいつ死ぬか、分からない。
今日にも、寝ているうちに窒息してしまうかもしれない。
だけど、私にはどうすることもできない。
「おやすみ」
王都で高名なヒーラーに診てもらえれば、弟を救えるかもしれない。
しかし王都まで行く旅費も、治療を受ける費用もない。
ゴミ拾いで日銭を稼いで、日々を食いつなぐのが精一杯だった。

……ここ数カ月で、弟はいよいよ弱ってきたように思う。
腕を動かせなくなり、食事時に咳込むことが増えてきた。
きっと、病が進行しているのだ。
「なあお前、次の休みに何かしたいことはあるか」
「……んー、そうだなぁ」
弟の寿命は、すぐそこに迫ってきている。
私は弟に、最期まで幸せでいて欲しい。
だから弟のワガママを、できるだけ聞いてやりたかった。
「たしか隣の町に、美術館があったよね」
「ああ」
「そこに行ってみたい」
そんな弟が、珍しく漏らしたワガママ。
それは、美術館に行ってみたいというものだった。
「僕はもう動けないじゃないか」
「……そうだな」
「だけど美術館なら楽しめる。綺麗な絵が、いっぱいあるんでしょ？」
「たぶんな」

私は、弟のそのおねだりに、苦笑いして頷いた。

この町の美術館は、貴族向けの施設だ。
貧乏人が入ってこないよう、高い入館料が設定されている。
日々のゴミ拾いで得られる収入は僅かなもの。
気軽に、払える額ではなかった。

「……」

だけど、払うことができる仕事も知っていた。
この町は色街だ。若い女である私には、お金を稼ぐとっておきの手段があった。
私の処女を、売り飛ばす。
そうすればきっと、弟の希望を叶えてやれるだろう。

葛藤はあった。
でも、弟が死ぬ前に少しでも幸せな時間を作ってやりたい。
そう思って、服をはだけて路上に立っていた。

だけど。

いざ男を相手にしようとすると、なかなか踏ん切りがつかなかった。

どこにでも居そうな、しょぼくれたおっさん。
既に女を侍らしている、悪人面のブサイク。
若干ナルシストが入っていそうな、高圧的な成金貴族。
……そんな相手に、初めてを捧げるのはどうしても躊躇(ちゅうちょ)した。
「おかえり。今日も遅かったね、お姉ちゃん」
結局、三日間ほど路上に立ってみたものの、私は春を売れなかった。
弟の望みを叶えてやりたいのに、一歩を踏み出せなかった。
いつ死ぬか分からない肉親の、些細(ささい)なおねだりすら叶えてやることができない。
細くなった弟の腕を抱きしめて、共に並んで眠りながら。
私は、自己嫌悪で頭が変になりそうだった。

「ごめんな」
美術館に連れていくには、凄くお金がかかる。
だから諦めてくれと、私は弟に詫びた。
「ううん、僕こそごめん。そんなに高いなんて思わなかったんだ」
「お前は悪くない」
その代わり、私は弟を抱いて公園に連れて行った。
まだ弟が元気だったころ、よく一緒に遊んだ思い出の公園だ。

「本当は最近、お姉ちゃんがずっと仕事に行ってて寂しかったの」
「……」
「だからお姉ちゃんと一緒なら、どこでも楽しいよ」
弟はそう言って、私の腕の中で、公園を楽しそうに見回した。
その体は軽く、脆く。
そのまま手折れてしまいそうな、儚さがあった。
「今日は、一緒にお出かけできてうれしいな」
そんな弟の言葉を聞いて、いつのまにか涙が零れた。
この三日間、私は何もしていない。
処女を売り飛ばす踏ん切りがつかず、ただボーっと立っていただけだ。

私は何をしていたんだ。
どうして、弟に寂しい思いをさせてまで、踏ん切りがつかなかったんだ。
貞操くらい売り飛ばしてでも、弟を美術館に連れて行ってやればよかったじゃないか。
情けなくて、悔しくて、いろんな感情が渦巻いた。
「ねえ、お姉ちゃん。また、ここに連れてきてくれる？」
「ああ、また来よう」
今度こそ、決心がついた。

次は、ちゃんと春を売る。
「あと、なんとかお金を貯める。美術館にも行こう」
「え？　いや、いいよお姉ちゃん。それは、高すぎる」
「なんとかする」
もう弟に、寂しい思いはさせない。
どんな客でも春を売り、さっさと帰宅して弟の世話をする。
躊躇(ためら)ったり、モヤモヤとして、時間を無駄にしない。
「私にとっておきの作戦があるんだ」
私は自信満々な顔で、弟にそう言ってのけた。

「……あ」
そんな、弟との大切なひと時に。
「アンタ、たしかあの時のカワイイお姉さん！」
「げっ！」
悪人面と金髪小柄女という、いつしかの二人組に出会ってしまった。

どうやらこの二人は、公園で酒盛りをしていたらしい。
キテレツな出会い方だったので、その顔もよく覚えていた。

「お、おーい。いつかのお姉さんだよな」
「……」
「奇遇だなー、よっす」
私に『惚れこんでいる』とホザいていた女が、ズケズケ近づいてきた。
後ろで悪人面の男が、頭を抱えているようだ。
「お姉ちゃん、知り合い？」
「……いや、知らない人だ」
女に近づかれて、イヤな汗が噴き出した。
弟には、私がそういう仕事を始めたことを伝えていない。
体を売ろうとしているなんて、知られたくない。
「あ、いや、その」
「アンタたち、悪いがこっちにこないでくれ」
「あー……」
「しつこいなら――警備《ガード》を呼ぶぞ」
私は弟を庇いながら、威嚇するように目を怒らせた。
この人達は、流儀というものがなっていない。
そういう商売をしている女が家族と過ごしている時は、話しかけないのが「マナー」だろう。

そんな意味も込めて、強く睨みつけてやった。
「……」
すると小柄女は、困ったように悪人面と顔を見合わせた。
そして、頭を掻きながら、
「悪い悪い。まあ、そう警戒しないでくれ」
「悪いと思うなら、これ以上絡むな」
「んー、だけどさ」
突然に、ふと真面目な顔になって。
「その子、放っておいたら今夜にも死ぬぞ？」
「……っ!!」
金髪の女は、私を真っすぐ見つめてそう言った。

「えっ」
その直後。
私は思いっきり、その女の頬を張り飛ばした。
「帰れ！　帰ってくれ!!」
「ちょっと、お姉ちゃん!?」
「いきなりなんてことを言い出すんだ、お前ェ！」

女は私のビンタを避ける様子もなく、吹っ飛んで地面に倒れた。
結構な青あざが、彼女の顔面にできている。1週間は、痕が残るだろう。
それでもなお、私の怒りは収まらなかった。
「消えろ、消え失せろ！」
「お、おいフィオ。お前さあ、デリカシー……」
「わーってる、わーってるって」
しかし女は、まだヘラヘラとした態度を崩そうとせず。
瞼を青く腫らしたまま、不気味な笑顔で立ち上がった。
「おい、お姉さん」
「……私たちに、関わるなっ！」
「これ、見てみ」
その様が気持ち悪くて、一歩引いた私に。
小柄な女は、見せつけるように。
「――快気一杯《ハイヒール》」
一言、魔法を唱えただけで。
……彼女の顔の痣は、きれいさっぱりなくなってしまった。
「えっ」
「実はオレ、ちょいと優秀な――癒者《ヒーラー》なんだ」

女はパンパンと、ローブを叩いて砂を払い。
自信満々な顔で、グッと親指を突き立てて。
「オレならその子、治せる。っつったら、どうする？」
そんなことを、言ってのけた。

弟の顔が、驚愕に染まる。
私は声を震わせて、その女に食って掛かった。
「そ、そんなワケないだろ！　だって宮廷癒術師クラスに診てもらわないと治らないって」
「そのゲスロリ、この国で一番の癒者だぜ。マジで」
悪人面の男も、同じようにニヤニヤと笑っている。
その言葉がどこまで本当なのか。からかっているだけか、それとも――
「お、お姉ちゃん？」
「……くっ」
そんなに都合の良い話が転がっているとは思えない。
適当な嘘八百を並べ、私を好きにしたいだけなのかもしれない。
だけど私は、その言葉が本当だと縋りたくて堪らなかった。
「じゃ、じゃあ。仮に、治療を、依頼したとして」
「おう」

「私は、何を支払えばいい？」

この二人組が、本当に弟を治せるのであればなんだってやってやる。

私には、宮廷癒術師クラスの治療代を支払えるだけの財産はない。

お金がないとすれば、私は何を要求されるのだろうか。

「え、支払い？　いいよ別に、そんなの」

「は？」

「オレじゃないと治せない子がいたから、声かけただけ。ラッキー、とでも思っておけばいいさ」

そういってズカズカと、金髪女は弟の傍に歩いて行った。

そしてクシャクシャと、弟の髪を撫でて。

「かなり状態が悪いな。スゲー辛かっただろ、お前さん」

「あ、あの」

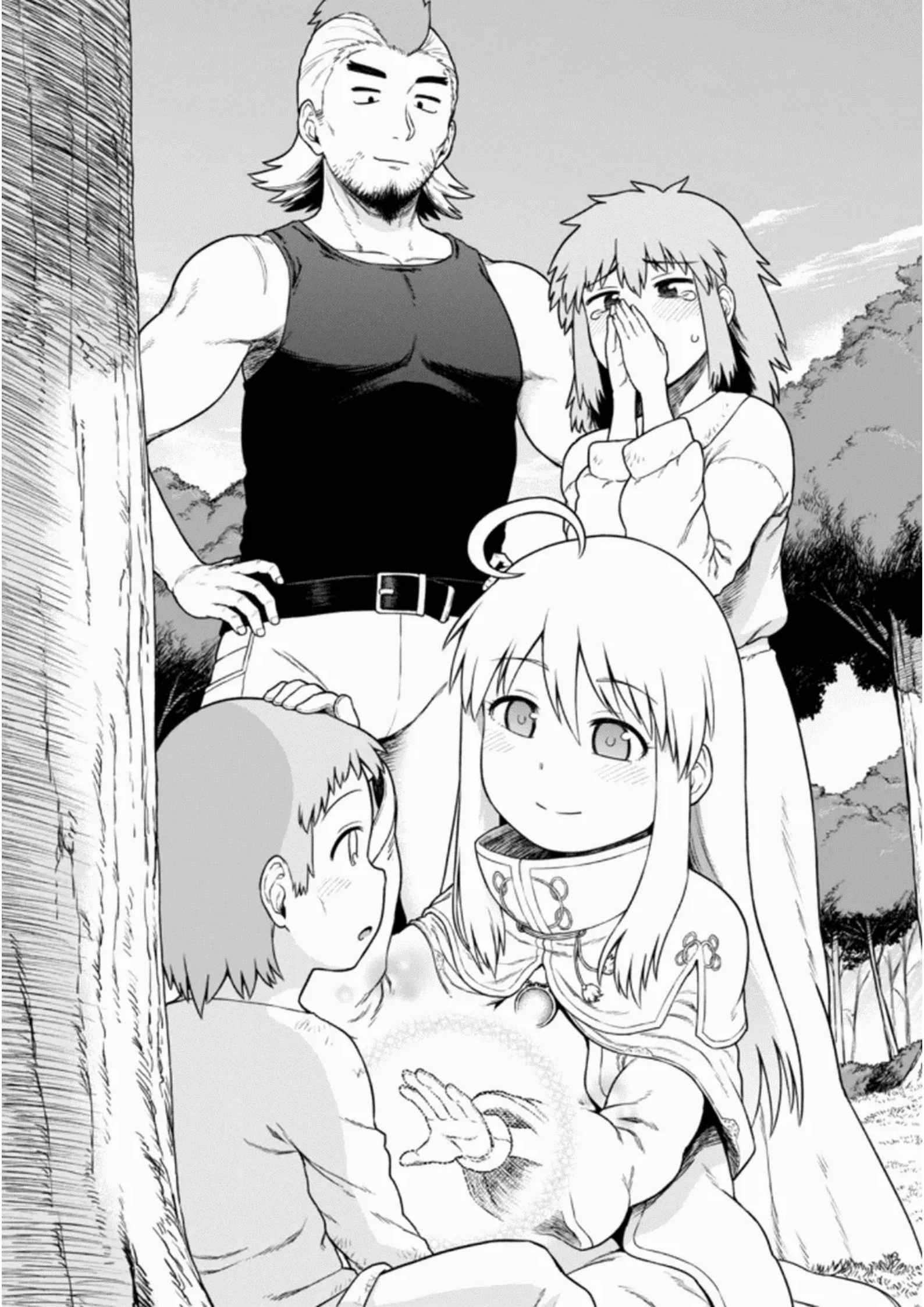
「今まで、よく頑張ったな」

慈母のような顔で、弟の身体を労わった。

「……本当に？」

「おう」

「本当に、治せるのか」
私の、その不安げな声に。
その金髪女は、自信満々に返答した。
「三十分もありゃあ、治せるよ」



「まったく君達は！　すぐそういう店に入り浸って!!」
「別にいーじゃんかよー」
「ブーブー」
「町に着いたらまず領主に挨拶に行くのが普通だろう！　どうして色街を優先するんだ！」
「そこにえっちなお姉さんがいるからさ」

次の日。
歩けるようになった弟の手を引いて、大通りを歩いていると。
「しかも手持ちのお金、ぜーんぶ貢ぐなんて！」
「悪い悪い、というわけで」
「ちょっとお給金、前借りさせろ」
「ふざけんな馬鹿ども！」
男だか女だかよく分からない人に、昨日の二人組がお説教されていた。
「ちょっとルートは厳しすぎるよなー」
「別に犯罪行為をしてるわけじゃないんだしさー」
「犯罪行為なんてしてたらぶっ殺すからね」
「おお、怖い怖い」
その光景にびっくりして凝視していたら、視線に気がついたのか。

二人は私のほうを見て、小さく笑って手を振った。
私は慌てて、『フィオ』さんと『バーディ』さんに頭を下げ、挨拶を返した。
「ど、どうも。あ、ありがとうございました！」
「おう、綺麗なお姉さん。元気でな！」
フィオさん達はそのまま、豪勢な馬車に揺られて大通りを進む。
その馬車には『勇者様ご一行』という旗が立てられ、これから領主様の下に向かう予定なのだという。
……この国一番の癒者、という話にも納得だ。彼女は、勇者パーティの一人だったのだ。
「本当に、本当に。ありがとうございます！」
昨晩。
フィオさんは結局、私に何も要求することなく弟を治してくれた。
数年ぶりに自分の力で立った弟を見て、私は感涙に咽び泣いた。
そんな私たちを見て、その二人は「よかったな！」と喜んでくれた後――
「知り合いかい、フィオ？」
「ああ。昨日貢いだ女の子だ」
快気祝いだと言って、美術館に入れるほどの貨幣を袋に入れ。
私の手に押しつけて、どこぞへ立ち去ったのだった。




TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.


TS
転生して
まさかの
サブヒロインに。
TS TENSEI shite
Masaka no Sub Heroine ni.

TS転生してまさかのサブヒロインに。
第一巻 お買い上げありがとうございます！

ファンとして原作は何度も読み返していて
いつかコミカライズしないかなーと
思っていましたがまさか
自分が描くことになるとは…

今後もフィオ嬢の魅力を
がんばって描いていきますので
よろしくお願いします!!



2025
伯煮

あとがき

この度は「ＴＳ転生してまさかのサブヒロインに。」をお買い上げいただきましてありがとうございます。原作のまさきたまと申します。

本作を手に取っていただき、あとがきまで読んでいただけて、感謝恐悦の至りです。

実は本作は私にとって一番思い入れの強い作品でした。とりまるひよこ。先生からＦＡを頂いたことで、人生が変わった作品なのです。

どういうことかといいますと。私はとりまるひよこ。先生のファンで、その小説にはまりＴＳモノを書き始めました。しかし現実は厳しく、素人が小説を投稿してもいきなり反応は貰えません。十万文字書いて、まったく感想が来なかった作品もありました。そんなこんなでＷＥＢ小説という世界の厳しさを実感していた折に……とりまるひよこ。先生からＦＡを頂いたのです。

つまり、それがどういうことかと文字に起こしますと。当時伸び悩んでいた私は『ファンだった作家先生から突然超絶クオリティのＦＡと応援メッセージが届く』という意味不明な幸運に見舞われていたのです。

豚もおだてりゃ木に登るといいますが、天上人におだてられた私のモチベーションは天井知らずでした。その勢いで完結まで死に物狂いに描き切りました。

本作を読み返すと、文章がなかなか拙かったりと、未熟な部分もあります。しかし人生

で一番心血を注ぎ込んで執筆した作品で、性癖で本作を超える作品は二度と書けないとも思っていました。

そんな作品でしたので、コミカライズのお話をいただいた時は飛び回ったのを覚えています。本当に良いんですかと、まさに夢心地でした。

さて、そんなコミカライズの内容ですが。読んでいただいた皆様ならよくわかると思いますが、素晴らしすぎて文句のつけようがありません。

コミカルでかわいらしい絵柄でフィオを描き、軽やかでファンタジーな色合いで世界を表現し、コマ割りのテンポも良く、凄く読みやすく仕上げていただいております。佃煮先生の漫画家としての腕が、原作を超えた魅力を引き出していると言っても間違いはないでしょう。私も、原稿を送っていただくのが楽しみで仕方がありませんでした。佃煮先生には、一生足を向けて眠れません。このコミカライズは私にとって、人生の宝物と思っています。

こんな素晴らしい作画で原作を表現してくださっている佃煮先生、いつも相談に乗っていただいている担当編集様、私の人生を変えたＦＡを送ってくださったとりまるひよこ。先生、そして本作を応援してくださった全ての読者様に、謝辞を送らせていただきます。

今後もどうかコミカライズ版の「ＴＳ転生してまさかのサブヒロインに。」を応援していただけたなら幸いです。

以上、まさきたまでした。

Special Thanks　とりまるひよこ。



本コミカライズの原作
WEB小説版『TS転生してまさかのサブヒロインに。』
こちらの挿絵を描かれた作家兼イラストレーターの
とりまるひよこ。先生から原作挿絵をご寄稿いただきましたので
こちらに掲載、紹介させていただきます。

TS転生してまさかのサブヒロインに。
【フルカラー】【電子単行本】(1)

著者　作画：佃煮　原作：まさきたま
発行　CLLENN

ファンレターはこちら

〒106-6224
東京都港区六本木三丁目2番1号
住友不動産六本木グランドタワー24F
株式会社CLLENN　DEDEDE編集部
〇〇〇〇先生係

本書の無断転載・複製等は著作権法上禁止されております。